

276

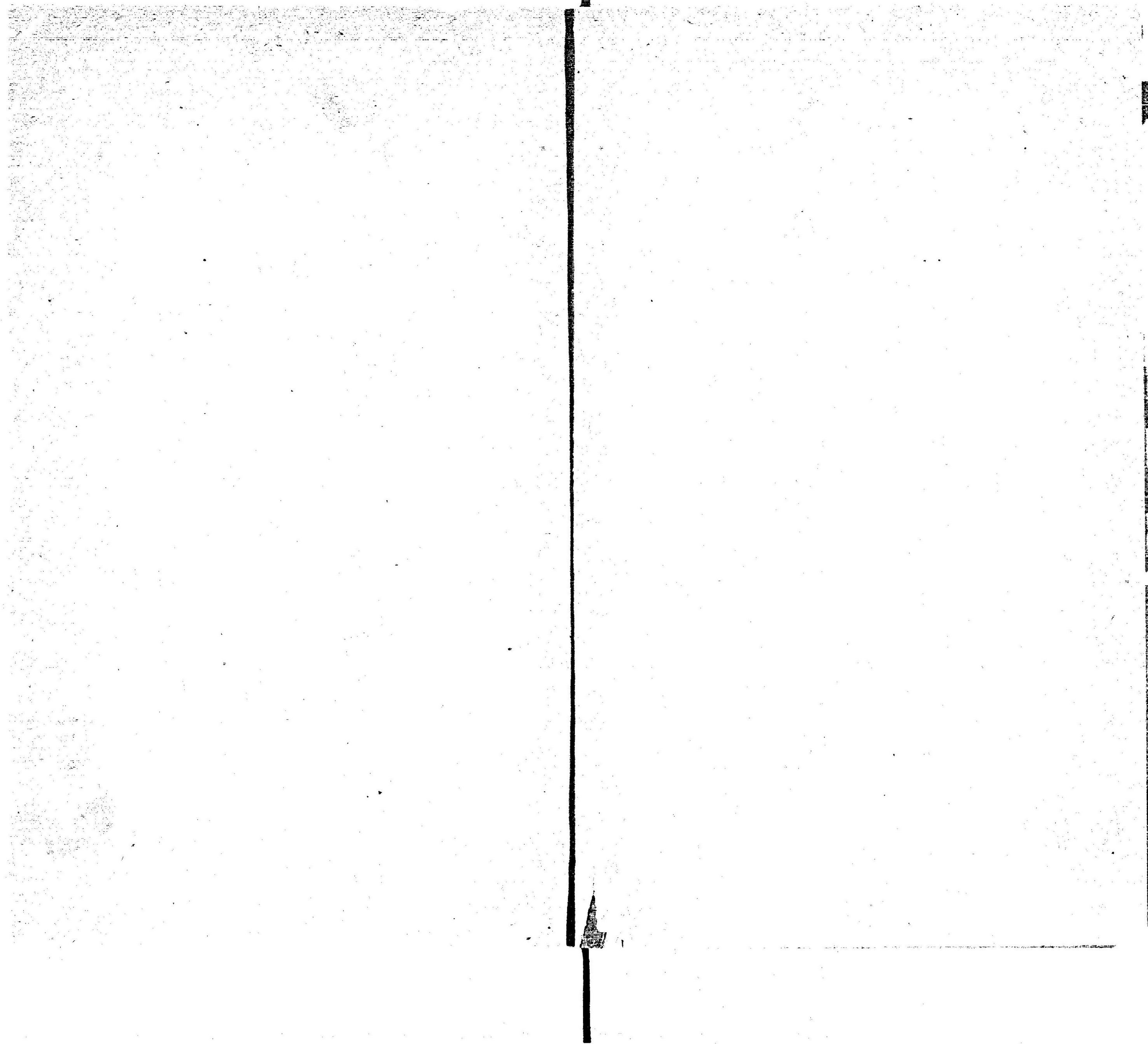
INTERNATIONAL

第五讀本直譯講義

河田駕洋譯述

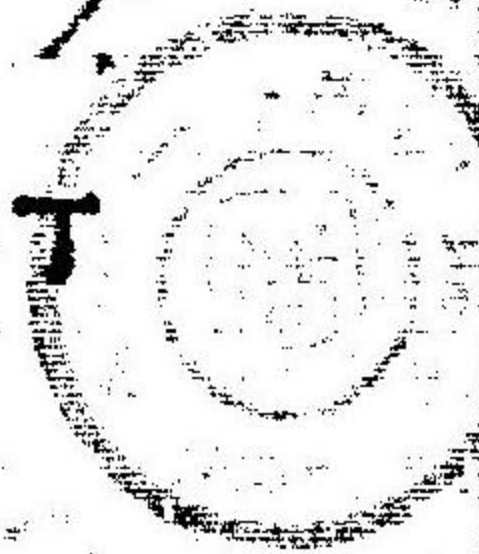
卷四

京都文港堂發兌



ナニヨナル第五讀本直譯講義卷之四目次

第七十六章	ヴーシニアス	一
第七十七章	亞米利加ノ發見 第一部	六
第七十八章	全上 第二部	二十
第七十九章	騎兵ノ攻撃	三十一
第八十章	洋中浮氷ニ於テノ迷路 第一部	三十三
第八十一章	全上 第二部	四十八
第八十二章	死者ノ野陣	五十九
第八十三章	ナイアガラノ瀑布ノ下	六十二
第八十四章	羅馬ニ於テノ劇場	七十五
第八十五章	羅馬ノ古傳	八十四
第八十六章	白露國ノ黄金殿	八十八
第八十七章	將軍ワズウアースノ虜及ヒ逃レ	九十六
第八十八章	雪國	百六
第八十九章	アマゾンノ護謨樹	百十二
第九十章	サト、マツシユ、ヘールノ奇談	百二十一



第九十一章	亞米利加ノ旗	百二十九丁
第九十二章	蠶	百三十二丁
第九十三章	ラトーア、ド、チーヴン	百四十一丁
第九十四章	死シタル精兵	百五十四丁
第九十五章	ジョン王カラノ舞臺	百六十丁
第九十六章	クニベツクノ掠奪	百七十四丁
第九十七章	田舎ノ墓地ニ於ケル悔歌	百八十八丁
第九十八章	セルモビーレノ戦争 第一部	百九十三丁
第九十九章	全上 第二部	二百五丁
第一百章	鴉	二百十九丁

ニシヨナル 第五讀本直譯講義

第七十六章

日本 河田 駕 洋 譯 解

「ヴァーシニアス」

眞直ニヴァーシニアスハ僅カ榜ラノ場所ニ處女ヲ導キシ、(其處ニ)角及ビ皮ヲ以テ堆積セラレタル湯氣立ツ所ノ賣肉所ガ立チシ所ニマデ、(廊下其處ニ)紅ノ流ニ於テ血ノ進ル所ノ流レガ大ナル渠ニマデ飛奔スル所ノ此方ノ低キ階ラキ廊下ニマデ近接シテ。

其處ニ因難ニ居テ諸君ガ目ヲドニ彼レノ庖刀ヲ置タリシ時ニヴァーシニアスハ庖刀ヲ取り上リテ、(其處ニ)其レヲ隠セシ。而シテ然ル時ニ彼レノ目ハ甚ダ暗ミテナリシ

而シテ彼レノ咽ハ腫脹スベク始メシ、而シテ枯レタル變シタル聲ニ於テ彼レガ語セシ、敢テ愛ラシキ小供ニ、敢辭。

「購取を辱る其人は利き庖刀を紐の上、に鋭く下を時、ヴァーシニアスハ其を奪りて、上衣の裡に隠したり。其時眼には露を深き深き憂ひの其ために、咽喉も塞がるばかりにて、聲さへいさゝかにはがれつ、聲は今ぞこれ、この世の別れさらばぞといふに哀れさ勝りけり。」

噫如何ニ私ハ私ノ愛兒ヲ愛セシヨ、譬へ私ハ時トシテ嚴重ニアルト雖モ、汝ハ知ル、汝ニマ
 デ私ハ左様ニアラザリシ。誰ガ汝ニマデ左様ニアリ能フ乎。而シテ如何ニ私ノ愛兒ガ私ヲ愛
 セシヨ。昨年私ガ歸リシ時ニ闕ニ於テ私ノ歩ミヲ聞クヘク如何ニ喜悦シテ彼女ガアリシヨ。

(譯)ヴァーシニアスは云へるやう、我ハ我娘を愛し、我ハ娘に性なれど、愛し娘
 に對ひては、暗くあたりしことはあり。父あらずに、我は娘を愛し、我ハ娘に性なれど、愛し娘
 こそ愛し娘もまた我を父よくと慕ひけり。去年の車にてありけるが、我ハ一ぱら
 く道に出で、家に歸りし其時に、我は足音の、闕にひやくを聞き取りて、娘はい
 と、言へり。

而シテ如何ニ彼女ハ私ノ都府ノ帽子ヲ見ルベク快樂ヲ以テ歸リシヨ。而シテ私ノ劍ヲ取り
 シ、而シテ其ノ掛ケシ、而シテ私ノ上衣ヲ私ニ持還ヒシヨ。

(譯)我娘ける禮帽を見るより、尙も喜びて、さも樂いげに躍りて、我傍近く來りつ、
 腰に帯びたる劍をば、取りて傍へにうち掛つ、やがて上衣を持ち出て、被れど我にそ
 りめけり。

今總テ此等ノモノガ去ツテアル、——然リ總テ汝ノ愛ラシキ仕方、汝ノ裁縫業、汝ノ多言、
 汝ノ古キ事業ノ短キ行ヒヨ、而シテ誰モガ私ノ出ル(Exit)時ニ悲ミ若クハ私ノ歸ル時ニ
 微笑セヌデアラウ、或ハ老ヒタル人ノ臥床ノ傍ニ見張若クハ彼ノ死骸ノ上ニ泣カスデア
 ラウ。

(譯)我樂しとは今ぞ去る、我いとわいの女子の、愛すべき所作は總て去る、我縫ふ業や
 冗談、日々ノ仕事のはたらきは、皆諸共に去りて行く。今より後は誰ありて、我出るを
 ば悲まむ、我歸るをば喜ばむ、我病床に臥するるとき、看護するものあらぬか、我世を
 去りし其時も、我死骸にとりつきて、悲しむものもあかるべし。

羅馬ノ壁ノ内ニ最幸福デアリシ處ノ家、「カボ」ノ大理石ノ館ノ富チ狩マザリシ所ノ家ガ今
 汝ノ微笑ノ燦爛タルヲ代リニ無限ノ陰翳ヲ持タチバナナス、而シテ汝ノ聲ノ音樂ノ代リ
 ニ墓ノ寂靜ナルヲ持タチバナナス。

(譯)羅馬の市にたつ家は、數さへ知らず多かれど、幸ひ深き其志は、優るものなる我住
 居「カボ」の市にたちならぶ、大理石にて營める、最きらやか館さへ、羨ましくとも思
 はざる、樂しの家も今ははた、處女の笑にひきかへて、痛へぬ歎きの充もせめ、樂にも
 まざる其聲は、失せて寂しき墓原に傳へる家とありやせん。

時ハ來リテアル。如何ニ彼レガ此仕方ニ彼レノ熱心ナル手ヲ指シ向ルカヲ見ヨ。如何ニ彼レ
 ノ眼ガ餌ノ上ノ鷲ノ如ク汝ノ哀シミニ於テ光ルカヲ見ヨ。總テ彼レノ才智ヲ以テ彼レハ侮
 慢サレ誰レヲ掠奪サレテ汝ノ父ガ彼レノ失望ニ於テ殘サレタル一ツノ恐ロシキ隱患ヲ持
 ツヲテ彼レハ少シク思考ス。

(譯)ヴァーシニアスが手を下も、時ころ今ぞ來りたり。ヴァーシニアスは熱心に、みも
 つ手を差し出をも見るも、哀や涙含む、其兩眼の光るさま、空飛ぶ鷹の餌を見て、光る眼

に似通へり。嗚呼智慧深き其人も、賤しきをうけ欺かれ、掠め奪はれ、今口も、命を馳
る時至り、外にまをべき術あるを悟らで在るぞ是非もなや。

此手ニ於テ私が尙ホ嘲弄、打撃、奴隷ノ部分カラ汝ノ温和ナル少女ヲ助ケ能フ所ノ者ヲ握ル
ヲ少シク思考ス、然リ嘲弄、及ビ打撃ガ過グル所ノ無名ノ害カラ、汝ガ知ラス所ノ汝
ガ決シテ知ラヌデアラウ所ノ惡シキ暴劇。

(講)辱しめ打たれ罵けられ、賤しき業に使はるゝ其をば免れて安んじ、處女を救ふ
其術を、我手の裡に握るとも、ヴァーニアスは知らぬか、ア、打撃や嘲弄の名
もつけられぬ惡しき所爲、ヴァーニアスノ知らぬ、夢知り得ざる暴らき所爲。

「然ル時今一度頸ノ周リニ私ヲ抱ケ、而シテ今一度接吻ヲ私ニ與ヘヨ、而シテ今私自身ノ親
愛ナル小サキ娘ヨ、其處ニ此ノ外一ツノ仕方ガアラヌ。」ト其レヲ以テ彼レハ劍ヲ高く上ケ
シ、而シテ脇腹ニ於テ彼女ヲ刺セシ、而シテ彼女ノ血ニ於テ彼女ハ地ニマテ沈ミシ、而シテ
一ト息ヲ以テ彼女ハ死セシ。

(講)我最愛ノ小娘よ、今一ト度は我頸を、抱きつ吻接へよや、無慈悲の父を怒まされ
今は命をとる外に、善き術とはあらぬぞと、悲しき聲に叫びつゝ、ヴァーニアス
は刃持つ、手を高く上げ、己が娘の、脇腹目がけ刺し通ふす、哀れや處女は血に溢れ倒
れてこころは息絶へぬ。

然ル時ニ僅カノ時ノ間總テノ人民ガ彼等ノ呼吸ヲ保チシ、而シテ群集セル市場ヲ通シテ死

ノ如キ靜寂ナルコトガアリシ、而シテ他ノ時ニ於テ一人而シテ至テカラヴォルシア人ガ壁ヲ除
ヘテ來リツ、アリシカノ如キ叫號ガ破レ出セシ。

(講)其時傍に群がれる、多くの人は稍々驚し、呼吸をのどとぞありければ、四邊は俄に
ひろやかに宛然死せることくなり、總て群がる其中の、一人の叫び出しより、連れて
總ての人々は、皆請共に叫び出を、聲は恰も仇敵の、外郭をば乗り陥へて、府内に攻入
るものありて、動搖を如くかり。

或者ハ背向ケタル顔ヲ以テ叫ビツ、急ギ家ニ飛ビシ、或者ハ醫者ヲ呼ブベク走りシ、而シテ
或者ハ死者ヲ起スベク走りシ、或者ハ生命ガ其處ニ見出サレ能ヒシカノ如ク、彼女ノ唇及ビ
手先ヲ觸レシ、而シテ或者ハ速カニ彼等ノ衣裳ヲ裂キシ、而シテ瘡口ヲ止ムルベク働キシ。

(講)群がる多くの人々は、顔を背向けて泣き叫び、急ぎて家に歸るあり、醫師を呼びに
走るあり、死せる處女の形をば、起さばやとて急ぐあり、も、蘇生する事もやと、處女の
唇手の先を、撫で擦りあともあり、己が衣裳をひきさきて、其瘡口をつゝ、むあり
無益ニ彼等ハ走りシ而シテ觸レシ、而シテ止メシ、奈トナレハ決シテ其右ノ腕ガヴォルシ
アノ敵ニ對シテ尙眞實ナル打撃デハナカリシ(故ニ)。

(講)されどこれ等の人々の、心づかいの、あもあ、ヴァーニアスが今ぞこの、我子を
刺せし、鐵さば國の仇敵ヴォルシアの、勇士を撃つ夫よりも、尙強かりし、の故に、死
せる處女の、魂の緒を再び探ぐよしもあし。

(註)ヴァーシニアスノ事

ヴァーシニアス其女ヴァーシニアの暴君アピアスに汚されんことを憂ひ、爲めに其女を殺して、事の顛末を羅馬軍隊に訴へ警を報ひんを要む、軍隊其意を容れてアピアスを攻め、捉へて之を牢獄に禁錮し、以てヴァーシニアの讎を復せ、後アピアス獄裡に自殺す、是に因つて、ヴァーシニアスの女ヴァーシニアの不幸なる命運の、羅馬人自由恢復の基と爲り。

第七十七章

亞米利加ノ發見、

第一部

千四百九十二年九月ノ六日ノ朝ニ於テ早クコロムバスガゴメラノ嶋カラ出帆セシ而シテ今舊世界ノ是等ノ境界ノ島ノ別レテ取ル所デ、而シテ大西洋ノ知ラレザル部分ニ向ツテ西方ニ導キツ、發見ノ地方ニマデ走ルベク最初ノモノト云ハレ得ル。トハ雖三日ノ間操キ靜穩ガ陸ノ短距離ノ内ニ搖レル所ノ帆ヲ以テ遅緩シツ、船ヲ保チシ。

九月ノ九日ナル次ノ日曙ニ於テノ天明ニ於テ彼レガ大約九リグ(ハ三英里)ノ距離ナル、カナリー島ノ最後ノ者フーローヲ見シ。幸ヒニモ軟風ガ太陽ト共ニ生セシ、彼等ノ帆ガ尙一度滿サレテアリシ、而シテ日ノ進ミニ於テフーローノ高サガ漸次ニ地平線カラ消失セシ。陸ノ此最後ノ形跡ノ視ヘテ失フヲニ於テ水夫ノ心ガ彼等ヲ弱クセシ。彼等ノ後ニ人ノ心ニマデ親愛ナル各ノ者ガアリシ——國、家族、朋友、生命其レ射ラナリ、彼等ノ前ニ各ノ者ガ不

分明ニ、秘密ニ、而シテ危險ニアリシ。荒々シキ水夫ノ多クガ涙ヲ流セシ、而シテ或者ガ高聲ノ哀哭ニマデ破レシ。

(講)紀元一千四百九十二年九月六日早朝、コロムバスゴメラ島ヲ出帆ス、是レ蓋シ舊世界則チ東大陸ノ前面ナル島嶼ヲ後ヘニシテ、天涯渺茫其那邊ニ止マルヤ未ダ會テ世人ノ端倪セザル大西洋ノ部分ニ向ツテ航路ヲ西方ニ取リ、以テ新大陸發見ノ途ニ上レル魁ト云フベシ。既ニ船ヲ抜イテ後三日、海上風ナク波靜カニシテ、船ゴメラ近海ニ徘徊セリ。九月九日、次ノ日曙日、黎明コロムバスフーロー島ヲ日環ス、フーローハカナリー島最後ノ一島ニシテ、其距離二十七英里ニ幾シ。幸ヒナルカナ朝敵海面ニ生ズルト共ニ微風起リ、全帆之ヲ受ケテ航行速力ナ増シ、日暮ル、ニ從ツテフーロー島漸ク其影ヲ地平線下ニ隱ス。是レ舊世界陸影ノ眼畔中ヲ脱シタル最後ノモノニシテ、今ヤ船員氣力漸ク挫ケテ悄然タリ。蓋シ船員ノ後ニ心ヲ惹クモノ則チ本國、家族、朋友、生命ノ安否等、人トシテ懸念セザルモノナキ各物在ルアリ、而シテ其前途ノ如何ヲ察スレハ實ニ遊手不問ノ航路ニ遊ミ、果シテ何等ノ危險ニ際會スルヤ預メ知ルベカラザルノ憂慮アルアリ。是ニ於テヤ頑固剛體ノ水夫モ潜然トシテ悲涙ヲ溢ラヌモノ多ク、或ハ號哭悲叫スルモノアリ。

水師提督ガ彼等ノ悲ミヲ慰メルベク而シテ彼レ自ラノ名譽アル預想ヲ以テ彼等ヲ感激スベク試ミシ。彼レハ(壯麗ナル國夫レニ)マデ彼レガ方サニ彼等ヲ導クベクアリシ所ノ壯麗ナ

ル國ヲ彼等ニマテ話セシ、黄金及ビ寶石(Precious stone)ヲ生スル所ノ印度海ノ嶋ナリ。彼レハ土地及ビ富及ビ彼等ノ強慾ヲ勵マシ或ハ彼等ノ憶想ヲ惹起シ能ヒシ所ノ各ノ物ヲ彼等ニ契約セシ。

彼レハ今或偶然ノ事ニ依ツテ分離ノ出來事ニ於テ彼等ガ直接ニ西方ニ續クデアラウ事ヲ他ノ艦ノ指揮官ニマテ命令ヲ發セシ、乍併七百「リーグ」ヲ帆走ル「フ」ノ後、大約其距離ニ於テ彼レガ必然陸地ヲ發見スベク預期セントシテ、彼等ガ夜半カラ日出マテ躊躇スルデアラウ「フ」ノ命令ヲ發セシ。

水夫ヲ欺クベク彼レハ二ツノ計算表ヲ保チシ、一ツハ正シク、夫レニ於テ艦ノ真實ノ道ガ記サレシ、而シテ其レハ彼レガ彼自身ノ支配ニ向ツテ秘密ニ於テ其レヲ保チシ、他ノモノニ於テハ其レガ一般ノ熟識ニマテ開カレシ、水夫ハ彼等ガ進ミタリシ實際ノ距離ノ無智ニ於テ保タレシ事ホド左様ニ「リーグ」ノ數ガ艦ノ駛ル「フ」カラ日毎ニ減セラレシ。

(請承師提督則チコロムバスハ水夫ノ慈歎ヲ慰諭スル爲メニ、種々ノ方便ヲ廻ラシ、且ツ自己ノ前途ニ期スル所光榮燦爛タルヲ説キ以テ水夫ノ心ヲ動カサントセリ、乃チ日々、余ハ今爾等ヲ導キテ印度海中金銀寶玉ヲ產出スル島嶼ニ到ラントス、ト又納シテ日々、土地財寶其他欲スル所ノ物總テ之ヲ與フベシ、ト是水夫等ノ貪慾ヲ勵マシ、心裡妄想ヲ描カシメ、以テ唇々自ラ進マシメントノ一策タリ。又他船ノ指揮官ニ令シテ日々、航海中不時ノ變事ニ際會シテ各艦分離スル事アラハ、宜シク眞直

ニ西航スベシ、然レドモ本約二千一百英里ヲ航行スルノ後ハ、進ミテ止メテ曉天ヲ待ツベシト、蓋シコロムバス其距離ニ到ラバ陸地ヲ發見スベシト信スルヲ以テナリ。コロムバス水夫ヲ欺カントシテ二箇ノ計算表ヲ製シ之ヲ有セリ、則チ其一ハ正シキモノニシテ航海ノ具ノ里數ヲ記入シ、深ク秘シテ自ラ保存セリ、他ノ一ハ各船員ノ閱覽ニ供ス、則チ水夫ヲ欺クモノニシテ、日々進航ノ里數ヲ減シ以テ之ニ上録ス、故ニ水夫ハ其船ノ具ニ幾千里程ヲ進ミタルヤチ知ラス。

九月ノ十四日ニ於テ航海者ハ彼等ガ陸ノ徵候ト考ヘシ所ノ者ニ依ツテ樂シマサレシ。(驚及ビ或温帯ノ鳥其レノ軌レモガ海ニマテ遙カ試ムベク想像サレ(ス)所ノ驚及ビ或温帯ノ鳥ガ艦ノ邊ヲ翔リシ。縱令ヒ通り過ギノ雲及ビ急雨ト雖モ折々ヲ以テ、風ガ是迄好都合ニアリシ。縱令コロムバスガ彼レノ秘密ノ策略ニマテ從フ所デ、水夫ニマテ開ヒテ殘サレタル日毎ノ計算ニ於テ數「リーグ」ヲ隱スベク計リントハ雖モ、彼等ガ毎日大ナル進歩ヲナシタリキ。九月ノ十八日ニ於テ同シ天氣ガ續キシ、東カラ温和ナル強キ風ガ各ノ帆ヲ充タセシ、然ル間コロムバスガ海ノ水ガ彼レガ進ミシダケ尙新鮮ニナリシ「フ」ヲ想像セシ、而シテ空氣ノ勝リタル快キ「フ」及ビ清淨ナル「フ」ノ證據トシテ之ヲ注視セシ。水夫ガ總テ高キ精神ニ於テアリシ、各艦ガ進ミニ於テ得ルベク務メシ、而シテ各ノ海員ガ熱心ニ遠望ニ於テアリシ、如何トナレバ主權者ガ第一ニ陸地ヲ發見スルデアラウ所ノ彼レニマテ一萬「マラウ」デイトスノ賞金ヲ約束シタリシ(故ニ)。

ル國ヲ彼等ニマデ話セシ、黄金及ビ寶石(Precious stone)ヲ生ズル所ノ印度海ノ嶋ナリ。彼レハ土地及ビ富及ビ彼等ノ強慾ヲ勵マシ或ハ彼等ノ憶想ヲ惹起シ能ヒシ所ノ各ノ物ヲ彼等ニ契約セシ。

彼レハ今或偶然ノ事ニ依ツテ分離ノ出來事ニ於テ彼等ガ直接ニ西方ニ續クデアラフ事ヲ他ノ艦ノ指揮官ニマデ命令ヲ發セシ、乍併七百「リーグ」ヲ帆走ル「」ノ後、大約其所離ニ於テ彼レガ必然陸地ヲ發見スベク預期セントシテ、彼等ガ夜半カラ日出マデ躊躇スルデアラウ「」ノ命令ヲ發セシ。

水夫ヲ欺クベク彼レハ二ツノ計算表ヲ保チシ、一ツハ正シク、夫レニ於テ艦ノ眞實ノ道ガ記サレシ、而シテ其レハ彼レガ彼自身ノ支配ニ向ツテ秘密ニ於テ其レヲ保チシ、他ノモノニ於テハ其レガ一般ノ熱氣ニマデ開カレシ、水夫ハ彼等ガ進ミタリシ實際ノ距離ノ無智ニ於テ保タレシ事ホド左様ニ「リーグ」ノ數ガ艦ノ駛ル「」カラ日毎ニ減セラレシ。

(請承師提督則チコロムバハ水夫ノ愚昧ヲ慰諭スル爲メニ種々ノ方便ヲ廻ラシ、且ツ自己ノ前途ニ期スル所光榮燦爛タルヲ説キ以テ水夫ノ心ヲ動かサントセリ、乃チ日ク、余ハ今爾等ヲ導キテ印度海中金銀寶玉ヲ產出スル島嶼ニ到ラントス、ト又約シテ曰ク、土地財寶其他欲スル所ノ物總テ之ヲ與フベシ、ト是レ水夫等ノ貪慾ヲ勵マン、心ヲ安想ヲ描カシメ、以テ喜々自ラ進マシメントノ一策タリ。又他船ノ指揮官ニ令シテ曰ク、航海中不時ノ變事ニ際會シテ各艦分離スル時アラバ、宜シク眞直

ニ西航スベシ、然レドモ太約二千一百英里ヲ駛行スルノ後ハ、進ミテ止メテ曉天ヲ待ツベシト、蓋シコロムバハ其距離ニ到ラバ陸地ヲ發見スベシト信スルヲ以テナリ。コロムバハ水夫ヲ欺カントシテ二箇ノ計算表ヲ製シ之ヲ有セリ、則チ其一ハ正シキモノニシテ航海ノ眞ノ里數ヲ記入シ、深ク秘シテ自ラ保存セリ、他ノ一ハ各船員ノ閱覽ニ供ス、則チ水夫ヲ欺クモノニシテ、日次進航ノ里數ヲ減シ以テ之ニ上録ス、故ニ水夫ハ其船ノ眞ニ幾千里程ヲ進ミタルヤヲ知ラス。

九月ノ十四日ニ於テ航海者ハ彼等ガ陸ノ徵候ト考ヘシ所ノ者ニ依ツテ樂シマサレシ。(驚及ビ或温帯ノ鳥其レノ軌レモガ海ニマデ遙カ試ムベク想像サレ(又)所ノ驚及ビ或温帯ノ鳥ガ艦ノ邊ヲ翔リシ。縱令ヒ通り過ギノ雲及ビ急雨ト雖モ折々ヲ以テ、風ガ是迄好都合ニアリシ。縱令コロムバハ其レノ秘密ノ策略ニマデ從フ所デ、水夫ニマデ開ヒテ殘サレタル日毎ノ計算ニ於テ數「リーグ」ヲ隱スベク計リシトハ離モ、彼等ガ毎日大ナル進歩ヲナシタリキ。九月ノ十八日ニ於テ同シ天氣ガ續キシ、東カラ温和ナル強キ風ガ各ノ帆ヲ充タセシ、然ル間コロムバハ海ノ水ガ彼レガ進ミシダケ尙新鮮ニナリシ「」ヲ想像セシ、而シテ空氣ノ勝リタル快キ「」ト及ビ清淨ナル「」ノ證據トシテ之ヲ注視セシ。

水夫ガ總テ高キ精神ニ於テアリシ、各艦ガ進ミニ於テ得ルベク務メシ、而シテ各ノ海員ガ熱心ニ遠望ニ於テアリシ、如何トナレハ主權者ガ第一ニ陸地ヲ發見スルデアラウ所ノ彼レニマデ一萬「マラヴェデイース」ノ賞金ヲ約束シタリシ(故ニ)。

彼等方駛リタリシ距離ニ就テ無智ニ人民ヲ保ツベク彼レノ用意ニモ拘ハラズ彼等方今航海ノ長キヲニ於テ至極ニ不安ニナリツ、アリシ。彼等ハ昔テ人ガ以前ニ駛行シタリシヨリハ多ク尙遙ニ西ニ進ミタリシ、而シテ縱令既ニ扶助者ノ遠スルヲ超ヘシトハ雖彼等ハ彼等ノ後ニ大洋ノ廣大ナル跡ヲ殘シツ、而シテ其明カニ限リナキ無底海ニマデ前ニ而シテ前ニ急ギツ、日毎ニ續キシ。

(語)九月十四日ニ於テ職員等各自陸地ノ發候ナラント想像セシ所ノモノヲ目撃シテ大ニ喜ベリ。則チ船及ビ其他ノ漏帶地方ノ禽族各船ノ周邊ニ歸還スル是ナリ、而シテ此等ノ禽族タル故テ遠洋中ニ飛翔セザルモノト考ヘラル。時ニ臨ンテ驟雨及ビ走雲ニ遭ヒシト雖モ、風候順ニシテ駛行ノ好便宜ヲ與ヘ。夫ノコロムバスノ秘策ニ出テタル、水夫ノ自由闊覽ヲ許セシ計算表ニ於テ日次進航ノ數「リー」ヲ減記シタルモ尙ホ駛行ノ里程莫大ナリ。九月十八日モ引續キ好天氣ニシテ、東方ノ順風各帆ヲ滿タシ、駛行頗ル快速ナリ、此時ニ方ツテコロムバスハ進航ニ從ツテ海水漸ク純清ナルヲ見、之ヲ空氣ノ快速清深ナルノ證據ナリト惟ヘリ。此ニ至ツテ各水夫大ニカチ得意氣頗ル揚々タリ。船ハ各々先ヲ爭フテ進ミ、而シテ水夫ハ各自熱心ニ遠望セリ、是レ全ク、初メテ陸地ヲ發見セルモノニ年金一萬「マ」ラヴェア「イース」(三十五弗)ヲ與フベシト、國王ノ懸賞シタルヲ以テナリ。

コロムバス水夫ヲシテ進航ノ幾千里程ナルヲ知ラシメザル爲メニ深ク意ヲ用ヒタルニモ拘ハラズ、今ヤ水夫ハ漸ク航海ノ長キニ倦ミ、心裡大ニ不安ヲ懷セリ。抑モ此遠洋航行タル古來未ダ曾テ有ラザルモノニシテ、水天ノ外復々眼畔ヲ迷ヤルモノナキ沙漠タル大洋ヲ後ヘニ、際涯ナキ浴海ヲ前ニ、日夜朝暮ニ進行ヲ重テ、不幸一且覆没ノ難ニ遭ヘバ、手ヲ束テテ魚腹ニ墜ラル、ノ外敢テ救命ノ道ヲ得難キ恐ルベキノ旅行タリ。

九月ノ二十日ニ於テ風ガ西南カラ輕キ微風ヲ以テ變セシ。縱令彼等ノ進ミニマデ逆フモノトハ雖モ、是等ハ、彼等ガ風ハ常ニ東カラ流行シナサハリシヲ立證セシ故ニ、人民ノ上ニ愉快ナル功績ヲ持チシ。種々ノ鳥ガ又船ヲ訪問セシ、森及ビ樹園ノ周リニ保ツ所ノ小サキ種類ノ三ツガ朝ニ於テ謳ヒツ、來リシ、而シテ日哺ニ於テ再ビ飛ビ去リシ。彼等ノ歌ガ陸ノ聲トシテ其レヲ祝セシ所ノ愕キタル航海者ノ心ヲ樂シマセシ。彼等ガ見付ケタル尙大ナル鳥ハ翼ニ付テ強クアリシ、而シテ海ニマデ遙ニ試ミ得シ、乍併此等ノ小サキ鳥ハ遙ニ飛ブベク餘リ弱クアリシ、而シテ彼等ノ謳フ「ガ」ガ彼等ガ彼等ノ飛翔ニ依ツテ疲レテアラザリシ事ヲ示セシ。

三日ノ間其處ニ南方及ビ西方カラ輕キ夏ノ風ノ引續ガアリシ、而シテ海ガ鏡ノ如ク左様ニ滑ニアリシ。鯨ガ其大ナル形跡ヲ懸隔ニ於テ持上ケツ、見ラレシ、其レヲコロムバスハ直チニ是等ノ動物ガ一般ニ陸ノ近傍ニ於テ見ラレシ「ガ」ヲ確言シツ、親愛スベキ徵候トシテ指示

セシ。

然リト雖水夫ハ天氣ノ靜穩ニ就テ不安ニナリシ。是等ノ異リタル地方ニ於テハ各ノ物ガ、(世界夫レニ)マデ彼等ガ慣ラサレテアツタ所ノ世界カラ違ヒ、シト彼等ガ云ヒシ。或ル引續ト而シテ力ヲ以テ流行セシ所ノ只ノ風ハ東カラアリシ、而シテ其處ニ其故ニ沈靜ナル及ビ濱ナキ水ノ中ニ死スルヲニ就テ乎若クハ反對ノ風ニ依ツテ曾テ彼等ノ本國 (native country) ニマデ還ルヲカラ妨ゲラル、事ニ就イテ乎ノ危難ガアリシ。

(譯)九月二十日ニ至リ風位一變シテ西南方ノ輕風トナレリ。是レ逆風ニシテ船ノ進行ヲ妨グルト雖モ、却テ船員各自ニ多少愉快ヲ感セシメタリ、故ハ風常ニ東方ヨリ吹キ來ラザルヲ以テ、船東陸ナル故里ヲ離レテ、遠ク西航スルノ幾分ノ妨礙トナルヲ以テナリ。維時又種々ノ禽族船邊ニ來ル、森林樹園ニ近ク棲息スルモノト考ヘラ、三小鳥、朝ニ來リ歸リ、夕ニ飛ビ去レリ。其鳴聲ノ耳朶ニ觸ルヤ、海員各自ハ之ヲ陸地ノ呼聲ナリトシテ祝シ、以テ其心ヲ娛シマシメリ。海員皆惟ラク、大鳥ハ其羽翼強キヲ以テ、遠ク滄海上ニ飛翔シ得ルト雖モ、小鳥ニ於テハ乃チ否ラズ、且其鳴聲ノ若キハ飛翔ノ爲メニ疲レザルヲ示スモノニシテ、蓋シ陸地ヲ距ル遠カラザルナリト。

爾後三日間絶ヘズ南方及ビ西方ヨリ吹風徐々トシテ至リ、海面鏡ニ似テ復々波浪ノ怒聲ヲ聞カス。此時ニ方ツテ遂ニ大鯨ノ水上ニ浮ムヲ見ル、コロムバス直チニ之

ニ指シテ曰ク、鯨鯨ハ際ニ近海ニ住ムモノナルヲ以テ、今之ヲ見ル蓋シ喜ブベキノ徵候ナリト。

然レドモ水夫等ハ、天候ノ靜穩ナルヲ以テ、心平易ナル能ハテ、皆曰ク、此ノ如キ異境ニ在ツテハ事々物々渾テ我等ガ住ミ馴レメル故里ニ置レリト。時ニ風位ノ變ズルアルモ、數日引續キ且ツ有カナル風ハ其方位一ニ東方ニアルヲ以テ、遼漠無涯ノ滄海中ニ命ヲ殞ス乎若クハ東位ノ逆風ニ妨礙セラレテ、本國ニ歸航シ能ハザルノ危難ニ際會スル乎、二者孰レカ其一難ハ免レザルモノ、如シ。

コロムバスハ愕クベク耐忍ヲ以テ此等ノ想像ト辨理スベク續キシ、海ノ靜穩ナルヲガ疑ヒモナク(方角其レヨリ)風ガ吹シ所ノ方角ニ於テ陸地ノ接近スルヲニ依ツテ起サレテアラシバナラヌヲ、其レハ其故ニ外面ノ上ニ働キ而シテ大ナル波ヲ起ス (Heave up) ベク塲所ヲ持タヌヲナ説キツ。

九月ノ二十五日ナル日曜日ニ於テ、其處ニ風ニ依ツテ伴ハレザル海ノ重キ波濤ガ來リシマテ、コロムバスガ尙多ク議論セシホド水夫ノ喃々ガ尙多ク騒シクナリシ。此現象ガ屢々廣キ大洋ニ於テ起ル、或ル過去ノ嵐ノ盡ル所ノ動搖乎若クハ風ノ或ル懸隔セル流勢ニ依ツテ海ニマデ與ヘラレタル運動乎孰レテアル所テ。然レドモ其レガ航海者ニ依ツテ驚愕ヲ以テ見做サレテアリシ、而シテ靜穩ナルヲニ依ツテ起サレタル想像ノ恐怖ヲ解散セシ。

トハ雖モコロムバスノ位置ガ日々尙多ク而シテ尙多ク危難ニナリツ、アリシ。彼レハ彼レ

が陸ヲ見出スベク豫期セシ所ノ地方ニ接近セシマケノ割合ニ於テ彼レノ水夫ノ短氣ガ増加セシ。彼等ノ用意ガ尽ルデアラウ(ナラバ)彼等ニ就テ何トナルベクアリシ乎。

(講)斯ル想像ニ對シテコロムバスハ忍耐不撓ニシテ其理ヲ究ハム、海上ノ靜穩ナルト是レ疑ヒモナク風ノ起ル所ノ方角ニ於テ陸地ノ接近スルモノアルニ因ル既ニ陸地ノ接近スルアリ、故テ以テ大風水面ニ起ルモ、爲メニ激浪怒濤ヲ捲クノ餘地アラストナセリ。

コロムバス口ヲ極メテ水夫ノ謬想ヲ帶スルニ從ヒ、却テ其反動力ヲ喚起シ、不平愈々激昂ニ極キシガ途ニ九月二十五日(日曜日)ニ至リ、偶然風ナクシテ一大波浪起レリ。是レ大洋中屢々目撃スル所ノ現象ニシテ數日來ノ大風ノ終焉ノ動搖ナラズンシマ、遂ニ懸隔セル地方ニ起リタル暴風ノ餘波ニ外ナラス、敢テ奇シムベキニ非ラザレドモ、各水夫ハ之ヲ見テ大ニ驚キ、爲メニ海上ノ靜穩ナルヨリ惹起シタル謬想ニ依ツテ恐懼鬼怖スルノ念ヲ散セリ。

然ルニコロムバスノ位地日ヲ逐フテ倍々危ク、其陸地發見ヲ預期セシ地方ニ近クニ從ヒ、水夫ノ不滿意々其度ヲ昂メタリ。此時ニ方ツテ若シ食料ノ盡クルアラハ、水夫ノ情願果シテ如何ナルベキ乎。

彼等ノ艱ハ彼等ガ既ニ爲シタリシ大航海ニ向ツテスラモ餘リ弱ク且不充分デアリシ、乍併若シモ彼等ガ各ノ時ニ於テ彼等ノ後ニ無數ノ廣ガリニマデ附加シツ、尙ホ前方ニ推進ムベク

アリシ(ナラバ)中間ナル港其處ニ)彼等ガ食料ヲ需メ及ビ營繕ヲ能ヒシ所ノ中間ナル港ヲ持タヌ所テ、如何ニ彼等ガ皆テ歸ルベク適當デアアルデアラウ乎。

彼等ハ人ガ曾テ以前ニ試ミタリシ所ヲ越ヘテ遙カニ、船ニ依ツテ渡ラレテアラザル、知ラレザル海ニ既ニ入込ミタリシ。彼等ハ斯様ナル企圖ヲ企ツルトニ於テ、而シテ左様ニ遙カ其レニ於テ熱心スルトニ於テ大膽及ビ勇氣ニ向ツテノ性質ヲ彼等躬ラニ向ツテ得ベク充分ニ爲シタリシ。如何ニ多ク尙遙カ彼等ガ單ニ推考サレタル陸ノ探索ニ於テ行クベクアリシ乎。彼等ハ彼等ガ死セシマデ若クハ總テ歸ルトガ出來難クナリシマデ進航スベクアリシ乎。斯様ナル場合ニ於テ彼等ハ彼等躬ラノ殞滅ニ向ツテノ創造者デアアルデアラウ。

コロムバスハ彼レノ水夫ノ粗暴ナル性質ニ付テ無智デアラザリシ、乍併彼レガ尙ホ溫和ナル言語ヲ以テ或者ヲ慰メツ、他ノ者ノ驕傲若クハ強慾ヲ勵マヌベク勉メツ、而シテ彼等ガ航海ヲ妨グルベク或ル事ヲ爲スデアラウ(ナラバ)若シキ刑罰ヲ以テ明カニ強情ヲ威シツ、沈着ナル且強キ容兒ヲ保チシ。

(講)抑コロムバス一行ノ艱ハ、其構造ノ脆弱ナル、今日以往既ニ進航セシ大航海ニ對シテスラモ備且不適當ノモノナルニ、而カモ萬里無涯ノ滄海中、糧食ノ供給ヲ仰ギ損所ノ修理ヲ加フベキ港トアハートシテアルナキ處ニ、毎時航程ヲ重テテ懸カニ前進セバ、其危險ナルト實ニ言語ニ絶スルモノニシテ、能ク無難ニ歸國シ得ルヤ否ヤハ、危ムベキノ限ト云フベシ。

今ヤ此一行ノ願ハ古來會テ一航海者ノ到ラザル遠洋ニ出テ。船員各自剛膽勇氣ヲ
鼓舞シ、以テ其大目途ヲ貫徹センコトヲ勸メタリ。爾リ而シテ此目的ヲ貫クベキ則チ
其想像シタル陸地ニ達スルニハ果シテ幾千里程ヲ航スベキ乎。各員悉ク死シテ後
止マン乎抑モ亦絶海異郷ニ進ンテ再ビ故山ヲ見ル能ハザルニ至ルベキ乎。一朝不
幸ニシテ斯ル災厄ニ陥ルアラシ乎各員ハ足レ發見者ニアラズシテ、自身滅亡ノ創
造者ト謂フベキノミ。

コロムバス各水夫ノ此心ヲ抱クヲ知ルト雖モ、尙ホ通言ヲ以テ之ヲ慰諭シ、其高慢
貪慾ノ心ヲ勸マシ、以テ前途ノ冀望ヲ高メシメ又水夫ニシテ苟モ航海ヲ妨害スル
ノ所業ヲ爲スモノアラバ處スルニ嚴罰ヲ以テスベシ恐嚇シ、泰然且ツ假乎トシテ
威ヲ示セリ。

九月ノ二十五日ニ於テ風ガ再ビ好都合トナリシ、而シテ彼等ガ直接ニ西ニマテ彼等ノ進
ヲ取ルベク適當デアリシ、コロムバス彼レノ水先案内者、彼レノ經驗アル航海者ノ數々ガ地
圖ヲ學ビツ、而シテ其レカラ彼等ノ實ノ位置ヲ見^メ出スベク勉メツ、アリシ間彼等ガ「ビ
ンタ」カラ叫ビテ聞キシ、而シテ見上ケル所デ「陸ヨ、陸ヨ、セナー」ヨ余ハ余ノ褒賞ヲ請求
スルヨト叫ビツ、彼レノ船首ニ登リタル、マーティン、アロンソ、ビインソナ見シ。
彼レガ同時ニ於テ(南西其處ニ)其處ニ實ニ遠隔ニ於テ陸地ノ出現ガアリシ所ノ南西ニマテ
指示セシ。此ノ上ニコロムバスガ彼レノ膝ノ上ニ彼レ自身ヲ投ゲシ、而シテ天帝ニマテ感謝

ヲ返ヘセシ。

水夫ハ今指示セラレタル方角ニ於テ彼等ノ眼ヲ見結メツ、櫓ノ頂上ニマテ登リシ或ハ網梯
ノ周リニ攀ギシ。證據ガ其方角ニ於テ陸ニ付テ左様ニ一般ニナリシ、而シテ人民ノ喜悅ハ
コロムバスガ彼レノ通常ノ進路カラ變スベク而シテ南西ニマテ全夜立ツベク其レヲ要用ト
見出セシコトホド左様ニ制スベカラスナリシ。

然リト雖朝ノ光リガ夢ニマテトシテ彼等ノ希望ニマテ終リテ置キシ。想像サレタル陸地ハ
日晡ノ雲ノ外何モデアラヌベク證據立テシ、而シテ夜ニ於テ消散シタリシ。失心シタル心ヲ
以テ彼等ガ今一度彼等ノ西方ノ進路ヲ取リシ、其レカラコロムバスガ彼等ノ喧シキ希望ヲ
以テ承諾スルコトニ於テノ外決シテ變ゼナンダデアラウ。

(論)九月二十五日ニ至ツテ、颯風再ビ起リ、眞直ニ西航スルノ便ヲ得タリ。コロムバス
水先案内者、及ビ熟練ナル海員等諸般ハ、地圖ヲ披キテ、今ヤ其船ノ那邊ニ進航シツ
、アル乎ヲ研究セル時ニ方ツテ、一行中ノ一船「ビンタ」號ヨリ四艘ノ間ユルアリ、衆
之ヲ聞イテ眼ヲ其方ニ注グニ、是レマーティン、アロンソ、ビインソ、ノ聲ナリ、此時ヒ
インソノ船首ニ登リ呼ンテ曰ク、陸ナリ陸ナリ、「セナー」君ヨ、余ハ褒賞ヲ受ザルベ
カラズト。且ツ西南ニ方ツテ遙カニ陸影ノ横ハルアルヲ指示セリ。是ニ於テコロム
バス倏忽トシテ跪キ發見發功ノ天恩ヲ謝セリ。
各水夫ハ櫓上ニ登リ、帆索ヲ纏ギ、今ヤ指示セラレタル方角ニ眼ヲ注ギ、實ニ陸地ノ

横ハルアルヲ認メ、歌聲措ク能ハズ、直チニコロムマスニ歸ヒテ遠隔ノ航路ヲ轉ジ西
 南ニ向ツテ終夜航行スルニ至レリ。
 然ルニ、朝噴海面ニ生シテ光輝燦然暗ヲ破ルニ及ビ、水夫ノ希望ハ空シク一睡ノ夢
 ニ歸セリ則チ前キニ推測チ下シタル陸地ハ、只是レ暮雲ノ隠翳タリシニ外ナラス
 而シテ天明以前既ニ消散シテ復タ片影ヲ留メズ。是ニ於テ各員大ニ失望シ、再ヒ針
 路ヲ西方ニ取リテ航行セリ、而シテコロムマスハ水夫ノ暗喑ナル請求ニ應ズル時
 ノ外、敢テ針路ヲ轉ズルコトナラス。

數日ノ間彼等ハ同ジ好都合ノ軟風靜安ナル海及ビ平穩ナル愉快ナル天氣ヲ以テ續キシ。水
 ハ水夫ガ船ノ周リニ游泳スルコトヲ以テ彼等自身ヲ娛シマセシ程程左様ニ靜穩ニアリシ。豚
 魚ガ澤山アルベク始メシ、而シテ飛魚ガ空氣ニマデ飛ビツ、甲板ノ上ニ落チシ。陸ノ續キノ
 視ヘガ水夫ノ注意ヲ導キシ、而シテ頻リニ前ノ方ニ彼等ヲ誘引セシ。

提督ノ船ノ水先案内者ノ計算ニマデ從フ所ア、十月ノ一日ニ於テ彼等ガカナリ一嶋ヲ去ツ
 テ以來五百而シテ八十リ一グニ西ニ來ツタリシ。翌日ニ於テ海草ガ東カラ西マデ浮ミシ、
 而シテ第三日ニ於テ一ツノ島ガ見ラルベクアラザリシ。

水夫ガ今後等ガ(嶋其ノ)一カラ他ニマデ島ガ飛ビツ、アツタリシ處ノ島ノ間ヲ通過シタ
 リシコト恐ルベク始メシ。コロムマスガ及此種類ノ或疑ヲ持チシ。乍併彼レノ西方ノ進路ヲ
 變ズベク嫌ヒシ。人民ガ再ビ威言及ビ不平ヲ發セシ、乍併翌日ニ於テ彼等ハ島ノ斯様ナル飛

翔ニ依ツテ訪問セラレシ、而シテ種々ノ徵候ガ失望ノ有様カラ彼等ガ信ズベキ預望ノ一ツ
 ニマデ通過セシコトホド左様ニ數多クナリシ。

(譯註) 日間引續キ風順ニ海靜ニ、且ツ天氣晴明ニシテ、潮水沙浪ヲ起サ、水夫ハ船邊
 ニ游泳シテ以テ自ラ娛メリ、又豚魚ノ群ヲナシテ來ルアリ、飛魚ノ空ニ墜ツテ甲板
 ニ落ツルアリ。斯ノ如キ陸地ノ徵候屢々現ハレテ水夫ノ心ヲ動カシ、島メニ大ニ動
 マサレテ前進セリ。

提督コロムマスノ船ニ乗組メル水先案内者ノ計算ニ從ヘバ、暫キニ一行ノ艦ヲナ
 リ一島ヲ抜過シテ以來、十月一日ニ至ツテ西航スルコト七百四十英里ナリ。其翌
 日海草アリ東ヨリ西ニ漂流ス、而シテ第三日ニ至リテハ復タ一島ノ眼畔ヲ遊ルモ
 ノアラス。

是ニ於テ水夫等皆惟ヘラク、是レ蓋シ鳥類ノ棲息セル暗曠間ヲ經過シ去リタルナ
 リト、以テ大ニ疑懼心ヲ起セリ。留リ而シテ提督コロムマスモ亦多少斯ル疑懼ヲ抱
 キシト雖モ、尙ホ其西航ノ針路ヲ轉ズルヲ否メリ。爰テ以テ船員再ビ不平ヲ起シ、比
 リニ嘩々威嚇スルニ及ビシガ、翌日ニ至ツテ島群飛翔シテ船邊ニ來リ、且ツ陸地ノ
 兆候種々現出シテ、島メニ海員失望ノ情況ヲ一變シ、前途期スベキアルノ疑懼心ト
 高セリ。

第七十八章

亞米利加ノ發見

第二部

十月ノ七日ノ朝ニ於テノ日出ニ於テ提督ノ水夫ノ種々ガ彼等ガ西ニ於テ陸ヲ見シヲ考ヘシ、乍併誰モガ其レヲ公告セザリシヲホド左様ニ不分明ニ。トハ雖善キ水夫デアル所ノイニヤガ事實ヲ確メルベク前方ニ急ギシ。暫時ニ於テ旗ガ彼女ノ櫓ノ頂上ニ於テ引上ケラレシ、而シテ鐵砲ガ發セラレシ、是等ガ前約束シタル陸ニ向ツテ合圖デアル所テ

(譯)十月七日午前旭日將ニ東天ニ上ラントスル比ヒ提督部下ノ水夫數名西ニ方ツテ陸地ヲ發見シタリト惟ヘリ、然レドモ糶粉ノ間僅ニ其影ヲ認メタルノミナルヲ以テ、一人トシテ放テ之ヲ口外スルモノアラス。然ルニ老練ナル水夫ニ「ニヤハ此事實ヲ確メントシテ、早急船首ニ進メヨ」後須臾ニシテ鐵砲ニ旗ヲ掲ゲ尋イテ砲發ス、是レ豫テ定メタル陸地發見ノ徵號ナリ。

新シキ喜悅ガ小ナル艦隊ヲ通シテ惹起サレシ、而シテ各ノ眼ガ西ニマデ轉向セラレシ。トハ雖モ彼等ガ進ミシ時ニ彼等ノ雲ニ作ラレタル希望ガ消ヘ去リシ、而シテ日晡前想像サレタル陸ガ再ビ空氣ニマデ溶解シタリシ、水夫ハ今彼等ノ近頃ノ勵ミニマデ割合ハサレテ失望ノ狀態ニマデ沈ミシ、乍併新シキ事情ガ彼等ヲ勵マスベク起リシ。

コロムバスガ南西ノ方ニ行ク所ノ小サキ野鳥ノ大ナル飛翔ヲ視付ケタ所テ彼等ハ(或ル近隣ノ陸其處ニ)彼等ガ食物ト而シテ休息スル所ノ場所ヲ見出スデアラウ所ノ或ル近隣ノ陸ニ付テ確メテレテハナラヌト決心セシ。彼レハ(重要其レハ)葡萄牙ノ航海者ガ(鳥ノ飛翔其レニ)從フコニ依ツテ彼等ガ彼等ノ嶋ノ最モ多クヲ發見シタリシ所ノ鳥ノ飛翔ニマデ從ヒシ所ノ重要ヲ知リシ。其故ニ彼レハ十月ノ七日ノ日晡ニ於テ(方角其レニ)於テ鳥ガ一般ニ飛ビシ所ノ方角ナル西南西ニマデ彼レノ進路ヲ變ズベク決定セシ。

三日ノ間彼等ガ此方角ニ於テ立チシ、而シテ彼等ガ尙遙カ行シホド尙多ク陸地ノ視ヘガ屢々而シテ勵マシツ、アリシ。種々ノ色ノ小サキ鳥野ニ於テ驅フ如キ斯様ナル彼等ノ或者ガ船ノ周リニ飛ビツ、來リシ、而シテ然ル時ニ南西ノ方ニ續キシ、而シテ他ノ者ガ夜ニ於テ近ク飛ビツ、聞カレシ。金鎗魚ガ滑ラカナル海ニ於テ遊ビ廻リシ、而シテ鸞鶴、及ビ鴨ガ紛テ同シ方角ニ於テ限ラレテ見ラレシ。

(譯)今ヤ此一行各船ノ水夫ハ、歡喜雀躍シテ各自眼ヲ西ニ注グ。然ルニ西進スルニ從ツテ、水夫等ガ空想ハ消失セリ、蓋シ日晡前其陸地ヲト想定シタルモノハ是レ嘗一朶ノ雲ニシテ、漸ク空中ニ消散シ、復タ一片ノ飛蹄ヲ習メズ。爰ヲ以テ水夫等落膽ノ狀態ハ、驚キノ蠢動ノ容狀ト相反スルニ至ル、然レドモ更ニ一新事ノ起ルアリテ其失望ノ心情ヲ勵シタリ。

時ニ鳥群ノ飛ンテ西南方ニ行クアリ、コロムバス之ヲ見テ惟ヘラク、鳥群ノ趨ク所其食餌ヲ索メ其棲所ヲ得ルノ陸地アルヤ必セリ、今ヤ我一行正ニ陸地ニ近ケリト又往時葡國ノ航海者諸號ガ許多ノ鳥嶋ヲ發見シタルハ、多ク鳥群飛行ノ方向ヲ追

ヒテ、探索セル結果ニ出ツ、是ニ由ツテ之ヲ見レバ鳥群ノ飛行タル途ニ輕視スベキ
 ニアラズト。故テ以テコロムバスハ十月七日夕陽波間ニ没セントスル比ヒ、船首ヲ
 轉シテ西南西ニ向ハンコヲ決セリ、是レ則チ鳥群ノ飛行セル方向ナリ。
 爾後三日間常ニ西南西ニ航シテ復々針路ヲ轉ズルコトヲ爲サズ、而シテ其愈々進ム
 ニ從ヒ顯著ナル陸地ノ兆候倍々多ク現出セリ。爾チ原野ニ轉ル若キ小島群ヲ飛ン
 テ船邊ニ來リ、南西ニ向ツテ去ル、而シテ夜間尙ホ其鳴聲ノ耳朶ニ觸ル、アリ。又金
 鎗魚ハ靜穩ナル海上ニ游泳シ、鷲、鵜、鵜、及ビ鷗ノ若キ禽族皆南西ニ向ッテノミ飛行
 スルヲ見タリ。

トハ雖モ總テ此等ハ滅亡ニマデ彼等ヲ欺ク所ノ左様ニ多クノ僞計トシテ水夫ニ依ツテ見做
 サレテアリシ、而シテ第三日ノ日晡ニ於テ濱ナキ地平線ノ上ニ太陽ノ没スル(No. 200)ヲ
 見シ時ニ彼等ハ喧シキ鬧騒ニマデ破裂セシ。彼等ハ家ニ歸ルコトノ上ニ而シテ望無シトシテ
 航海ヲ抛棄スルコトノ上ニ主張セソ。

コロムバスハ溫和ナル言辭而シテ大ナル賞與ノ契約ニ依ツテ彼等ヲ宥メルベク勸メシ、乍
 併彼等ガ只鬧騒ニ於テ増加セシコト見出ス所デ彼レガ決然タル言語ヲ取リシ。彼レハ喃々
 スルコトノ其レハ不用デアリシト彼等ニ告ゲシ、遠征ハ印度ヲ穿鑿スベク國王ニ依ツテ送ラ
 レタリシ、而シテ何ガ起リ能ヒシ(トモ)天帝ノ冥助ニ依ツテ彼レガ企圖ヲ成就スルデアラ
 ウ迄ハ、彼レガ忍耐スベク決定シテアリシ。

(譯)陸地ノ兆候斯ク續々出現スト雖モ、水夫等皆惟ヘラタ是レ實ニ陸地ノ接近スル
 アリテ然ルニアラズ、今若シ悉ク之ヲ信セバ、竟ニ身ヲ滅スニ至ルベシト、而シテ第
 三日ノ黄昏前夕陽方サニ渺漠無涯ノ沿海中ニ没セントスル時、船中一大騷擾ヲ現
 出セリ。爾時水夫等ハ口ヲ揃ヘテ主張スラク、宜シク前途無望ノ航海ヲ捨テ、家ニ本
 國ニ還ルベシト。

是ニ於テコロムバスハ言辭ヲ過サニシテ、重賞ヲ與フベキノ約ヲ爲シ、以テ水夫ノ
 心ヲ宥ムルニ努メタリ。然ルニ此策未ダ以テ其不平ヲ釋クニ足ラズ、爾後倍々進ムテ
 見テ、コロムバス竟ニ斷乎不動ノ言ヲ用ヒ、唇色ヲ動マシ衆ニ告ゲテ曰ク爾等
 ガ言ニ從ハズ、如何ニ不平ヲ起スト雖モ、畢竟徒爲ニシテ復々何等ノ効アラズ、抑モ
 此航海タルヤ國王ノ勅宣ヲ以テ印度ヲ探究スルノ目的ニ出テタルモノナレバ、中
 途如何ナル事變ニ際會スルモ、上帝ノ冥助ニ據ッテ余ガ豫望ヲ達タスニ至ルマデ
 余ハ決シテ怒首ヲ回ラサルナリト。

コロムバスハ今、彼レノ水夫ヲ以テ開ヒタル輕侮ニ於テアリシ、而シテ彼レノ位置ガ危クナ
 リシ。幸ヒニモ陸ノ近キコトノ顯ハレガ最早疑ニ付テ許サズベキ如ク翌日ニ於テ斯様ニアリ
 シ。河ニ於テ生ズル如キ斯様ナル新鮮ノ水草ノ量ノ外、彼等ガ岩ノ周リニ保ツ所ノ一種類ノ
 綠色ノ魚ヲ見シ、然ル時ニ其ノ上ニ果實ヲ以テノ而シテ近頃木カラ裂レタル茨ノ枝ガ彼等
 ノ傍ニ浮ミシ、然ル時ニ彼等ハ蘆葦、小サキ板、而シテ總テノ上ニ人工ニテ刻マレタル杖ヲ

拾ヒ上ケシ。

総テノ鬱爰及ビ喧擾ガ今活潑ナル期望ニマデ道ヲ興ヘシ、而シテ日ヲ通シテ各ノ者ガ長ク望マレタル (Long-sought) 陸ヲ發見スベキ者テアル所ノ望ミニ於テ熱心ニ眺望ヲ保チシ。軟風ガ平常ヨリモ尙多クノ量ヲ以テ全テノ日新鮮ニナリタリシ、而シテ彼等ガ大ナル進ミヲ爲シタリシ。

日没ニ於テ彼等ガ西ニマデ再ビ立チタリシ、而シテ「ピンタ」ガ彼女ノ卓手タル駛行カラ導キテ保チツ、迅速ナル度ニ於テ波ヲ切りツ、アリシ。

(譯)今ヤコロムメス水夫ヲ侮蔑スルノ意言外ニ溢レ、其位置彌々急ニ逼レリ。此時ニ方ツテ幸ヒニモ陸地接近、微顛ハレ、翌日ニ至ツテハ復タ塔末ノ難ヲ容ルベカラザルモノトナレリ。則チ河邊ニ生茂セルモノ、如キ新鮮ナル水草及ビ岩邊ニ住スル青色ノ鱗族先ツ人目ニ觸レ、亞イテ果實ヲ保テル新シキ茨ノ枝流レ來リ、其後水夫ハ蘆葦、板片及ビ全部彫鏡ヲ施セル杖ヲ拾ヘリ。爰ニ至ツテ水夫等ノ快愜喧擾ハ倏忽トシテ活乎タル豫望ト變ジ、各自其宿望ノ陸地發見ノ爲ノニ終日意ヲ用ヒテ眼ヲ前方ニ注グ。此日軟風其度平常ニ離ヘ全帆之ヲ含シテ船大ニ進航ス日既ニ没セントスル比ヒ又船首ヲ正西ニ轉シ「ピンタ」號其速カノ他ニ餘ユルヲ以テ擱導ノ位置ニ立チ波濤ヲ蹴ツテ快駛セリ。

最大ノ活潑ナル「ガ」ガ船ヲ通シテ流行セシ、眼ガ其夜閉ヤラザリシ。日暈ガ暗黒ニナリシ時

ニコロムバスガ暗ク地平線ニ沿フテ彼レノ眼ヲ閉チツ、而シテ烈シキ而シテ止メザル看張リヲ保チツ、彼レノ船ノ前室則チ部屋ノ頂上ニ於テ彼レノ位置ヲ取りシ。

十時比口彼レハ彼レガ大距離ニ於テ輝ク所ノ光輝ヲ見シト考ヘシ。彼レノ熱心ナル希望ガ彼レテ欺キ得シテ恐ル、所デ彼レガ彼レノ人ノ一ニマデ呼ビシ、而シテ彼レガ斯様ナル光輝ヲ見シカ孰レカチ問ヒシ、終リノ者ガ確然ニ於テ答ヘシ。其レガ尙ホ想像ノ或ル欺キデアリ得ヌカチ疑ヒテコロムバスガ尙ホ他ノ者ニ迄呼ビシ、而シテ同ヲ問ヒテ爲セシ。終リノ者ガ遠見臺ニ登リタリシ時ニ光輝ガ消失シタリシ。彼等ハ突然ニ而シテ通過スル所ノ光ニ於テ其後一度或ハ二度其レヲ見シ、而シテ浪ト共ニ浮沈スル所 (rising and sinking) ノ漁夫ノ小舟ニ於テノ篝火若クハ彼レガ家カラ家ニマデ通過セシ時ニ上下 (up and down) ニ保タレタル海濱ニ於テノ或入ノ手ニ於テノ (篝火) デ其レガアリシカノ如ク、突然ニ而シテ通過スル所ノ光リ云々。僅カハ彼等ニマデ或ル要用ヲ歸セシ「程左様ニ雲シテ而シテ不確實デ此等ノ光リガアリシトハ離コロムバスガ陸ノ確實ナル徴トシテ彼等ヲ考ヘシ、而シテ尙又陸ガ住ハレテアリシヲ考ヘシ。

(譯) 船中活氣ヲ以テ充滿シ、其夜一人トシテ險ヲ閉アルモノナキニ至レリ。日全ク没シテ四邊暗色ヲ呈スルニ及ビコロムメスハ前室ノ上端ニ坐チ占メテ驚愕タル燈平線上ニ眼ヲ配シ、銳々トシテ望見セリ。午後十時ノ頃ニ雷ツテコロムメスニ極光ノ明滅スルアルヲ觀メタリト感ゼリ。然レドモ是レ尙ハ前途ノ展望ニ熱心ナル

ノ餘リ、誤見セルモノナラン乎ヲ疑ヒ、部下ノ一船員ヲ呼ンテ、其燈光ヲ見シヤ否ヤ
 ナ問ヘリ、船員乃チ確然之ヲ見タルヲ答フ。然ルモ尙ホ其想像上ノ誤見ナラサル乎
 ニ心ヲ懸ケ、又他ノ船員ヲ召シテ、之ニ問フニ、同車ヲ以テス。
 該員遠見燈ニ上レバ、燈光既ニ滅シテ影ナシ。爾後一兩回忽チニシテ明忽チニシテ
 滅ノ燈光ヲ目撃セリ、其狀恰モ波濤ノ上ニ浮沈スル漁舟ノ篝火ノ如ク、若クハ海邊
 ノ人家ニ往來スル人ノ提燈ノ動搖スルニ似タリ。斯クノ如ク、燈光ノ曖昧ナルヲ以
 テ船員中唯數人ノ外之ヲ以テ陸地ノ著大ナル徵候トナシタルモノアラス。然レド
 モコロムバスハ、是レ陸ノ離燈ニシナシ且ツ其陸タル必然居住民アルベシト信セリ。
 彼等ガ朝ニ於テノ二時マデ彼等ノ進ミヲ續ケン、其特「ピンタ」カラ鐵砲ガ陸ノ樂シキ合圖
 ナ興ヘシ。其レハ最初ニロドリゴ、デ、トリアト名ツケラレタル航海者ニ依ツテ見ラレシ、
 乍併褒賞ガ、以前ニ燈光ヲ見付ケタリニ向ツテ其後提督ニマデ判定セラレシ。陸ハ今明カニ
 大約二「リーグ」ノ距離ニ見ラレシ、其ニ於テ彼等ハ帆ヲ取り入レ而シテ夜明クニ向ツテ耐
 忍ナク待チツ、止リシ。コロムバスガ最初新世界ヲ見シ事ノ其レハ十月ノ十二日ナル全曜
 日ノ朝ニ於テアリシ。晝ガ夜明クシ時ニ彼レハ彼レノ前ニ廣サニ於テ數「リーグ」ナル而シテ
 續キタル樹園ノ如ク樹ヲ以テ蓋ハレタル平面ノ嶋ヲ見シ。縱令明ラカニ耕ヤサレズトハ雖
 モ、其レカ人口多クアリシ、如何トナレバ住民ガ森ノ總テノ部分カラ出デツ、而シテ海濱ニ
 マデ走リツ、見ラレシ故ニ。彼等ガ船ニ於テ眺メツ、立チシ、而シテ驚愕ニ於テ失ハルベク

彼等ノ容貌及ビ動作ニ依ツテ見ヘシ。

コロムバスガ鐵ヲ投ルベク船ニ向ツテ合圖ヲ爲セシ、而シテ小舟ガ乗込レ而シテ武備サル
 ベク(合圖ヲナセシ)。彼レハ壁ハシク深紅ニ依ツテ飾ラレテ彼レ自分ノ小舟ニ入込ミシ、而
 シテ冠ニ依ツテ圍マレタルカステイリアンノ王「アイディナンド」及ビ「イサベラ」頭字ナルド
 及ビ「Y」文字ヲ兩側ニ於テ持ツ所ノ王ノ旗ヲ持チツ、。

(圖)午前二時ニ至ツテ「ピンタ」陸地發見ノ號砲ヲ發ツ、之ヲ聞クモノ皆歡喜セザル
 ハナシ。而シテ船員「ロドリゴ、デ、トリア」ナル者初メテ陸地ヲ指定セリト雖、夫ノ國
 王ノ契約ナル褒賞ハ、正ニ提督コロムバスノ受クベキモノト判定セラレタリ、是他
 ナシ、コロムバス燈光ヲ目撃シテ陸地ノ存在ヲ知りタルヲ以テナリ、今チ大約六英
 里ノ距離ニ於テ判然陸地ヲ見ルヲ得タリ、是ニ於テ帆ヲ揚キ進航ヲ止メ、以テ天明
 チ待ツ、其間船員皆一時千秋ノ思ヒヲナセリ。コロムバス初メテ新世界ヲ見タルハ
 實ニ十月十二日(金曜日)黎明ニ在リ、東天北ツ紅ヲ傳ヘ四面漸ク明カナル時、平坦ナ
 ル一際眼前ニ樹ハルヲ見ル、其船員數「リーグ」ニシテ樹木叢生恰モ樹園ニ異ナラズ
 其地タル更ニ耕耘ヲ施サルヤ瞭然タレドモ而モ住民ハ頗ル多數ナルヲ知ル、故
 ハ林中各處ヨリ出テ、海濱ニ向ヒ奔走スル住民許多ナルヲ以テナリ。住民海岸ニ
 立ツテ一行ノ船ヲ眺メ、頗ル驚愕迷心セルノ狀アリ。
 コロムバス令チ下シテ鐵ヲ投セシメ、且ツ輕艇ヲ泛ベ之ニ塔シテ武備ヲ爲サシム。

而シテ身ニ鮮紅色ノ衣服ヲ着ヒ、王旗ヲ携ヘテ、躬ヲ其纏網ニ來レリ、因ニ云フ王旗ハ爾側ニフトトYトノ二字ヲ描キ周圍ニ冠ノ形ヲ寫セルモノヲ以テ徽章トス、但レF Yノ二字ハカステイリア王フノーテイナンド及ビ女王イサベルノ頭字ナリ(Ferdinand Ysabel)

上陸スルヲニ於テ彼レハ彼レノ膝ノ上ニ彼レ自身ヲ投ケシ地ニ接吻セシ、而シテ喜悅ノ涙ヲ以テ天帝ニマデ感謝ヲ返ヘセシ。彼レノ例ガ自餘ノ者ニ依ツテ從ハレシ。其人ノ心ハ實ニ謝恩ノ同シ感覺ヲ以テ溢レシ。

コロムハスハ然ル時ニ起チ上リツ、彼レノ劍ヲ抜キシ、王旗ヲ示セシ、而シテ艦隊ノ記録者及ビ上陸シタリシ所ノ自餘ノ者ト共ニ二船長ヲ彼レノ周リニ集メル所テ、彼レガサンサルバダーノ名稱ヲ島ニ與ヘツ、カステイリア王ノ名ニ於テ嚴格ナル所有ヲ取リシ。水夫ノ感覺ガ今最多ク非常ナル喜悅ニ於テ破裂セシ。彼等ハ近頃滅亡ニマデ前方ニ急グ所ノ捨テラレタル人ト彼等自身ヲ考ヘタリシ、今彼等ハ命運ノ恵ミアルモノトシテ彼等自身ノ上ヲ眺メシ而シテ最多ク限リナキ喜ビニマデ彼等自身ヲ放チシ。彼等ハ溢レル所ノ熱心ヲ以テ提督ノ周圍ニ群ガリシ、或者ハ彼レヲ抱キシ、他ノ者ハ彼レノ手ニ接吻セシ。

(譯)コロムハス既ニ陸地ニ上ツテ直チニ跪坐シ、吻ヲ地上ニ接ヘ、喜悅ノ極、涙ヲ流シテ天恩ノ深厚ナルヲ上帝ニ謝セリ。爾餘ノ諸員皆コロムハスノ例ニ倣ツテ拜謝ス、而シテ其心裡ノ歡喜ハ滿面ニ溢レタリ。

コロムハス拜謝チ了ツテ後起チ、劍ヲ抜キ王旗ヲ掲ケ、二船長艦隊書記員、及ビ自餘ノ上陸セル船員ヲ集メ、現ニ發見セル島ニサンサルバダーノ名稱ヲ下シカステイリアン王ノ名義ヲ以テ領土ノ權ヲ占取セリ。

今ヤ水夫等喜悅ノ情非常ナル高度ニ達セリ。則チ昨日マデ日々死地ノ急グノ觀アリシ航海モ今日ハ初期ノ大目的ヲ貫徹シ陸地發見ノ功ヲ樂シタルヲ以テ、茲ニ其幸運ヲ開キタルヲ喜ビ、欣舞雀躍シト狂スルガ如ク、滿面ニ喜色ヲ溢シテコロムハスノ身邊ヲ圍繞シ、或ハ其軀ヲ抱クアリ或ハ其手ニ接吻スルアリ。

嶋ノ土人が晝ノ天明ニ於テ彼等ハ彼等ノ海岸ニ於テ漂泊スル所ノ船ヲ見タリシ時ニ、夜ノ間ニ深海ヨリ現出シタリシ所ノ怪物ト彼等ヲ想像シタリシ。彼等ガ渚ニマデ群リタリシ。而シテ畏怖シタル憂慮ヲ以テ彼等ノ運動ヲ看守セシ。明カニ努力ナシニ彼等ノ運動スル、及ビ大ナル翼ニ類似スル所ノ彼等ノ帆ノ變ズルヲ及ビ捲キ下ゲルヲガ驚愕ヲ以テ彼等ヲ充タセシ。彼等ガ彼等ノ小舟ノ近接スルヲ及ビ輝ク所ノ兵器ニ於テ又ハ種々ノ色ノ衣服ニ於テ飾ラレタル奇妙ナル人ノ數ガ海岸ニ於テ上陸スルヲ見シ時ニ、彼等ハ愕キニ於テ森ニマデ遊逃セシ。

トハ雖、其處ニ彼等ヲ追ヒ或ハ苦メルベク一ツノ企テガアラザリシヲ見出ス所テ彼等ガ漸次ニ彼等ノ畏怖カラ回復セシ、而シテ屢々地上ニ彼等自身ニ敬禮シツ、而シテ尊敬ノ表ハシテナシツ、大ナル悚惶ヲ以テ西班牙人ニ近寄リシ。

提督ハ格段ニ彼レノ容貞ノ高キヲ、權威ノ彼レノ有様深紅ノ彼レノ衣裳、及ビ彼レノ伴侶ニ依テ拂ハレシ所ノ尊敬カラ彼等ノ注意ヲ惹キシ、其レノ總テガ指揮官アルベク彼レヲ指示セシ、彼等ガ彼等ノ恐怖カラ尙ヨリ遙カ回復シタリシ時ニ彼等ガ西班牙人ニ接近セシ、彼等ノ驛ニ觸レシ而シテ彼等ノ白キヲニ驚キツ、彼等ノ手ト而シテ顔ヲ吟味セシ。

(譯)該島ノ土人ハ、天明ニ及ンテ、艦船ノ海岸ニ碇泊セルヲ目撃シ、惟ヘラク、恐ラクハ是レ夜間冷溼海中ヨリ出現シタル怪物ナルベシト。相伴フテ海岸ニ群來シ畏懼憂慮ノ色ヲ面ニ示シテ、艦船ノ運動ヲ凝視セリ。又努力ヲ要セズシテ船ノ運動スルトト、大ナル羽翼ニ翹セル其帆ノ上下スルトトハ願ル土人ノ心ヲ驚カシメタリ。

既ニシテ輕河海岸ニ接近シ、艦員上陸スルニ及ンテ、土人ハ其携帯セル武器ノ輝耀タル、其着裝セル衣服ノ鮮色ナル、生來未會見ノ奇物(土人ノ目ニ)ヲ認メテ恐慌林中ニ遁走セリ。

土人一且林中ニ遁逃セシト雖モ、今ヤ上陸セル奇物ノ已レテ追隨シ且ツ加害セントスル狀更ニアラザルヲ見テ漸ク畏懼ノ念ヲ減シ、屈身致敬以テ尊嚴ヲ表シ、西班牙人則チコロムマス一行ニ近ツキ來レリ。

コロムマスノ特ニ卓乎タル容貌、其威儀ノ凜然タル、且ツ其服裝ノ爛々タル及ヒ部下ノ諸員之ヲ尊敬スルヲ見テ、土人ハ其總督ナルヲ知覺セリ。傍チ土人全ク其疑懼心ヲ散スルニ及ンテ、近ク西班牙人ノ側ヲニ來リ、其驛驛ニ觸レ、且ツ其頭及ビ其手

ノ白キヲ見テ驚ケリ。

コロムマスハ彼等ノ温和ナルフ及ビ信スル所ノ質朴ヲ以テ樂シマサレシ、而シテ彼レノ恩惠ニ依ツテ彼等ヲ懷ケツ、充分ナル沈着ナルフヲ以テ彼等ノ吟味ヲ受ケシ。彼等ハ今船ガ彼等ノ水平ヲ境界セシ所ノ透明ナル蒼空カラ走り出テタリシ、又ハ彼等ノ廣キ羽翼ニ於テ上カラ下リタリシヲ想像セシ、而シテ此等ノ驚愕スベキモノハ天空ノ住人デアリシヲ想像セシ。

(譯)コロムマスハ土人ノ温厚淳朴ナルヲ喜ビ、之ヲ憐ケントシテ慈惠ヲ施シ且ツ泰然トシテ其爲スニ任セ、以テ他意ナキヲ示セリ。此時ニ當ツテ土人皆惟ラコロムマス一行ノ船タル是レ水天相接スル所ノ蒼空ヨリ奔出シタルニ非ラザレハ、其大羽翼ニ依ツテ天界ヨリ降下セルモノナルベシト、又惟ヘラク此人タルヤ必然ハ界ニ棲息スルモノニアラスシテ、天國ノ物類タルベシト。

第七十九章

騎兵ノ攻撃。

聞ケヨ、銃卒ノ鳴ラス所ノ響、而シテ鳴ル太鼓而シテ愉快ナル吶喊、而シテ青枝ノ火ノ響ク所ノ鞭ノ如ク小銃ハ烈シキ情狀ヲ以テ燃ユル而シテ歌フ彈丸而シテ叫ブ殼而シテ徹レタル地獄ノ尖ル火而シテ響ク大砲ガ砲臺ニ依ツテ話ス時ニ大砲ノ烟ノ大ナル白キ呼吸、而シテ鐵ノ彈丸ガ重ク徹ホシテ回轉セシ處ニ青色ノ壁ニ於テ荒レタル割レ目、彼レノ「勇氣付ケタ

ル一人ヲ以テ叫聲ヲ彼レガ割ル時再ビ一呼吸ヲ以テ佐官ガ建ツル所ノ而シテ叫ガ黒キ唇カ
ラ裂ケ而シテ祈念ガ紅涙滴カラ徐々ニ語り而シテ雲ノ下ニ星ガ行ク如ク死スル所ノ眼ニ於
テ閃々タル所ノ容員、乍併彼レノ精神ハ進ミシ、如何トナレハ青色ノ小兒ハ決シテ死シテ
アリ能ハヌ故ニト佐官ガ云ヒシ。

(講)聞け小銃の鳴る響太鼓の音や閃の響小銃の響其音は青き小枝の燃ゆる時
音をたつるに響霧りの飛ぶ弾丸は空に鳴り、石榴弾は地に響く其光景の懐き地獄
も斯やと思はれて、猛火は四方に燃へ上り、又砲臺より大砲をうち放ちたる其時は
白き煙は空を突く、又青色の軍服を粧ひ飾る一隊の弾丸に中りて其列を崩せる時
に將官は直ちにこれを立て直はし、無波をつくりて進み撃つ、又兵卒の叫ぶ時、其を
聞く婦女は徐ろに口にし禍を稱へつ、眼に涙合む形容は、雲間に星を見るごとし
されど勇士は進み撃つ、背服軍の兵卒は勢ひつきぬ其故にと、佐官は高く叫びたり

(註) Charge up トハ運動ノ爲メニ隊列ノ離乱シタルヲ整備スルヲ云フ Boy in Blue トハ
合衆國ノ兵卒ニシテ其制服ノ青色ナルニ由リ其名アルナリ。

而シテ総テ彼レノ鞍ニ於テ坐スル兵士ハ上古ノ書院ニ於テ彫刻サレタル偶像ノ如ク(アル)、
而シテ彼等ハ彼等ノ呼吸ナキ隊列カラ旋風ヲ看守ル、而シテ彼等ノ鎧ハ馬ノ脇腹ニマテ接
シテアル而シテ劍ノ手ニ就テ指ガ働ク——ナリ、彼等ヲ活潑ニナスベク、而シテ彼等ヲシテ
尊大ナラシムベク、而シテ喇叭ハ終ニ攻撃ニマテ響ク、而シテ彼等ハ彼方ニ突進ス、而シテ

前隊ハ通過セラル、而シテ青色ノ短上衣ハ彼等ノ來ルルニ赤クナル、而シテ彼等ノ傍ニ依
テ響ク所ノ鞞モ又、而シテ死シタル兵卒ハ鐵否ニテ彼等ガ濕氣アル赤キ柴生ヲ越ヘテ眞直
ニ飛ビ進ムルニ打撃ヲ暗マス、——總テ躊躇タル而シテ霞ミタル雲ニマテ正シク、黒キ咽喉
ヅケラレタル而シテ恐怖スベキ鐵砲ニマテ眞直ニ上ニ、劍ヲ以テ境シタル垣ノ上ニ眞直ニ
下ニ、然ル時ニ後ノ方ヘ轉ズル厚キ圓柱ヲ通シテ正シク、ハ一ラ、再ビ收納時ヲ通シテ新々
ナル誇リ、ハ一ラ、旗ニ向ツテヨ、戰爭ニマテ、「アーメン」。

(講)馬に跨る兵卒の、其勇まじき有様は、古殿の裡に刻きたる勇士の像に似通へり。勇
まじに勇む騎兵等は、敵の兵士の駈りたつる土煙をば望みつつ、鎧を脱ぎ踏めて劍
をかざし待受くる。實に勇まじの有様や、今ぞ喇叭の聲聞ゆ、其は進撃の合圖にて、は
やりにはやる騎兵等は、我劣らじと突き進み、敵の前隊敗れたりある目覺しの働や、
敵軍中を駆廻る、騎兵の青き制服も、劍の鞘も皆共に、から紅に染めかせり。死を決し
たる軍人ハ、鮮血の海の中、右に左に馬を馳せ、撃ち合ふ銃の黒煙、天を覆ひて盡
も尙、闇夜の如き其中へ、霧に突き入りて、煙はき出す大砲を据へし邊りへ、駆け進み、
劍を列ね構へたる、敵の隊列既、逃ぐを追ひて衝き破る嗚呼言ばし、再度の勝負、
るにも尙餘りあり、軍旗の爲めに祝すべし、實に戰爭は上帝の助くる處なれよか。

第八十章

洋中浮氷ニ於テノ迷路

余輩ハ余輩ノ燈火ノ焰ニ依ツテ若干ノ靴ノ皮ニ於テ縫去リツ、面白ク事業ニ於テアリシ時ニ、夜半ニ向ツテ余輩ハ上ノ歩ミノ響ヲ聞キシ、而シテ次ノ瞬間ニツンタツグナルセン及ビピターセンハ小房ニマデ下リ來リシ。彼等ノ動作ハ甲板ニ於テ彼等ノ意外ノ顯ハレヨリ尙多ク其他私ヲ驚愕セシム。彼等ハ劇シク及ビ粗暴ニ且辛シテ說話スベク適當シテアリシ。彼等ノ說話ハ恐怖スベキモノデアリシ。彼等ハ新報ヲ我輩ニ持來ルベク彼等自身ノ性命ヲ冒シツ、氷ニ於テ彼等ノ伴侶ヲ殘シタリシ、ブツクスヘーカールソフン及ビピーアハ凍ツテ而シテ不適當ニサレテ都テ横ハリツ、アリシ。何處歟、彼等ハ告ケ能ハザリシ、北及ビ東ニマデ氷塊ノ中ニ於テ或處其レハ彼等ガ別レシ時ニ彼等ノ周圍ニ重ク層リツ、アリシ。アイランド人トムハ他ノ者ニ向ツテ養ヒ且ツ注意スベク止リタリシ。乍併時期ガ甚シク彼等ニ悖逆シテアリシ。其レハヨリ遙カ彼等ニ問フベク無益デアリシ。彼等ハ明カニ大ナル隔リヲ旅行シタリシ、如何トナレバ彼等ハ疲勞及ビ飢餓ヲ以テ沈ミツ、アリシ、而シテ彼等ガ來リシ處ノ方向ヲ我々ニ告ケルベク辛シテ充分落着カレ能ヒシ(故ニ)。

余ノ最初ノ感覺ハ自由ナル伴侶ヲ以テ瞬間ニ於テ觸クベクアリシ、勢ヒアル、或ハ其他望ミアルモノデアルベク救助ハ余リ速カナルモノデアリ能ハザリシ。最多ク私ノ心ニ迫リシ處ノモノハ積雪ノ中ニ何處ニ受害者ハ求メラルベクアリシカデアリシ。ナルセンハ彼レノ同伴ヨリ命令ニ於テ寧ろ尙多ク彼レノ能力ヲ持ツベク見ヘシ、而シテ私ハ彼カ導者トシテ

余輩ヲ助ケ得シヲ思考セシ、乍併彼レハ彼レヲ以テ沈ミツ、アリシ、而シテ若シモ彼レガ余輩ト共ニ行キシ(ナラバ)余輩ハ彼レヲ選バテバナラス。

(譯)余輩ハ燈火ニ對シテ愉快ニ確皮ヲ纏フノ業ニ從ヘリ、夜方ニ三更ナラントスル時、甲板上ニ於テ忽然タル響アリ、驚クモナクツンタツグナルセンピターセンノ二人小房ニ降リ來レリ。三人唐突甲板ニ來レルニ愕キシガ尙其動作ノ異常ナルハ余輩ヲシテ一層深ク愕カシメタリ。則チ其舉動タル劇烈粗暴ニシテ精神平ラカナル能ハス、幾ンド會話ヲ發シ難キ状態アリ。既ニシテ其談スルヲ聞クニ實ニ恐怖スベキモノナリキ。三者ハ余輩ニ向ツテ一齋事ヲ報セン爲メニ生命ノ危險ヲ冒シ、其伴侶ヲ氷塊上ニ遺棄シテ還ヘリ來レルナリ、而シテ其言ニブルツクスベーカーウイルソフン及ビピーアハ孟寒肌ニ徹シテ身軀氷凍シ、運動自在ナル能ハズトアリ。又其所在、那處ナル乎ハ三者ノ能ク告知シ能ハサル所ニシテ唯北若クハ東ニ漂浮スル氷塊中ノ一處ニ在リテ三者ノ別ル、時ニハ其周邊ニ氷雪堆積シ、爾他ノ人ハ將サニ埋没セラレントノ云ヘリ。アイランド人トムハ他ノ人々ニ食ヲ供レ且ツ之ヲ看護セン爲メニ留レリト雖モ、運命完ク宜シカラズ。以上ノ外三者ニ向ツテ更ニ多クノ問ヒヲ爲ハ徒爲ナリ、蓋シ三者ハ運隔ノ地ヨリ還リ來リシヤ明カナリ、故ハ疲勞ト飢餓ニ因ツテ惱ムヲ甚シク其那處ヨリ還リ來リタル手ヲ告グルスラモ尙且能ハサルヲ以テナリ。

是ヲ聞クヤ余ハ直チニ同職者ヲ伴フテ救助ノ爲メニ氷塊ニ向ツテ趨カントノ心
 動ケリ爾リ而シテ今ヤ之ヲシテ能ク効ヲ奏セシメントセバ須ラク輕學ニ出ヅベ
 カラズ○此時ニ當ツテ余ガ瀕腕ノ考按ハ、幾多ノ氷塊中那邊ニ受害者ノ所在ヲ索ム
 ベキヤニ在リ○爾ニ還リ來レルニ三者中ナルセンハ稍々本心ニ復歸シタル若キ狀ア
 ルヲ以テ、余ハ之ヲシテ嚮導ノ勞ヲ執ラシメント惟ヘリ、然ルニナルセン身痛ク疲
 レタルヲ以テ今若シ之ヲ伴フテ嚮導ニ充ツルナラバ余ハ彼レヲ抱キテ運バザル
 チ得ザルナリ○

其處ニ失フベキ瞬間ガアラザリシ○或者ハ尙新來者ヲ以テ忙シク而シテ迅速ナル食事ヲ準
 備シテ得ツ、アリシ間、他ノ者ハ水牛ノ覆ヒ、小サキ帳幕、及ビ肉膏ノ包ミヲ以テ、「リツト
 ルウイルツ」ニ準備シツ、アリシ、而シテ余輩ガ余輩ノ整備ヲ通シテ急ギ能ヒシヤ否ヤヲ
 ルセンガ毛皮ノ囊ニ於テ結付ケラレシ、彼レノ脚ガ犬ノ皮及ビ織毛(雁ナ)ニ於テ纏ハレシ、
 而シテ余輩ハ氷ノ上ニ去ツテアリシ○余輩ノ嚮導ガ九人ト而シテ余自身ニ付テ成立チシ○余
 輩ガ余輩ノ背ニ於テ只衣服ヲ運ビシ○

(譯)今ヤ一瞬間モ遲々スベキノ時ニアラズ○此時ニ當ツテ船員中或者ハ未ダ此處付
 チ知ラサルノ人ニ之ヲ報告シ煩忙且早急食事ヲ爲スノ間他者ハ水手ノ覆ヒ物、小
 帳幕、及ビ肉膏ノ包ミヲ調ヘ以テ「リツトルウイル」ノ準備ヲ爲セリ、然リ而シテ
 余輩之レガ準備ヲ急ギ既ニシテ完備スルヤ否ヤ「ナルセン」ハ毛皮囊ヲ纏ヒ脚ニ穿

ツニ犬皮及ビ織毛ヲ以テセリ而シテ予輩ハ氷上ニ出發セリ○爾時余輩ノ相伴フマ
 ル人數ハ余ノ外九人ニシテ計十人ノ黨與ナリ○此黨與ノ全員ハ各自背ト上只衣服ハ
 負フノミ○

寒暖計ハ氷點ノ下ニ七十八度ナル四十六度ニ於テ立チシ○ピンナクリー、バークト人ニ依ッ
 テ名付ケラレタル氷ノ能ク知ラレタル特別ノ塔ハ余輩ノ第一ノ分界標トシテ勤メシ、(巨大
 ナル大ヒサノ他ノ氷塊(其レハ)海灣ヲ横切ツテ長キ連ナリタル球ノ線ニ於テ伸ビシ處ノ巨
 大ナル大ヒサノ他ノ氷塊ハ後ニ余輩ヲ導クベク助ケシ、而シテ余輩ハ余輩ノ道ヲ失フベク
 始メシ「」ノ其レハ十六時間ニ向ツテ余輩ガ旅行シタマデアラザリシ○

(譯)寒暖計氷點チ下ル「」七十八度開チ四十六度チ示セリ○世人ノ所謂「ピンナクリー
 ー」ナル著名ノ氷塔ハ余輩ノ第一目標タルノ用ヲ爲セリ、海灣ヲ横ギツテ長ク
 殊數狀チナシテ連續セル大氷塊ハ余輩ノ第二目標トナレリ、然ルチ以テ余輩ハ會
 テ行路ヲ誤ル「」ナク十六時間進ミシニ途ニ途チ失スルニ至リ○

余輩ハ余輩ノ損亡シタル嚮導ハ四十英里ノ半經線ノ中ニ我輩ノ前ノ平面ニ於テ或所ニアラ
 チバナラヌ「」チ知リシ○(ナルセン)君其人ハ一休息ナク五十時ニ向ツテアリタリシ所ノ「」チ
 ルセン)君ハ余輩ガ動クベク始メシヤ否ヤ睡リニ落チシ、而シテ心ノ騒ギノ分明ナル徵チ以
 テ今覺メシ○彼レハ(氷塊ノ形狀其レハ)形チ及ビ色ニ於テ限りナク彼等自身回言セシ所ノ
 氷塊ノ形狀チ損亡シタリシ「」ノ其レガ分明トナリシ、雪ノ大ナル野ノ同形ナル「」ハ全ク地

方ノ分界標ノ望ミヲ禁ゼシ

(體)余輩ハ余輩ノ失ヘル黨與タル必ズヤ圓周四十英里ノ半徑線内ニ於テ前面ノ方位ナル或所ニ在ラザルベカラザルヲ了知セリ。「ナルセン」君ハ五十時間僅ニダモ休息セザリシガ此ニ至ツテ余輩ガ運動ヲ始ムルヤ否就眠シタリ然リ而シテ今ヤ心裡一刺撃ヲ與ヘラレタルヲ必然タル若キ容狀ヲ以テ既チ醒マセリ。「ナルセン」君ニ形狀ト色澤トニ屢々着眼シテ以テ目標トナシタル氷塊ヲ見失ヒタルヤ判然セリ、而シテ眼界一望都テ白雪皚々同一狀ノ廣野ニシテ復タ一ツノ地方目標ヲ認ムル能ハザルニ至レリ。

黨與ノ前ニ押ス處テ、而シテ或ル粗キ氷ノ堆積ヲ超ヘテ登ル所ヲ初ハ(長キ平カナル大氷塊其レハ)私ガ余輩自身ノ如キ事情ニ於ケル疲勞シタル人ノ眼ヲ恐ラクハ引寄せ得タリト思考セシ所ノ長キ平カナル大氷塊ニマテ來リシ。其レハ輕キ疑惑デアリシ。乍併其レハ天秤ヲ變ズベク充分アリシ、如何トナレバ其處ニ其レヲ秤ルベク一ツノ他ノ者ガアラザリシ(故ニ)私ハ橋ヲ棄テシ、而シテ足跡ノ搜索ニ於テ四散スベク命令ヲ與ヘシ、余輩ハ余輩ノ天幕ヲ擧ゲシ彼ノ人ニ於テ運ブベク各ノ人ニ向ツテ小ナル割合ノ外食物ノ客室ニ於テ余輩ノ乾肉ヲ置キシ、而シテ彼レノ脛ヲ保ツベク今恰是適當シタル可憫ナル「ナルセン」ハ彼レノ囊ヨリ免サレシ。

(體)余ハ身ヲ挺ンテ、余ノ黨與ノ前ニ進ミ凸凹セル氷堆ヲ登リテ長ク且ツ平カナル

大氷塊ノ側ニ出テタリ、其氷塊タル蓋シ以前余輩ト同一目的則チ探索ニ從ヘル人ノ注意ヲ惹キシモノタラント思惟サレタリ。其ハ只一時ノ考察ニ止マレリト覺モ此事タル天秤ヲ變ズルニ充分ナリシ、則チ是ヨリ謀略ヲ變ズルニ充分ナルノ機會ヲ得タリ、故ハ此時ニ當ツテ地方ヲ秤ルベキモノ則チ考察スベキ材料トスベキモノ此氷塊ヲ掘キテ他ニ一物モアラザルヲ以テナリ。茲ニ於テ余ハ橋ヲ出テ而シテ足跡ヲ探索スル爲メニ四散スルヲ余ガ黨員ニ命ジタリ。余輩ハ曠野ヲ渡リ黨員各自提攜スベキ懸分ノ食料少許ノ外ハ營中ニ食料品ヲ貯置セリ、而シテ夫ノ疲勞セル「ナルセン」ハ此時ニ方ツテ僅カニ立行スルヲ得ルニ至リシヲ以テ其身ヲ包ミタル囊中ヨリ出テシメタリ。

寒暖計ハ此時ニ依ツテ四十九度ニマテ落チタリシ、而シテ風ハ北西ヨリ銳ク起リツ、アリシ。其レハ足ヲ停ムルベク疑問ノ外ニアリシ、其レハ凍ルヲカラ余輩ヲ保ツベク強キ運動ヲ要セシ。私ハ水ニ向ツテ其他氷ヲ溶カシ能ハザリシ而シテ是等ノ温度ニ於テ渴ヲ和ケルヲノ見込ニ向ツテ雪ニマテ或使用ハ血ニ染ミタル唇及ビ舌ニ依ツテ從ハレシ、其レハ燒藥ノ如ク燃ヘシ。

余輩ハ余輩ガ行キシ足跡ニ向ツテ注意シツ、勵クデアラウツノ其レハ然ル時ニ必要デアリシ。乍併人々ハ幸運ヲ集ムル爲メニ彼等自身散ズベク命令サレシ時ニ彼等都テハ心底ヨリ從ヒシト雖モ、寥寥タル危難ノ或ル痛マシキ感得ハ或ハ恐ラクハ其レハ氷野ノ變ズル形狀

デアツタ能フ手、一塊ニマテ續々彼等ヲ接交スベク續ケシ。

(講時ニ寒陰計零下四十九度ニ沈降セリ)而シテ強風北西方ヨリ起レリ。當時寒威ノ劇烈ナル實ニ瞬間モ停立スル能ハサルヲ論テ俟タズ、故テ以テ身軀ノ氷凍セシヲ避クル爲メニ過強ナル運動ヲササルヲ得ズ、今ヤ氷片ヲ溶解シテ水トナスノ方法アルナリ、故ニ治湯ノ用ニ雪ヲ供スレバ唇舌忽チ破レテ出血シ、雪ハ燒劑ノ如ク燃ヘタリ。

此時ニ方ツテ余輩ハ余輩ノ進行ニ從ヒ足跡ニ意ヲ注グベキ必要アリ。然リト雖モ黨員各自ハ人跡發見ノ幸運ニ出會セシ爲メニ四散スベキ命令ヲ受ケタル時衷心之ニ從ヒメリト雖モ其身軀々危険ノ中央ニ在ツテ念頭恐怖ヲ感起セシ乎或ハ蓋シ進行ニ從ツテ氷野ノ形狀變ズルニ依ツテ乎、散乱シタル黨員歷々一所ニ集マレリ(絶ヘズ離レテハ集リ集リテハ又離レルヲ云フ)

(奇異ナル仕方其レニ)於テ余輩ノ若干ハ感動シテアリシ所ノ奇異ナル仕方余ハ今寒サノ眞直ノ勢力ニ迄ノ如ク左様ニ多ク破レタル神經ニマテ歸ス。(メリグレイ)ト而シテ「ボンサル」其人ハ)余輩ノ最烈シキ進行ヲ出張リタリシ所ノ「メリグレイ」ト而シテ「ボンサル」ノ如キ人ハ戰慄スル所ノ發作時(病名)及ビ短キ呼吸ヲ以テ捕ハレシ、而シテ健康ナル舉動ノ例ヲ保ツベク私ノ盡力ノ至テニ抱ハラズ私ハ雪ノ上ニ一回氣絶セシ。

(爾レ余輩一行中ノ幾人ハ感動セル奇異ノ舉動ハ今日ニ至ツテ之ヲ回想スルニ全ク猛寒直接ノ勢力ノ致ス所并ビニ神經絶塞ノ及ボス所ナリト考察ス。「メリグレイ」及ビ「ボンサル」ノ若キ人々ハ身軀ノ震慄且ツ呼吸ノ急迫ヲ來タセリ、而シテ余ハ昂メテ舉動ヲ確乎トシテ以テ一行諸員ノ模範トナラムトシタレドモ、シカモ雪上ニ倒スルニ回ニ及ベリ。

余輩ハ新シキ望ミガ余輩ヲ喜ハセシトニ水或ハ食物ナク外ニ幾ンド十八時間アリタリシ私ハ其レハ余輩ノエスキモーノ(獵夫其人ハ)彼レガ廣キ獵ノ痕跡ヲ見シト思考セシ處ノ獵夫ナル「ハンス」デアリシト思考ス。雪片ガ幾ンド其レヲ消シタリシ、而シテ余輩ハ最初其レハ強風ガ表面ノ雪ニ於テ作ル所ノ其等ノ不意ノ裂ケ口ノ一ツデアラザリシ手、余輩ノ若干ガ疑ハシクアリシ。

(講)余輩ハ一ツノ飲用水及ヒ供食品ヲ有セズシテ外ニ在ルコト幾ンド十八時間此時ニ至ツテ一新望ヲ屬スベキモノ出現シ、予輩ニ歡喜ヲ與ヘタリ。嘗ブベキ一新望則チ廣キ獵ノ痕跡ヲ發見シタルモノハエスキモーノ獵夫「ハンス」ナリシト思考ス。雪片紛々散乱シ來リテ幾ンド痕跡ヲ埋没セリ、而シテハ初メ其痕跡タル恐ラクハ是レ強風積雪面ヲ筒イテ爲メニ崖突生シタル割目(雪面ノ)ナルベキ乎余輩一行中ノ幾人ハ疑惑セリ。

乍併我輩ハ氷塊中ノ深キ雪ニマテ其レヲ踪跡セシトニ我等ハ足跡ニマテ導カレシ、而シテ精密ナル氣付ケテ以テ是等ニ從フ所デ我等ハ竟ニ氷塊カラ搖動スル所ノ小ナル亞米利加ノ

旗及び尙低ク下ニ雪片ノ上ニ辛シテ天幕ノ棒カラ下ル所ノ小ナル「マツニツク」ノ旗ノ見ヘニ於テ來リシ。其レハ我等ノ不適當ニサレタル黨與ノ陣所デアリシ。我等ハ二十一時ノ破ラレザル進行ノ後其レニ達セシ。

(調)心頭斯ル懸惑ヲ生セシト雖、余輩ハ氷塊間ノ積雪中ヲ踪跡セシ時、遂ニ足痕ヲ發見セリ、而シテ精密ナル注意ヲ以テ其足痕ヲ追行セシニ其末氷塊中ニ翻臨タル米國ノ旗及び殆ンド雪裡ニ埋没シタル驛ガ帳幕ノ支柱ヨリ垂下シ尙ホ下方ニアルヲ見タリ。其ノ所即チ當サニ凍結セントスル余輩ノ伴隨ノ陣營ニシテ余輩ハ二十

十一時間絶エズ進行シテ初メテ此地ニ達シタリ。
小ナル天幕ハ幾ンド覆ハレテアリシ。余ハ來ルベク最初ノ者ノ中ニアラザリシ、乍併私ハ天幕ノ帳ニ達セシ時ニ人々ハ其レノ兩側ニ於テ沈黙シタル行列ニ於テ立チツ、アリシ。一般ニ水夫ニマデ屬スベク想像サレテアルヨリハ尙多クノ感覺ノ親切ナルコト而シテ優厚ヲ以テ、然レドモ其レハ幾ンド固有デアアル所ノ感動ノ尙多クノ親切及び優厚ヲ以テ彼等ハ(彼等ノ希望其レハ)余ガ一人ニ於テ行クデアラウ所ノ彼等ノ希望ヲ告知セシ。私ハ這ヒ込ミシ時ニ而シテ暗黒ノ上ニ來ル所デ彼等ノ背ニ於テ伸ハシタル四人ノ惘然ナル伴侶ヨリ來リシ所ノ善待ノ喜悅ノ破裂ヲ余ノ前ニ聞キシ、而シテ然ル時ニ最初ニ外傍ノ喜悅時ニ向ツテ私ノ軟弱ト而シテ私ノ感恩ハ一緒ニ幾ンド私ヲ襲ヒシ。彼等ハ私ヲ待チタリシ、彼等ハ私ガ來ルデアラウヲ保証シテアリシ。

(調)小天幕ハ幾ンド覆ハレタリ。余ハ第一ニ到着シタルニアラス。余ガ天幕ノ扉開ニ達シタルキ既ニ其兩側ニ於テ人々默然トシテ行列ヲ造レリ。水夫ノ感情タル正ニ斷ノ如クアルベシト一般ニ人ノ推測ヲ下セルヨリモ尙強クシカモ水夫タルモノ、固有ノ濃厚ナル情感ヲ以テ諸人ハ其所希則チ余一人救助ニ趨カン。ノ希望ヲ余ニ告ケタリ。余ハ俯仰シテ暗黒裡ニ入りシ時ニ仰向シテ臥シタル惘然ナル四人ノ歌聲ヲ聞ケリ、然ル後始メテ幕外ニ在ル諸人ノ欲呼ノ聲余ノ耳染ニ落チ來リシガ余ハ余ガ疲勞ト歎息ト共ニ余ノ一身ヲ覆ヒ來リテ幾ンド我ヲ忘レタリ、嗚呼實ニ幕裡ニ伏セル諸人ハ余ノ來ルヲ待チタリ、余ノ救助ニ來ルベキヲ信シツ、アリシナリ。

余々ハ今十五ノ精神寒暖計ハ氷點ノ下ニ七十五度而シテ天幕ナル余等ノ單ナル供給ハ漸ク八人ヲ保ツベク適當デアリシ我等ノ黨與ノ半ヨリ尙多クハ他ノ者ガ眠リシ時ニ外面ヲ歩行スルヲ依ツテ凍ルヲヨリ保ツベク余儼ナクサレシ。余等ハ長ク止マリ能ハザリシ。我等ノ各ハ二時間ノ睡眠ノ順序ヲ取リシ、而シテ然ル時ニ我等ハ我等ノ自家ノ方ノ進行ニ向ツテ準備セシ。

余等ハ天幕、勤ケラレタル人ヲ保護スベキ毛皮及び五十時ノ旅行ニ向ツテノ食物ノ外何モヲ我等ト共ニ取ラザリシ其他各ノ物ハ棄テラレシ。各ノ四ツノ皮カラ造ラレタルニツノ大ナル水牛ノ囊ハ唯ダ上部ニ於テ開ヒテ底ニ於テ閉ラレテ毛皮ヲ以テ各ノ側ニ於テ裏付ケラ

レテ囊ノ種類ヲ形造ルベク左様ニ重テラレシ。此レハ滑ヲカニ重テラレテ天幕ハ床ノ如ク
勤メル所テ機ノ上ニ置カレシ。

(講)余輩一行ノ員數ハ今ヤ十五トナレリ、寒暖計ハ氷點ヲ下ル_リ七十五度ナリ、露_リ
而シテ余輩ガ風雪ヲ凌グルニ供スベキ單一ノ材料ナル天幕ハ僅カニ八人ヲ容ル
、ニ過ギズ一行ノ過半ハ爾他ノ諸人ノ就眠中幕外ニ運動シテ以テ暖ヲ取リ寒威
ヲ拒ガザルヲ得ズ。余輩ハ長ク靜止スル_{コト}ヲ得ズ各人交々ニ時間ノ懸眼ヲ取レリ。
然ル後余輩ハ余輩自家ノ方向ニ進ムノ準備ヲ爲セリ。

余輩ハ天幕ト救助サレタル避難者ヲ保護スベキ毛皮ト五拾時間ノ旅行ニ須要ノ
食料ノ外一物ヲモ携帶セス爾餘ノ各物ハ全テ之ヲ放棄セリ。四頭ノ水牛ノ皮ヲ以
テ製_ルタル二箇ノ大囊ヲ合セ内外兩面ニ毛ヲ現ハシ底部ハ閉ザ只上部ノミ開キ
タル一箇ノ囊ヲ造レリ。之ヲ籠ノ上ニ置キ天幕ヲ系カニ懸ミテ之ヲ床トシ用ヒタ
リ。

彼等ノ肢_(手)ヲ以テ病ム者ハ重モニ馴鹿ノ皮ニ於テ纏ヒ上ケラレテ半ハ傾ク所ノ位置ニ於
テ水牛ノ袍ノ寢床ノ上ニ置カレシ、他ノ皮及ビ毛布囊ハ彼等ノ上ニ投ケラレシ而シテ全キ
昇床ハ呼吸スル_{コト}ニ向ツテ口ニ反對シタル口只單一ノ穴ヲ許スベク如ク左様ニ一結ニ結ビ合
ハサレシ。

此必要ナル事業ハ時及ビ尽力ノ莫大ヲ我等ニ價ヒセシ、乍併其レハ受害者ノ性命ニマテ緊

要デアリシ。其レハ彼等ヲ暖衣シ及ビ慰ムベク而シテ然ル時ニ私ガ解明シタル仕方ニ於テ
彼等ヲ包ムベク四時ヨリモ少ナカラズ余等ヲ取リシ。余等ノ數人ハ凍傷ノ指ナシニ逃レシ、
寒暖計ハ零ノ下ニ五十五度デアリシ而シテ微風ハ寒サノ凜冽ニマテ附添セシ。

(講)其四肢疼痛ヲ感ズル諸體ハ叮嚀ニ馴鹿皮ヲ以テ包ミ半ハ傾斜シタル位置ノ水
牛ノ毛皮囊ヲ布キタル床上ニ横ヘラレタリ、爾_リ而シテ之レノ上ニ他ノ毛皮及_フ
ランケツト_ノ囊ヲ掛ケタリ、斯クシテ昇床ノ全部ハ一結ニ結合シ只口ニ對スル所
ニ呼吸スベキ一箇ノ穴ヲ開ク_ノミ。斯クノ如ク爲スハ實ニ必要ノ事ニシテ之ヲ成
シ途アルニハ多クノ時間ト勞カトヲ費セリ。乍併避難者ノ性命ヲ保障スルニハ實
ニ缺クベカラザルノ事タリ、避難者ノ衣服ヲ脱却セシメ且ツ之ヲ慰メテ氣力ヲ復
セシメ而シテ余ガ説明シタル方法ニ從ツテ其身軀ヲ包ムニ要シタル時間ハ實ニ
四時ニ及ベリ。余輩ノ一行中凍傷ヲ蒙ラザルモノ幾ンド稀ナリ、溫度ハ零下五十五
度ニシテ而カモ微風ハ一層寒威ノ凜冽ヲ加ヘタリ。

乍併其レハ遂ニ充分シテアリシ、凡テノ手ガ周圍ニ立チシ、而シテ單ナル祈禱ヲ復言スル_{コト}
ノ後我等ハ我等ノ退散ニ於テ出發セシ。我等ハ氷ヲ越ヘテ橋參リスル_{コト}ニ於テ試ミズデア
ラザリシ_{コト}ノ夫レハ實ニ陸運デアリシ。我等ノ道ノ大ナル部分ハ氷塊ノ連續ノ中ニ横ハル、
彼等ノ若干ノ高サ十五及ビ二十呎長キ線ニ於テ擴ガル所_ヲ而シテ我等ハ我等ノ眞直ナル進
行ヨリ著大ナル變化ニ依ツテ彼等ヲ回轉スベク持チシ_{コト}ホド左様ニ一樣ニ險ハシク我等ガ

通シテ我等ノ道ヲ強進セシ所ノ他ノ者ハ高サニ於テ余等ノ頭ノ上ニ遙カ安全ニ其レニマデ下ケラルベク橋ニ向ツテ余リ狹隘ナル所ノ間ノ場所ヲ以テ平行ノ畦ニ於テ横ハル所デ而シテ尙ホ彼等ヲ止ムルベク綱ノ援助ナク横過スベク走者ニ向ツテ十分廣カラズ。

(講)用意既ニ完備シ、衆皆立チテ圓狀ヲナシ簡短ナル祈禱ヲ發言スルノ後退出スル爲メニ出立セリ。余輩會テ氷上ヲ橋乘リスルコトノ經驗アリシハ此時ニ方ツテ實ニ幸福ト云フベキナリ。余輩ガ進行スル路程ノ前面ニハ氷塊續々連亘シ或ハ高十五乃至二十呎ニ至ルノ氷塊廣布シ之ヲ越ヘントスルニハ勢ヒ數丈直線ノ行路ヲセザルヲ得ズ又余輩ノ進路ニ當ルノ他ノ氷塊ハ我輩ノ身長ヨリモ尙高キ平行線ノ畦ヲ形成シ其中間ニ緩テ下ダスモ危險ノ虞レアル程狹隘ニシテ尙ホ綱ヲ以テ之ヲ引キ止ムルニアラザレバ橋ヲ下スト能ハザリシナリ。

此等ノ場所ハ又氷ノ碎片ノ間ノ穴ヲ隠ス所デ輕キ雪ヲ以テ一般ニ塞ガレテアリシ。彼等ヨリ敗テ離レルベク恐怖スベキ畏デアリシ如何トナレバ各ノ人ハ骨ノ挫折或ハ加之挫傷ハ彼レノ生命ヲ彼レニ價スルデアラウコト知リシ故ニ。是レノ總テノ外橋ハ其積荷ヲ以テ重クアリシ傷ツケラレタル人ハ落ツルコト向ツテ彼等ヲ救フベク十分緊密ニ下ニ結合サルベク堪ヘ能ハザリシ、各ノ餘分ノ荷ヲ拋棄スルコトニ於テ我等ノ警戒ニモ拘ハラズ蓋及ビ天幕ヲ保ツ處ノ重量ハ千百磅デアリシ。

(講)此等ノ場所ハ又氷ノ碎片間ノ空孔ヲ充塞スル所ノ新タニ降り積リタル雪ヲ以テ大抵覆ハレタリ。實ニ是等ノ氷片間ノ空孔ハ夫ノ畏ト一般若シ誤ツテ踏墜セバ四肢ヲ挫折スルノ恐怖スベキモノナリ而シテ骨ノ挫折手足ノ挫傷ハ生命ニ關スルモノナルヲ知リ此等ノ恐怖スベキ畏ヨリ四肢ヲ避ケンコトヲ助メタリ、之ニ加フルニ糧ハ充分貨物ヲ種ミ込メルヲ以テ負傷者ハ其身ノ顛倒セザルヤウ密着ニ坐ニ堪ユル能ハス。各不必要品ヲ放棄シテ以テ積疊ヲ輕クスルニ注意シタルニモ拘ハラズ疑ト天幕トヲ以テ其重量一千百磅アリ。

而シテ尙ホ最初ノ六時ノ間吾等ノ進行ハ甚ダ喜悅スルコトデアリシ。吾等ハ勇氣ナル引キ及ビ引揚ケルコトニ依ツテ幾ソド一時ニ一哩ヲナセシ、而シテ我等ハ雖然疲勞デアリシ前漸クナル氷塊ニ達セシ。我等ノ橋ハ奇妙ニモ試テ堪ヘシ。ナルセンハ希望ニ依ツテ恢復サレテ橋ノ線ノ導ク所ノ帶ニ於テ確ニ歩行セシ、而シテ我等ハ其處ニハ我等ガ我等ノ天幕ヲ殘シタリシ所ノ前ノ日ノ我等ノ半道ノ驛ニ達スルコトニ付キ確實ニ感ズベク始メシ。然レドモ余等ハ其レヨリ九哩デアリシ時ニ幾ソド豫告ナシニ我等ハ全テ我等ノ威勢ノ喪失スル所ノ欠乏ニ付テ覺シテナリシ。

(講)最初六時間中ノ進行ハ快爽ナリヤ。余輩ハ勇氣ヲ出シテ綱ヲ引キ或ハ氷塊上ニ引揚ケ以テ一時間幾ソド一哩ヲ進ミ、而シテ未ダ全ク疲勞セザル以前ニ他ノ新氷塊ニ達セリ。余輩ノ橋ハ能ク此ノ危險中ヲ引クニ耐ヘタリ。ナルセンハ今ハ心程望ヲ以テ充タサレテ勇氣ヲ復シ綱ノ引綱ヲ執ツテ確乎トシテ歩行セリ而シテ余

ハ前日余輩ノ天幕ヲ設シ置キタル場所迄ノ半途ニ達シタルトナリテ確カニ覺知セリ
然レドモ尙ホ九哩ノ距離アルアリ此時ニ方ウテ余輩ハ總テ知ラズ々々々々氣力ノ
衰ヘタルヲ感ツタリ。

第八十一章

洋中浮氷ニ於テノ迷路

第二部

私ハ勿論非常ノ寒氣ニ就テ凍ヘタル而シテ幾ンド昏迷シタル感覺ヲ以テ知ツテアリシ乍併
私ハ小説ノ修飾ノ如キ或物トシテ凍ユルノ眠ムタキ愉快ヲ論ツタリ。私ハ今反對ニマデ
證據ヲ持チシ。

我等ノ最勇氣アル人ノ二人ナル「ボンサル」及ビ「モルトン」ハ眠ルベク許容ヲ乞ヒツ、私ニ
マデ來リシ、彼等ハ寒クアラザリシ風ハ今彼等ニ入込ミナサハリシ僅少ノ睡眠ハ彼等ガ要
シタル總テ「アリシ。直チニ「ハンス」ハ窪ミニ於テ幾ンド剛勁ト發見サレシ而シテ「トーマ
ス」ハ眞直ニ突出シテ閉ヂタル彼レノ眼ヲ持チシ而シテ辛シテ明白ニ話シ「articulate」能ヒ
シ。

終ニ「シヨノン」「ブレーク」ハ雪ノ上ニ彼自身投ケシ而シテ起ルベク嫌厭セシ。彼等ハ寒氣ヲ
感ズルコトニ就テ歎キナサハリシ乍併私ハ爭ヒシ拳闘セシ走りシ。議論セシ嘲弄セシ、及ビ非
難セシ事ノ其レハ無益デアリシ直チノ上歩ハ避ケ能ハザリシ。

(謂)余ハ無論非常ナル寒氣ノ爲メニ凍ヘ且ツ幾ンド昏迷スルコトアルベキヲ熟知シ
タリト雖モ、凍ヘテ睡眠ノ氣ヲ生スルトハ畢竟小説中ノ潤飾話ナリト思惟シ居タ
リ、然ルニ余ハ茲ニ反對ノ証ヲ得タリ

一行中最モ豪壯ナル「ボンサル」及ビ「モルトン」ノ二人ハ睡眠ノ許容ヲ請フン爲メニ
余ガ許ニ來レリ、彼レ兩人ハ寒威ヲ購セザリシ風ハ兩人ヲ吹カサリシ、彼等ハ只僅
少時間ノ睡眠ヲ要セシノミ。「ハンス」ハ倏忽窪地ニ於テ凍氷シ身軀剛硬トナリ而
シテ「トーマス」ハ直立不動眼ヲ閉塞シ明カニ發音スル能ハズ
遂ニ「シヨノン」「ブレーク」ハ雪上ニ横臥シテ起ツコト肯セス。此等ノ人ハ皆寒氣ヲ受ク
ルヲ介意セズト雖モ余ハ此等ノ人ト爭ヒ拳闘シ走り論ヲ嘲弄シ且ツ非難スルモ
皆徒爲ニ歸シテ直チニ停歩スルヲ(休息ノコト)避ケルヲ得ザリキ。

我等ハ許多ノ困難ヲ以テ我等ノ天幕ヲ備ヘシ。我等ノ手ハ火ヲ打ツベク餘リ勢力ナキモノ
デアリシ、予等ハ水或ハ食物ナシニ爲スベク逼ラレテアリシ。酒(強性飲料ノ名)デスラ凡チ
ノ覆ヒノ下ニ人ノ足ニ於テ凍リタリシ。我等ハ天幕ノ内部ニ能ク他ノ病ミタル人ト共ニ「ボ
ンサル」「ナルセン」「トーマス」及ビ「ハンス」ヲ置キシ而シテ我等ガ能ヒシ如ク左様ニ多クノ
他ノモノ、中ニ群集セシ。

然ル時四時間ヲ休憩ノ後來ルベク命令ヲ以テ「マクゲリー」君ト共ニ仲間ヲ殘ス所デア私ハ
ウイリアム「ゴッドフレ」其人ハ私ノ同行デアアルベク申出セシ所ノ「ウイリアム」ゴッドフ

「ト共ニ前ニ推セシ。私ノ目途ハ半路ノ天幕ニ達シ而シテ他ノ者ガ到着セシ前ニ氷及ビ乾肉ヲ解クベクアリシ。氷塊ハ平カナル氷秀テタル歩行スルヲニ就テアリシ。私ハ如何ニ長ク其レガ九哩ヲナスベク我等ヲ取リシカチ告ケ能ハザリシ如何トナレハ我等ハ昏迷ノ奇異ナル種類ニ於テアリシ而シテ時ノ儘カノ估價ヲ持チシ（故ニ）其レハ恐ラクハ幾ンド四時デアリシ。

（爾是ニ於テ我曹ハ休息所ヲ設ケントセシガ天幕ヲ張ルニ頗ル困難セリ。實ニ余輩ノ手ハ凍ユルノ餘リ益ヲ盡ルノ勢カダモ無ク故ヲ以テ余輩ハ水ヲモ食料ヲモ調フルヲ得ズ是實ニ止ムヲ得ザルニ出ヅルナリ。

全ク蓋ヒチナシタル強性ノ飲料テスラ尙ホ且、靴上ニ人ノ足下ニ在ツテ氷凍セリ。爾他ノ病者ト共ニ「ボンサル」「ナルセン」「トーマス」及ビ「ハンニ」等ニ置キ余輩ハ可及的多人數一所ニ幕中ニ集レリ。

爾時余ハ四時間休憩ヲナシテ後チ來ルベキ令ヲ下シテ「マクケリ」若ト共ニ一隊ノ人ヲ變シ「ウイリアム」「コッドフレ」兩人ヲ從ヘテ前進セリ。但シ此兩人ハ余ニ隨行セシテ望ミタルナリ。今予ノ目的トスル所ハ夫ノ天幕ノアル所ニ達シ休憩ノ爲メニ變シタル他ノ諸人ノ到着スル以前ニ氷及ビ乾肉ヲ解キ以テ飲食品ノ準備ヲ爲スニ在リ。此時ニ方ツテ前路ニ横ハル氷塊ハ平坦トナリ大ニ行歩ニ便宜ナリ。余ハ昏迷中ニ在ツテ精神確乎タル能ハズ故ニ時間ノ經過果シテ何程ナルヤチ覺ヘ

ザルヲ以テ九哩ヲ進行スルニ要シタル時間幾干ナルヲ告ケル能ハズ、蓋シ其經過ノ時數四時間ニ幾カラん乎。

我等ハ相互ノ上ニ言辭ノ斷エザル明話ヲ強命スルヲニ依ツテ醒テ保チシ。私ハ私ガ曾テ通シテ行タ最モ嫌惡スベキモノ、中トシテ此等ノ時ヲ呼返ヘス、余等ハ余等ノ正シキ意味ニ於テ我等ノ孰レモガアラザリシ而シテ（者夫レハ）天幕ニ於テ我等ノ到着ニ先ダチシ處ノ者ニ就テ甚ダ擾サレタル記憶ヲ持チシ。乍併余等ハ余等ノ兩方ガ熊其レハ我等ノ前ニ徐々トシテ歩行セシ所ノ熊而シテ彼レガ行キシ時ニ（毛衣其レハ）マクケリ「君ガ前キノ日不注意ニ投ケ去リタリシ所ノ毛衣ヲ裂キシ所ノ熊ヲ記憶ス。彼レハ小片ニマテ其レヲ裂キシ而シテ球ニマテ之ヲ轉ハセシ乍併決シテ我等ノ進ミテ以テ伸入レスベク申出サレリシ。私ハ是レ及ビ其レト共ニ我等ノ天幕及ビ水牛ノ衣服ガ恐ラクハ同一ノ天幕ヲ配分シ得シ所ノ擾サレタル感覺ヲ記憶ス。

（爾余輩ハ互ニ絶ヘズ談話ヲナシテ睡眠ヲ防ケリ。實ニ此時ハ余ガ既往ノ旅行中最モ艱難苦辛ナルモノトシテ今其當時ヲ回想ス余輩皆正當ノ感覺ヲ有セズ而シテ天幕ニ達シタル以前ノ事ニ關シテ擾乱錯雜ナル記憶ヲ有スルノミ。然リト雖余輩ノ内爾人ハ前日マクケリ君ガ注意シテ投擲セシモ毛衣ヲ熊ガ裂キタルヲ記憶ス其熊タル余輩ノ前面ニ徐行セルモノナリ。熊ハ毛衣ヲ寸斷シ而シテ之ヲ球ノ如ク地上ニ轉マセリト雖モ余輩ノ進路中ニ入ラムトハ爲サザリシ、余ハ此事ヲ記憶ス

ルト共ニ余輩ノ天幕及ビ水手ノ被服モ亦熊ノ爲メニマクレー君ノ毛衣ト同一ノ
害ヲ受ケザルヤチ憂ヒタル感情ヲ有セシ事ヲ記憶セリ。

(ゴッドフレ)ハ私自身ヨリ尙良キ眠ヲ持テシテ前ニ數聖ヲ視出ス處テ彼ハ我々ノ天
幕カ同シ禮儀ナキ款待ヲ受ケツ、アリシヲ見能ヒシ私ハ亦私ガ其ヲ見シト考ヘシ乍然我
々ハ我々ガ堅心ニ及ビ我々ノ歩ヲ早メルヲナシニ我ガ知ル事ニ向テ大步セシテ左様ニ寒
氣ヲ以テ畏ハレシ

(講)ゴッドフレハ余ヨリ更ニ一層細々タル懸眼ヲ有セリ而シテ數聖ヲ隔テタル
前方ヲ注視シ余輩ノ天幕ガ熊ノ爲メニ同一ノ處待チ來リツ、アルヲ認メ得タリ
余モ亦其事ヲ認メ得タリト考ヘタレドモ余輩ハ猶徐行シ如何ニシテモ運歩ヲ速
カナラシメズシテ進ミタリ是レ余輩猛烈ナル寒氣ニ堪ハレタルノ故ヲ以テナリ
恐ラハ我々ノ接近ハ天幕ノ満足ヲ助ケシ如何トナレハ我々ガ其ニ達セシキニ天幕ハ假令ヒ
能ク雪ニ迄テ水牛ノ袍及ヒ乾肉ヲ抛起シツ、其ヲ轉倒セシト雖モ害ヲ受ケズシテアリシ故
ニ、我々ハ只毛布ノ袋ノ一對ヲ失ヒシ、乍然我々ガ想起シテ恐クハ凡テ我々ガ想起ス
ル處ノモノハ我々ガ其ヲ擧ゲルヲニ於テ大ナル困難ヲ持チシヲデアル

(講)蓋シ余輩ノ接近タル幕裡ニ在ルモノヲシテ熊ノ爲メニ害セラル、事ナカラシ
メタリ故ハ余輩天幕ノ傍ニ到着セル時ニ際シ既ニ熊ハ水牛ノ被服及ヒ乾肉等ヲ
蹂躪セリト雖モ天幕ハ害ヲ受ケルナキヲ以テナリ余輩ハ唯毛布袋一對ヲ失ヒタ

ルノミナレドモ此處ニ天幕ヲ張ルヲ困難ナリシハ余輩ノ僅カニ記スル所ナリ
我々ハ說話スルヲナク我々ノ馴鹿ノ眠ル處ノ袋ニ迄テ跛行^{ハヤ}キシ而シテ次ノ三時ニ向テ切ナ
ル微睡ノ外夢ノ如キモノニ於テ睡リシ、私ハ醒メシキニ私ノ長キ髭ハ水牛ノ皮ニ迄テ固ク
凍リテ氷ノ塊デアリシ(ゴッドフレ)ハ彼ノ摺ミ小刃ヲ以テ私ヲ切り出スベク持チシ、我々
ノ逃避ノ后四日私ハ尙ホ其ニ迄固結スル處ノ私ノ鬚ノ善美ナル配分ヲ以テ私ノ毛ノ補助ヲ
發見セシ

(講)予輩ハ敢テ言語ヲ發セズシテ余輩ノ馴鹿ガ睡眠セル所ニマテ匍匐シテ進ミ而
シテ後三時間ハ擾乱ナル睡眠ヲナス其睡眠中絶ヘズ夢ヲ結ベリ。余ノ覺メタル時
余ノ長鬚水牛皮ニ凍結シテ氷塊トナレルヲ以テゴッドフレトハ其刀ヲ以テ予ノ
鬚ヲ切ラサルヲ得ザルニ至ル。余輩ノ助カリタル後四日間ハ猶ホ余ノ毛皮ノ被物
ニ予ノ鬚ノ多ク固結セルヲ見タリ。

我々ハ水ヲ鎔解シ而シテ我々ノ仲間ノ殘者ガ到着セシ前料理サレタル若干ノ汁ヲ得ル可ク適
當シテアリシ、其ハ九英里ヲ步行スヘク只五時ヲ彼等ニ取リシ、彼等ハ能ク爲シツ、アリシ
而シテ事情ヲ思慮スル處奇異ナル精神ニ於テアリシ左モ幸福ニ日カ清爽ナル太陽ヲ以テ風
ナクアリシ、凡テハ我々ガ備ヘテ得タリシ飲食物ヲ喜ヒシ跛疾者ハ彼等ノ袍ニ於テ再ビ包
マレシ而シテ我々ハ氷塊ノ畦其ハ我々及ヒ(ビナクリー、バーク)ノ間ニ横ハル處ノ氷塊ノ畦
ノ方ニ急進セシ

(講)余輩ハ余輩ノ爾餘ノ同行者ガ着セル以前ニ水ヲ溶解シ且ツ汁ヲ調理シ得タリ
余輩ニ次イテ來レル者ハ九哩ヲ進ムニ五時間ヲ費セリ○彼等ハ健康ニシテ且ツ期
ル事情ヲ配慮シ頗ル活氣ヲ有テリ

其ハ表面ノ氷塊ヲ超テ我々ノ道ヲ働クヘク性急ナル力ヲ要セシ辭ノ如ク絶望ハ如何トナ
レハ我々ノ強剛ハ新ニ我々ヲ諤リシ而シテ我々ハ最早我々ノ處置ヲ失フ再ク始メシ故ニ、
我々ハ最早雪ヲ食フコトヨリ制シ能ハザリシ我々ノ口ハ腫脹セシ而シテ我々ノ或者ハ話ナ
クナリシ、幸ニ日ハ清爽ナル日光ニ依テ暖メラレシ而シテ寒陣計ハ影ニ於テ四度ニ迄テ上
リシ然ラザレバ我々ハ凍エテバナラナシ

(講)氷塊面ヲ進行スルニハ一生懸命ノ盡力ヲ要シタリ是レ文字上一生懸命ノ盡
力ナリ故ハ余輩茲ニ剛氣ニ復シタルヲ以テ却テ余輩自ラテ誤リ且ツ最早自ラ我
身ヲ處置スルノ能ヲ失ヒタルヲ以テナリ是ニ至ツテ余輩ハ雪ヲ食スルコトヲ禁ズ
ル能ハズ爲ニ余輩ノ口舌腫脹シ或ハ發言スル能ハサルモノアルニ至ル○幸ヒニ日
光愉快ニ照ラシテ暖カニ寒温器ハ零下四度ニ上レリ若シ否ラザレハ余輩ハ必ズ
ヤ凍ヘタルナルベシ

我々ノ停歩ハ増加セシ而シテ我々ハ雪ノ上ニ半睡スルコトニ落チシ私ハ其ヲ防キ能ハザリ
シ、云フ可ク奇異ハ其カ我々ヲ勵マセシ、私ハ(リレ)ヲシテ三分時ノ終リニ於テ私ヲ醒サ
シムル處テ私自身試檢ノ上ニ試ミシ而シテ私ハ私ガ同シ仕方ニ於テ人ニ調子ヲ合セシコト

程左様ニ多ク其ニ依テ惠ソデ感セシ、彼等ハ機ノ走人ニ於テ坐セシ、直ニ睡テ落チシ而シテ
彼等ノ三分時ガ外ニアリシトキ寐テザルコトニ迄テ迫マリシ

(講)漸クニシテ余輩歩ヲ止ムルコト度ヲ増シ且ツ半睡ニ雪上ニ倒レタリ、余ハ睡眠ヲ
防グコト能ハザリシ、其頃余輩ニ快爽ヲ感セシメタル筈ニ云フモ奇異ナルコトナリ是
ニ因テ余ハリレニニ臨シテ三分時毎ニ余ヲ醒マサシメ以テ自ラ睡眠ノ効力如何
ヲ試ミタリ然ルニ余ハ余ト同行ノ人ヲシテ余ガ例ニ倣ヒ睡眠ヲサシメシ程モ効
力ノ大ナルヲ感シタリ○則チ同行者ハ婦ノ走坐ニ於テ坐シ以テ直チニ眠ニ入レリ
而シテ其睡眠三分時ヲ超ユル時必ズ醒起セサルヲ得ザラシメタリ○

晩ニ於テ八時ニ依テ我々ハ氷塊ヨリ出デシ(ビンナクリーバー)ノ視覺ハ我々ヲ再生セシ、
出發ニ於テ價ヒナキ方法ナル(ブランドイ)名酒ハ既ニ樽ビノ(マゼス)ニ於テ外ニ勤メラシ
リシ、我々今マ尙長キ休息及ヒ終リノ然トモ尙ホ氣強キ(トラム)名酒ヲ取リシ而シテ午后十時
ニ於テ兩桅縮ニ達セシ我々ハ停歩ナシニ信用ス

(講)午後八時ニ至ツテ余輩ハ氷塊ヲ通過シタリ、ビンナクリーバーヲ見テ余輩ハ
再生ノ思ヒヲ生ズ、氷塊ヲ免レ出ヅルニ就イテ必要不可缺無選ナル「ブランドイ」
「酒一食七ヲ既ニ飲ミ、茲ニ以前ニ超ユルノ長休憩ヲナシ「ブランドイ」酒ノ殘物
而モ強精ノ一滴ヲ飲ミテ以テ本船ニ達ス時正ニ午後一時、其間余輩ハ歩ヲ停メシ
「ブランドイ」シト信ス○

私ハ我々ハ信用スト云フ而シテ此處ニ恐ラクハ我々ノ受害ノ尤モ明亮ナル証左カアル、我々ハ空ク狂氣デアリシ而シテ我々ニ付テ事情ノ辭レザル想像ヲ保ツ可ク止ミタリシ、我々ハ夢ニ於テノ人々ノ如ク進ミシ其後ニ見ラレタル我々ノ足跡ハ我々ハ兩桅船ニ向テ(ピーライン)ヲ向ケタリシヲ示セシ、其ハ本性ノ種類ニ依テアラテハナラナンドリ如何トナレハ其ハ記憶ニ於テ一ノ感得ヲ感セザリシ故ニ

(講)余ハ云フ余輩ハ本船ニ達スルマテ休息セザリシヲ信ズト、是レ蓋シ余輩ガ艱苦ヲ嘗メタルノ最確乎タル證左ナリ、余輩ノ精神ハ充分錯乱シ而シテ余輩ハ余輩ノ現ニ遭遇セル事情ノ困難ナルヲ恐懼スルノ念慮ヲ失却スルニ至レリ、余輩ハ恰モ夢路ヲ辿レル人ノ如ク正氣ヲ保ツトナクシテ歩テ進メタリ。爾後日ニ曉レタル足痕ヲ以テ推スニ余輩ノ本船ニ向ツテ一直線ニ進ミタルヲ知ル、其事タル是レ自然ニ爲シタルナラザルベカラズ故ハ余輩當時ヲ回想スルニ憶カニダモ直線ニ進メルトノ記憶ヲ有セザルヲ以テナリ。

(ボンサル)ハ前ニ遠巡シツ、送ラレシ面シテ兩桅船ニ達セシ上帝ハ故ヲ知ル如何トナレハ彼ハ路ノ線ニ於處ハ躓レタリシ故ニ、乍然彼ハ十分ナル精密ナルトナリ以(ドクトル、ヘース)ニ進テ彼ニ依テ送リタリシ消息ヲ渡セシ、私ハ私自身凡テニ付テ尤モ健康ヲ考ヘシ而シテ私ハ今私ガ我々ノ兩桅船ノ船尾室ニ迄テ歸リシハ私ノ伴侶ノ體ク處ノ體語ヲ呼返ヘシ能フ乍然私ガ其ハ若モ私ノ心ガ其權衡ヲ保チタリシナラハ彼等ノ愚ナルトニ向テ記憶シタゾ有

フ處、或ル話ニ付テ以來及ヒ亦私ノニ付テ或ル順序ニ付テ告ケラレタリ

(講)ボンサルハ躊躇トシテ進行シ以テ本船ニ達シタリ、蓋シ上帝之ヲ導クモノナリ故ハ彼レ屢々途ニ倒レタリト雖モ充分精密ニ余ノ使命ヲ全フシ余ガ彼レニ依托セル消息ヲドクトル、ヘースニ傳ヘタルヲ以テナリ。

余ハ就中最モ強健ナルモノト思惟ス而シテ余輩ガ船室ニ歸リシ時余ノ伴侶諸輩ガ喋々セル體語ヲ尙回想シ得ルナリ。然リト雖其當時若シ余ノ精神ニシテ錯乱スルトナク平衡ヲ保チシモノトスレバ必ズヤ余ハ其背理ナルヲ思考スベキ種々ノ說話ト種々ノ命令トヲ爲シタルヲ爾後或人ニ語ラレタリ。

(ペターセン)及ヒ(ウイツブル)ハ兩桅船ヨリ凡ソ二英里我々ニ出遇フ可ク出來リシ、彼等ハ我ガ(ボンサル)ニ依テ迎ヘタリシ補力劑ト其ニ私ノ犬ノ一行ヲ持來タリシ、私ハ彼等ノ來ルトテ記憶シナサス(ドクトル、ヘース)ハ通例磨擦ノ后チ自由ニ(モルヒチ)ヲ與ヘツ、向テ呼ハレタル我々ノ事情ノ持過ノ上ニ思慮アル働キヲ以テ入込ミシ

(講)ペターセントホイツブル兩人ハ余輩ニ會合センガ爲メニ本船ヲ去ツテ大約二哩ヲ進ミ來レリ兩人ハ先キニ余ガボンサルニ托シテ要メタル補養劑ト余ノ犬ノ一群トヲ齎ラセタリ、余ハ兩者等ガ來レルヲ記憶セズ(ドクトルヘース)ハ通常ノ磨擦ヲ施シ後任意ニ「モルヒチ」劑ヲ與ヘ以テ余輩ノ現狀ニ就テ必要ナル治療ヲ施スノトニ能カク凝シテ着手セリ。

彼ハ盡キタル權力其ハ潤澤ナル食物及ヒ休息ニ迄與ヘシ處ノ盡キタル權力ニ付テ其等ノ指示ノ等級ニ迄テ恐テクハ彼等ニ拘ハリツ、緊要ナルモノトシテ我々ノ腦ノ表示ニ付テ何物ヲモ説話セス(ナルセシ)君ハ偏視眼及ビ盲目ヨリ若干時害ヲ受ケシ、二ノ他ノモノハ不愉快ナル感通ナク足ノ部分ノ切斷ヲ受ケシ而シテ二ハ我々ノ尽力ノ凡テニ拘ハラズ死亡セシ

(講)ヘースハ余輩ヲ診察シ余輩ノ腦ノ微證ニ就テ敢テ恐ルベキノモノニアラズト説キ唯滋養品ヲ食スルト安息スルトヲ以テ疲レタル勢力ノ恢復スベキモノナルヲ談ビリ。オルセン氏ハ少時斜視及ビ盲目トナルノ害ヲ蒙リ、他ノ二人ハ足ノ一部分ノ截斷ヲ施術サレタリ而モ其結果可ニシテ治セリ尙他ノ二人ハ余輩充分ノ盡力ヲ以テ看護シタレトモ其効空シクシテ永眠セリ。

此ノ助ケタル黨與ハ七拾二時ニ向テ外ニ在リタリシ、我々ハ我々ノ數ノ半ハ一時ニ於テ眠ル處デ凡テニ於テ八時間停止シタリシ、我々ハ道ノ尤モ多ハ重キ機ヲ扱キ摺ル處デ八十及ヒ九十英里ノ間ヲ旅行セシ、全キ時ノ低キ温度ハ三日ノ尤モ暖カナル時ヲ含ム處デ四拾一度デアリシ、我々ハ二ノ停止ニ於テ外一ノ水ヲ持タザリシ而シテ一時ニ於テ凍ルヲナシニ強キ業ヲ止メル可ク適當シテアラザリシ

(講)此救助ニ關係セシ黨與ハ七十二時間通シテ極外則チ氷塊上ニ在リタリ、余輩ノ進行ヲ停ムルヲ八時間而シテ余輩ノ中半数ハ一時睡眠シタリ。余輩ハ八十乃至九十哩間旅行ス其間重キ機ヲ扱キタリ。總シテ外出中ノ温度ハ第三日ノ最暖ナル度

ヲ通シ平均零點以下四十一度ナリ。余輩ハ二回ノ休憩所ノ外ハ少量ダモ水ヲ得ズ而シテ一回ダモ劇運動ヲ息メテ身軀ノ凍氷ヲ蒙ルノ難ヲ免レタル時アラザリシナリ。

第八十二章

死者ノ野陣

蔽フタル大鼓ノ悲シキ音カ打ツタ兵卒ノ最后ノ號鼓ヨ最早生活ノ行列ニ於テ勇マシキ及ヒ大膽ナル儘カノモノガ出會ヌテアロウ名譽ノ限りナキ陣取ル處ノ地ニ於テ彼等ノ黙シタル天幕ガ擴ケラル、而シテ名譽ガ死者ノ露陣ノ周圍ニ殊勝ナルヲ以テ守ル

(講)號聲輕ク悲シク響キテ軍人ノ最後ノ退陣ヲ報シタリ、今ヤ既ニ勇悍剛毅ナル人ヲ現世ノ軍列中ニ見ルヲ得ザルベシ。無朽ノ名譽ノ實所ニ於テ沈黙シタル軀體擴ゲラレ而シテ名譽ナルモノ肅乎トシテ死者ノ野營ヲ守ルベシ。

敵ノ進行一ノ答ガ今風ノ上ニ腫脹セス受シタルモノ夜半ノ會所ニ於テ一ノ騒シキ思想ガ后ニ殘ラザリシ明日ノ戰爭一ノ幻像ガ夢ヲ驚カサヌ一ノ響ク處ノ喇叭又ハ叫フ處ノ笛ガ夜明ケニ於テ武器ニマテ呼ハヌデアロウ

(講)敵軍進撃ノ反響ハ今ヤ風ニ傳ハリテ雷走スルナク又午夜旅舎ヲ寒カラシムル妄想家ニ留ル妻子ニ及マサルベシ、明日臨戦ノ幻像夢ヲ驚カストモナク喇叭ノ聲叫喊ノ響開戦ノ準備ヲ促ス事モナカルベシ

彼等ノ振フタル劔ガ以テ赤クアル彼等ノ毛ニテ飾ラレタル顔ガ屈マサル、彼等ノ傲慢ナル旗ガ塵埃ニ於テ拽カレテ今彼等ノ軍中ノ被覆デアアル而シテ澤山ナル葬送ノ涙ガ各ノ眉毛ヨリ赤キ汚レテ洗フタリ而シテ彼等ノ尊大ナル形ガ戰爭ニ於テ負傷シテ今苦痛ヨリ自由ニア

(講)勇士ノ舞ハシタル劔ハ錆ビテ赤色ヲ呈シ、其羽毛ヲ以テ裝飾シタル頭ハ屈シタリ、其旌旗ノ管テ傲然タリシモノ今ヤ塵埃中ニ伍シテ軍用ノ死衣ト化シ、會葬者ノ涙ハ勇者ガ額上ニ染ミタル鮮血ヲ洗ヘリ而シテ前日ノ驕傲ヲリシ勇士ノ容態モ劔戟ノ下ニ呼吸絶シテ以テ苦痛ヲ感ゼザルモノトナレリ

嘶ク處ノ馬輝ク處ノ喇叭ノ惹起ス處ノ風、襲撃、恐怖スベキ發砲、騒動及ヒ叫聲ガ過去リテアル一ノ軍事ノ荒キ標目又ハ名譽ノ響ガ戰爭ノ銳意ヲ決シテ尙多ク感ゼヌデアロウ處ノ其等ノ胸ヲ裂キシ愉快ヲ以テ戰慄サセヌデアロウ

(講)馬ノ嘶キ、刀劔ノ光輝、喇叭ノ聲ヲ傳フル風、襲撃及ヒ長砲スベキ砲聲、騷擾、喧嘩ハ今既ニ去レリ、戰陣ノ烈聲、名譽ノ喧嘩ハ既ニ戰陣ノ爽快ヲ感ゼザルニ至レル人ノ上ニ愉快ノ感覺ヲ與ヘテ以テ其心裡ヲ鼓動セシムルコトナガルベシ

廣キ平地ヲ拂フ處ノ恐ル可キ北方ノ颶風ノ如ク尙得ルベキ勝利ヲ以テ勢ヒ附ケラレテ群集シタル敵ガ來リシ我々勇者ハ激動ヲ感ゼシテ平地ニ於テ彼等ニ出遇ス可ク飛行キシ而シテ長ク哀ム處ノ天ガ殺サレタル我々勇者ノ上ニ泣タリ

(講)廣闊ナル平地ニ吹荒ム猛烈ナル地方ノ颶風ノ如ク爾來將ニ得ムトスル勝利ニ邁リテ恐ルベキ敵來レリ。余輩ノ勇者ハ激昂シテ敵ニ會スベク平原ニ疾行セリ。而シテ慈愛深キ天空ハ殺戮サレタル余輩ノ勇士ノ上ニ號泣セリ。

我々ノ神聖ナル地ノ男子ヨリ汝ハ其處ニ眠テハナラヌ其處ニハ異人ノ歩行及ヒ舌聲ガ眠ラザル空氣ニ添フテ反響ス汝自身ノ誇リタル國ノ勇者ノ地ハ汝ノ尙適當シタル墓所デアアルデアロウ彼女ハ軍中ヨリ彼ノ尤モ富タル腕斃ヲ要求ス彼女ノ墓所ノ灰ヨ

(講)余輩ノ聖地ノ男兒ヨ、爾等此地ニ眠ルベカラズ此地ニハ敵ノ足音及ヒ言語靜肅ナラザル空氣ニ傳ハリテ驚々タルベシ、爾自身ノ誇負スベキ故國ノ勇マシキ地味ハ爾ニ恰當シタル墳墓ノ地タルベシ、爾ノ故國ハ戰爭ニ臨シテ勇奮討死シタル爾ノ屍ヲ埋メムトテ之ヲ請ヘリ則チ其國ノ勇士ノ屍ヲ護ルベシ。

其故ニ彼等ノ兩親ノ糺草土ノ下ニ血ニ染ミタル野ヨリ遙カ彼等ガ休ム多クノ血ノ楯ニ於テ(スバルタン)ノ母ノ胸ニマテ運ハシテ彼等ノ産地ノ天ノ日光ガ此處ニ彼等ノ上ニ悲シク笑フ而シテ親戚ノ心及ヒ眼ガ勇者ノ塚ノ傍ラニ見張ル

(講)彼等ノ祖先來所有セル地ノ下ニ鮮血汚染ノ戰場ヨリ離レテ横臥セリ、スバルタン國人ノ母親ノ胸ニマテ血ニ染メル楯ニ乗セラレテ運ハレタリ。彼等ノ生國ノ天日ハ勇者ノ墳墓ヲ悲シク照ラシ、其親族ノ心ト眼トハ之ヲ看守セリ。
休メヨ、木乃伊ニサレタル而シテ神聖ニサレタル死ヨ、汝ガ與ヘシ血トシテ尊ク。一ツノ不

信心者ノ歩ミガ汝ノ墓ノ草ヲ踏マヌデアラウ又ハ彼女ノ記録ガ名譽ヲ保ツ間或ハ名譽ガ
(塲所其所ニ)勇氣ガ驕傲ニ眠ル所ノ崇敬サレタル塲所ヲ指示ス間汝ノ名譽ガ忘レラヌデ
アラウ

(講)休息スベシ貴キ死者ヨ、爾ガ與ヘタル鮮血ハ貴價ナリ云フハ多數ノ敵ヲ殺シタ
ルヲ以テナキ汚レタル足ハ曾テ汝ノ墳墓ニ生ズル雜草ヲ踏ムトナカルベシ爾ノ
名譽ハ爾ノ故國ノ史録之ヲ保ツ間且又爾等勇士ノ墳臥スル所ヲ指示スル間決シ
テ世ニ忘レラル、トアラザルベシ

其處ニ代理石ノ樂人ノ無聲ノ調子ハ不死ノ歌ニ於テ多クノ打勝タレタル時代ガ過去ツタ時
ニ如何ニ汝ガ斃レシ手ノ話ヲ告ゲルデアラウ、又ハ破壊又ハ變化又ハ冬ノ嚴寒又ハ時代ノ
惡キ機運ガ汝ノ光榮アル墓ヲ飾ル所ノ神聖ナル光輝ノ一ツノ線路ヲ暗クセヌデアラウ

(講)其處ニハ幾多ノ星霜經過スト雖モ死セル勇者ノ聲無キ調子ニ於テ永世無朽ノ
歌ヲ以テ爾勇者ガ眼没ノ狀如何ヲ後世ニ傳フベシ、破壊、變遷、孟冬ノ嚴寒時世ノ惡
運モ爾ノ光榮アル墳墓ヲ照ラスナル聖光ノ一線ダモ暗マサルベキナリ

第八十三章

ナイアガラノ瀑布ノ下

私ノ訪問ノ第一夕ニ於テ私ハ風ノ洞ニ迄ノ導者ニ「ヒツドル」ノ階段ノ頭ニ於テ會ヒシ。彼レ
ハ壯年ノ盛リニ於テアリシ—大ナル、能ク造ラレタル、口及ビ目ニ於テ愉快ナル。光景ニ於

テ私ノ趣味ハ彼レノナ擾乱セシテ相談スベキモノニ彼レヲ爲セシ。寫眞ニ迄向ク所デ
彼レガ其レニ迄ノ關係ニ依テ行爲其レハ彼レガ以前ニ或時成シ遂ケタリシ所ノ而シテ其レ
ハホースシヨ—ノ瀑布ノ縁ノ水ノ下ニ幾ソド彼レヲ持來タシタリシ所ノ行ヒテ説明セシ。

(講)遊覽ノ爲メニ余ガ來リタル最初ノ日晡ニ於テ余ハ「ヒツドル」ノ階段頭ニテ風ノ
洞ノ案内者ニ會ヘリ。案内者ハ現ニ壯年ノ盛時ニテ其軀幹大、其骨格健而シテ眼口
ニ愛嬌ヲ有セリ。余ハ風光ノ趣味ニ感動サレ從ツテ種々ノ問ヲ案内者ニ向ツテ起
シ爲メニ其感覺ヲ擾セリ。案内者ハ眼ヲ轉ジテ寫眞ニ向ヒ其レニ關スル已レガ以
前ニ成功セル行爲ヲ語レリ、其行爲タルホースシヨ—ノ瀑布ノ縁水ノ下ニ幾ソド
案内者自身ヲ至ラシメタルモノナリ。

汝ガ明日其處ニ私ヲ取り能フ乎ト私ガ問ヒシ。彼レハ恐ラシハ斯様ナル企テニ於テ輕キ構
造ノ且ツ彼レノ髯ニ於ケル灰色ヲ以テノ人ノ運命ヲ秤リツ、不審ラシク私ヲ眺メシ。私ハ
見ラレ能フダケ夫レダケ多ク瀑布ニ就テ見ルベク望ム而シテ汝ガ導ク所ニ私ハ從フベク勉
ムルデアラウト私ガ附加セシ。彼レ考察ハ微笑ニマテ弛ミシ、而シテ彼レガ云ヒシ甚ダ能シ
私ガ明日汝ニ向ツテ用意シテアルデアラウ。

(講)余ハ案内者ニ向ツテ日夕。汝ハ明日余ヲ其ホースシヨ—瀑布ニ導キ得ルヤト。案
内者之ヲ聞イテ不審ノ色ヲ爲シ以テ余ヲ見タリ其心裡余ノ体格ノ柔弱ナル而モ
白髯翁ノ身ヲ以テ危險ノ塲所ニ臨ムノ企圖ヲナス或ハ爲メニ憐クルトモナキヲ

得ンヤト推量シツ、アリ。余ハ更ニ言ヲ添ヘテ曰ク余ハ余ノ目撃シ得ル限りハ充分ニ瀑布ヲ見ムト希フナリ而シテ勉メテ汝ガ導ク所ニ從ヒ行クベシト。然ルニ案内者ハ余ノ言ニ對シテ考察スル所アル如クナリシガ漸クニシテ面ヲ和ラケ莞爾トシテ曰ク、諸余ハ明日汝ノ爲メニ準備スベシト。

其二依テ明日ニ於テ私ガ來リシ。ピツドルノ階段ノ頭ニ於ケル小舎ニ於テ私ハ毛布製ノ長袴二對、三ツノ毛布製ノ短衣、靴下ノ二對及ビ靴ノ一對ヲ着ツ、一命令ニ從フテ着服セシ。濡ル、カデスラモ私ノ導者ハ衣服ガ冷ヤサル、事カラ私ヲ保ツデアラウ事ヲ私ニ確メシ、而シテ彼レガ正シクアリシ。黄色ノ油布ノ一組及ビ頭巾ハ總テテ覆ヒシ。最モ嘉ミスベキ注意ガ水ヲ外ニ保ツベク私ヲ着服スベク助ケン所ノ私ノ若キ仲間ニ依テ取ラレシ、乍併彼レノ計畫ハ嚴シク試ミシ時ニ直チニ下ニ破レシ。

(講)前約ニ依ツテ翌朝余ハ來リ。ピツドルノ階段頭ナル小舎裡ニ案内者ノ命ニ從ツテ毛布製長袴二對毛布製短上衣三枚短下二對及ビ靴靴一對ヲ着粧セリ。若シ濡ル、トモ毛衣ハ冷氣ニ冒サル、ナ防グベシト案内者余ニ向ツテ確言セシ、而シテ其言ハ是レ正當ナルトナリ。黄色油布ノ一組ト頭巾トヲ以テ尙ホ全身ヲ覆ヘリ。案内者ハ最モ嘉ミスベキ注意ヲ余ニ與ヘタリ則チ沾濕ニ冒サレザル爲メニ余ヲ附ケテ着粧セシメシ事はナリ然ルニ此注意則チ沾濕ニ冒サレザル計畫ノ着服モ既ニ瀑布ノ下ニ到リテ水ノ劇烈ナル注射ヲ受ケン時直チニ無効ニ屬シタリ。

余輩ガ階段ヲ下リシ、私ノ場合ニ於テ「ピツチ、ホーク」ノ柄ガ長杖ノ務メヲ爲ス所デ。底ニ於テ案内者ハ余輩ガ最初風ノ洞ニマテ行クデアラウ乎或ハ「ホース、シヨ」ニマテ行クデアラウ乎ヲ問ヒシ、後者ガ最多ク余輩ヲ試ムルデアラウ事ヲ説ク所デ。余ハ最初爲サレタル最モ粗キモノヲ得ンフニ於テ判斷セシ而シテ彼レガ石ヲ越ヘテ左ニマテ轉セシ。彼等ハ既キ且試ムル所ノモノデアリシ。

(講)余ノ爲メニ「ピツチホーク」(堆積セル枯草ヲヌクヒ取ルノ用具ニシテ其柄長ク其形狀勳ニ似タルモノナリ)ノ柄ハ長杖ノ用ヲ爲シ以テ余輩四人階段ヲ下レリ。既に二段下ニ至リテ案内者ハ余ニ問フニ先ツ風ノ洞ニ到ルベキ乎或ハ「ホース、シヨ」ニ到ルベキ乎其孰レナルヤヲ以テシ同時ニ「ホース、シヨ」ハ最モ危険ノ場所タルヲ語ル。余ハ先ツ最モ危険ナル場所ニ到ラシムト決ス、而シテ案内者ハ石ヲ越ヘテ左轉セリ、其石タル尖兀ニシテ危険ナリシ。

(註) An alpine stock ハアルプスノ杖ノ義ナリ、アルプス山或ハ他ノ山間旅行ニ用ユルモノニシテ鐵ヲ其端ニ、軟メタル長キ杖ナリ。

瀑布ノ最初ノ部分ノ基礎ハ著シク上ノ石灰石ノ懸崖ノ零落ナル巨大ナル大石ヲ以テ覆ハレテアル。水ハ其レ自身ノ一様ニ彼等ノ間ニ配分シナサヌ乍併(水道其レヲ)通シテ其レガ瀧ノ勢力ヲ以テ注ク所ノ水道ノ外ニ漏ル。余輩ハ瀧レタル足乍併困難ナシニ此等ノ或物ヲ通過セン。遂ニ余輩ガ最多ク恐ロシキ瀧ノ傍ニ來リシ。私ノ案内者ハ彼レガ其レノ騒ガシキ部分

ニ到着セシマテ其縁ニ添フテ歩ミシ。停歩シツ、彼レガ云ヒシ、此レガ余輩ノ最大困難デア
ル、若シモ余輩ガ此處ヲ横過シ能フナラハ余輩ハホースヲヨリノ方ニ遙カ得ルデアラウ。

(霧)瀑布ノ前部ノ底邊ハ巨大ナル盤石ヲ以テ覆ハレタリ其巨盤タル必ズ上部ノ石
灰石ノ破壞シテ墜落シタルモノナリ。茲下スル水ハ等シク其盤石間ニ流レズト雖
モ若干ノ水道アリテ之レニ注流シ勢ヒ恰モ瀑布飛奔ノ狀ヲ呈ス。余輩ハ足ヲ踏シ
タルモ困難ヲ覺エズシテ此等若干ノ奔流ヲ通過シタリ。遂ニ余輩ハ更ニ畏怖スベ
キ奔流ノ傍ニ到リテ案内者ハ其最モ水勢急激ナル所ニ到ルマテ水邊ニ沿フテ行
テ進メタリ。曠チ歩ヲ停メテ曰ク、是レ此行途中最大困難ナル所ナリ。今若シ余輩此
ヲ經過スルナラハホース、シヨールノ方ニ還ク來レルモノニシテ幾チモナク其所ニ
達スルヲ得ベシト。

彼レハ徒涉セシ。其レハ明白ニ彼自身堅固ニスベク全テ彼レノ力ヲ要セシ。水ハ彼レノ腰ノ
上ニ起リシ而シテ其レガヨリ高ク泡立チシ。彼レガ見エザル巨石其レニ對シテ急流ガ
烈シク起リシ所ノ見エザル巨石ノ中ニ足場ニ向ツテ索メルベク持チシ。彼レハ争ヒシ而シ
テ鞅繩セシ、乍併彼レガ成功ニ争ヒシ而シテ終ニ他ノ側ニ於ケル尙淺キ水ニ到着セシ。彼レ
ノ腕ヲ擴ゲ出ス所デ彼レガ私ニマデ云ヒシ、今來レト。

(譚)案内者ハ徒歩シテ奔流ヲ涉レ。今ヤ案内者ハ其全カヲ竭シテ其身ヲ確乎タラ
シムルニ島ムルヤ一日明晰タリ。水ハ激昂シテ其邊邊ニ高マリ且更ニ高ク泡立チ
タリ。彼レ案内者ハ水中ニ墜レタル盤石ノ間ヲ探ツテ其足ヲ容ルルベキ所ヲ察メザ
ルヲ得ズ、其墜レタル盤石ニ激シテ水流逆激ヲ起シ雪ヲ飛ハシツ、アリ。案内者ハ
困難ヲ極メテ努力シ、其結果功ヲ奏シテ彼邊ノ水淺キ所ニ達シタリ。是ニ至ツテ其
腕ヲ伸ハシ余ニ向ツテ呼ンテ曰ク、今來ルベシト。

私ハ其レガ下ノ河ニマデ突進セシ而シテ瀑布ノ騒動ヲ以テ沸騰シツ、アリシ時ニ流勢ヲ眺
メ下セシ。其レガ膝マデノ深サ、*Three Feet* ヨリハ尙多クアラザリシ所デスラモ其レノ力ガ著
大デアリシ。其レガ私ノ周邊ニ起リシ時ニ私ハ其レニマデ傍ヲ示ス。ニ依ツテ急流ヲ裂ク
ベク要メシ乍併足場ノ不確カ私ノ腰ヲ攪ミ全ク私ヲ捨テ廻ハシ而シテ私ノ背ノ上ニ保ツベ
ク其推動力ヲ持來スベク其レヲ適當ニセシ。尙遙カナル争ヒガ出來難クアリシ而シテ私ノ
權衡カ望ミナク行クト感ズル所デ私ハ轉シ恰是見捨テタル岸ノ方ニ私自身ヲ投ゲシ而シテ
豫期セシ如ク尙チニ尙淺キ水ニマデ掃ハレテアリシ。

(譚)余ハ急流眼下ノ河中ニ奔下シ且ツ飛泉ノ響ヲ以テ露々タリシ中ニ見下シタ
リ流水ハ其深サ膝以上ニ及バズト雖モ其流勢タル著大ナリシ。急流私ノ身體ニ激
シテ高マリシ時ハ余ハ余ノ身ヲ横ニシテ側面ヲ流レニ向ケ以テ急流ヲ圍キ其勢
ヒヲ殺ガントセリ然ルニ足ヲ容ル、所不確實ニシテ危險ナルニ由リ從ツテ身體
ヲ確乎保持スル能ハズ故チ以テ水勢余ノ腰ヲ掃シ余ノ身體ヲ轉回シ以テ予ノ
背上ニ流勢ヲ受ケサルヲ得サルニ至レ。是ニ至ツテ余ハ尙一層ノ努力ヲ竭スコ

トテ得ル能ハス且ツ身体ノ平衡ヲ保ツコト到底困難不可能ナルヲ覺リ轉シテ以前ニ一旦去リタル岸ノ方へ身ヲ投ゲタルニ豫期ニ違ハズ水淺キ邊リへ推進ラレタリ。

油布ノ被衣ハ大ナル防害デアリシ其レハ多ク尙強キ人ニ向ツテ造ラレタリ而シテ私ノ溺水ノ後眞直ニ立ツ所テ私ノ脛ガ水ノ二ツノ囊ノ中心ヲ充セシ私ノ袋内者ガ再ビ試ミルベク私ヲ勵マセシ。最初ノ不仕合ニ依ツテ救ヘラレテ私ハ今一度流レニ入込ミシ。長杖ガ鐵ニ就テアツタリシナラハ其レガ余ヲ助ケ能フタ乍併其レガアリシ如ク、私ノ手ノ外ニ其レヲ掃フベキ水ノ性質ハ不要用ヨリハ尙惡シク其レヲ與ヘシトハ雖私ハ習慣カラ其レニマデ繼リシ。

(講)油布製ノ被衣ハ頗ル妨害物ナリ是レ余ノ如キ柔弱ナルモノニ適製シタルニ非スシテ尙強壯ナル人ノ爲メニ適用スベキ製方ナリ且ツ水流ヨリ出テ後チ直立スルニ務中ニ水充滿シテ予ガ兩足ハ恰モ二箇ノ水ヲ盛リタル袋ノ中心ニ立ツモノ、如シ。是ニ於テ袋内者ハ再ビ徒涉ヲ試ミルベク予ヲ勵マセリ。余ハ先キノ失策ニ依ツテ愕ル所アルヲ以テ之ニ鑒ミ更ニ第二ノ徒涉ニ水中ニ入レリ。余ガ體フル長杖ニシテ若シ鐵製ナリセハ蓋シ余ヲ助ケタリシナルベキニ左ハナクア木製ナリケルニ依リ水ノ流勢之ニ激シテ余ノ掌裡ヨリ之ヲ奪ヒ去ラムトシ管ニ不用ナルノミナラズ却テ妨害物トナレリ。然ルモ余ハ最初來ノ慣習ニ依リ之レニ依倚

シタリ。

再ビ急流ガ起リシ而シテ再ビ私ガ動搖セシ、乍併能ク其レニ對シテ左ノ臂ヲ保ツコト依ツテ眞直ニ保チシ、而シテ遂ニ他ノ傍ニ於テ私ノ導者ノ手ヲ握ミシ。彼レガ愉快ニ笑ヒシ。一ツノ旅人が曾テ以前ニ此處ニアラザリシト彼レガ云ヒシ。再後直チニ強ク見エシ所ノ漂木ノ一片ニ逸任スコトニ依ツテ私ガ再ビ私ノ足ヲ取り去ラレシ乍併直チニ突出スル所ノ岩ニ依ツテ捕ヘラレテアリシ。

(講)水流再ビ激昂シ、身軀モ亦再ヒ動搖セリト雖モ之ニ對シテ左臂ヲ向ケ以テ直立スルコトヲ得タリ而シテ遂ニ彼岸ニ達シテ袋内者ノ手ヲ握レリ。袋内者ハ愉快ニ笑ヒ。今日以前曾テ此處ニ來レル旅人アルコト云ヘリ其後幾クモナク確乎不動ノ觀アル漂木ニ倚リ爲メニ脚ヲ失シテ倒レタレドモ直チニ突兀タル岩頭ヲ捉ヘテ離チ免レタリ。

余輩ハ(最厚キ水烟其レハ)速ニ其レノ激動ノ下ニ躊躇スベク予輩チ起スベクダケ左襟ニ重クナリシ所ノ最厚キ水烟ノ方ニ盤石ヲ越ヘテ登リシ。最多キ部分ニ向ツテ何モが見ラレ能ハヌ、余輩ハ水ニ依ツテ鞭打タル混雜スル所ノ騒動其レハ時ニ於テ無數ノ鞭ノ如ク響キシ所ノ混雜スル所ノ騒動ノ中ニ於テアリシ。此レノ下ニ瀑布ノ深キ反響シタル吼聲ガアリシ。私ハ私ノ手ヲ以テ私ノ目ヲ蔽ヒ而シテ上方ヲ眺ムルベク試ミシ乍併防禦ガ不用デアリシ。導者ハ進ムベク續キシ、乍併或場所ニ於テ彼レハ彼レノ風下ニ於テ隠レ場ヲ取り而シ

テ瀑布ヲ注視スヘク私ニ願ヒツ、停步セシ。

(譯)余輩ハ飛泉ノ水烟最モ稠密ナル所ニ向ツテ大石ヲ超エテ攀登シタルガ其水烟ハ余輩ガ備カニ歩ヲ進ムレバ直チニ頗ル稠密チ加ヘ其墜落ノ壓力ノ爲メニ余輩ノ運歩難トシテ進ムニ難チ覺エタリ。其間多クハ一物ヲモ目撃セス。余輩ハ正ニ落下セル水ニ依ツテ起サレタル霧々々々中ニ立ツ其霧々ノ時々無數ノ鞭ヲ以テ毆打スル響ノ如クナリシ。此下ニ當ツテ飛泉ノ瀑遠ナル反響ヲ聞ク。余ハ余ノ手ヲ以テ目ヲ蔽ヒ以テ水烟ヲ避ケ上部ヲ望見セントシタル共其効無カリキ。案内者ハ續イテ進行セシガ或場所ニ至ツテ停步シ。風下ニ當レル隱所ヨリ飛泉ヲ眺メム。余ニ望メヨ。

水烟ハ其レガ底邊ヲ打チシ時ニ撃碎シタル水ノ返衝カラ如ク左様ニ多ク上部ノ懸崖カラ來リナサリシ。其故ニ目ガ水烟ノ眩マス所ノ激動カラ防ガレ能ヒシ然ル間上部ノ懸崖ニマテ視線ノ線ハ明カニ或廣ガリニマテ保チシ。導者ノ肩ヲ越ヘテ上方ヲ眺ムル。余ハ懸崖ヲ越ヘテ曲ル所ノ水ヲ見能ヒシ。然ル間ターラツピン塔ガ入替リテ間斷アル水烟ノ暴風(spraying gusts)ヲ通ホシテ見エシ。余輩ハ正シク塔ノ下ニアリシ。瀑布ハ僅カ尙遙カ向ヒニ其レノ最初ノ衝込ノ後或道ノ下ニ凹物ニ觸レシ而シテ水烟ノ愕クベキ破裂ニ於テ其レカラ飛ビシ。之ヲ通ホシテ余輩ガ躊躇セシ。

(譯)飛泉底邊ニ落下衝突シテ散乱セル水ノ飛濺甚シキモ上部ノ懸崖ヨリ起ル水

烟ハ其如ク甚シカラズ。故チ以テ水烟ノ爲メニ視覺ヲ妨ケララル、ナリ上部ノ懸崖ヲ見ルニ明白ナルヲ得タリ。案内者ノ肩上ヲ越ヘテ向上アルニ懸崖ノ線ニ曲飛スル水ヲ認メタリ。然ルニターラツピンノ塔ハ濛濛然タル水烟ノ間ニ在リテ明視スル能ハス。余輩ハ正シク塔下ニ在リ。少シク前方ニ當リテ瀑布ハ其飛奔直下スルノ後下邊ノ窪所ニ衝突シテ噴霧スルニ足レル非常ノ水煙ヲ飛マシ余輩ハ其間ニ躊躇トシテ進行ス。

(註)Terrapin tower 亞米利加瀑布ト稱呼スル瀧ノ上ノ岩上ニ建チタル小塔ナリ。

余輩ハ(岬其レノ)上ニターラツピン塔ガ立ツ所ノ岬ヲ廻リシ而シテ大石ガ余輩ヲ錯リシ而シテ瀑布ハナイアガラ河ノ深キ割レ目ニマテ落チシマテホースシヨノ腕ニ沿フテ最粗暴ナル騒動ノ中ニ動キシ。此處ニ導者ガ再ビ私ヲ隠セシ而シテ見上グルベク私ニ願ヒシ。私ガ左様ニ爲セシ而シテ余輩及ビ其ノ間ノ水烟ガ輪番ニ集マリ且ツ隠レシ時ニ以前ノ如クニ上部ノ崖線ヲ越ヘテ掃フ所ノ大ナル曲線ノ綠色ノ光線及ビ水ノ入替リノ衝込ミヲ見能ヒシ。

(譯)余輩ハターラツピン塔ガ峙ツ所ノ岬ヲ廻リホースシヨノ腕ニ沿フテ水煙飛散狂奔スル中ヲ進ミ遂ニ巨壑前面ニ横ハリテ余輩ノ進路塞ガリ而シテ瀑布ハナイアガラ河ノ深淵ニ奔下スルノ所ニ到レリ。是ニ至ツテ案内者ハ復タ余ヲ覆ヒ而シテ余ニ望ムニ見上ゲム。余ハ其旨ニ從フ而シテ余輩ハ前ト一般余輩ト瀑布トノ間ノ水煙乍ニ集リ乍ニ散ルノ時余ハ上部ノ懸崖ノ邊ニ據ガレル大

且ツ曲ナル緑光線ト水ノ間斷アル突入トヲ認メ得タリ。

余輩ハ瀑布ノ最モ感得スベキ閃光ヲ捕ユルベキダケ左様ニ上及ビ下ニ間隙ニ於テ登リツ、
歸リシ。余輩ハ石灰石ノ管ノ如キ塊ニ依テ形造サレタル懸崖ノ下及ビ岩ノ頂上カラ一緒ニ
落ツルヲニ依ツテ形造サレタル若干ノ奇妙ナル穴ヲ通ホシテ過ギシ。終ニ余輩ハ朝ノ余輩
ノ敵ノ傍ニ余自ラヲ見出セシ。導者ハ思考深ク急流ヲ細查シツ、一二分時躊躇セシ。余ハ導
者トシテ彼レハ斯ノ如キ場所ニ於テ網ヲ持ツベク属スルヲ云ヒシ。乍併彼レハ一ツノ旅
人ガ以前嘗テ其處ニ來ルヲニ就テ考ヘナンダリシトシテ彼レハ網ヲ保ツヲノ必用ヲ見ナサ
レリシ事ヲ反難セシ。

(講余輩ハ瀑布ノ最モ奇觀ナル所ヲ求メントシテ或ハ登リ又ハ降リ以テ歸途ニ就
ケリ。余輩ハ石灰石ノ管狀ヲナセル塊ニ依ツテ形造サレタル懸崖ノ下及ビ其岩嶺
ヨリ墜落セルヲニ依ツテ成リタル。二三ノ奇異ナル洞穴中ヲ通行セリ。遂ニ余輩今
且艱難辛苦セル急流邊ニ出アタリ。案内者ハ急流ヲ眺メテ沈思熟考シ足ヲ止ム
ルヲ一二分時ノ于時余ハ案内者タルモノ斯ル難所ヲ通行スルニ網ヲ持タサルベカ
ラザルヲ案内者ニ告グ然ルニ案内者之ニ對シテ以前曾テ一旅行者ノ斯ル邊ニ來
タラムヲ企テタルモノアラサルヲ以テ網ヲ携フルノ必用ヲ見ザリシナリト難
セリ。

彼レハ徒涉セシ。彼自身ヲ保ツベキ争ヒガ充分明白デアリシ。彼レハ鞅韆セシ乍併再ヒ且ツ

再ビ彼自身回復セシ。遂ニ彼レハ滑リシ道ヲ與ヘシ私ガ爲シタリシ如ク岸ノ方ニ彼自身ヲ投ケシ而シテ淺瀬ニマテ捕ハレシ。其縁ニ近キ流レニ於テ立ツ所ヲ彼レハ私ニ向ツテ彼レノ腕ヲ擴ゲシ。私ハ「ピツチホーク」ノ柄ヲ保チシ如何トナレバ其レガ巨石ノ間ニ必要デアツタリシ故ニ。杖ニ於テ或道ヲ渉ルコトニ依ツテ彼レニ運スベク爲サレ能ヒシ、而シテ私ハ彼レガ其レヲ擲ムコトヲ云ヒ出セシ。

(講)案内者ハ徒涉セリ。彼自身ヲ確乎タラシメン爲メ努力セルヤ明瞭ナリシ。彼レ數次進退シテ數次回復セリ。遂ニ歩ヲ失シテ倒レタリ。余ガ今朝爲シタリシ如ク岸ノ方ニ其身ヲ投ケテ水淺キ邊リヘ推シ流サレタリ。當ニ立チテ余ニ向ヒ腕ヲ擴ゲケリ。余ハ巨石ノ間ヲ行クニ必要アルヲ以テ「ピツチホーク」ノ柄ヲ執リ杖ヲ扶ケテ以テ若干ノ歩ヲ進メ儘カニ彼岸ニ立タル案内者ノ邊ニ運スルヲ得テ案内者ニ余ガ杖ヲ握リ以テ余ヲ引カムコトヲ囑セリ。

若シモ汝ハ道ヲ與ヘルコトノ場合ニ於テ汝ガ汝ノ擲ムコトヲ保チ能フ事ヲ確メテアルナラバ然ル時ニ私ハ確カニ汝ヲ保ツデアラウト彼レガ答ヘシ。

彼レハ之レノ上ニ計算シ得ル事ヲ説ク所ヲ私ハ徒涉セシ而シテ私ノ伴侶ニマテ杖ヲ伸ハセシ。其レガ丈夫ニ余輩ノ両方ニ依ツテ擲マレシ。之レガ扶ケシ、縱令其レノ腰ヒハ強クアリシト雖モ私ハ急流ヲ横切ツテ安全ニ動キシ。全テノ危險ガ此處ニ終リシ。

(講)案内者答ヘテ曰ク、脚若シ失脚シテ倒ル、事アルモ能ク其杖ヲ握ツテ之ヲ放ス

(註)organic signs. 最劣等動物又ハ植物ヲ含メル柔カニシテ靈氣アル土或ハ粘泥ナリ。

第八十四章

羅瑪ニ於テノ劇場

古代ノ圓形劇場ノ總テノ中ニ最宏壯ナル且ツ最多ク著名ナル者ハ羅瑪ノ劇場デアアル。其レガ羅瑪ノ七小岳ノ谷ニ於テセルーザレムノ征服者ナルヴェニスハシアン及ビ彼レノ息子テ、タスニ依ツテ營マレテアリシ。猶太ノ囚虜ガ其レニ於テ働クベク逼ラレテアリシ。而シテ外部ノ花崗石而シテ内部ノ尙柔カナル石ナル一材料ガ十八世紀ノ終リニ於テ尙ホ其レガ幸シテ破損スベクナツタ乍併羅瑪ノ最大異常物ノ一ニ殘ルヲホド左様ニ堅ク而シテ左様ニ讚嘆スベク營マレテアル。

(註)上古ノ圓形劇場中最モ宏壯顯著ナルモノヲ證瑪ノ劇場トス。其劇場タルセルーザレムノ征服者タルヴェニスハシアン及ビ其子テイマスノ經營スル所ニ係リ羅瑪ノ七丘ノ谷ニ立ツ。此經營ニ就イテ猶太國ノ囚虜輩ハ逼ラレテ勞動ヲ執レリ。其建築材料(外部ハ花崗石内部ハ稍軟質ノ石)ハ頗ル堅硬ニシテ其築造方ハ嘆賞スベキ限リナリ實ニ十八世紀ノ晩年ニ至ルモ尙ホ破損スル所少シニシテ羅瑪府中最大驚嘆スベキモノハ一ニ計ヘラル。

地面ノ五「エーグル」ガ其レノ外部ノ壁ノ卵形ノ裡ニ閉込メラル、其レハ外側ハ重リタル(come above another)穹形ノ外ニ於テ直線ニ高マル。内部ハ坐ノ棧敷ハ前ノ方ニ突出スル。各ノ

「ナカリセバ我ハ確カニ胸ノ杖ヲ握ツテ以テ躡ヲ扶クベシト。

案内者ハ此事敢テ配慮スルニ足ラズト云ヘルヲ以テ予ハ急流中ニ進ミ而シテ余ノ伴侶則チ案内者ニ對シテ余ヲ差向ケタリ。余ト被レト爾人確カニ杖ヲ握ル之レカ爲メニ幫助セラレテ急流ノ余ニ激スル「烈シカリシト雖モ余ハ無難ニ渡リ果タセリ。茲ニ危險全ク了ル。

爾後余輩ハ風ノ洞ノ下ノ急流ト而シテ巨石ノ間ニ親シク逼歷セシ。岩ハ裸足ヲ以テ越ヘテ歩マレテアリ能ハナシタ乍併靴ハ成功アリテ滑ルヲ妨ケシ所ノ生涯ヲ以テ蓋ハレテアリシ。余輩ハ最初巨石ヲ越ヘテ運バレタル木造ノ道ニ依ツテ而シテ後「セル」ニ依ツテ最深ク食ハレタル點ニマテ狹キ縁ニ沿フテ洞ニ達シ而シテ其レニ入込ミシ。風ガ南カラアル時ニ落ツル所ノ水ガ此場所カラ安全ニ見ラレ能フト私ガ告ケラレテアル、乍併余輩ガ其處ニ在リシ時ニ水烟ノ眩マス所ノ旋風ガ余輩ニ對シテ回轉シテアリシ。

(譯)爾後余輩ハ相渡ヘテ愉快ニ風洞下ノ急流ト巨石トノ中ヲ徑行セリ。岩ハ生泥ヲ以テ蓋ハレタルガ爲メ素足ヲ以テ之レガ上ヲ歩行スル能ハザリシモ靴ハ能ク滑ル「ナ防ケリ。余輩ハ始メ、巨石上ニ踏キテ以テ營メル木道ヲ經、次ギ「セル」(石)ヲ踏キ、狭路ナル隘路ヲ踏ミテ洞ニ達シ其裡ニ入ル。風南方ヨリ吹ク時ハ此處ヨリ安ク露布ヲ見ル「ナ特ヘシト、予ハ告ケラル、然ルニ余輩其處ニ到リシ時ハ水烟旋風ニ乘ツ余輩ヲ襲フテ余輩ノ眼ヲ眩マセタリ。

ナ見物人ノ白地ニ紫線ヲ取レル古代服ニ影ヲ寫シ其麗ナル青藍色ヲ呈シテ美觀ヲ添ユルヲ以テナリ。

皇帝ガ彼自身座シ而シテ合圖ヲ與ヘタリシ時ニ演劇ガ始マリシ。或時ハ綱踊リスル所ノ象ガ建物ノ頂上ニマテスラモ昇ルヲニ依ツテ而シテ綱ニ依ツテ降ルヲニ依ツテ技藝ヲ始メルデアラウ。或ハ獅子ガ彼レノ頭ノ上ノ飾ラレタル冠、彼レノ頸ノ周圍ニ金剛石ノ頸飾リ、金ヲ以テ組付ケラレタル彼レノ鬣及ビ鍍金サレタル彼レノ蹄ヲ以テ出テ來リシ、而シテ彼レノ抱クノ裡ニ恐レナク踊リシ所ノ小ナル兎ト共ニ一百ノ面白キ滑稽技藝ヲ演ゼシ。

(講)皇帝親臨シテ椅ヲ取り合圖ヲ與フル時ニ當ツテ演技ヲ始ム。或ハ綱渡リノ技ヲナス象、劇場ノ絕頂ニ昇リ而シテ綱ニ依ツテ降ル事アリ。或ハ其頭上ニ飾冠ヲ戴キ頸ノ周圍ニ金剛石ノ頸飾ヲナシ、象牙ハ金ヲ以テ編ミ、且ツ蹄ニ金ヲ鍍シタル獅子演技場ニ進ミ出テ、其掌裡ニ在ツテ恐怖ノ色ナク踊舞セル兎ヲ弄シ之レト共ニ幾多ノ愉快且ツ柔和ナル滑稽技ヲ演ズル事アリ。

時トシテ水ガ舞臺ニマテ導カレシ、船ガ中ニ帆走リシ、而シテ其中ニ於テ片々ニマテ落ツル所ヲ爲テノ方角ニ於テ游泳スル所ノ奇妙ナル動物ノ群ヲ送リシ。時トシテハ地ガ開キシ、而シテ樹ガ黄金ノ果實ヲ擔ヒツ、其レヲ通ホシテ成長シツ、來リシ。或ハ「オルヒユース」ノ美ナル古談ガ演ゼラレシ、此等ノ樹ガ俗人ノ琴ト而シテ歌ニ從テデアラウ、乍併——全キ部分ヲシテ完全ナラシムベク——其レガ一ツノ單ナル演技ニ於テアラザリシ乍併藝ノ「オル

列ガ其レノ上ノ者ヲ越エテ遙カ外ニ來ル所デ、其故ニ最低キ且ツ外側ノ壁ノ間ニ其處ニ部屋、通路及ビ舞臺ト命名サレタル中央ノ場所ノ周リノ圓天井ノ大ナル種々ニ向ツテノ場所ガアリシ。

(講)外部ノ卵形ヲナセル壁ノ裡ニハ五「ユークル」ノ地坪アリ、壁ノ外部ハ層々重リタル穹形體アリテ直立ス、内部ハ數層ノ棧敷列ナリ下列ハ上列ヨリ前方ニ出ツ故ニ演技場ト稱スル中央ノ空所ノ周圍ニハ最低ノ棧敷ト外側ノ壁トノ間ニ室、通行路、及ビ穹窿等ヲ構造スルニ足ルノ餘地アリ。

滿ツル時ニ總テ此巨大ナル建物ハ八万七千ヨリ一ツノ尙僅カナラザル觀物人ヲ保ツ。其レガ一ツノ屋根ヲ持タヌ乍併其處ニ降雨デアリシ時ニ或ハ太陽ガ餘リ熱シテアリシナラハ遊歩廊下ニ於テノ人夫ガ綱ノ上ニ添フテ走リシ而シテ全棟ノ上ニ金及ビ銀ノ織物ノ被物ヲ形造リシ所ノ天幕ヲ擴ゲシ。紫ガ此被物ニ向ツテノ都合克キ色デアリシ如何トナレハ太陽ガ其レヲ通ホシテ輝キシ時ニ其レガ雪ノ如キ舞臺ノ上ニ、及ビ羅馬市民ノ白キ、紫線リノ古代服ノ上ニ斯ノ如キ美麗ナル微細色ヲ投ゲシ故ニ。

(講)此劇場内ニ見物人滿ツル時ハ實ニ八万七千ヲ下ラザル人員ヲ容レタリ。劇場屋根ヲ構ヘズ、若シ降雨ニ際スル乎或ハ太陽ノ熱度劇シキ時ニハ豫テ用意ノ人夫等ハ綱ノ上ニ天幕ヲ張り劇場全棟ノ上邊ニ金銀ノ被物ヲ形造セリ。此被物ノ染色ハ紫ヲ好シトス故ハ日光被物ヲ通シテ照ラス時純白ナル演技場及ヒ羅馬市民則

ナニ經營セルモノニアラズ。則チ。羅馬人ハ其性強悍ニシテ常ニ神氣奮勵感激サル
ハキ技ヲ見ムコトヲ慾望セリ。而シテ直チニ演技場ノ周圍ナル穴及ビ洞窟ノ扉開カ
レ、其内ヲ免シテ犀、鹿、牡牛、獅子、豹、野猪ノ若キ極惡悍猛ナル野獸ヲ檻ニ放ツ、其時人
民ハ野獸被此突擊防禦ノ凄慘ナル狀ヲ見テ以テ喜ブ蓋シ狂惡ナル好奇心ト云フ
ハシ。且又狂熱猛闘スル野獸ノ長怖スベキ咆哮ノ聲ヲ聞キ敢テ之ニ恐懼ノ念ヲ生
セザルノミナラズ却テ之ヲ娛樂トセリ。

片々ニマテ互ニ裂ク所ノ野獸ハ恐怖ニ向ツテ或味ヒテ満足シ能ヒシト或ハ考フルテ
アラウ、乍併見物人ハ彼等ノ好意ノ怪物ノ前ニ置カルベク尙貴キ遊戯デスヲモ要セシ
人ガ彼等ニ向合ハスベク前ノ方ニ持來タサレシ。此等ノ或物ガ最初充分ナル武裝ニ放テア
リシ而シテ槩チ成効ヲ以テ困難ニ戰ヒシ。或ハ獵夫ガ幾ノド武裝サレ少々來リシ、而シテ獅
子ノ頭ヲ越エテ織物ノ一片ヲ投ケル所デ或ハ彼レノ咽喉ノ下ニ彼等ノ拳ヲ置クコトニ依ツテ
彼レヲ擾シツ、迅速ト而シテ熟練ニ依ツテ勝利ヲ得シ。

(註) 猛獸ハ相闘フテ互ニ傷ツケ傷ツケラレ氣力漸ク衰ヘテ頗ル畏懼ヲ感セシナル
ベシ然ルニ之ヲ觀ル人ハ其好意ノ獸類ノ闘ニ近ニ貴キ勝負ヲ見ムコトヲ望メリ。前
チ獸類ト格闘セシムル爲メニ人間ヲ出ス。初メ充分ニ武裝セル人來リ獅子苦戰シ
テ敵獸ヲ斃ス。或ハ獵夫數人出テ來リ身ニ武備スルコトヲ唯ダ其技ヲ迅速ト精練
トナテ以テ獸類ニ對シ勝利ヲ占ム其方一片ノ織布ヲ纏圍ニ置ヒ又繩索ヲ振ツテ獅

ヒユス」ガ生キタル熊ニマテ貪食ニ落チシ所ノ實ノ熱心ニ於テアリシ。

(註) 或ハ演技場中ニ水流レ來リ檻之ニ泛ビ中央ニ墜ツテ片碎ス其時破腹中ヨリ奇
異ナル動物群出シ八方ニ游泳スルコトアリ。或ハ地面裂ケテ黃金果ヲ保テ爾樹木出
現スルコトアリ。或ハ「タルヒユス」ノ賞競スベキ古話ヲ演ズルコトアリ。爾時總テノ樹木
ハ伶人ガ奏スル琴及ビ唱歌ニ伴フテ動ケリ。然レドモ演技ナシテ全美ヲ示メン
ガ爲メニ「オルヒユス」ノ役ニ當リシ俳優演技中熊ノ貪慾ヲ充メセシ(熊ニ食ハレル
コト)ガ如キ實ニ活劇ニシテ管演技上ノ模範ノミナルニ非ラザリナリ。

(註) Orpheus ハ小説時代(時未ダ深昧ニシテ其事蹟今日ヨリ攷フベカラザル古昔ノ時
代)ヲ云フハ伶人ニシテ其歌ニ依ツテ岩、樹ヲ動カシタリト云フ。

如何トナレハ劇場ハ最初記載セシ其等ノ如キ斯様ナル無害ノ觀物ニ向ツテ建テラレナンダ
リシ故ニ。強健ナル羅馬人ハ勵マサルベク且ツ強ク感動サレテ彼等自身ヲ感ズベク望ミシ。
而シテ直チニ舞臺ノ周圍ノ穴及ビ洞窟ノ扉ガ開イテ投ケラレシテ充分ニ狂惡ナル野獸
ガ互ノ上ニ解放(Let loose)サレシ、——犀及ビ鹿、牡牛及ビ獅子、豹、及ビ野猪ナリ、——然ル
間人民ハ攻撃及ビ防禦ノ種類ヲ見ルベク猛惡ナル好奇心ヲ以テ見張リシ。同時ニ於テ彼等
ノ耳ハ(貴キ動物其レノ)勇氣ガ斯様ニ常用サレタ所ノ貴キ動物ノ吼及ビ吠ヘニ依ツテ驚懼
サル、コトノ代リニ樂シマサル、所デ。

(註) 抑モ此劇場タルヤ余ガ此章ノ初メニ於テ記載セシ諸ク柔順無害ナル演技ノ爲

子ノ咽下ヲ打ナ以テ其心ヲ懺亂セシメ勝ヲ制スルナリ

乍併羅瑪人ガ見ルベク好ミシ所ノ其レハ練熟ノヨナラズ尙ホ死デアリシ。而シテ處刑サルベキ罪人及ビ逃走人ガ獅子ヲ饗スベク且ツ死ノ彼等ノ種々ノ種類ヲ以テ人民ヲ樂シマスベク用立テラレシ。其等ノ處刑サルベキ者ノ間ニ(基督敎受刑者其者ハ)舞臺周圍ノ猛惡ナル目ノ無數ノ前ニ善キ懺悔ヲ証セシ而シテ見ル物ガ了解シ能ハザリシ所ノ靜カナル決心及ビ希望多キ快樂ヲ以テ獅子ノ血ニ染ミタル骸ニ出會ヒシ所ノ基督敎受刑者ノ多クガアリシ。上向キノ眺メ及ビ彼レノ舌ニ於テ快樂ノ神歌ヲ以テ基督敎徒ノ死ヲ見ルベク、劇場ガ與ヘ能ヒシ最多ク奇妙ナル且ツ無類ノ觀エデアリシ、而シテ其故ニ夫レガ最上デアリシ、而シテ(觀物其レニ)於テ獸類ノ仕組ガ部分ヲ持チシ所ノ觀物ノ最後ノ者ニ向ツテ用立チシ。

(講)然レドモ羅瑪人ノ見ルヲ好ムハ唯演技ノ熟練ノミニアラズシテ尙又死ニ在リ故ヲ以テ刑ニ處セラルベキ罪人ト逃走者トハ猛獅ト闘ヒテ其腹ヲ肥ヤシ且ツ其無雙ナル死狀ヲ以テ之ヲ觀ル人民ノ目ヲ樂シマシムルノ用ニ供セラレタリ此等處刑ニ遭フベキ者ノ中ニ耶穌敎徒多クアリテ野蠻極マル見物人羣集ノ眼前ニ自巳ノ懺悔ノ色ヲ示シ且ツ觀者ノ了解シ能ハサル沈着乎タル決意ト未來ノ希望多キ快樂トヲ以テ猛獅ノ鮮血ニ染メル骸ニ出會シ。天ヲ仰ギ愉快ニ神歌ヲ誦シテ死ニ就クノ狀ヲ見ル丁數種ノ演技中珍奇絶對ノ觀ニシテ之ヲ最上ノ快樂トナシ演技中ノ最後ニ演スルモノトセリ。

死骸ガ鈎ヲ以テ彼方ニ引摺ラレシ、血ニ汚レタル砂ガ新鮮清潔ナル土ヲ以テ覆ハレテアリシ、蒸物ガ尙強キ雲ニ於テ送ラレシ、而シテ行列ガ前ノ方ニ來リシ——彼等ノカノ最上ニ於テ背高ク能クナサレタル人々ナリ。或者ハ劍ト而シテ係繩網ヲ(運ビシ)、他ノ者ハ戟ト而シテ網ヲ運ビシ、或者ハ輕キ武裝ニ於テ、他ノ者ハ兵士ノ充分ナル重キ武備ニ於テアリシ、或者ハ兵車ニ於テ、他ノ者ハ徒步ニ於テ、彼等ガ内ニ進ミシ而シテ皇帝ニマデ彼等ノ敬禮ヲナセシ、而シテ一ツノ聲ヲ以テノ彼等ノ祝言カ建物ヲ通ホシテ響キシ、「シーザー萬歲、(余輩其人ハ)將サニ死セントスル所ノ余輩ハ汝ヲ祝スヨ」彼等ハ比武者デアリシ——人民ヲ樂シマスベク死ニ戰フベク訓練サレタル劍擊者ナリ。

(講) 溺者ノ屍ハ鈎ヲ用ヒテ之ヲ引去リ汚血ノ砂ハ新鮮清潔ナル土ヲ以テ蓋ヒ、燻シニ香ヲ薫ラシ、而シテ身長拔群骨格逞シキ壯快列ヲナシテ進ミ出ヅ列中劍及ヒ兵士ヲ網ヲ運フル者アリ、或ハ兵士ヲ網ヲ運フル者アリ、或ハ武備輕裝ナルアリ、或ハ兵士タルノ嚴重ナル武裝ヲナスアリ、或者ハ兵車ニ乘シ或者ハ徒歩セリ、既ニ内ニ進ンテ皇帝ニ敬禮ヲ施シ、「シーザー萬歲、鐘馬將ニ斷テントスル余輩ハ爾ヲ祝スト」一齊ニ發言スル其聲滿場ヲ震動セシメリ。此等ノ人ハ是レ比武者ニシテ人民ヲ樂シマシムルノ目的ニ依リ戰闘シテ斃ル、ノ技ヲ訓練サレタルモノナリ。

總テノ種類ノ闘ヒガ起リシ——輕ク武裝シタル兵士、及ヒ網持チ人——係繩網及ヒ投槍——二人ノ武裝シタル戰士——一騎打チノ總テノ組合、而シテ時トシテハ力士ノ一般ノ亂闘。

(講) 輕裝ノ武士ト纏持テ人トノ戦ヒ、民綱ト投槍ノ勝負、重裝セル戦士ノ對闘、對戦士ノ總組合及カ士ノ一般ノ亂闘ノ若キ數種ノ戰闘起ル。

比武者ガ彼ノ對手ヲ傷ツケシ時ニ彼レハ見物人ニマデ叫ビシ「彼レガ其レヲ持ツヨヒト而シテ彼レガ殺シ或ハ免ステアラウカ就レテ知ルベク見上ケシ。人民ガ彼等ノ拵指テ上ニ保チシ時ニ、若シモ彼レガ能フナラハ打勝レテ手ガ回復スベク殘サレシ。若シモ彼等ガ下ニ彼等ヲ向ケシナラハ彼レガ死スベクアリシ、而シテ若シモ彼レガ死ノ聲チニ向ツテ彼レノ咽喉ヲ現ハスベク或抵抗テ示セシナラハ、其處ニ卑シミノ叫ビガアリシ、「刃ヲ受ケヨ」ト

(講) 一比武者其對敵ニ負傷セシメシ時、觀客ニ向ツテ「彼レ負傷セリ」ト叫ビ且ツ之ヲ殺スベキ乎或ハ之ヲ免スベキ乎其孰レナルヤニ謂シテ觀衆ノ意ノ在ル所ヲ知ラム爲メニ見上ゲタリ。觀客其拵指テ上ケレバ是レ宿スベシトノ意ニテ負傷者ハ捨テ置カル、其場合ニ當ル負傷者ハ間々命運ヲ復スルコトアリ。之ニ反シテ觀客ノ拵指下ニ向ケラル時ニハ間々負傷者ヲ殺スベシトノ合圖ニア、負傷者若シ其咽喉ヲ刺サレシテ恐レ之ニ對シテ抵抗ヲ試ムルナラハ觀衆之ヲ怯トシ囁リ「刃ヲ受ケベシ」ト叫ビ起ル。

余輩ノ多クハバイロンカラ怒リタル哀憐ノ此等ノ貴キ數行ヲ呼出セシ所ノ負傷シタル比武者ノ其最多ク感動スル所ノ偶像ノ形狀ヲ見テハナラナシ。

余ハ私ノ前ニ横ハル比武者ヲ見ル、彼レガ彼レノ手ノ上ニ傾ク、彼レノ男ヲシキ額ガ死ニ

マデ承諾スル、乍併苦痛ニ打勝ツ、而シテ彼レノ垂レタル頭ガ漸次ニ低ク沈ム、而シテ彼レノ脇ヲ徹ホシテ赤キ疵所カラ徐々ニ衰ル所ノ最後ノ滴リガ白雨ノ最初ノ如ク一ツツ重リ落ツル、而シテ今舞臺ガ彼レノ廻リニ浮ム(不人情ナル叫ビ其レハ)惡漢其人ハ勝チシ所ノ惡漢ヲ祝セシ所ノ不人情ナル叫ビガ止ミシ前ニ彼レハ行イテアル。彼レハ其レヲ開キシ乍併彼レハ注意セザリシ彼レノ眼ハ彼レノ心ト共ニアリシ、而シテ其レハ遙カ彼方ニアリシ、彼レハ彼レガ夫ヒシ生命又ハ獲賞ニ就テ注意セザリシ、乍併マニニ一ブノ傍ノ彼ノ粗末ナル小舎ガ横ハリシ所ニ——其處ニ彼レノ若キ野蠻人ガ總テ遊ビニ於テアリシ、其所ニ彼等ノ「ダシアン」ノ母ガアリシ——彼等ノ父ナル彼レハ羅馬ノ祭日ヲナスベク殺戮セシ——總テ之レガ彼等ノ血ヲ以テ突進セシ——彼レハ死シ而シテ復甦セラレヌデアラウ乎、——起テヨ、エス人ナル汝ヨ、而シテ汝ノ怒ヲ滿タセヨ。

(講) 人多クハ詩家バイロンノ作ニ係ル怨怒、高尙ナル詩ヲ誦シテ負傷セル比武者ノ極メテ感スベキ肖像ヲ見タルヤ必セリ。則チ、(マイセン)自ラヲ指ス(ハ余ノ前ニ横ハレル比武者ヲ見ル、比武者ハ其手ヲ地上ニツキテ其身ヲ支へ、其勇マシキ體容ハ能ク苦痛ニ打勝チテ死ヲ見ルコト恰モ歸ルガ如キヲ示ス、而シテ其俯セル頭ハ漸クニシテ俯々下ニ向シ、而シテ其唇血ニ染メル疵口ヨリ徐々トシテ血ヅル末期ノ血ノ照燭ハ、漸次衰ヘテ其狀恰モ白雨ノ來ラムトスル初メニ當リ雨滴點々降ルニ似タリ。而シテ今キ比武者ノ周圍ハ其溢出セル鮮血泉ヲナシテ爲メニ瀾

技場モ浮バムトスル如ク、勝利者ヲ稱讃スルノ不人情ナル結果ハ驚々トシテ尙未
 ダ止マザルニ彼レ負傷者ハ永眠セリ。彼レ賞讃ノ聲ヲ聞ケドモ敢テ之ヲ介意セズ、
 其目ハ其心ト共ニ遙カニ天上ニ在リ、其失ヘル生命ニ就テ若クハ其賞讃ニ就イテ
 更ニ意ヲ注ク所ナシ。然リト雖、ダニユーブ河ノ近傍ナル其陋舎ニハ遊戯ヲ事トセ
 ル其野蠻ノ小兒アリ、彼レダシアン族ノ小兒等ノ母モアリ、其小兒等ノ父ハ羅瑪ノ
 祭日ニ當ツテ諸人ニ快樂ヲ得セシメム爲メ其身殺戮サレタリ。小兒等ハ其父ノ辱
 ラレタル鮮血ヲ以テ熱激シ惟ヘラク、父死シタリ豈復讐セズシテ止ムベケンヤ、起
 テヨゴス人ナル汝ヨ、奮起シテ以テ汝ノ怒心ヲ満足セシメヨ。

(註) Byron 英國ノ詩家名中最著名ナル者ノ一人ニシテ一千七百八十八年ニ生レ一
 千八百二十四年ニ死セリ。

Barbarians 希臘人及ヒ羅瑪人ガ外國人ヲ呼ブニ適用シタル稱號ナリ。

Dacian 往昔ダニユーブ河外ニ據息セシ種族ニ屬セル一支族。

Yolks 上古歐洲ニ住メル蠻氏。

第八十五章

羅瑪ノ古傳

中古ノ羅瑪ニ於テ、私ハ何處カ知ラヌ、其處ニ空中ニ於テ其腕ヲ、而シテ其上ケタル指ニ於
 テ「此處ヲ打テヨ」ノ表示ヲ以テノ明亮ニ輝ク所ノ黄金ノ指環ヲ以テノ肖像ガ立チシ。人民

ガ大ニ愕キシ、縱令誰モガ此等ノ語ガ唯半ハ云ヒ表ハセシ所ノ意味ヲ推量セザリシトハ
 雖モ、遂ニ午時ニ於テ下向キタル眼ヲ以テ彼レノ道ニ於テ過ギツ、アリシ所ノ學ビタル僧
 ガ停歩セシ、而シテ局所ヲ注視セシ、而シテ指ノ影ガ落チシ所ノ其レヲ能ク印付ケシ、而
 シテ夜半ニ於テ還リ來ル所ヲ掘リシ、而シテ地下ノ下ニ導ク所ノ秘密ノ指環ヲ發見セシ。之ヲ
 降ツテ彼レハ壁ノ上ニ燃ユル所ノ寶石ニ依ツテ照ラサレタル廣キ書院ニマデ通過セシ、而
 シテ正面ニ脅カス所ノ身構ヘニ於テ弓ト而シテ失テ以テノ眞鍮ノ肖像ガ立チシ。冠ノ如キ
 其レノ額ノ上ニ威シノ一組ノ此等ノ神秘ナル語ガアリシ「其レ其レハ私ガアル所ノ其レハ
 私デアアル、私ノ命ニ懸ル狙ヒテ誰レモガ免レ能ハス、輝ク焰ヲ越エテデスラモ(免レ能ハ)ヌ。

(譯) 中古羅瑪と稱ぶ國に、その何處かは知らねども、一偶像の立てるあり、その手ハ高
 く空に上げ、指に明光輝ける、黄金の指環を嵌めてあり、指環の上に文字あり、此處を
 打てよと讀まれたり、其を見る人は誰も彼も意味半ばなるその文字の、如何なる事
 や解せざれど、これほどばかり愕けり、斯てその日の正午頃、俯して眼を地に注ぎ、
 道を進める聖僧あり、この偶像の邊りにて、足を停めて、其處眺め、指の影をその
 場所の壁に印をつけてり、斯て其夜も更け行きて、早三更となれる頃、聖僧は再
 び此處に來つ、印をせし場所を掘り鑿ち、地面の下へ通ふべき、人の知らざる指環を見
 る。聖僧は其處を降りて、廣き書院へ行きけるが、壁の寶石きらやかに燃ゆるが如く
 輝けり。見れば書院の正面に、いと嚴めし容にてその手に弓と矢を持てる、青銅製

の像立てりし冠の如くなる、額の上に文字あり、いと恐ろしき類ひある、神秘不思儀の語なりけり
「余は余たるものぞかし、我矢の先に向ふもの、誰とて免れ能ふべき、この光明の輝ける、書院の裡に入るものも、免れ去ること能ふまじし」と

書院ノ中央ニ黄金ノ織物及ビ紅寶石ヲ以テ飾ラレタル鐘ヲ以テ美麗ナル食卓ガ置カレテアリシ面シテ置及ビ小刀ガ黄金デアリシ面シテ多ク保タル交廻及ビ食品ハ黄金デアリシ。其回リニ沈黙、無動目ツ愁然トシテ着飾リタル武装ニ於テ其貌ナル武士ガ坐セシ、面シテ羽毛及ビ帯ヲ以テ美麗ナル貴女、乍併夜等ガ石デアリシ、彼等ノ内ノ心モ石デアリシ面シテ廣潤ナル書院ハ顔ト面シテ心ニ於テ石ナル沈黙ナル群カ各ノ部分ニ於テ充タサレテアリシ。

(讀) 廣き書院の真中に、いと美麗なる卓子あり。上にハ黄金の布をかけ紅寶石もて飾りたる數の鐘を置べたり其が上皿も小刀も、皆黄金もて造りなり。鐘包食品の類ひまで、亦黄金もて造りたり。その食卓の周圍には、軍衣袖武士や、羽毛と帯もて飾りたる、實き夫人ある多りて、云はず動かずうが上に、いと愁はしげに坐に就けり。されど此等の人々ハ、石もて造れるものにして、内部の心も亦石ぞ。斯て書院の此處被造、顔も心も皆石の、云はぬ人もて充たりたり。

迷ハサレタル且ツ愕カサレタル景狀ニ於テ長ク、戰慄スル所ノ僧侶ガ無言ノ愕キニ於テ凝

視セシ、然ル時ニ彼レノ怒心ニ依ツテ大膽ニサレテ、食卓カラ、彼レハ黄金杯及ビ小刀ヲ取リシ面シテ彼等ノ坐カラ突然ニ客ハ躍飛スル所テ、穹窿ノ天井ハ高聲ノ響ヲ以テ鳴リシ、射手ハ彼等ノ呼聲ニ於テ壁ニ於テ輝ク寶石ヲ撒布シツ、彼レノ矢ヲ放チシ、而シテ総テ周圍且ツ頭上、闇黒デアリシ——床ニ於テ倒レテ不幸ナル僧ガ死ニ横ハリシ。

(講) この不思議なる形狀に、聖僧は心もろろにて、震ひるもの、其長髪、ものをも云はで見詰めけり。則て怒情勃興し、衝めに精神もたくなり、卓子のとにちかへたる、黄金造りの酒杯、同じ黄金の小刀を取れば、怪しや、忽ち、卓子を圍む武士等、いと、鋭く起ち上り、書院の天井震動し、射手は高音に呼びつ、其矢を放ち、壁の上の、寶石を散らしたり。斯て今まで懸き、書院の裡は奈麻夜美の、黒白なき闇となりてけり——あはれや、聖僧は幸なくも、息の根絶して倒れたり。

此古傳ノ記者ガ然ル時ニ此等ノ語ニ於テ其レノ恐ルベキ適用物ヲ録ス、偶像ハ古キ敵デアル其入ノ教示スル所ノ指ハ黄金ノ地ニマテ指ス、予輩ノ慾及ビ情ハ占者ノ風采カラ精神ヲ導ク所ノ下向ノ措楯デアル、射手ハ死ナリ、燃ユル所ノ實生ハ生ナリ、酒杯及ビ小刀ハ娑婆ノ物品ナリ、武士及ビ貴女其人ノ肉及ビ骨ノ總テハ情慾ニ依ツテ石ニマテ堅クセラレタ、學者ナル僧侶其人ヲ富有ノ愛ガ彼レノ書物カラ且ツ彼レノ尙貴キ自身カラ迷ハス。

(讀) 此古傳ノ記者ハ左記ノ如キ語ヲ以テ此證ヲ録ス、則チ、指にて黄金の在處をば、指し示したるこの像は、これぞ昔の敵をり、地下に達する楯

段ハ推想の姿より精神を送はる悲情ぞ、射手の則ち死を示し、寶の石は生を見を、寶金の杯小刀は、娯樂の品をば云へるあり、武士と貴女とは情慾の燃ゆるが加きりの爲めに、肉骨石となれるなり。僧は學者を云へるにて、書籍に晒せるりの眼、いよいよ貴き行ひを、富貴を愛するりの爲めに、自らくらまゝに迷ふあり。

學者面シテ世界ヨ、無止ノ争闘、生路ノ一致ニ於テノ不調和ヨ。學問隔離シタル隠所、而シテ書籍ノ總テ快美ナル安靜ノ愛、市場ニ獲物ニ就テ熱心ナル愛、其ノ目的ハ徒ラデアル、而シテ其ノ終リガ苦痛デアル。

(譯)あらゆる學者よ、前人よ、限りもあらで能く勉め、この世をこそすに適ひたる業に害あるりの事は、あつめて除き去りぬか。學びの道に志せ、成るる名をば争ふを、書籍に眼を晒らしてぞ心静けく樂めよ、この世にちちて一筋に、名利得まゝくはりをも、其目的は徒とあり、苦き果を見るぞか。

第八十六章

白露ノ黄金殿、

太陽ノ禮拜ガインカノ格段ナル注意ヲ組立テシ、而シテ彼等ノ奢侈ナル出費ノ目的デアリシ。此神ニマテ捧ケラレタル多クノ殿堂ノ最多ク古キモノハ、テイテイカツカノ嶋ニ於テアリシ、夫レヨリ白露人ノ血系ノ王ノ創業者ガ進ムダベク云ハル、。此事情カラ此寺院ハ格段ナル尊敬ニ於テ保タレシ。

(譯)太陽禮拜ノ一タル白露王ノ特ニ意ヲ注グ所ニシテ之レガ爲メニハ元費ヲ顯ミルコトナシ。其禮拜ノ爲メニ建立シタル殿堂中最モ古キモノ是ナテイテイカツカ島ニ在ルモノトス、此島白露系統王家ノ祖先出產ノ地ナリト云フ、故チ以テ該島ノ寺院ハ特ニ尊敬セラレタリ。

其レニマテ属スル所ノ各物ハ、殿堂ヲ圍繞スル所ノ玉蜀黍ノ廣圍及ビ其レノ領地ニ就テ形造ラレタル部分デスラモ其レノ神聖ノ一部分ニ就テ分前取リシ。年々ノ産物ハ彼等ノ包持物ノ殘物ヲ神聖ニスルデアラウ所ノ或物トシテ、各々ニマテ少量ニ於テ種々ノ公廩ノ間ニ分配セラレシ。彼レ自身ノ穀倉ニ向ツテ惠マレタル収獲ノ一穂デスラモ得能ヒシ所ノ人ハ幸福デアリシ。

(譯)其殿堂ニ付属スル各物ハ、其周邊ノ廣闊ナル玉蜀黍園及ヒ其領地内ノ一部分ト云ヘドモ、聖物ノ一部トナレリ。領地比年ノ産物ハ之ヲ種々ノ公廩中ニ少許ツ、分藏ス、其意蓋シ廩中他ノ貯藏物ヲ渾テ神聖マラシムルニ在リ。人若シ此等神領地ニ産シタル聖穀ノ一穂ヲ得テ之ヲ自倉ニ藏ムルヲ得ハ、極メテ幸福ナル事トセリ。

乍併白露殿堂ノ最多ク著名ナルモノ、首府ノ高慢及ビ帝國ノ異常ハ(クツク其處ニ)代々ノ主權者ノ恩惠ノ下ニ其レハ其レガ「ユリカンカ」則チ「セ、ブレース、チフ、ゴールド」ノ名稱ヲ受取リシヲホド左程ニ富サレテナリタリシ所ノクツクニ於テアリシ。其レガ都府ノ中心ニ於テ地面ノ大ナル廣ガリヲ覆フ所デ而シテ(壁其レハ)普請ト共ニ総テ石ニ就テ組立テラ

レシ所ノ壁ニ依ツテ充分ニ圍繞サレタル主タル建物及ビ種々ノ寺院及ビ尙劣リタル建物カ
ラ成立チシ。

(調)然ルニ白晝國ノ殿堂中、殊ニ顯著有名ナルモハクツクニ在ルモノニシテ、是レテ
首府ノ誇示物、帝國ノ奇觀トス。此クツクノ地タルヤ、歷代ノ皇帝ノ恩惠ヲ被リ、爲メ
ニ至富ヲ致シテ「コリカンカ」則テ「黄金地」ノ名稱ヲ得ルニ至レリ。該殿堂タル都府ノ
中心ニ位シ、鋪地頗ル廣潤ニシテ本堂及ビ種々ノ寺院附屬ノ建物等アリ、四邊繞ラ
スニ石造ノ牆ヲ以テス、其牆亦種々ノ建築物ト接ス。

工事ハ(西班牙人其人ハ)其レノ結構ニ於テ其レヲ見シ所ノ西班牙人ハ彼レガ(西班牙其レ
ハ)彼等ノ事業ニ向ツテ全ク其レト比較サレテアルベクアリシ所ノ西班牙ニ於ケル唯ニツ
ノ普請ト思考スベク呼ビ能ヒシテ予輩ニ確ムル事ホド左様ニ立派ニ仕遂ゲラレテアリシ。
乍併此實跡ノ而シテ或關係ニ於テ壯麗ナル建築ガ榮チ以テ昔カレテアリシヨ。

(調)此殿堂ノ煥爛タル築造ヲ目撃セル西班牙人ハ之ニ對シテ確言スラク、我西班牙
國中此殿堂ト全ク比肩スベキモノ唯ニ箇アルノミト以テ其華麗壯觀思フベキナ
リ。然ルニ此成リ立チ且或點ニ就テハ壯麗ナル建築物ナレドモ、之ヲ譽クニ當テ以
テシタリ。

殿堂ノ内部ハ稱嘆ノ最多キ價值デアリシ。其レハ文學上黄金ノ山デアリシ。西方ノ壁ニ於テ
(光輝ノ無數ノ光線其レハ)各ノ方向ニ於テ其レカラ閃出スル所ノ光輝ノ無數ノ光線カラ眺
メ出ス所ノ人間ノ容貌ニ就テ成立ツ所ノ神ノ現ハレガ飾ラレシ。肖像ハ「エメラルド」及ビ
他ノ貴價ナル石ヲ以テ厚ク振カケラレタル巨大ナル大サノ黄金ノ重大ナル延板ニ於テ鐫刻
サレテアリシ。

(調)殿堂ノ内部ハ驚嘆スベキ價值アリ。字義上之ヲ稱シテ金山ト云フヲ得。其西方ノ
壁ニ無數ノ光線ヲ八方ニ射出セル神像ヲ安置ス、其像其軀ヨリ射出スル光線ヲ眺
ムル所ノ人間ノ容狀ヲ象レリ。

此像「エメラルド」石及ビ他ノ貴價ナル石ヲ鑿メタル、重大ナル黄金板ニ鐫刻セリ。
其レハ朝ノ太陽ノ光線ガ(光澤其レハ)天然ノヨリモ尙多ク見エシ所ノ而シテ其レハ(黄金ノ
裝飾其レテ)以テ壁ト而シテ天井ガ何處デモ表面ヲ覆ハレテアリシ所ノ黄金ノ裝飾カラ反
照シテアリシ所ノ光澤ヲ以テ空室ヲ照ラス所デ、其レノ昇ルトニ於テ直接ニ其レノ上ニ落
チシ事程左様ニ大ナル東方ノ入口ノ前面ニ於テ据エラレテアリシ。

(調)此像ノ位置ハ東方ノ入口ノ前面ニ在ルヲ以テ朝暉東天ニ昇ル時ハ其直射ノ光
線ヲ受ケテ光輝ヲ増シ、壁及ビ天井ノ全面ヲ蓋ヘル金飾ヨリ發シテ而モ日光ヨリ更
ニ燦然タル反射光リヲ以テ空室ヲ煥爛メラシメタリ。

黄金ハ「太陽ニ依ツテ泣カレタル涙」デアルベク人民ニ依ツテ云ハレテアリシ、而シテ殿堂
ノ内部ノ各部ハ貴重ナル金屬ノ輝ケル延板及ビ大頭釘ヲ以テ輝キシ。(柱ノ上部其レハ)寺院
ノ壁ヲ圍繞セシ所ノ柱ノ上部ハ同シ價值アル材料ニ就テアリシ、而シテ石細工ニマテ儉メ

ラレタル金ノ廣帯或ハ柱飾ハ普請ノ至外面ヲ圍繞セシ。

(圖)此國ノ人民ハ云ヘリ「黄金ハ太陽ノ涙滴ノ凝成物ナリ」ト而シテ殿堂内部ハ一面ニ貴金屬ノ延板ト大頭釘トヲ以テ燦爛タリ。又寺院ノ壁ヲ圍繞セル柱ノ上部モ同種ノ貴金屬ヲ以テ造レリ、而シテ石細工ノ中ニ嵌入セル黄金ノ廣帯ト柱飾トハ建築物全外面ヲ繞レリ。

主タル建物ニ附属スル所ノ尙小ナル大サノ數々ノ小寺ガアリシ。彼等ノ一ツガ「インカ」ノ母トシテ尊敬ニ於テ次ニ保タレタル神ナル、月ニマテ神聖セラレシ。彼女ノ偶像ハ、幾ンド室ノ一傍ヲ蓋ヒシ所ノ巨大ナル延板ニ於テ太陽ノ其レノ如キ同ツ仕方ニ於テ表ハサレテアリシ。乍併此延板並ビニ建物ノ飾リノ總テハ美麗ナル遊行星ノ青白キ銀ノ如キ光輝ニマテ適當セシトシテ銀ニ就テアリシ。

(圖)本堂ニ附屬スル小形ノ寺院數箇アリ。其中ノ一寺月ニ祀セララル月ハ白露王ノ母ナリトシテ太陽ニ次イテ尊崇セララル、神ナリ。其像ハ太陽ノ像ト同ツク幾ンド室ノ一隅ヲ覆ヘル巨大ナル延板面ニ彫刻セリ。然レドモ其延板並ビニ建築物ノ裝飾ハ總テ銀ヲ以テス是レ太陽星ノ美麗ナル光輝蒼白ニシテ銀ノ如クナルニ由リ之ニ模セルナリ。

其處ニ三箇ノ他ノ小寺ガアリシ、其ノ一ツガ太陽ノ姉妹ノ輝キタル朝廷ヲ形造セシ所ノ星ノ群ニマテ捧ゲラレテアリシ、他ノモノガ雷及ビ電ナル仇敵ノ彼レノ恐ロシキ大臣ニマテ

而シテ第三ノモノハ(虹霓其レノ)多色穹形ガ幾ンド其レ自身ノダケ其レダケ發光ノ色ヲ以テ建物ノ壁ヲ纏ヒシ所ノ虹霓ニマテ神聖ニセラレテアリシ、其處ニ其他(無數ノ僧其人ハ)殿堂ノ勤ヲ行ヒシ所ノ無數ノ僧ノ住所ニ向ツテ種々ノ他ノ建物或ハ離レタル室ガアリシ。

(圖)其他三箇ノ小寺アリ、其一ハ太陽ノ姉妹ノ廷ヲ組成セル群星ニ供シ他ノ一ハ太陽ノ復讐ヲ主宰セル恐ロシキ大臣、雷ト電トニ供シ其第三ノ小寺ハ虹霓ニ供ス、該寺ノ壁ハ幾ンド虹霓ノ實物ノ如キ大穹形分彩ノ色澤燦然トシテ光輝ヲ放テリ。其他殿堂ノ事務ヲ執掌スル無數ノ僧侶ノ居住室ナル建築物許多アリ。

宗教ノ必要ニマテ供セラレタル總テ延板、裝飾、各ノ種類ノ器具ハ黄金及ビ白銀ニ就テアル後者ノ金屬ノ十二ノ大ナル瓶ハ、玉對黍ノ粒ヲ以テ充タサレテ大ナル客殿ノ床ノ上ニ立チシ、蓋物ニ向ツテノ香爐、捧物ニ向ツテ水ヲ保ツ所ノ水罐、建築物ニマテ地中ノ渠ヲ通ホシテ其レヲ導キシ所ノ水管、其レヲ受取リシ所ノ貯水器、殿堂ノ花園ニ於テ用ヒラレタル耕作ノ器械デスマ同シ富シタル物質ニ就テ總テアリシ。

(圖)教用ニ供スル延板裝飾、各種ノ器具等源テ金銀ヲ以テ製ス、十二ノ大銀瓶ハ玉對黍ノ粒ヲ盛リ客殿ノ床ノ上ニ据ヘタリ。煮物用ノ香爐、捧物用ノ水ヲ容ル、儀、陪集ヲ通シテ堂内ニ水ヲ導ク管、其水ヲ受クル貯水器、堂付ノ花園ニ用ユル栽培具ニ至ルマテ悉ク同種ノ貴金屬ヲ以テ製セリ。

花園ガ金及ビ銀ノ花及ビ植物界ノ種々ノ模擬物ヲ以テ輝キシ。動物ガ又其處ニ見出サルベ

クアリシ、——其間ニ其金ノ毛ヲ以テノ駱駝ハ最モ卓越ナルモノデアリシ——同シ法則ニ於テ仕送ラレタル、而シテ(熟練ノ度其レハ)蓋シ、此例ニ於テ物質ノ卓越ニ超過シナサリシ所ノ熟練ノ度ヲ以テ。

(謂)花崗ハ金銀色ノ花及ビ各種ノ植物模倣品ヲ以テ爛々タリ。國中動物アルアリ、就中金毛ノ駱駝ハ他模倣物ノ遠ク及バザル所ニシテ其工ノ精妙ナル蓋シ材料ノ貴キト雖モ、豈之ニ比スベケンヤ。

蓋シ國民ノ儀式ノ總テニ就テ最モ壯麗ナルハ太陽ガ彼レノ道ノ南方ノ極端ニ觸レタ所デ彼レノ面前ニ依ツテ彼レノ擇ビタル八民ノ心ヲ喜ハスベキ乎ノ如ク彼レノ道ヲ跡返ヘリシ時ノ夏至ノ時限ニ於テ保タレタルレミノ祝宴デアリシ。此時ニ於テ國ノ種々ノ地方カラ印度人ノ貴族ガ大ナル宗教ノ祭典ニ於テ部分ヲ取ルベク首府ニマテ群リシ。

(謂)蓋シ國民ノ舉行スル儀式中其最モ宏壯華美ナルモノハ夏至ノ候ニ執行スルレミノ祭典ナリ夏至ノ候ハ太陽其通路ノ南端ニ至リテ更ニ其軌道ヲ戻リタル時ニシテ、此軌道ヲ戻ルコトハ恰モ太陽其面前ノ人民ヲ喜ハシムル爲メニ之ヲ爲スモノ、如シ○祭典舉行ノ當日ニハ之ニ會セム爲メニ國ノ諸地方ヨリ土民ノ貴族首府ニ群來ス。

以前三日ノ間其處ニ一般ノ斷食ガアリシ、而シテ一ツノ火ガ住居ニ於テ點サルベク允サレテアラザリシ。定メラレタル日ガ到着セシ時ニ「イソカ」及ビ彼レノ從臣ハ都府ノ全人民ニ

依ツテ從ハレテ太陽ノ上ルコトニ致意スルベク大方形地ニ於テ早キ天明ニ於テ集リシ。

(謂)祭日前三日間ハ一般ニ食ヲ斷テ而シテ住居内ニ火ヲ燒ク事ヲ禁ズ。其定日ニ到レバ國王其從臣ト共ニ全府民ヲ從ヘテ朝暎ノ昇天ヲ祝セム爲メニ黎明ノ頃、出テテ廣闊ナル場ニ集レリ。

彼等ハ彼等ノ最華麗ナル衣服ニ於テ着服シテアリシ、而シテ印度ノ貴族ハ彼等ノ頭ノ上ニ貴價ナル裝飾ト而シテ寶石ノ現ハシニ於テ相互ト共ニ競争セシ、然ル間彼等ノ頭ヲ越エテ從者ニ依ツテ担ハレタル派手ナル羽細工及ビ富ンデ彩色サレタル織物ノ天蓋ハ其レニマデアゲシ所ノ大方形地及ビ街衢ニマデ一ツノ大ナル且ツ壯麗ナル帳帷ヲ以テ越エテ廣ケラル、コト容貌ヲ與ヘシ。

(謂)國王以下群衆ノ諸人ハ、最モ華美ナル衣裳ヲ粧ヒ、土民ノ貴族ハ貴重ナル裝飾寶石ノ美粧ヲ競ヘリ。然ル間此等貴族ノ頭上ヲ蓋ヘルモノニテ華美ナル羽毛細工及ビ鮮麗ナル彩布ヲ以テ造リ、其從者ノ携ヘタル天蓋ハ恰モ日ノ出祝拜地タル廣場及ヒ之ニ到ルベキ街巷ノ上ニ、一面ニ一大美麗ナル帳帷ヲ張レルノ觀ヲ呈セリ。

熱心ニ彼等ハ彼等ノ神ノ來ルコトヲ見張リシ、而シテ彼レノ最初ノ黃ナル光輝ガ首府ノ小塔及ビ最高ノ建物ヲ打ツヤ否ヤ、快樂ノ叫ビガ彼レノ禮拜者ノ上ニ充分ナル美麗サニ於テ輝イテ東ノ方ニ山脈ノ上ニ昇ル所ノ彼レノ輝キタル球ノ如ク倍々聲高ク (Low'erward louder) 腫脹セシ所ノ凱旋ノ歌ト而シテ野蠻ノ樂器ノ粗野ナル快音ニ依ツテ伴ハレテ集マリタル群衆

クアリシ、——其間ニ其金ノ毛ヲ以テノ駱駝ハ最モ卓越ナルモノデアリシ——同シ法則ニ於テ仕遂セラレタル、而シテ(熟練ノ度其レハ)蓋シ、此例ニ於テ物質ノ卓越ニ超過シナサレリシ所ノ熟練ノ度ヲ以テ。

(講) 花國ハ金銀色ノ花及ビ各種ノ植物模倣品ヲ以テ爛々タリ。國中動物アルアリ、就中金毛ノ駱駝ハ他模倣物ノ還ク及マザル所ニシテ其工ノ精妙ナル蓋シ材料ノ貴キト雖モ、豈之ニ比スベケンヤ。

蓋シ國民ノ儀式ノ總テニ就テ最モ壯麗ナルハ太陽ガ彼レノ道ノ南方ノ極端ニ觸レタ所デアレノ而前ニ依ツテ彼レノ擇ビタル八民ノ心ヲ喜ハスベキ手ノ如ク彼レノ道ヲ跡返ヘリシ時ノ夏至ノ時限ニ於テ保タレタルレミノ祝宴デアリシ。此時ニ於テ國ノ種々ノ地方カラ印度人ノ貴族ガ大ナル宗教ノ祭典ニ於テ部分ヲ取ルベク首府ニマデ群リシ。

(講) 蓋シ國民ノ舉行スル儀式中其最モ宏壯華美ナルモノハ夏至ノ候ニ執行スルレミノ祭典ナリ夏至ノ候ハ太陽其通路ノ南端ニ至リテ更ニ其軌道ヲ戻リタル時ニシテ此軌道ヲ戻ルトハ恰モ太陽其面前ノ人民ヲ喜ハシメシメニ爲メニ之ヲ爲スモノ、如シ○祭典舉行ノ當日ニハ之ニ會セム爲メニ國ノ諸地方ヨリ土民ノ貴族首府ニ群來ス。

以前三日ノ間其處ニ一般ノ斷食ガアリシ、而シテ一ツノ火ガ住居ニ於テ點サルベク允サレテアラザリシ。定メラレタル日ガ到着セシ時ニ「インカ」及ビ彼レノ從臣ハ都府ノ全人民ニ

依ツテ從ハレテ太陽ノ上ルヲニ致意スルベク大方形地ニ於テ早キ天明ニ於テ集リシ。

(講) 祭日前三日間ハ一般ニ食ヲ斷チ而シテ住居内ニ火ヲ燒ク事ヲ禁メ、其定日ニ到レバ國王其從臣ト共ニ全府民ヲ從ヘテ朝暾ノ昇天ヲ祝セム爲メニ黎明ノ頃、出テテ廣瀨ナル場ニ集レリ。

彼等ハ彼等ノ最華麗ナル衣服ニ於テ着服シテアリシ、而シテ印度ノ貴族ハ彼等ノ躰ノ上ニ貴價ナル裝飾ト而シテ寶石ノ現ハシニ於テ相互ト共ニ競爭セシ、然ル間彼等ノ頭ヲ越エテ從者ニ依ツテ担ハレタル派手ナル羽細工及ビ富ソテ彩色サレタル織物ノ天蓋ハ其レニマデアゲシ所ノ大方形地及ビ街衢ニマデーツノ大ナル且ツ壯麗ナル帳帷ヲ以テ越エテ廣ケラル、トノ容貌ヲ與ヘシ。

(講) 國王以下群衆ノ諸人ハ、最モ華美ナル衣裳ヲ粧ヒ、土民ノ貴族ハ貴重ナル裝飾寶石ノ美粧ヲ競ヘリ。然ル間此等貴族ノ頭上ヲ蓋ヘルモノニテ華美ナル羽毛細工及ビ鮮麗ナル彩布ヲ以テ造リ、其從者ノ携ヘタル天蓋ハ恰モ日ノ出視拜地タル廣場及ヒ之ニ到ルベキ街巷ノ上ニ、一面ニ一大美麗ナル帳幕ヲ張レルノ觀ヲ呈セリ。

熱心ニ彼等ハ彼等ノ神ノ來ルヲ見張リシ、而シテ彼レノ最初ノ黃ナル光線ガ首府ノ小塔及ビ最高ノ建物ヲ打ツヤ否ヤ、快樂ノ叫ビガ彼レノ禮拜者ノ上ニ充分ナル美麗サニ於テ輝イテ東ノ方ニ山脈ノ上ニ昇ル所ノ彼レノ輝キタル球ノ如ク倍々聲高ク(Tow-terand-terand) 應賑セシ所ノ凱旋ノ歌ト而シテ野蠻ノ樂器ノ粗野ナル快音ニ依ツテ伴ハレテ集マリタル群衆

カラ破レ出デシ。

(圖)祝拜者ハ熱心ニ其神廟チ太陽ノ出現ヲ待チ而シテ方サニ日ノ出ナラムトスルニ際シ黃光先ツ首府ノ小塔及ビ最高ノ屋上チ照ラスヤ否ヤ無慮幾百萬ノ群衆ハ凱旋歌及ビ不精ナル樂器ノ野調ニ伴フテ歡樂ノ叫聲ヲ發ス。其聲タル此等神拜人ノ頭上ニ至英至麗ナル光輝ヲ放チテ、東方ノ山脈上ヨリ湧出スル光球ノ漸次ニ高ク昇ルガ如ク、次チ遂フテ倍々高シ。

崇拜ノ通常ノ儀式ノ後飲食供物ハ玉蜀黍ノ或ハ墨西哥蘆葦ノ發酵シタル流動物ヲ以テ充タサレタル大ナル黄金ノ器カラ「インカ」ニ依ツテ大ナル神ニマデ捧ゲラレテアリシ、其レハ王ガ彼自身其レヲ味フタリシ後、彼レガ彼レノ王族ニマデ分配セシ(處ノ發酵シタル流動物云々)。

此等ノ儀式ガ完全セシ、大集會ガ行列ノ順席ニ於テ整ヘラレシ、而シテコンカンカノ方ニ其レノ道ヲ取リシ。

(圖)通常ノ禮拜式終ツテ後、國王ハ繼ミ出テ、玉蜀黍又ハ墨西哥蘆葦製ノ發酵飲料チ大ナル黄金瓶ニ盛リ以テ之ヲ首神太陽ニ捧獻ス、此飲料ハ捧獻後國王先ヅ之ヲ嘗メ而シテ其王族ニ分與スルナリ。斯ノ如キ儀式完ク了ツテ、群衆ハ行列ノ順序ヲ整ヘ堂々トシテアコリアンカニ向ヒ進行ス。

第八十七章

將軍 ワズワーズノ崩及ビ逃レ。

將軍ベレグ、ワズワーズガバガデユースニ於ケル小丘ノ上ノ不列顛ノ砦ニ入込ムヲニ於テ成功セシ事ノ其レガ不吉ナルベノブスコットノ遠征ノ充分ナル散布ノ後長クアラザリシ。彼レハ其レヲ去ルヲニ於テ尙多キ困難ヲ持チシ。

(圖)ベレグワズワーズ將軍、バガデユースニ於ケル丘上ノ不列顛砦ニ闖入シタルハ、不運ナルベノブスコット遠征軍ノ完ク解散シタル後幾クモナキ間ニアリ。將軍其堡砦ヲ退去スルニ就テ頗ル困難ヲ爲シ。

彼レノ民兵ノ解散ノ後將軍ハメイノ洲トーマストンニ於テ彼レノ陣營ヲナセシ、其處ニ彼レガ顯然タル安全ニ於テ彼レノ妻ト共ニ住ミシ。フェンノト命名サレタル若キ貴女ト面シテ六人ノ民兵ノ護衛ガ彼レノ砦ヲ充分ニセシ。バガデユースニ於テ命令スル所ノ將軍カムプベルガワズワーズノ防守ナキ有様ニ就テ能ク告知サレテアリシ而シテ來リ而シテ砦ニ於テ住ムベク誘引ヲ彼レニ送ルベク決定セシ。

(圖)ワズワーズ將軍其民兵ヲ解散スルヤメイノ洲トーマストンニ陣所ヲ營ミ、夫人ト共ニ外觀上安全ニ日ヲ送り、フェンノト呼ベル妙齡ノ貴女及ビ六人ノ民兵ノ護衛ヲ以テ此陣所ヲ堅メタリ。バガデユースニ於ケル指揮官カムプベル將軍、ワズワーズワーズ將軍ノ營、防守微弱ナルヲ聞知シ、乃チ已レガ案ニ來住セムヲ勸誘スルノ使者ヲ送ラムト決心ス。

副將及ビ二十五人ガワズワーズノ家ニ於テ消息ヲ以テ夜ノ死ニ於テ到着セシ。番兵ガ挑戦セシ而シテ逃レシ。將軍ワズワーズガスパータ人ノ勇悍ヲ以テ彼自身ヲ防禦セシ。短銃及ビ短銃ナル、拳銃ノ一對ヲ以テ鎧ハレテ彼レハ(廳及ビ戸其レテ)通ホシテ彼等ハ退ク所ノ番兵ニ從ヒタリシ所ノ廳及ビ戸カテ彼方ニ彼レノ攻撃者ニ闘ヒシ彼レノ寢衣ニ於テ着服シテ唯彼レノ銃槍ヲ以テ彼レハ射撃ガ彼レノ左腕ヲ不適當ニセシマテ尙長キ或時ノ間從フベク賤ミシ。然ル時彼レノ周圍ニ傷ツケラレテ横ハル所ノ五六人ト、破碎シタル廳及ビ火ニ於テノ家ヲ以テペレグワズワーズハ云フベク適當デアリシ、(余ハ降ルト)。

(譯)副將及ビ二十五人ハカムプベル將軍ノ消息ヲ窺シテ深夜ワズワーズノ家ニ到着セリ。之ニ對シテ番兵ハ直チニ戰ヲ挑ミ且クシテ逃走セリ。是ニ於テワズワーズ將軍夫ノスパータ人ノ如キ勇剛ヲ示シテ自ラ防戦セリ。將軍一對ノ拳銃ヲ執リ以テ先キニ番兵等ガ退キタル廳戸ヨリ、縋イテ入り來レル敵兵ヲ退ケムトシテ奮戰ス。身ニ寢衣ヲ裝ヒ、手ニ僅ニ銃鎗ヲ携ヘ、敵ノ彈丸其左腕ヲ傷ケテ之レガ用ヲ失フニ至レルモ降服ヲ辱カラズトシ尙ホ若干時防戦セリ。既ニシテ其身邊ニハ敵人ノ負傷者倒ル、アリ、加フルニ廳破レ家焼ク事遂ニ成スベカラザルヲ見テ、始メテ將軍ハ「余ハ降ルト」トノ止ムヲ得ザル發音ヲ爲セリ。

(註)Fuseハ長キ筒キ銃身ナル小形ニシテ輕キ銃ナリ。
Blunderbuss一時ニ數丸ヲ容ル、ニ至ルベキ類ル廣キ穴ヲ有スル、短銃ノ一種類ナリ。

彼等ハ彼レノ奮勵ヲ以テ疲ラサレテ面シテ寒ヲ以テ凍エタル彼レヲ皆ニマテ取リシ、其處ニ彼レハ囚虜ニ閉テ保タレシ。後或時將軍ト共ニ勸メタリシ所ノ武官バートンガ又囚虜トナリ彼レト共ニ同室ニ於テ置カレシ。ワズワーズガ確約ニ向ツテ申出デシ。其レガ嫌ハレテアリシ。知事ハソコツクガ交換ノ申出ヲ以テ交換書ヲ送リシ。其レガ否マレテアリシ。一日彼レハ(フェンノ令嬢其人ハ)數語ニ於テ彼レガ戰爭ノ終リマテ留メラレテアルベクアリシ事ヲ知ルベク彼レニ與ヘシ所ノフェンノ令嬢ニ依ツテ訪問サレシアリシ。彼レガ然ル時逃ルベク決心セシ。

(譯)カムプベル將軍ノ使事ヲ奉ジテ來リ軍人等ハ奮勵ノ結果氣力疲レ且ツ寒威ニ襲ハレテ身軀凍エタル降將ワズワーズヲ捕ヘ之ヲ砦中ニ禁錮セリ。後幾クモナク武官バートン又俘囚トナリ將軍ト同室ニ錮セラル。將軍敵ニ約束スル所アラムト申出テタリ。敵之ヲ諾セズ。知事ハソコツク俘囚ヲ贖ハムヲ要求スルノ書ヲ送レリ。之モ亦否マル。一日將軍、フェンノ令嬢ノ訪問スル所トナリ、戰爭局ヲ結ブノ曉ニ至ルマテ禁錮セララル。是ニ於テ逃亡ノ決意ヲ爲セリ。

囚虜ハ、窓ハ格子付ケラレテ戸ハ(木匡其レテ)通ホシテ出入口ニ於テノ勸ニ於テ絶ニズ番兵ガ彼レガ彼レノ周圍ヲ緩歩セシ時ニ室ニマテ眺メ能ヒシ所ノ木匡ヲ以テ用意サレテ士官ノ陣所ノ一室ニ於テ閉テラレテアリシ。此通路ノ各ノ端ニ於テ(砦ノ屯所其レニ)於テ他ノ番

兵ガ置カレシ所ノ砦ノ屯所ノ上ニ開ク所ノ戸ガアリシ。日没ニ於テ門ガ閉ギラレテアリシ而シテ胸牆ニ於テノ番兵ノ數ハ増加セシ。哨兵ガ又大陸ト結合スル所ノ狹キ地峽ニ於テ置カレシ。

(講)將軍及ビ武官ニ囚虜ハ士官ノ營中ノ一室裡ニ禁錮セラル、其室ノ廳ニハ格子ヲ造リ付ケ、戸ニハ木匡ヲ備ヘタルヲ以テ常ニ出入口ヲ護衛スル番兵其四邊ヲ巡回スル時、室内ヲ透見シ能フ。此出入口ノ各端ニ戸アリ、他ノ番兵ガ配置サレタル砦ノ屯所ノ上ニ開ク。日没スルニ及ンテ門戸ヲ閉サシ胸牆ノ番兵ヲ増置ス。又大陸ト接續スル所ノ狹隘ナル地峽ニハ哨兵ノ配置サレタルアリ。

此等ハ彼等ノ道ニ於テ困難ノ總テアラザリシ。通路ニ於テノ番兵ヲ通過スベク適當ト彼等ヲ假定スル所テ面シテ彼等ノ陣所ノ外傍ノ戸ニ於テ彼等ハ然ル時ニ開イタル塙所ヲ横切リ而シテ胸牆ニ於テ置カレタル番守ノ目ノ下ニ壁ヲ登ラテハナラヌ。遂シタル胸壁ノ絶頂ヲ免ス所テ外面ノ壁ハ砦ノ土ノ壁ニマテ斜ニ追ハレタル強キ哨兵ヲ以テ防守セラレテアリシ。

(講)上記ノ防禦ハ將軍等ニ囚虜ノ道路ニ横ハル雜物ナレドモ、酒ホ之ノミニアラズシテ他ニ幾多ノ難所アリ。假リニ將軍等ヲ出入口及ビ此陣所ノ外面ノ戸ニ配置サレタル番兵ノ一難所ヲ過グルニ足レルモノトスルモ、次ニ度キ空所ヲ過ギテ番兵ノ守護セル胸壁ヲ登ラザルヲ得ズ。猶ホ此胸壁ヲモ除ヘタリト假定センニ、之ニ次

テ更ニ一列ノ外壁アリ、此外壁ト砦ノ土壁トノ間ニハ斜ニ配置サレタル哨兵ノ陣卒護衛スルアリ。

此點カラ漆ノ底マデニ二十呎ノ直クナル下リガアリシ。此處ニ到着シテ逃走人ガ郭ヲ登リ而シテ(柵其レヲ)以テ其レガ供セラレテアリシ所ノ柵ヲ横切ラテハナラヌ。彼等ガ然ル時ニ水ニ依ツテノ外彼等ノ自由ヲ得ルコト一ツノ出來ベキ手段ナキヲ以テ砦ナシニアリシ。頭ニ於ケル哨兵ヲ逃レルコトハ就テ考ヘラレルベクアラザリシ。

(講)土壁ヨリ漆ノ底マデ直下ニ十呎アリ。既ニ此處ニ到リテ逃走人ハ又郭ヲ登リ柵ヲ超エザルヲ得ズ。之レヲ過ギテ後一ツノ砦アルナキモ尙其逃走ヲ遂ゲテ以テ自由ヲ得ルニ至ランニハ、水ニ入りテ之ヲ渉ルノ外施スベキ適當ノ手段ナキ難アリ。然リ而シテ地峽ニ配置サレタル哨兵ノ如キニ至ツテハ之ヲ過ギテ逃走スルノ方復々考フルニ足ラヌ。

囚虜ノ室ハ松板ヲ以テ天井付ケラレテアリシ。或詭言ノ上ニ彼等ハ奴僕カラ螺旋付ノ錐ヲ得シ、其ヲ以テ彼等ハ人ノ跡ヲ免スベク充分大ナル穴ヲ造ルベクダケ左様ニ板ヲ穿チシ。間隙ハ到着スルデアラウ行爲ニ向ツテノ瞬間ニマテ觸レサル隅角ヲ殘ス所テ小刀ヲ以テ通ホシテ切ラレシ。彼等ガ然ル時ニ麵包ヲ以テ穴ヲ充タセシ、而シテ注意シテ床カラ塵ヲ去リシ。

(講)囚虜ノ禁錮室ハ松板ヲ以テ天井ヲ張レリ。將軍等ハ此ニ託シテ奴僕ヨリ螺旋付ノ錐ヲ得之ヲ以テ人跡ヲ入ル、ニ足ルベキ大サノ孔ヲ板ニ穿テリ。既ニ穴ヲ穿

ツテ筒ホ之レヲ小刀ニテ削リ以テ逃走ノ時機熟シ此穴ヲ出ヅル瞬間ニ支体ノ隅角ニ觸レザル準備ヲナス然シテ麵包ヲ以テ其穴ヲ塞ギ、意ヲ用ヒテ床上ノ塵埃ヲ掃ヘリ。

此労働ハ番兵ガ彼等自身ノ室ノ二倍ノ長サニマデ一樣ノ距離ニ横行セシ間施行サルベク持チシ。囚虜ハ張番ヲ以テ歩ミヲ保チツ、彼等ノ床ヲ徐歩セシ而シテ彼レガ通過シタリシヤ否ヤ(パートン其人ハ)尙背高クアリシ而シテ天井ニ達シ能ヒシ所ノパートンガ労働ヲ始メシ然ル間ワズワズガ歩行セシ。兵卒ノ近接ニ於テパートンハ速ニ彼レノ伴侶ニ再ビ合セシ。三週ガ此仕事ヲ仕遂ゲルベク要セラレテアリシ。各ガ毛布及ビ端ニ於テ鋭クサレタル強キ杖ヲ以テ準備シテアリシ。食物ニ向ツテ彼等ハ彼等ノ上皮及ビ彼等ノ肉ノ乾キタル片ヲ持チシ。

(謂)穴ヲ穿ツノ事タル巡回ノ番兵、禁錮室ノ長サノ二倍ニ等シキ距離ニ去リシ時ヲ以テ着手スルヲ例トス。將軍等固囚虜ハ床上ニ緩歩シテ巡回ノ番兵ニ眼ヲ注ギ、其通過スルヲ俟ツテ直チニパートンハ仕事ヲ始ム(パートン身長高クシテ天井ニ達スルコトヲ得ルヲ以テ勞テ執レルナリ)然ルニワズワズ將軍ハ歩行シテ注意ヲ保ツ。兵士ノ接近シ來ルアレバパートンハ直チニ仕事ヲ止メ將軍ト共ニ歩行ス。此仕事ヲ成功スルニ三週ノ日子ヲ要セリ。囚人各自毛布ト其一端ノ銳ク尖リタル硬質ノ杖トヲ用意シ、食料ニハ麵包ノ上皮ト乾肉ノ小片トヲ貯ヘタリ。

彼等ハ暴烈ナル雷雨ガ半島ヲ越エテ掃ヒシ時ノ一夜ニマデ待チシ。其レガ甚ダ暗黒ニナリシ。雨ハ兵舎ノ屋根ノ上ニ急流ニ於テ落チシ。行爲ニ向ツテノ瞬間ガ來ル。囚虜ハ通常ノ如ク彼等自身脱衣セシ而シテ番兵ニ依ツテ注視サレテ臥床ニマデ行キシ。彼等ガ然ル時ニ彼等ノ蠟燭ヲ消セシ、而シテ迅速ニ起チシ。

彼等ノ企圖ハ彼等ガ外ニ次ノ(通路其レハ)護ラレズニアルベク知リシ所ノ通路ニ達セシマデ垂木ニ沿フテ匍匐シツ、彼等ノ室ノ上ノ空處ノ場所ヲ得ルベクアリシ。其處カラ彼等ハ事情ガ決定シ得シ如ク働キツ、北ノ外郭ニマデ彼等ノ道ヲナスベクアリシ。

(謂)將軍等ハ一夜迅雷暴雨全半島ヲ轟カシタル時マテ待チタリ。其夜暗慘咫尺ヲ辨セズ。雨ハ車輪ノ如ク兵舎ノ屋上ニ注グ。今ヤ脱出ノ時機到ル。將軍等例ノ如ク自ら着服ヲ脱シ番兵ノ目前ニ臥牀ニ行ク。既ニ臥牀ニ至ツテ蠟燭ノ燈火ヲ消シ直チニ起テリ。

其脱出ノ企圖タル、次ノ出入路ニハ番兵ノ配置サレザルヲ知ルヲ以テ、其處ニ達スルマデ禁錮室上ノ空所ヲ、垂木ニ沿フテ匍匐シツ、行キ既ニ其處ニ達シテ後ヲ機ニ臨ミ變ニ應ジテ策ヲ廻ラシ以テ北方ノ外郭マテ急行スルニ在リ。

パートンガ空際ヲ通ホシテ通過スベク最初ノモノデアリシ。彼レハ彼レガ、鶏ノ一群甚止リ木ヲ彼レガ襲フタリシ所ノ鶏ノ一群ニ逢ヒシ前唯ダ僅カノ道ヲ進ミタリシ。ワズワズガ此新危難ノ最初ノ時ニ向ツテ彼レニ價付ケシ所ノ鶏鳴ニマデ呼吸ナキ配慮ヲ以テ耳傾ケ

シ。遂ニ其レガ番兵ノ注意ヲ打ツタリナシニ止ミシテ將軍ガ困難ヲ以テ彼レノ順番ニ
登リシ。彼レハ氣附ケラレズニ樓閣ニマデ距離ヲ越ヘテ通過セシ、而シテバートンガ開イテ
殘シタリシ所ノ戸ニ依ツテ外側ニ得シ。

(譯)バートン北ツ穴ヲ出ツ。出テ、儘カニ逃^スミシ時、其所ニ臨^ルル鷓鴣ニ逢ヒテ之ヲ
愕カシタリ。愕カサレテ鷓鴣聲ヲ發ス、之ニ對シテ將軍痛ク配慮シ呼吸ヲ殺シテ耳
ヲ欬ツ。此時將軍惟ヘラク是此道逃^ルノ成否ニ關スル一大事ナリト然ルニ幸ヒナル
カナ此鷓鴣番兵ノ注意ヲ惹クニ及バズシテ止ム、而シテ將軍ハ其順番到リ苦難ヲ
強^クシテ登レリ。將軍番兵ノ爲メニ注目スル所トナラズシテ遠隔セル樓閣ニ達シ、暫
キニバートンガ明放^{アケテ}シ置キタル戸ヨリ外ニ出デタリ。

西方ノ側ニマデ兵舍ノ壁ニ沿フテ彼レノ道ヲ感ズル所デ、彼レガ斜ナル道ニ依ツテ外郭ニ
達スル所デ波堤ニ向ツテ大胆ナル衝キヲナセシ。此瞬間ニ於テ守兵舍ノ戸ガ投ケ開カレシ、
而シテ聲ガ叫バレシ、二惡メヨ、外ヘ向ケニト。幸ヒニモ護兵ハ逃走人ヲ見ルコトナシニ過ギ
シ。彼レハ集會場トシテ一致シタル鐘頭塔ニ達セシ、乍併バートンガ其處ニ在ラザリシ。一
ノ時ガ矢ハルベクアラザリシ。杭ニマデ彼レノ毛布ヲ確ムル所デ彼レハ其レガ免ステアラ
ウダケ其レダケ遙カニ彼自身ヲ下ラセシ。而シテ濠ニマデ偶然ノ事變ナシニ落チシ。此處カ
ラ彼レハ水路ニ依ツテ徐カニ通過セシ、而シテ城塔ナシニ開イタル空氣ニ於テ立チシ。其レ
ガ干潮デアル所デ將軍ガ大陸ニマデ入江ヲ徒涉セシ、而シテ河ナ上ニ彼レノ道ノ好ク克キ

モノテナセシ。朝ニ於テ彼レガ彼レノ仲間ニ依ツテ再合セラレテアリシ、而シテ兩人ガ彼等
ノ勢力ノ渾テヲ要セシ所ノ奮勵ノ後安全ニペノブスコットノ對岸ニ達セシ。彼等ノ逃亡ハ
リセルノ日ニ於テノバステイトルノ小説ノ如クアル。

(譯)將軍ハ暗夜ニ道ヲ探ツテ兵舍ノ橋ニ沿ヒ西側ニ至リ、斜ナル路ヲ經テ外郭ニ達
シ勇マシク波堤ヲ踏ユ。此時早ク彼時運ク護衛兵舍ノ戸開キ、惡メヨ、外ヘ向ケヨノ
叫聲アリ、然レドモ幸ヒニシテ衛兵ハ逃走者ヲ目撃スルナク過キタリ。既ニシテ將
軍豫メバートンニ會セムト約シ置キタル所ナル、鐘頭塔ニ達シタルガ、此キニ出テ
タルバートン何故乎其處ニ在ラズ。然リト雖モ爲メニ一瞬時モ躊躇スベキニアラ
ズ。是ニ於テ將軍其所傍ノ毛布ヲ杭頭ニ掛ケ、之ニ懸^スツテ及ブベキダケ低ク其身ヲ
下ダシ。後チ毛布ヲ捨テ、臨下セルヲ以テ無難ニ濠底ニ下レリ。其レヨリ水路ヲ傳フ
テ徐行シ、漸クニシテ塞外ノ廣濶ナル場所ニ出テタリ。時ニ低濶ナルヲ以テ將軍ハ
徒足入江ヲ涉リ、大陸ニ達シ。苦辛ヲ耐ヘテ島メテ河流ヲ過レリ。翌且將軍其友バー
トンニ會ス。相携ヘテ共ニ其全カヲ盡シハノブスコットノ對岸ニ安着シタリ。此兩
人ノ遁逃タル恰モ夫^カノルセルノ時代ナルバステイトルノ小説ト其趣相似タリ
(註)Basil's 著名ナル佛蘭西ノ塔ニシテ其塔及ビ塔^{アキナ}ヲ平獄ニ用ユ。此獄裡ニ監ケル、人
ハ獄外ノ事ヲ忘レ逃遁ノ念ヲ斷ツト云フ。

Rochester 一千五百八十五年ニ生レ一千六百四十二年ニ死シタル人ニシテ著名

第八十八章

雪園

其短キ十二月ノ日ガ灰色ノ小丘ノ上ニ不愉快ニ上リシ而シテ暗ク圍マレテ、臘月ヨリモ尙ホ暗ラキ光輝ヲ正午ニ於テ與ヘシ。濃キ空ヲ徐々ニ追ヒツ、其默シタル及ビ豫見スベキ前見ナル前兆ガ脅カシヨリモ尙少ク見ユル所デ、其レハ其レガ没スル前ニ視覺カラ沈ミシ。強シトハ雖モ手織ノ一ツノ外衣ガ寒サヲ充分ニ防ギ能ハザリシ、銳クサレタル顔ニ於テノ脈管血ノ循環、或ハ清血ヲ防止スル所ノ寒氣ノ烈シキ鬱積シタル劇烈ガ吹雪風ノ來ルヲ告ゲシ。風ガ東ニ吹キシ、余輩ハ彼レノ冬ノ海濱ニ於テ大洋ノ吼聲ヲ聽キシ。而シテ低キ音ヲ以テ余輩ノ内地ノ空氣ヲ其處ニ打ツ動悸スル所ノ強キ脈搏ヲ感ゼシ。

(講今は極月、日の短き頃です、木の葉枯れ落ちて、見る影もなく疲せ衰へたる丘の上
に、太陽は悄悄といた弱き光りで昇りまゝして、淡暗い暈にかこまれて正午でさへも、
光りは臘月夜のやうです、綿のやうな雲の中から、うろくくと西へ傾きて、天候の變
動が人を脅かすの前兆と云ふほどにはありませむが、暗に前徴を示して、また西
山の懷へ入らぬ先きに、早黒雲に隠れまゝして、人目には隠れませむ。この頃の寒さ、手
製織物の上衣は、大丈夫ではござりますが、あかくこの嚴しい寒氣を防ぐことは
かなひませむ、餘りのきびいさな顔色も悪くありませむ、血脈の循環も妨げられませむ

りしてこれが今に吹雪風か來るてふことを知らせませす、寒しい烈しい風は東の方に
吹き荒れまゝして、荒磯に浪の碎くる響が聞えます。りして低き調子よき運動で私共
の心臓の裡に、動脈の強く持つのを感じました。

其間予輩ハ予輩ノ夜ノ仕事ヲ爲セシ、——戸ノ外カラ薪ヲ内ニ持來タセシ、廐ニ藁ヲ布キシ、
而シテ草置場カラ、牝牛ノ爲メニ牧草ヲ集メシ、彼レノ穀物ニ向ツテ嘶ク所ノ馬ヲ開キシ、
而シテ、待兼子ヲ横木ノ列ノ下ニ角ノ上ニ角ヲ銳ク衝キツ、家畜ガ彼等ノ胡桃ノ屈ミヲ搖
カス、然ル間樺ノ足場ノ棒ノ上ニ彼レノ早キ止木カラ規ヒツ、牝雞ガ彼レノ雞冠ヲ曲ゲシ、
而ニ下ニ彼レノ歎願スル所ノ挑聲ヲ送リシ。

(講りの時私共は夜仕事をいたしました——これは戸の外から薪を持ちこんだのです、
りして廐に藁を布きまゝして、りして牝牛に與へる筈の飼草に草置場から取つて來
ました、馬が其食料を望んで嘶く聲が聞えます、家畜が餌を待兼ねて其小舎の横木
の下で烈しく角と角とを衝き當て、居ます。雞もりの止り木の上から首をつき出
して物欲一げに鳴いて居ます。

或日没ノ光輝ニ依ツテ暖メラレズニ灰色ノ日ガ夜ニマテ暗クサレシ——夜ガ群ヲ以テ白ク
サレテ、而シテ眩マス所ノ嵐ノ旋轉ガ極形ノ如ク彼方此方ニ動搖シツ、浮ビタル雪ヲ横切
リ而シテ再ビ横ギリシ、而シテ早キ寢時ガ來リシ前ニ白キ降雪ハ窓ノ木匡ニ積リシ而シテ
硝子ヲ通ホシ蓋ハレタル柱ハ長高キ且ツ蔽ハレタル幽靈ノ如ク見エシ。

(讀)終日日光は暖くありませむりて綿のやうな雪が重つた曇天が暗くありま
 て、時は夜に入りまゝた、——りの夜は雪が強く降りまゝて、りて烈しい風が日も
 明けられぬ程吹き荒れて、降る雪を、彼方此方に吹き飛ばします。りて、まだ腹の
 には早いと思ふ前に雪は應の匡に積りました。りて硝子越しに見るは、雪の
 爲めに覆はれまゝて、恰是背の高い幽霊のやうに見えます。

左様ニ全夜長ク嵐ガ陰リシ、朝ガ太陽ナシニ破レシ、天然ノ測量學記號ノ線ヲ以テ形造クテ
 レタル小サキ圓形ニ於テ、輝キタル雪片及ビ結晶形ニ於テ終日白キモノガ降リシ、而シテ第
 二ノ朝ガ輝キシキ予輩ハ知ラレザル世界ニ於テ眺メシ、何モニ於テ予輩ハ予輩自身ノト
 呼ビ能ハザリシ。輝ク所ノ怪物ヲ越ヘテ蒼穹ノ青キ壁ガ曲リシ、一ツノ雲ガ上ニナク、一ツ
 ノ土ガ下ニ無ク、——青空ト而シテ雪ノ宇宙ニ予輩ノ古キ親シキ視エガ驚クベキ形ヲ取リ
 シ、奇妙ナル屋上室及ビ塔ハ小屋或ハ穀小舎、或ハ花園ノ壁或ハ森ノ一帯ガ立チシ所ニ起
 リシ、滑カナル白キ堤ハ小枝ノ堆積ナルヲ示シ、境ナキ積雪ハ一度道デアリシ所ノ者ヲ示シ
 馬繫ギハ綾ノ懸リタル上衣而シテ高ク高マリタル帽子ヲ以テ老ヒタル人が坐セシ、井戸側
 ハ支那風ノ屋根ヲ持テシ、而シテ尙又高ク遠カリテ桔槔ハ其レノ傾キタル美ニ於テピサノ
 傾キタル不思議ニ就テ告ゲルベク見エシ。

夜ガ近ヅキシ時ニ而シテ西ニ高マリシ所ノ茂リタル丘陵ノ頂上カラ雪ニ吹カレタル旅行者

ナル太陽ガ眩マス所ノ堤ノ下ニ視エカラ沈ミシ時ニ予輩ハ注意ヲ以テ煙筒ノ背ニ對シテ薪
 ノ予輩ノ夜ノ積物ヲ積ミシ一椗ノ木片ハ青ク、大キク而シテ茂リ、而シテ其レノ頂上ニ於テ
 強硬ナル突張棒ヲ積ミシ節アル前ノ突張棒ヲ離シテ置キシ、而シテ奇ナル術ヲ以テ粗キ柴
 ナ間ニ置キシ、然ル時ニ近ク近寄ル所ヲ予輩ハ最利ノ赤キ火炎ノ顯ハレテ見張リシ鏡キ爆
 聲ヲ聞キシ、白ク洗ハレタル壁及ビ曲ル所ノ棟木ニ於テ光輝ヲ捕ヘシ、古ク粗ク備ヘラレタ
 ル部屋ガ草花ノ如ク薔薇ノ花盛ニマデ化セシマデ、然ルニ輝ク所ノ積雪ガ外側ニ眞似ノ尖
 ナ以テ光ルベクナリシ而シテ裸ナル枝ノ連翹樹ヲ通ホシテ予輩自身ノ温暖ナル火爐ガ自由
 ニ燃エツ、見エシ。

外部ノ世界カラ閉込メラレテ、余輩ハ硝子及ビ戸ニ於テ破ルベキ荒レニ於テ北風ヲシテ唸
 ラシムベク満足シテ、清ク焼ヘタル火爐ノ周リニ坐セシ、然ル間予輩ノ前ノ赤キ木片ハ熱帯
 ノ熱ヲ以テ嚴寒ノ線ヲ退カセシ、前ノ尙高聲ノ暴風ガ其ガ過シ時ニ棟及ビ垂木ヲ揺カセシ
 時ニ常ニ其叶フ所ノ流通ノ上ニ煙筒ノ大ナル咽喉ガ尙愉快ニ笑ヒシ、飼犬ハ廣ゲタル彼レ
 ノ手ニ於テ大ニマデ彼レノ眠タキ頭ヲ置キシ、壁ノ上ノ猫ノ黒キ影ハ横ハリタル虎ノガ落
 ツルベク見エシ、而シテ冬ノ火ノ邊リニ向ツテ鉄架ノ廣ガリタル足ノ間ニ徐々ニ温マル「サ
 イダー」ノ酒杯ト、列ニ於テ水吐キタル林檎ガ出會フ、而シテ手ニ於テ密接シテ籠ガ栗色ノ
 十月ノ森カラノ栗ヲ以テ立チシ。

(購)斯極き鐘棒で夜通し嵐が簫々と吹きまゝた、則て夜は明けたが太陽は見えませむろして恰是天然に測量學の記號が出来たかと思はる、やうに、小さき圓を輝いた結晶形の雪が終日ちら／＼と降りまゝた。日の朝と暮りまゝた時一面に銀世界と變つて私共が見覺のきい景色を顯はして丸で昨日と同じ我等が住むた世界だと云へない形容でした。霞々たる白雪の上に蒼穹懸りて、空に一點の雲なく地に一點の土を顯はしたる所なく、宇宙は唯だ青空と雪とを昨日まで見馴れた景色は今朝からりと變りまゝて奇妙な屋上室や小塔が、小屋敷物置又は花園の塙或は一帶の森のあつた所に出現しまゝた。滑らかなる白き塙と見ゆるは前日の小枝の堆積でござりまゝて、何處が境目とも別らぬ一面の積雪は昨日の道路でも、馬糞をば、ゆつくりといた溜ひ上衣を被りて、ろ／＼と高い帽子を頂いた老人が坐して居る形狀で、井戸側は支那風の屋根を象りまゝてろ／＼と高く上の方へ奇麗に傾いた桔槔は、恰是夫の名高き以太利のピサの斜塔の不思議を示したやうでそ

夜に間もまゝりまゝた時に、西の方に高く時て居る小山の上から、次第に終日雪に吹れた太陽は隠れまゝた。ろの頃私共は夜の準備の薪をば、意を用ひて煙筒の後に積まゝした、——則ち、背き太き薪のある樺木を積まゝして其上を丈夫な棒で壓し付けて、ろ／＼と又節のある木片をば別に離れて積み、其間に奇妙な仕方で粗朶を

一ぱい積み込まゝした、斯うして、近寄りて火の燃はて居るのを眺め、／＼と燃ゆる木の鳴る音を聞きまゝた、ろの煙火の光りが白壁や棟木まで照して居ます、又古びた粗末な部屋も煙火の影に映じて大層うるはしく見は、丸で菩提の花盛りかと思ふ程でも、時に戸の外の積れる雪は程の火影を受けて火煙のやうな光を放ちまゝ、ろの容子は、私共が殻りを取つて居る所を火煙の火が、戸の外の運廻樹の間に燃はて居るやうでそ。

戸の外のものとは一切交りを通ちまゝして、私共は廳の硝子板や戸に掃々／＼と嵐の吹きつけて露々と驟で音を聞き流しに、愉快に燃は上りたる火煙の傍で團樂の樂いさを取つて居まゝたが、煙火の暖かさは、熱帯地の熱度のやうで、如何に暖き寒さをも退けてしまひまゝた、ろ／＼と暴風が更に劇しひ聲で以て棟や壘木に吹きつけます時に、煙筒の大きな筒口はろの露々と鳴る空氣の流動助成風に對して愉快らしく笑ふやうで、た、飼犬は火の方に對ひて手を廣く伸ばし、眠むさうな眼を突き出して横つて居ます、又猫の寝姿が壁の上に黒き影を寫して居ます、ろの影の形は恰是寅の影のやうです、ろ／＼と火爐の周りに團樂する人の爲めには、煙架の足の間に、ゆる／＼と過る酒がありまゝ、又ろの傍に林檎が過まつてろの腐から水を吹き出して居りまゝ、ろ／＼と手近に冬枯れの森から取り入れた栗の實を

盛り込んだ籠があまりまも。

夜ハ如何ニ爲セシトモ何ノ事情乎、北風ハ如何ニ荒レシトモ何ノ事情乎、高ク吹ケ低ク吹ケ其レノ雪ノ総テガ余輩ノ火爐ノ火ノ光輝ヲ消シ能ハザリシ。

(譯)夜は如何やうにあらうとも何事ぞ？地風は如何に暴るゝとも何ん事もない。強く吹かば吹け徐く吹かば吹け、どれほど雲を吹くとも、火爐の熾火を消す事は出来ぬ。

第八十九章

アマゾンノ護謨樹

其レノ河口カラミスシツピー河ヲ上ル所デ、人ガ四ノ大支流ヲ通過スル——レツドアーカ
ンサスチヒチ及ビミツソーリナリ、ミツソーリハ其レノ進ミニ於テプレット及ビエルロー
ストーンヲ受ケ取ル、其故ニ予輩ハ長サニ於テ七百哩ヲ超ユル所ノ、共ニ六支流ヲ計算シ能
フ。之レガ、亞細亞又ハ亞非利加ノ川ガ持ツヨリハ尙大ナル數テアル。

(譯)シツシツピー河ヲ其河口ヨリ上流ニ遡ルニ四大支流ニ會フ、則チレツトアーカ
ンサスチハイチミツソーリ是ナリミツソーリハ又プレツドエルローストーンノ
ニ支流ノ流注ヲ受ク。故ニ此河延長七百哩ノ六支流ヲ合流スルナリ。亞細亞亞非利
加兩大洲所在ノ大河ハ斯ノ如ク多クノ支流ヲ持ツ。ナイルハ只三四ヲ持ツ、其レハ半年ノ間幾ソド
ナイガーハ至ク一ツノ大ナル支流ヲ持タス、ナイルハ只三四ヲ持ツ、其レハ半年ノ間幾ソド

乾イテアル。楊子江ハチハイチダケ其レダケ長キ一ツノ單ナル支流ヲ持ツ、而シテ再餘ノ者
ヲ以テモ左様ナリ。南亞米利加ニ於テバラナガ、各レツド河ダケ其レダケ大ナルアラガイ及
ビバラガイヲ受取ル。左様ニ遙カ、比較ガミスシツピーニマデ好マシクアル。

(譯)ナイガー河ハ全ク大支流アルナク、ナイル河ハ只三四ヲ持ツ、(其支流ハ年中
半バハ幾ソド乾燥セリ)楊子江ハチハイチ河ト同一ノ延長アル一支流ヲ有スルナ
ク、其他ノ大河皆同シ。南亞米利加ノバラナガ河ニ支流ノ合注スル所、而シテ其支流ノ
大サレツド河ニ伯仲ス、是チアラガイバラガイトス、是ニ由ツテ之ヲ見ルニ、比較上
ミスシツピー河ヲ以テ最多ノ支流ヲ有スルモノトス。

今アマゾンノ地圖ニ於テ瞥見セヨ。其處ニ長サニ於テ七百哩ヨリハ尙多クテ量ル所ノ少ク
モ十六支流ガアル。彼等ノ最多クガ一千ニ過ズル。此等ノ大ナル支流ノ或物ガ幾ソド彼等自
身ダケ其レダケ大ナル流レヲ受クル而シテアマゾンニマデ流ル、所ノ尙小ナル川ガ充分ノ
一百或ハ以上ヲ計算スルデアラウ。河ノ王アマゾンガ王ノ如キ列ヲ保ツ。

(譯)アマゾンノ地圖ヲ見ルベシ。アマゾン河ニハ延長七百哩ニ超ユル支流少クモ十
六アリ。就中最モ長キハ一千哩ヲ超過ス。斯ル大支流中又其大サ殆ソド同一ノ支流
ヲ受クルモノアリ。而シテアマゾン河ニ流注スル尙小ナル支流ハ其數一百乃至以
上アルベシ。實ニ河王アマゾンハ王者ノ如キ列ヲ保テリ。

アマゾンノ大ナル谷ヲ學ブニ於テ予輩ノ最初ノ歩ミガ本地ト而シテ水入地ノ間ニ區別ス

ベクアルデアラウ、予輩ハ彼等ガ天然ニ於テ限ラレテアル如ク其レダケ銳ク予輩ノ心ニ於テ此等ハ二ツチ分離セテバナラヌ。縦令ヒ其レガ本地ノ上唯數時デアリ得ルトハ雖モ本地ハ常ニ汎濫ノ達シテ超エテアル、其レガ多クノ塙所ニ於テ顯出スル所ノ尙古キ岩ノ基礎ヲ持ツ。之ニ反シテ(On Conifers)水入地ハ明カニ河其レ自身ニ依ツテ形造ラレタ、其レノ嶋及ビ平地ハ折々ノ砂堤ヲ以テ泥及ビ粘土カラ築上ケラル、乍併彼等ガ決シテ石多クアラヌ、而シテ唯特別ノ點ハ最高キ汎濫ノ上ニ數時アル。

(註)アマゾンノ沃野ヲ研究スルニ就イテハ先ヅ本地ト沼澤地トノ區別ヲナスベシ。然リ而シテ本地ト沼澤地トハ天然ニ分割シレタルヲ以テ之ヲ研究スルニ當リテモ亦判然分界ヲ立テアルベカラヌ。本地ハ沼澤地ヨリ高キト僅々數時ニ過ギズト雖モ而モ常ニ沼澤ヲ受クルトナシ、而シテ其地層ハ往昔ノ盤石ニシテ地上所々ニ突出セリ。之ニ反シテ沼澤地ハ河ヨリ成立セルト明晰ナリ、其島及ビ平地ハ臨時ノ砂堤ト共ニ泥及ビ粘土ヨリ成ル、然レドモ決シテ石多カラヌ、而シテ唯二三特別ノ地トシテ洪水汎濫ノ最高面ヨリ數時ヲ援ク。

余輩ノ最初ノ逍遙ハ彼等ノ沼多キ森而シテ牧場ノ大ナル廣互而シテ半ハ水ニ沈ミタル植付地ヲ以テ「バーシアス」則チ水入地ノ嶋及ビ小流ノ間ニアルデアラウ。盲目デアラヌ所ノ或者ガ植物ノ非常ナル美麗サニ依ツテ彼レノ内部ニ動カサレテ彼レノ精神ヲ感シテバナラヌ。土地ノ僅カハ見ラレヌ、水カラ上ニ眞直ニ森ガ壁ノ如ク起ル、——繁茂セル壯麗ノ稠密ナル暗黒ナル入込ムヘカラザル一百呎ノ。而シテ積重チタル塊ノ中カラ到ル所ニ破レ出シタル所ノ數千ニ依ツテ椰子樹ガアル、此處ニ向ツテ椰子樹ガ朝廷ヲ保ツ、其外、廣キ地ニ於テ何處デモ予輩ガ其レヲ見ル如ク蓋ハレザル彼等ノ光榮ガアル。若シモ獨リ立ツ所デ椰子樹ガ樹木ノ最多ク美麗ナルモノト貴マル、ナラハ數十又ハ數百ニ依テハナリ然レモ數千ニ依テ而シテ熱帶ノ地外ニハ決シテ見ラレヌ如斯キ森ノ基礎ニ於テ彼等ノ數ガ數ヘラル、時ニ何ト予輩ハ云フデアラウ乎。

(註)余輩ハ先ヅ沼澤多キ森林、及ビ廣漠ナル牧場、且ツ半ハ浸水サレタル植付地ナル沼澤地則チ「バーシアス」ニ逍遙スルナルベシ。假リニモ兩眼ヲ具ヘタルモノハ必ズヤ植物ノ美麗壯觀ナルヲ以テ内心大ニ感動スベシ。水中ヨリ直立セル茂樹ノ爲メニ蓋ハレテ一點ノ土地ヲ見ズ其茂樹ノ狀タル青葉繁茂稠密陰翳ニシテ入込ムベカラザル如ク其高ヤ一兩呎ニ及ブ、而シテ萬樹鬱蒼恰モ一塊集ノ如キ森林中ヨリ各所ニ數千株ノ椰子樹聳立ス。斯ノ如ク椰子樹ノ繁茂セルハ萬事能ク之ニ適當セルヲ以テナリ、凡ソ椰子樹ノ美觀ナル、單ニ一株ノ時ツアルモノ之ヲ見テ賞セザルハナシ況ンヤ其幾千株ノ叢生繁茂セル且ツ熱帶地外ニ於テハ之ヲ見ルト能ハザル如キ鬱蒼タル樹林ノ其下部ヲ充塞セルヲ目撃セバ人果シテ之レヲ賞スルニ如何ナル會テ以テスベキ乎?

景色ハ無限ニ變セラレテアル、時トシテハ椰子樹ガ隱レテアル、乍併然ル時デサヘモ大ナル

回轉スル所ノ塊ガ其レヲ組成スル所ノ樹木ノ百或ハ以上カラ非常ナル變化ニ就テ滿チテアル、而シテ再ビ椰子樹ハ別カレザル權ヲ保ツ、或ハ唯ダ灌木及ビ低キ攀ツル所ノ蔓草ガ彼等ノ壯麗ヲ弱クスル。水ノ縁ニ依ツテ下ニ花咲ク所ノ「コンソウルヴリ」ガ「アーボレスセント、エラムス」ノ楯ノ如キ葉ト共ニ混交セラル、而シテ「マングラヴス」ガ彼等ノ竹馬ノ如キ根ヲ以テ高ク立ツ所テ、其處ニ彼等ガ川口ノ潮ニ依ツテ洗ハル、。

(講)光景ハ到ル所種々無量ニ變化ス。或ハ椰子樹ヲ見ル能ハザルヲアリ、然レドモ其場合ニ於テハ万樹鬱蒼相重ツテ大地集チナシ、形狀異様ニ變化シテ奇觀ヲ呈ス。或ハ椰子樹景色ノ全權ヲ占ムルヲアリ、其場合ニハ他ニ大樹アルナク唯ダ灌木ト蔓草トノ美景ヲ帶クルアルノミ、水邊ニハ花爛熳タル「コンソウルヴリ」「アーボレスセント」「ボレスセント」エラムス」ノ楯狀葉ト相混セリ且又「マングラヴス」ノ其根ヲ現出シテ生シ河口ノ流潮ニ洗ハル、アリ、

印度人ノ導者ガ護謨樹ノ數ヲ指示ス、而シテ余輩ガ彼等ノ白キ幹及ビ輝ク所ノ燦爛タル綠ノ木葉ヲ認識スベク學ブ。此低キ潮入地方ガ最多ク重要ナル護謨地區ノ一ツデアアル而シテ土人ノ數百ガ生護謨ヲ蒐集スルヲ及ビ準備スルヲニ於テ使役セラル、。臨時ニ余輩ハ海濱ニ沿フテ杭ノ上ニ建テラレタル而シテ常ニ熱病及ビ「リユーマチズム」ノ豫告スベキ、濕氣アル、蒸發スル所ノ陰鬱ナル、彼等ノ藪葺ノ小舎ヲ見ル、如何トナレバ彼等ガ河カラ貴クアルトシテ潮入ノ低地ハ多クノ護謨蒐集人ガ病氣テ而シテ死ニ見出シタ所ノ内部ノ沸騰シタル沼デアアル故ニ。

ル沼デアアル故ニ。

(講)土人ノ案内者ハ護謨樹ノ無數ナルヲ指示ス、之ニ由ツテ余輩ハ其白色ノ幹及ビ燦然タル鮮綠色ノ葉ヲ知得ス。此濁水浸潤セル低地ハ護謨樹ノ栽培ニ佳地ニ佳地ニ地ノ一ナリ、而シテ數百ノ土人生「ム」ヲ蒐集シ且ツ之ヲ製造スルニ使役セラル。時々予輩ハ沿濱ノ地ニ於テ杭頭ニ建築サレタル藪葺ノ陋屋ヲ見ル、其屋内濕氣蒸發氣充滿シ且ツ頗ル陰鬱ニシテ熱病及ビ「リユーマチズム」病ノ集積ト想像サルベキ暗室ナリ、何ヲ以テ之ヲ病室ノ集積ト想像スルヤ則チ其小舎所在ノ地タル一面ノ沼ニシテ之ヲ河ニ比スレバ較々佳地ナリト雖モ復々是レ潮水滋潤ノ低地ナル爲メニ許多ノ護謨製造者此處ニ發病且ツ死亡スルヲ以テナリ。

護謨樹ハ沼ノ如キ森林ヲ通ホシテ撒布サレテアル、其處ニ予輩ガ木片ヲ超エテ登リ而シテ泥ノ水溜ニマテ沈ミ而シテ水溜リヲ飛ブ、其處ニ蚊ガ血ヲ渴望シテアル、而シテ天然ガ濕氣テ而シテ暗黒テ而シテ脅カシツ、アル、——其所ニ沈靜ガ野獸及ビ鳥ニ依ツテ破ラレズニアル、感ゼラレ能フ所ノ沈靜。

(講)護謨樹ハ沼澤多キ森林中各所ニ散立ス、其地ニ予輩ハ木片ヲ越エテ登リ、或ハ沼池ニ入り或ハ水溜リヲ翻飛ス、其邊蚊群ガリテ血液ヲ吸ハムヲ渴望セリ、而シテ自然ニ濕氣深ク、且ツ暗慘悽愴タリ、然リ而シテ野獸野禽ノ聲ヲ聞クナク四面寥々トシテ其幽邃神氣ニ微感ス

早キ朝ニ於テ男及ビ女ガ彼等ノ背ニ於テ土器ノ籠及ビ木ヲ伐ルベキ小斧ヲ以テ來ル。白キ乳汁ガ切目カラ滴リ落ツル所ニ彼等ハ至キ流レテ捕ヘルベキダケ左様ニ形造ラレタル粘土ノ塗物ヲ以テ幹ノ上ニ彼等ノ受器ニ粘着サセル。若シモ木ガ大ナル者デアルナラハ四乃至五ノ切目ガ幹ノ周圍ニ圓形ニ於テ切ラレ得ル。

(註)早朝男女ハ其背ニ土器ヲ入レタル籠ト木ヲ切ルベキ小斧トヲ負ヒテ來ル。白色ノ乳液、幹ノ切口ヨリ滴下スル所ニ受器ヲ附着セシメテ之ニ滴下スル全液ヲ受クル、此受器タル全ク此液ヲ受クルニ佳適ナルヲ圖ツテ造レルモノナリ、若シ樹木大ナルモノナレバ幹ノ周圍ニ圓狀ヲナセル四五ノ切目ヲ圖クナリ。

次ノ日ニ於テ他ノ切目ガ此等ノ僅カ下ニ造ラル、而シテ左様ニシテ列ガ地面ニ達スルマデ。十一時ニ依ツテ乳液ノ流レガ止ンダ、而シテ土人ガ瓢箪ノ容器ニ於テ受器ノ在中物ヲ集メルベク來ル。各ノ木カラ至極ノ產物ガ「シル」或ハ左様ニアル、而シテ單個ノ蒐集人ガ常ニ此等ノ暗黒ナル沼ヲ通ホシテ徒涉シツ、而シテ熱病及ビ衰弱ニ依ツテ彼ノ利益ニ向ツテ貴ク拂ヒツ、一百而シテ二十ノ木又ハ尙多クニマデ注意シ得ル。

一日ノ蒐集高ハ精密ニ乳液ノ如キ觀ニ於テノ白キ流動物ノ一瓢デアラデアラウ、若シ此有様ニ於テ殘サレシナラバ、其レガ一時ノ後凝結ス而シテ劣等ノ白キ「ゴム」ヲ形造ル。商品ノ黒「ゴム」ヲ造ルベク乳液ガ製造ノ格段ナル處置ヲ通ホシテ行カチバナラス。「タタマ」椰子ノ堅キ質ヲ以テ養ハレタル燻ル所ノ火ノ上ニ、廣口ノ無底容器ノ如キ粘土ノ煙筒ノ種類ガ置

カル、此煙筒ヲ通ホシテ濃烟ガ絶ニザル流レニ於テ注グ。今護謨蒐集人ガ彼レノ模型ヲ取ル——此場合ニ於テハ丸ク又ナツケタル燒ノ如キ木ノモノ——乳液ヲ以テ其レヲ洗フ而シテ流物ガ凝結スルマデ烟ノ上ニ其レヲ保ツ。

然ル時ニ他ノ上履ヒガ附ケ加ヘラル、——唯、木ガ熱セラル、トシテ、今乳液ガ尙速ニ凝結スル。充分厚ク模型ヲ蓋フノ其レガ二三日ノ蒐集物ヲ取り得ル。然ル時ニ護謨ガ尙ホ鈍白デアアル乍併暫時ニ於テ其レガ褐色ニ變ズル、而シテ終ニ其レガ市場ニ迄送ラレテアル時ニ幾ンド黒ク。塊ガ本形カラ切ラル而シテ村落ニ於テ商賈ニマデ賣ラル、瓶ガ時トシテハ粘土ノ玉ノ上ニ護謨ヲ形付ケルコトニ依ツテ製セラル、其レガ然ル時ニ破ラレ而シテ移サル、(處ノ粘土ノ玉云々)

二月カラ六月或ハ七月迄雨多キ月ノ間此地面ガ水ノ下ニアル、而シテ土人ノ小舎ガ全ク見捨テラル、洪水ガ全ク蒐集ヲ伸入レセマデアラウ、護謨ガ然ル時ニ弱クアルコト其レガアラザリシ而シテ比較上僅カノ價ニ就イテ(アルコト)其レガアラザリシナラハ。其他木ガ續キタル夏ノ吐水ノ爲メニ間貯ヘルベク此時限ノ間要スル。

護謨ガ此等ノ低地ノ幾ンド唯ノ產物デアアル。全地方ガ單ニ外爾カラ思考ヲ越ヘテ美麗ニ、内部ニハ陰鬱ナル荒地ノ森ヲ以テ掩ハレタル小流、小湖及ビ沼ノ無端ノ引續キデアアル。

(譯)翌日ニ至ツテ前日ノ切目ノ僅カ下邊ニ又切目ヲ付ケ漸次地面ニ至ルマデ斯ノ如クス。十一時ニ至ツテ乳液ノ流出止ム、是ニ於テ土人ハ瓢箪ヲ以テ造レル容器ヲ

持チ來リ之ニ受器ヲ以テ受ケタル乳液ヲ集メ移ス各樹産スル所ノ乳液ノ最多額ハ一樹「シ」乃至以上トス。然リ而シテ一人ノ乳液採收者常ニ陰暗ナル沼澤ヲ跋涉シテ一百二十株乃至更ニ多數ノ木ノ乳液ヲ集ム、而シテ之レガ爲メ熱病ニ罹リ或ハ身軀ノ衰弱ヲ來タシ収利却テ其勞ニ酬ハザルニ至ル。

一日ノ採取額ハ實際乳汁ノ若干觀アル白色流動物ノ一瓢ニ滿ツルニ在リ。若シ此液ヲ其儘ニ捨テ置クナラハ少時ヲ經テ凝結シ劣等ノ白色「ゴム」トナルベシ。之ヲ賣買ニ供スベキ黑色「ゴム」ニ製成セムニハ特別ノ製法ヲ經ザルベカラズ。則チ「タ」ク「椰子」ノ堅硬ナル質ヲ燒キ其煙ユル所ノ火ノ上ニ置キ口ノ無底容器ニ滴スル粘土製ノ一種ノ煙筒ヲ置ク此煙筒ヨリ絶エズ濃煙噴出ス。此時該製採集者ハ其模型則チ圓狀ニシテ刃ヲ付ケタル機ノ如キ木造ノモノニ乳液ヲ盛リ之ヲ煙ニ燒ラシメ以テ乳液ノ凝結スルニ至ル。

然ル後之ニ他ノ上程ヒチ加フ之ニ由ツテ木ノ熱スルニ從ヒ乳液更ニ速ニ凝結ス。該製ノ模型ヲ捲フ「充分厚クナラシメムニハ二三日ノ採集額ヲ要ス、斯ル手順ヲ經シ時該製ハ尙純白色ナレドモ暫時ニシテ黑色ニ變ジ終ニ幾ンド黑色ト化ス。其時之ヲ市場ニ輸出ス。該製ノ凝結鉢ヨリ小塊ヲ切り出シ之ヲ村落ノ商買ニ沽知ス。粘土ノ圓球ヲ造ツテ之ヲ模型トナシ其外面ニ該製ヲ塗抹シ凝結シテ後チ模型ヲ破リ以テ該製塊ヲ製造スル「ア」。

二月ヨリ六月乃至七月ニ至ルマテ降雨多キ月ノ間ハ此地而水ニ沈メラレ、所在ノ土人ノ小舎全ク溺ル。若シ此時ニ當ツテ該製ノ買値其價值比較上低廉ナルノ事アラザレバ洪水汎濫スルガ爲メニ採集ヲ妨害スルナシ。其他該製樹ハ夏日ノ長キ間斷エズ流出スル乳液ヲ準備セシメム爲メニ此降雨多キ季節中採取ヲ止メザルベカラズ。

該製ハ此等低地ノ唯一ノ産物ナリ。此地方全ク小流小湖及ヒ沼澤ノ限リナキ連續ニシテ其外觀ヤ意想外ノ美、其内部ハ荒蕪ノ林地ナリ。

第九十章

サー、マツシユー、ヘルノ奇談

紳士其人ハ英倫ノ東方ノ部分ニ於テ領地ヲ所有セシ所ノ紳士ガ二人ノ息子ヲ持チシ。兄ハ漂泊スル所ノ性質ノモノデアル所デ、國外ニ行キシ。數年ノ後彼レノ父ガ死セシ、其時尙若キ息子ハ彼レノ兄(Older brother)ノ親愛ニ於テナサレタ所ノ意志ヲ破ル所テ領地ヲ奪ヒシ。彼レハ彼レノ兄ガ死亡シテアリシ事ヲ公言セシ、而シテ此話ノ眞實ヲ証スベク詐僞ノ証人ニ賄ヒセシ。

(譯)紳士アリ、英倫ノ東都ニ領地ヲ有ス、其子男二人アリテ。兄ハ生得漫遊ヲ好ミ國外ニ行ケリ。後幾年ヲ經テ父長逝ス、其時弟ハ父ノ遺言(兄ノ爲メニ好都合ナリシモノ)ヲ破リ、自ラ領地ヲ押奪ス。之ニ就イテ兄ノ死去セル「ア」ヲ公言シ而シテ其事實ナル

テ立證センガ爲メ之ヲ偽證ヲ爲サシムル人ニ賄賂ヲ與フ。

時ノ進ミニ於テ長兄ガ歸リシ。乍併窮乏ナル事情ニ於テ彼レノ要求ヲ立テルヲ其レヲ困難ト見出セシ。遂ニ彼レガ(法律家其人ハ)其レニマデ關係ニ於テ裁判長、サー、マツシユールナル時代ノ第一ノ裁判官ニ評議スベクダケ左様ニ遂ニ彼レノ進ミニ於テ彼自身感激セシ所ノ法律家ト會セシ。裁判官ガ兄ノ要求ノ正道ニマデトシテ彼自身ヲ満足セシ而シテ然ル時ニ彼レノ扶助ヲ契約セシ。

(讀)爾後、兄歸レリ。然ルニ其身貧困ナルヲ以テ自己ノ權利ヲ要求シ以テ弟ガ不道ヲ正サムニハ頗ル困難ナル事多カリキ。遂ニ一法律家ニ出會ス、其人此事情ヲ聞イテ熱激シ、之レガ爲メニ一臂ノ力ヲ添ユベシトテ當時ノ最高等裁判官ナルサー、マツシユールニ合議スルヲト爲セリ(ヘールハ裁判長ナリ)。○裁判官ヘールハ兄ノ要求ヲ正當ナリトシテ自ら感奮シ、之ヲ扶助セムヲ契約セリ。

公事ハエツセツクスニ於テチエルムスフォルトニ於テ吟味セラレシ。指定サレタル日ニ於テサー、マツシユールハ(正直ナル粉挽キ其人ハ)彼レガ彼レノ道ニ於テ會ヒシ所ノ正直ナル粉挽キノ衣服ニ於テ彼自身假粧セシ、而シテ斯様ニ準備シテ公事ガ吟味セラルベクアリシ所ノ郡ノ裁判所ニ入込ミシ。此處ニ彼レガ原告人ヲ見出セシ、而シテ彼レト共ニ會話ニマデ入込ム所デ彼レノ關係ガ何デアリシ乎ヲ問ヒシ。其レニマデ原告人ガ答ヘシ「私ノ公事ハ甚ダ不安穩ナル位置ニ於テアル、而シテ若シモ私ガ其レヲ失却スルナラハ私ガ生涯(生涯)ニ

the) 零落シテアルト。

(讀)訴訟ハエツセツクスナルチエルムスフォルトニ於テ審問セラレタリ。○期日ニ及ンテサー、マツシユールハ遂ニ廉直ナル粉挽人ニ出會ヒ直チニ其衣裳ヲ借リテ之ヲ粧ヒ以テ地方裁判廷ニ入レリ。既ニ法衙ニ入ツテ原告人ニ逢ヒ之レト共ニ密談ヲ始メ其序ニ其訴訟ノ事件如何ヲ問フ、之ニ對シテ原告人ハ答ヘタリ「余ノ訟案ハ頗ル不安心ノ位置ニ在リ若シ余ニシテ敗訴セハ余ハ生計上痛ク零落スベキナリト。

傍、廉直ナル友人ヨ、汝ハ私ノ助言ヲ取ルデアラウ乎。ト假粧サレタル粉挽キガ答ヘシ。各英吉利人ハ至キ十二ヲ通ホシテ或一ツノ陪審官ニマデ取り除キテ取ルベキ權ト而シテ特許ヲ持ツ。今汝ハ何故ナル道理ヲ與フルコトナシニ汝ノ特許ノ上ニ主張シナセ、而シテ若シモ出來ベクナラハ汝ガ挑ムデアラウ所ノ或者ノ代リニ擇ハレテ私ヲ得ヨ。而シテ私ハ私ノ力ニ於テ勤メノ至テ汝ニ爲スデアラウ。

(讀)傍、廉直ナル人ヨ、兄ハ余ノ助言ヲ用ユベキ乎、ルソ英國人タル者十二人ノ陪審官中其孰レナリトモ一人忌避スベキ權利特許ヲ有ス。今兄ハ如何ナル理ノ存スル乎ヲ陳述セズシテ兄ノ特權ヲ主張シ一人ノ陪審官ヲ忌避シ、而シテ若シ兄ノ意ニ合セバ余ヲ其忌避セル陪審官ノ代リニ擇フベシ。然ルニ於テハ余ハ余ノ全カヲ竭シテ兄ノ爲メニ利益ヲ圖ルベシト假粧ノ粉挽者則チマツシユールハ答ヘヌ。

原告人ガ手ニ依ツテ偽リタル挽粉人ヲ動かセシ、而シテ彼レノ助言ニ從フベク契約セシ、而シテ左様ニ、書記ガ陪審官ノ名ヲ越ヘテ呼ビシキニ彼レガ彼等ノ一人ニマテ反對セシ。床几ニ於テノ裁判官ガ此自由ニ於テ多ク拒ミテアリシ。其紳士ニマテ取除ケテ取ルコトニ依ツテ何ト汝ノ意味シナス乎。ト彼レガ問ヒシ。閣下ヨ、私ハ何故乎ノ道理ヲ與フルコトナシニ英吉利人タル私ノ特許ヲ確守スベク意味スル。ト原告人ガ云ヒシ。裁判官ハ高ク賄賂セラレテアリシ、而シテ公明ノ表ハレニ依ツテ其ヲ隠スコノ爲メニ而シテ彼レノ黨與ノ卓越ニ於テ信任ヲ持ツ所デ、彼レガ云ヒシ、備、君ヨ、汝ハ汝ガ挽ンダ彼レノ代リニ誰ヲ持ツベク願ヒナス乎ト。傍聽人ノ上ニ眺メ廻スコトニ於テ費ヤサレタル暫時ノ後、閣下ヨ、若シモ汝ガ好ムナラハ彼處ノ挽粉人ヲ擇ブデアラウト原告ガ云ヒシ、其レニ依テ想像サレタル挽粉夫ガ陪審官ニ於ケル彼レノ塲所ヲ取ルベク指揮セラレシ。

(講)原告人ハ假粧ノ挽粉夫ニ握手シテ謝禮ヲ施シ、且ツ其助言ヲ採用スルヲ約ス。既ニシテ法衙ノ書記陪審官ノ名ヲ呼ビ了ル。爾時原告ハ陪審官中ノ一人ヲ拒絶ス之ニ對シテ椅子ニ倚レル裁判官ハ頻リニ此自由特權ヲ阻ム。輒テ開クテ曰ク、「其方其紳士ヲ忌避スル抑モ何等ノ意乎?ト。原告人ハ答ヘヌ。判官閣下ヨ、予ハ其ノ何等ノ故ナルヤナヲ避ベズ、唯ダ予ハ英國人タル余ノ特權ヲ難守シテ之ヲ爲サムトスルノミト。是ヨリ先キ裁判官ハ被告人ヨリ大ナル賄賂ヲ贈ラレタリ。故テ以テ、今ヤ公明正大ナ面ニ表シテ、之ヲ隠サムト企テ、且ツ自黨ノ人敵(陪審官ノ)多キヲ以テ、心裡

弱カニ原告ノ敗訴ニ歸スルヤ必然ナルヲ期シ。併其方ハ其忌避シタル陪審官ノ代リニ何人ヲ舉ケムト希ンヤ?ト云ヒヌ。是ニ於テ原告人ハ暫時傍聽人ヲ見廻ハシタル後チ。判官閣下ヨ、願クハ余ハ彼處ニ在ル挽粉人ヲ以テ之レニ充テムト答ヘヌ。之ニ由ツテ假粧ノ挽粉夫ハ陪審官ノ席ヲ取ラムヲ命セラレタリ。

法廷ノ書記ガ總テニマテ通例ノ誓ヒヲ命シタルヤ否ヤ小ナル小賢シキ者ハ室ニマテ來リシ而シテ(挽粉夫其人ニ)マテ彼レガ唯五ヲ與ヘシ所ノ挽粉夫ヲ除キ陪審官ノ各ノ手ニマテ十ノ金ノ「ギニー」ヲ滑ラセシ。如何ニ多ク汝ガ得タ乎ト彼レノ次ノ隣人ニマテ陪審官ガ私語セシ。

十片ト後者ガ云ヒシ。挽粉夫ハ其時ニ於テ尙遙カ何モヲ云ハザリシ。公事ハ原告人ノ評議ニ依ツテ開カレテアリシ、而シテ彼レノ親愛ニ於テ引カレ能ヒシ所ノ證據ノ紙片ノ總テガ前方ニ持來タサレシ。

(講)法衙ノ書記總員ニ向ヒ例ニ從ツテ誓ヒヲ爲サシム、爾時直チニ手懸能キ徒此室ニ入り來リ密カニ列席ノ陪審官ニ各々金貨十「ギニー」ヲ握ラヌ、唯ダ夫ノ挽粉夫ニハ同五「ギニー」ヲ贈リシノミ。一人ノ陪審官ハ其隣席ノ陪審官ニ向ヒテ「兄ハ何程ヲ得タリヤ?ト問キヌ。之ニ答ヘテ、「十箇」ト云ヘリ。其時夫ノ挽粉夫ハ別ニ一語ヲモ發セザリシ。則テ爾時ハ北ノ原告人ノ事ニ關スルモノヨリ始マル、而シテ原告人自身ノ好證據タルベキ證據書類ハ總テ法官ノ前ニ呈出サレタリ。

弟ハ裁判官ノ如ク總テ澤山賄ヒセラレタル証人及ヒ狀師ノ大ナル數ヲ以テ用意セラレテアリシ。證人ハ彼等ガ(郡其處ニ)兄弟ガ死セシ所ノ同シ郡ニ於テアリシ事ヲ而シテ彼レノ最後ノ屍ノ埋葬ヲ見タリシ事ヲ口供セシ評議員ハ其集リタル證據ノ上ニ辨論セシ而シテ各ノ事ハ弟ノ好都合ヲ以テ充分ナル潮ヲ以テ行キシ。裁判官ガ大ナル沈黙及ヒ思考ヲ以テ証人ヲ合算セシ。彼レハ云ヒシ「而シテ今審判官ノ紳士ヨ、汝ノ頭ヲ一緒ニ横ヘヨ、而シテ汝ガ丁度思フデアラウ如ク汝ノ判斷ヲ持來タセ」。

(謂)被告ハタル弟ハ我判官ト同シク多クノ賄賂ヲ贈與シタル証人及ヒ狀師數人ヲ備ヘタリ。證人ハ原告ナル兄ガ死去セル地ト同一ノ郡ニ居住セルモノニシテ現ニ其屍ノ埋ムルヲ目撃セリト申立テタリ。評議員ハ此等多數ノ證據ニ基キテ辨論シ而シテ被告ノ爲メニ好都合ナル充分ノ勢力ヲ以テ進メリ。我判官ハ沈思熟慮以テ證據ヲ考計シ。則チ曰ク「信、陪審官諸君ヨ、諸君ハ宜シク熟慮シテ以テ諸君ノ意見ニ從ヒ判斷セラルベシト」

彼等ハ唯數分待チシ、而シテ然ル時ニ總テガ弟ノ好都合ニ於テ決定セラレテアリシ事ヲ想像スル所デ裁判官ガ云ヒシ「紳士ヨ、汝ハ總テ一致シテアル乎。而シテ誰ガ汝ニ向ツテ話ステアラウ乎」私ハ信ズル余輩ガ總テ一致シテアルト一人ガ答ヘシ、「余輩ノ頭人ガ余輩ニ向ツテ話ステアラウ」待チ足下ヨ、余輩ガ總テ一致シテアラヌト挽粉夫ガ答ヘシ。「何故○汝ヲ以テノ事情ハ何デアアル乎、不一致ニ向ツテ何ノナ道理ヲ汝ハ持ツ乎」ト甚ダ粗暴ナル

口調ニ於テ裁判官ガ云ヒシ。「私ハ種々ノ道理ヲ持ツ足下ヨ、第一ハ彼等ハ黄金ノ十ノ廣キ片ヲ陪審官ノ此等ノ紳士ノ總テニ迄而シテ唯五ヲ私ニマデ與ヘテアル、其レハ汝ガ知ル不公平デアアル。其他私ハ代言人ノ不信ナル推理ニマデナスベク多クノ反對ト而シテ證人ニ就テ反對ノ證據ヲ持ツト挽粉夫ガ云ヒシ。

(謂)我判官ト證人等トハ暫時待チタリ則テ我判官ハ陪審官諸君ガ被告人タル弟ノ勝訴ト判定シタラムヲ假想シ、輒チ曰ク「諸君ヨ、諸君ハ評議一決シテアル乎?」而シテ誰カ諸君ニ代ツテ諸君ノ決議ノ條ヲ陳ブル者ゾ?」ト之ニ對シテ一陪審官ハ答ヘヌ。「予ハ信ズ、余輩ハ總テ一致シタリト、而シテ予輩ニ代リテ之ヲ披露スル者ハ予輩ノ首席者ナリ」ト。其時挽粉夫ハ答ヘヌ。「諸君且ク待テ、余輩全ク合意セズト。我判官聲ヲ勵シテ曰ク「信、兄ハ何が故ニ合意セザル、抑モ其不同意ニ對シテ如何ナル道理ヲ有スル乎」ト。挽粉夫乃チ曰ク「予ハ種々ノ道理ヲ有セリ、判官閣下ヨ、先ヅ、被告人ト其加担者ハ、他ノ陪審官ニ金貨十ギニ」テ贈リ而シテ予ハ唯ダ五ギニ」テ受ク、是實ニ不公平タルト閣下ノ知ル所則チ第一ノ道理。其他余ハ狀師ノ不信ナル理論ニ對シテ多ク異議アリ且證人ノ證明ニ反對ノ證左ヲ有ス」ト

之レノ上ニ挽粉夫ハ裁判ノ斯様ナル入込ニ法律ノ斯様ナル智識ヲ發見セシ所ノ辨論ヲ始メシ而シテ其レガ裁判官及ヒ全法廷ヲ驚カセシ事ホド斯様ナル勇ラシキ而シテ強キ能辨ヲ以テ表言セラレテアリシ。

演舌者ハ彼レノ有力ナル證據ヲ以テ進ミツ、アリシ時ニ大ナル愕キニ於テ裁判官ハ彼レヲ止メシ。「何處カラ汝ハ來リナセシ乎、而シテ汝ハ誰デアアル乎、挽粉夫ガ答ヘシ。「私ハウエス トミニスター廳カラ來リシ、私ノ名ハマツシユールデアアル、私ハ王ノ法院ノ裁判長デアアル。私ガ今日汝ノ處置ノ不公平ヲ注目シタリ、其故ニ汝ガ保ツヘク絶エテ價值アリヌ所ノ席カラ下レ。汝ハ此避ク嫌フベキ事件ニ於テ腐敗シタル黨與ノ一人デアアル。私ハ此瞬間ニ登リ而シテ再ビ越エテ訴訴ヲ吟味スルデアロウ。」

其レニ驚テサー、マツシユールガ彼レノ挽粉夫ノ衣服及ビ高帽ヲ着シテ上リ更ニ吟味ヲ始メシ而シテ最モ穿鑿スル所ノ穿鑿ニマデ証據ヲ從ヘシ。彼レハ証人ノ反對ノ証據ト面シテ代言人ノ不信ナル推理カラ明白明晰且ツ顯著ナル領地ニマデ兄ノ權利ヲ爲シ、實ノ底ニマデ後者ノ總テノ虛証ヲ解キシ而シテ眞理及ビ正道ノ親愛ニ於テ充分ナル勝利ヲ得シ。

（註）之ニ對シテ假粧挽粉夫ハ懸河ノ辯ヲ露フテ裁判ノ錯謬談ヲ發シ、法律上ノ智識ヲ示シ雄辯滔滔々大ニ裁判官ヲ始メ法衙所在ノ諸輩ヲ驚カシメタリ。

演舌者ガ有カナル證據論ヲ辯ズル間、裁判官ハ嘆息シテ其陳述ヲ中止ス。開テ曰ク、「兄ハ何處ヨリ來レル乎、抑モ兄ハ何人ナル乎」ト挽粉夫答フラク。「余ハウエストミニスター廳ヨリ來ル、余ノ名ハマツシユールニテ高等法院ノ裁判長ナリ。余今日汝ガ所置ノ不公平ヲ看察セリ、咄汝席ヲ下レ、其席タル汝如キモノ、占ムベキ所ニ非ラス。汝モ亦此忌避スベキ事件ニ於テ腐敗黨ノ一人ナリ」云フハ、苟且ヲ受ケテ正理ヲ

枉ケルモノト云フ意、余ハ今直チニ席ニ上リ更ニ反覆シテ駭ノ審判ヲナスベシト。是ニ於テマツシユール君ハ判官ノ席ニ上リ其假粧ノ儘ヲ以テ更ニ審問ニ着手セリ。而シテ推察探問以テ證據ヲ確メ。証人ノ偽証ト狀師ノ不正推測トヲ拏キテ明カニ原告人タル兄ヲシテ領地ヲ得セシメ、被告人等ガ虛証ノ根柢ヲ破シテ以テ眞正公道ノ理ニ從ツテ充分ナル勝利ヲ原告人ニ得セシメタリ。

第九十一章

亞米利加ノ旗

彼女ノ山ノ高サカラ自由ガ空氣ニマテ彼女ノ軍旗ヲ廣ゲシ時ニ彼女ハ夜ノ青色ノ衣服ヲ裂キシ而シテ其處ニ名譽ノ星ヲ置キシ、彼女ガ其レノ美麗ナル繪具ヲ以テ空ノ乳色ノ帶ヲ混セシ、而シテ朝ノ光輝ノ線ヲ以テ其レノ純潔ナル天上ノ白色ニ記セシ、然ル時ニ太陽ニ於ケル彼レノ住家カラ彼女ガ彼女ノ驚ノ擔フモノヲ呼ビ下シタ而シテ彼女ノ大ナル手ニマデ彼女ノ擇ビタル陸ノ記號ヲ與ヘシ。

（註）自由ガ其旗ヲ山頂ヨリ空中ニ展ゲシ時、夜色濃鬱ナル中ニ燦爛タル星辰ヲ排置シ其美麗ナル色彩ニ混ズルニ天空ノ朦朧タルモノヲ以テシ、又純潔ナル白色ノ線ヲ畫シ朝暉ノ光線ヲ描ク。而シテ太陽ニ於ケル其住家ヨリ降下シテ自由ハ其旗ノ旗持ヲ呼ビ其人ノ手ニ自由自身ニ撰定シタル此米國ノ記號ヲ渡セリ。

汝ノ王ノ形狀ヲ高ク養フ所ノ雲ノ尊大ナル王ヨ、高聲ノ暴風ノ鳴聲ヲ聞クベク而シテ嵐ノ

戰士が闘フ時ニ投ケラレタル電光ノ鎗ヲ見ル而シテ天ノ雷鼓ヲ鳴ラス——太陽ノ兒童ヨ、
汝ニマデ其ノガ典ヘラル、自由ノ軍旗ヲ守ルベク、硫黄ノ烟ニ於テ漂泊スベク、戦線ヲ彼方
ニ防グベク而シテ其ノノ混交物ヲシテ勝利ノ注進者ナル戦争ノ雲ニ於ケル虹霓ノ如ク隔リ
テ輝カシメヨ。

(譯)遙ニ天空ニ在ツテ王ノ尊容ヲ定メ、烈風ノ聲々タルヲ聞キ、天候暴變風雨烈戰ヲ
開クニ際シ其投鎗タル電光ノ閃射ヲ見、雷鼓ノ聲々タルヲ聞ク威嚴アル雲王ヨ——太陽
ノ子息ヨ、自由ノ軍旗ヲ護衛シ、硝煙騰々タル間ニ右奔左馳シ、戦線ヲ防禦シ、且ツ勝
利ノ豫告ナル徽章ヲ戦争ノ雲面ノ虹霓ノ如ク發光セシメムガ爲メニ此軍旗ヲ汝
ニ與フベシ。

勇者ノ旗ヨ、汝ノ稜ガ飛ブテアラウ。高キ、希望及ビ凱旋ノ記號ヨ。合圍ノ喇叭ノ響ガ話シ而
シテ長キ線ガ輝キツ、來ル時ニ尙温キ且ツ濕ヒタル生血ガ輝ク所ノ銃鎗ヲ曇ラセタ以前ニ
各ノ兵士ノ眼ガ汝ノ空ニ象リタル光榮ガ燃ユル所ニマデ輝イテ轉ズルデアラウ而シテ彼ノ
ノ躍飛スル所ノ歩ミガ進ム時ニ瞥見カラ戦争及ビ復讐ヲ取ルデアラウ。

(譯)勇者ノ旗ヨ、汝ハ扁翻タルナルベシ。高キ希望ト凱旋ノ前表タリ。合圍ノ喇叭響キ
軍隊ノ長列進ム時ハ、尙ホ温氣ヲ失セズ且ツ淋漓タル生血ノ、光輝閃々タル銃鎗ヲ
汚キタルニ先ケ兵士各自ノ眼ハ、天ニ象レル汝ノ軍旗ノ扁翻タル方ニ注ギ、而シテ
雖然トシテ進行スル時、此軍旗ヲ見ルニ勢ヒテ得テ周圍帯ニ捷ヲ占ムベシ。

而シテ聲高キ大砲ノ鳴音ガ粗暴ナル混雜ニ於テ戦争ノ吶喊ヲ高メル而シテ血ニ染リタル刀
劍ガ夜半ノ死衣ノ上ニ焰ノ射撃ノ如ク昇リ且ツ落ツル時ニ、然ル時ニ汝ノ現象ノ瞥見ガ輝
クデアラウ。而シテ屈ム所ノ敵ガ死亡ノ其愛スベキ使者ノ下ニ打ツ所ノ各ノ勇氣アル腕ノ
下ニ悲縮スルデアラウ。

(譯)大砲ノ爆發ハ戰士ノ吶喊ニ混シ、鮮血滴レル刃劍ハ夜半死者ノ白衣ニ火光ノ映
ズル如ク振盪シ撃下ガル頻リナリ其時ニ當ツテ汝ノ天ニ象レル軍旗ハ翻々トシ
テ發輝スベシ而シテ敵軍ハ向フ所前ナキ軍旗ノ影ニ立ツテ進撃セル勇士ノ健腕
ノ下ニ畏縮シテ屈服スベシ。

海ノ旗ヨ。大洋ノ波ノ上ニ汝ノ星ガ勇士ノ上ニ輝クデアラウ。死ガ強風ノ上ニ走ル所ア脹レ
タル帆ノ周圍ヲ黯黒ニ掃ヒ。而シテ愕カサレタル浪ガ颯側ノ卷ク所ノ木匠ノ前ニ狂暴ニ突
還ヘル時ニ海ノ各ノ死ス所ノ遍歷者ガ直チニ天及ビ汝ニマデ眺メ而シテ彼ノ閉ケル所ノ
眼ノ上ニ凱旋ニ於テ飛ベル汝ノ壯麗ヲ見ルベク微笑スルデアラウ。

(譯)海上ノ旗ヨ、大洋ノ波浪ノ上ニ汝ノ星ハ勇士ノ頭上ヲ輝カスナルベシ、烈風吹キ
來ツテ大帆ヲ襲ヒ死スル寸前ニ迫リタル時而シテ猛瀾怒濤船腹ヲ衝イテ之ヲ
擊破セムトスルニ際シ死カチ竭シテ東奔西走セル水兵等ハ直チニ天ヲ仰ギ汝ヲ
海上ノ旗ヲ眺メ、今方ニ閉サントスル眼ヲ以テ凱旋ヲ表シテ細細タル汝ノ英魂ニ
對シテ微笑スベシ。

天使ノ手ニ依ツテ豪膽ニマテ與ヘラレタル由ノ心ノ希望ト而シテ作家ノ旗ヨ、汝ノ星ガ天上ノ家ヲ輝カシタ、而シテ總テ汝ノ色ガ天ニ於テ擔ハレシ。其軍旗ノ表而テ永久漂ハセヨ。余輩ノ前ニ斃レル外何處ニ敵ガ呼吸スル乎。余輩ノ足ノ下ニ自由ノ地ヲ以テ而シテ自由ノ旗ガ予輩ノ上ニ流ル、所テ。

(謂)天使ノ手ニ依ツテ豪膽ノ士ニ與ヘラレタル、自由ノ心ヲ、希望且ツ住所ナル旗ヨ、汝ノ星ハ天上ノ家ヲモ輝カセリ、而シテ汝ノ全色彩ハ天ニ在リ。此軍旗ノ織物ヲ無朽ニ傳フベシ、余輩ノ向ノ所ニ斃レズシテ尙生存セル敵何處ニ乎アル、余輩ノ足ハ自由ノ地ヲ踏ミ余輩ノ頭上ニハ自由ノ旗飄々タリ。

第九十二章

蠶

支那人ノ職業ノ最多ク重要ナル技ナル絹ノ製造ニ就テ或語ヲ與フルベク勉ムルヲニ於テ注目サレテアルベキ第一ノ點ハ、(仕方其レニ)於テ蠶ガ養ハル、所ノ仕方デアル。(其等其人ハ)此事業ニ於テ關係サレテアル所ノ其等ハ男女ノ繭ノ或數ヲ撰ブ。彼等ハ(繭其レハ)男ヲ保ツ所ノ繭ガ各ノ端ニ於テ強ク、甚ダ尖リテ、而シテ(女其レハ)厚ク、圓ク且ツ柔カデアル所ノ女ヲ保ツ所ノ其レヨリハ尙小サクアルトシテ性ヲ區別スルヲニ於テ一ツノ困難ヲ持タヌ。(謂)支那人、最重要事業ノ一ツナル絹布製造ニ關シテ多少ノ解説ヲナサムトスルニ於テ第一ハ若目スベキ點ハ、養蠶ノ方法ナリトス。該事業ニ從ヘル蠶ハ男性ト女

性ノ顯著チヲ辨別ス。此男女ノ性ヲ區別スル事ハ更ニ困難ヲ感スルナシ、則チ男蠶ヲ包有スル繭ハ其質強クシテ剛端尖リ、女蠶ヲ包有スル繭ハ其皮厚ク形狀圓ク、質柔カナルヲ以テナリ。

十五若クハ二十日ノ時、終リニ於テ蠶ハ繭カラ出テ來ル。彼等ハ(流動物其レハ)繭ノ一部分ヲ溶解スル所ノ流動物ヲ取初メテ、依ツテ彼等自身ヲ自由ニス。然レテ(蠶其レハ)繭ガ彼等ノ出生ノ時ニ於テ廣ゲラル、所ノ蠶ハ要用トシテ認定サル、然ルニ(其等其レハ)繭ミタル翅ヲ持チ一ツノ眉毛ヲ持タズ、而シテ綿毛ナシニアル所ノ其等ハ不用ト考ヘラル、而シテ直チニ敗ラル。

(謂)十五日乃至二十日ヲ經過スルノ後、蠶ハ繭ヨリ出生ス。其出生スルニ當ツテ先ツ繭殼ヲ溶解セシムル液ヲ出シ、然シテヨリ殼ヲ食破ツテ出ヅルナリ、蠶ノ生出セル時其翅ヲ廣ゲルモノハ之ヲ要用ト認メ、繭ヲ繭メ、眉毛ヲ有セズ且ツ綿毛ナキモノハ之ヲ不用トシテ捨ツ。

一日ノ後男蠶ガ移サル、而シテ女蠶ハ各ガ剛キ紙ノ一葉ニ於テ置カレタ所テ彼等ノ卵ヲ横ヘルベク始ムル。此ノ絹製造地方ニ於テ、私ハ想像スル季候ノ蠶シキヲニマテ繭スル所デ織物ノ片ガ紙ノ一葉ノ代リニ用ヒラレテアル。一ツノ蠶ハ横ヘル所ノ卵ノ數ガ幾チ五百デアル、而シテ左様ニ大ナル労働ヲ成就スベク彼女ヘ向ツテ要セラレタル時限ガ凡ソ七十四時間デアルト私ハ信ズル。女ハ屢々彼等ガ彼等ノ卵ヲ置イタ後幾ノ下直チニ死スル而シ

テ男ガ長ク彼等ニ生存シナサヌ

(譯)始メ男女兩蠅ヲ混置シ後一日ヲ經テ男蠅ヲ他ニ移ス、面シテ女蠅ハ之ヲ厚紙一葉ノ面ニ置ク、是ニ於テ女蠅産卵ヲ始ム。北方ノ精製造地方ニテハ紙ニ代ユルニ布片ヲ以テ惟フニ寒氣ノ嚴烈ナルヲ以テナルベシ。一蠅所産ノ卵數ハ大抵五百粒トス、而シテ斯ル多數ノ卵子ヲ産スルニ及スル時限ハ太約七十四時間ナリト信セラレ。女蠅ハ産卵後幾クモナク斃レ男蠅モ亦長ク生存セズ。

(蠶ノ卵其レハ)稍白キ或ハ青白キ秦皮色ニ就テアル所ノ蠶ノ卵ハ芥子ノ種ノ一粒ヨリハ尙大キクアラヌ。十八日老ヒタル時ニ卵ガ泉ノ水ヲ以テ注意シテ洗ハル、(其レニ)於テ彼等ガ置カレテアル所ノ面シテ其レニマテ彼等ガ粘着スル所ノ剛キ紙ノ一葉或ハ織物ノ片レガ木或ハ陶器ノ皿ニ於テ保タレタル泉ノ水ヲ通シテ甚ダ和カニ引カル、秋季ノ月ノ間卵ハ注意シテ冷カナル室ニ於テ保タル、紙ノ一葉或ハ織物ノ片レガ地平ノ位置ニ於テ置カレタル竹ノ棒カラ後合セニ懸ケラレテアル所デ。

(譯)淡蒼白或ハ青白秦皮色ナル蠶卵ハ其大サ一粒ノ芥子ノ種子ト伯仲ス。十八日ヲ經過シタル後蠶卵ハ深ク注意シテ以テ泉水ニテ洗フ。蠶卵紙(則チ女蠅ガ卵ヲ産ミツケタル紙)或ハ蠶卵布ハ木若クハ磁器ノ皿ニ容レタル水ヲ通シテ徐カニ引キ。秋季ノ間ハ意ヲ用ヒテ之ヲ冷室ニ置キ、地平線ニ並行シテ置キタル竹棒ニ後合セニ鈎リ下ガル。予輩ノ十二月ト符合スル所ノ支那ノ年ノ十月ニ於テ紙葉ハ捲上ゲ而シテ能ク掃ハレテアル

所ノ面シテ害ナル勢力ノ総テカラ自由デアル所ノ室ノ中ニ置カレテアル。十二月ノ三日ニ於テ卵ガ再ビ洗ハレ而シテ然ル時ニ乾燥スベク空氣ニマテ晒サレテアル。

(譯)太陽曆ノ十二月ニ相當スル支那ノ十月ニ於テ蠶種紙ヲ捲上ゲ能ク掃拭シタル室中ニ置ク其室内ニハ總テ蠶種紙ニ有害ナルモノヲ防ク要ス。十二月ノ三日ニ於テ蠶卵ヲ再ビ洗ヒ後チ之ヲ乾ス爲メニ空氣ニ曝ス。

年ノ春ニ於テ卵ガ今發生スベク準備シテアル所デ、紙葉ガ廷ノ上ニ置カレテアル壁ニ添フテ排列サレタル棚ノ連續ヲ保ツ所ノ能ク掃ハレタル且ツ能ク暖メラレタル室ニ於テ各ノ廷ガ竹棚ノ上ニ置カレテアル。棚ガ、香アル木ハ目的ニ向ツテ不適當トシテ格段ニ避ケラル、所デ(竹、木、其レニ)就テ一ツノ芳香ヲ發セヌ所ノ竹、木ニ就テ幾ント變リナク造ラレテアル。

(譯)春季蠶卵ノ發生期ニ臨ムテ蠶種紙ヲ廷ノ上ニ置ク、其廷ハ能ク掃拭シ且ツ能ク暖メラル室内ニ竹架ノ上ニ置キタルモノニシテ其室内ニハ塵埃ヒニ排置シタル棚層々列チナセリ。香氣ヲ有スル木ハ養蠶ニ不適當ナルヲ以テ特ニ之ヲ避ケ一椀ニ竹若クハ更ニ香氣ヲ有セザル木ヲ擇ムテ棚ヲ造ルナリ。

彼等ノ發生ノ時ニ於テ蟲ガ黒クアル、而シテ幅ニ於テ毛髮ヲ超ユルベクダケ左様ニ辛シテ小サクアル。彼等ノ甚ダ小ナル大サニマテ歸スル所デ彼等ノ委任ニ於テ其等ハ甚ダ小ナル片ニマデ桑樹ノ葉其レニ)於テ彼等ガ養ハル、所ノ桑樹ノ葉ヲ切ル。此レガ甚ダ銳キ小

刀ヲ以テ爲サレテアル其故ニ葉ガ破ラレ得ヌ、而シテ其レニ就イテ出來ヘクダケ其レダケ多ク汁液ヲ保ツ。

(講) 蠶卵孵化セル當時ニハ黒色ノ蠶ナリ、而シテ其大サ毛髮ノ一筋ニダモ及メズ。斯ル小蠶ナルヲ以テ其食餌ニ適セシムテ固リ桑葉(剛ナ蠶ノ食物)ヲ細小片ニ切ラサルベカラズ。此桑葉ヲ刻ムニハ頗ル銳利ナル庖刀ヲ以テス故ヲ以テ之ヲ切ルノ際葉ヲ破ルノ患レナク且ツ葉中ニ保アル水分ヲ失ハザルナリ。

蠶ガ充分若クアル時ニ彼等ハ二十四時ニ於テ四十八度ヨリハ尙少ナカラズ養ヘル、。時ノ進ミニ於テ彼等ノ食事ハ二十四時ニ於テ三十度ニマテ減セラレテアル、而シテ彼等ガ彼等ノ充分生長ニマテ達シタ時ニ彼等ガ一日ニ唯ダ三四度得ル。臨時ニ——詳シク云ヘバ一日間一度或ハ二度——蠶ハ豌豆ノ粉黒豆ノ其レ及ヒ米ノ其レト共ニ能ク混セラレタル桑葉ヲ以テ養ハル、。此混交ガ蠶ニマテ冷ヤスト及ビ清淨ニスルコトアルベク而シテ強キ且ツ光アル絹ノ産出ニマテ氣附ケルベク想像セラレテアル。

(講) 蠶ノ猶未ダ充分幼稚ナル頃ニハ二十四時間中四十八度ニ下ラザル度數ヲ以テ食ヲ與フ而シテ稍々長ズルニ及ンテハ三十度ニ減ズ。其充分生育セル時ニ至ッテハ一日中僅々三四回與フルノミ。臨時群言スレハ一ヶ月中一回若クハ二回、桑葉ニ豌豆、黑豆、米等ノ粉ヲ混ジテ蠶ニ與フ、是レ蠶ヲ冷ヤシ且ツ清淨ナラシムル事ト雖ク光澤アル絹ヲ得ム爲メナリト云フ。

總テ他ノ動物ノ如ク此等ノ蠶蟲ガ休息ノ彼等ノ時ヲ持ツ、而シテ此等ノ時ニマテ支那人ガ區別シタル名ヲ與フ。發生後四五日ニ起ル所ノ最初ノ眠リガ初眠ト名ツケラレテアル、而シテ唯ダ一日續ク。第二ノ眠リガ八日目若クハ九日目ニ起ル、而シテ第三ガ十四日目ニ於テ、第四及ビ(最後ノ眠其レハ)第二十二日目ニ於テ或ハ其頃ニ起ル所ノ最後ノ眠リハ其レノ長キ間ノ譯ニ於テ大眠ト名ツケラレテアル。各ノ時限ノ近接ニ於テ蠶ハ其レノ食慾ヲ失ヌ。其レガ其レノ牀ノ尙上ノ部分ヲ立テル、而シテ此位置ニ於テ眠ル。

(講) 凡ソ動物タルモノ皆休眠ヲ要ス、蠶亦同シク休眠ノ時アリ、而シテ支那人ハ此蠶ノ休眠時ニ各々區別アル名稱ヲ附ス。其初眠ト名ツケル第一眠ハ發生後四五日目ニ起リ只一日間眠ル。第二眠ハ八九日目、第三眠ハ十四日目ニシテ第四眠則チ最終ノ休眠ハ二十二日目内外ニ起ル、而シテ其眠時最も長キヲ以テ之ヲ大眠ト稱ス、各ノ休眠時至レル時蠶ハ其牀ノ上部ヲ擡ゲ以テ眠ル。

眠リノ各ノ時限ノ間其レハ、新ナル皮ガ充分ニ熟シテアルマテ休息ノ有様ニ於テ續ク所デ其レノ皮ヲ投ケル。其レガ頭ヲ蓋フ所ノ面シテ破ラレテアル所ノ其レノ其部分ニ於テ動キ出ス事ニ依ッテ古皮カラ其自身ヲ除ク。時トシテハ蠶ガ古キ皮カラ其レノ牀ノ端ヲ自由ニスベク其レノ不適當ノ譯ニ於テ死スル。皮ガ落サレテアル所デ蠶ガ大サ及ビ強サニ於テ甚ダ速カニ生長スル。

(講) 蠶ハ各ノ休眠時限ニ於テ新皮充分ニ成熟スルマテ眠リ續ケ、其成熟ニ及ンテ眠ヲ

覺マシ舊皮ヲ脱却ス。皮ハ頭部ヲ覆フ所ヨリ破リ其破リタル所ヨリ軀ヲ動カシ以テ其身ヲ出スナリ。或ハ其舊皮ヲ脱スルニ際シ其軀ノ一端ヲ出ダス能ハサル爲メニ死スル事アリ舊皮ヲ脱却シテヨリ盤ハ其軀ノ大サ及ビ強サヲ増ス。甚々速カナリ。

休息ノ引續キタル時限ノ間其處ニ概シテ三或ハ四日ノ間隙ガアル、其間此等ノ小サキ動物ガ最多ク食ツテ食フ。直チニ大眠ニ次グ所ノ四或ハ五日ノ間彼等ガ是迄續ハレタヨリモ食物ニ向ツテ尙大ナル食慾ヲ持ツ。彼等ガ三十二日ノ齡ヒニ達シタ時ニ彼等ハ充分生長シテアル、各ガ長サニ於テ凡ソ二吋テ而シテ幾ンド人ノ小指ダケ其ダケ厚クアル所デ。

(註)休眠ト休眠トノ中間毎ニ三日乃至四日ノ間アリ其間蓋ハ頗ル食食シ大眠後四五日間ハ從來ニ勝ツテ大食ス其三十二日ニ及ベル時充分ニ成育シ、其長ルリ二吋六サ人間ノ小指ト伯仲スルニ至ル。

歳ガ漸次大サニ於テ増シツ、アル時ニ彼等ハ尙多ク室ヲ彼等ニ與ヘルベク如ク左様ニ種々ノ入レ物ニマデ定時ニ分離セラレテアル。其レガ充分生長シテアル所ノ今、以前ニ稍白キ色ニツイテアリシ所ノ蟲ガ琥珀ノ其レニ類似スル所ノ色ヲ取ル。此時限ニ於テ彼等ハ食物ノ分前取ルベク止ム、而シテ(木匡或ハ柵其レニ)於テ彼等ガ置カレテアル所ノ木匡或ハ柵ニ於テ彼等ノ口カラ絹ヲ紡グベク始ム。

(註)蟲軀漸次増大スルニ從ツテ其棲息ノ場所ヲ離ク與フル爲メニ數多ノ入レ物ヲ

次第ニ増加シ以テ蟲ヲ分置ス。其充分成育セルニ及ンテハ最初淡蒼白色ナリシモノ琥珀色ニ類似スル所ノ色ヲ呈ス。此變色ノ時ニ至ツテ其食ヲ止ム。而シテ若シハ柵ノ上ナル其棲息所ニ於テ其口ヨリ絹ヲ紡キ出ダス。

紡グコニ於テ彼等ハ最初一ツノ傍ニマデ、而シテ然ル時他ニマデ傾テ動カス、而シテ至終カ爾ニ於テ捲カレテアツタマデ運動ヲ續ケル。蟲ガ此仕事ヲ成遂グベク要スル所ノ時ハ三日カラ四日マデトアルト私ハ信ズル、而シテ其レガ閉ニ於テ其自身ヲ閉込メタヤ否ヤ其レガ昏睡病ノ有様ニマデ落チ其レノ皮ヲ投ケ且ツ終ニ蛹トナル。

(註)蓋、絹ヲ紡グニハ其頭ヲ初メ一方ニ動カシ後他方ニ動カシ以テ其全軀ヲ繭ノ中ニ閉ヤ込メラル、ニ至ル。之ヲ成就スルニ要スル時間ハ三日乃至四日間ト信ゼラル。既ニ繭中ニ閉ヤラル、ヤ否ヤ蓋ハ昏睡病ノ狀ニ陥リ其皮ヲ脱却シテ終ニ蛹トナル。

飼養人ハ然ル時ニ(竹ノ柵其レノ)上ニ繭ガ横ハル所ノ竹ノ柵ヲ蝸ガ其熱ニ依ツテ打破ラレ得ルコト爲メニ木炭或ハ木ノ、ユルキ火ニ近ク置ク、然ラザレバ此等ガ尙多ク三週ニ於テ彼等ノ牢カラ破リ且ツ蝸蟲ノ最後ノ完全サレタル有様ナル——「イマゴ」ノ形狀ニ於テ漸ハレテアラウ。

(註)結繭後養蠶者ハ繭ノ横ハレル竹柵ヲ木炭若クハ經カナル木ノ火ノ上ニ置キ以テ繭中ノ蝸ヲ蒸殺ス否ラザレハ結繭後三週間中ニ蝸ハ其牢獄中ニ閉ヤ破リ而シテ蝸蟲ノ最後ニシテ再ビ進化セザル完全ノ形狀ナル「イマゴ」ノ姿ヲ以テ現出ス

蛹が打破ラレタ所ヲ繭一極カテ徙サレ而シテ籠ノ中ニ置カル、業ニ向ツテ擇ハレタル女及ビ小女ガ注意シテ今繭ヲ解ク、彼等ガ熱湯 (boiling water) ニ於テ彼等ヲ漬クコトニ依ツテ容易ニ爲ス所ノ處置ナリ。此等ノ事業ガ一様ナル大サノ繭ヲ造ルコトニ就テ及ビ透明清且ツ光澤アルモノニ彼等ヲ爲スコトニ付テ充分適當ナル手ニ就テ功者デ而シテ事務ニ就テ達者デアラチバナラヌ

(繭) 既ニ繭ヲ蒸殺セル後繭ヲ楯ヨリ籠中ニ移シ入ル、爾リ而シテ該職業ニ撰擇サタル女及ビ處女ハ意ヲ用ヒテ繭ヲ解ク、其業タル熱湯中ニ繭ヲ煮ルコトニ依ツテ容易ニ爲シ得ルナリ。抑モ製繭ノ工女タルベキモノハ、些カ細大ヲ生セズ一様ニシテ且ツ透明清潔光澤ヲ有スル繭ヲ製スルニ就テ充分適當ナル、雙手ノ敏捷、業務ニ練達タラザルベカラズ。

繭ガ熱湯ニマテ置ル、時ニ、絹ノ皮則チ殻ト命名サル、所ノ外部ノ層ハ最初ニ解カレテアル。一樣ニ達者デアアル所ノ女及ビ小女ノ他ノ組ガ、然ル時ニ絹ノ軟物則チ肉ト命名サレタル繭ノ内部ノ層ヲ解クベク係ハラレテアル。一日ノ進ミニ於テ一女ガ日方ニ於テ絹ノ四「テール」ヲ解キ能フ、最多ク達者ナル工手が五若クハ六「テール」ノ量ヨリハ尙クテ彼方ニ向ケ能ハズト私ハ信ズル。

(繭) 熱湯中ニ繭ヲ浸シタル時、先ノ其上層則チ絹ノ皮又ハ殻ト名ツケラレタルモノノチ解ク。次ギニ他ノ女及ビ小女ノ一組ハ其内層則チ絹ノ軟部若クハ肉ト名ツケラレタルモノヲ解ク、此工女モ亦一樣ニ練達セルモノトス。一日中一工女ノ製繭量ハ四「テール」ナリ、最モ練熟ナル工女ト雖モ五乃至六「テール」以上ヲ製出スルハ蓋シ難カルベシト信ズ。

事務ノ先生デアアル所ノ出精ナル工手が十八若クハ十九日ノ進ミニ於テ一季則チ絹ノ収納時ヲ終ルデアラウ。通常則チ第二流ノ工手ハ事業ノ同類ヲ通ホシテ得ルベク二十四乃至二十五日ヲ要スデアラウ。長キ白キ且ツ輝ク所ノ繭カラ絹ノ小サキ且ツ善良ナル繭ガ得ラレテアル、大キク、色ニ於テ鈍ク、且ツ織ルコトニ於テ強クアラヌ所ノ其等カラ、粗ナル繭ガ造ラレテアル。此粗ナル繭ガ(織物其レヲ)以テ衣服ガ裏付ケラル、所ノ織物ヲ造ルコトニ於テ用ヒラレテアル。繭ガ卓越ナル種類ノ食物トシテ工手ニ依ツテ食ハレテアル。

(繭) 精勵ナル工手ニシテ業務ノ先生タルベキモノハ十八日乃至十九日ヲ費シテ一季則チ絹ノ一収納期ヲ了ルベシ。然ルニ亞流ノ者ハ之ト等シキ業ヲ成スニ二十四日乃至二十五日ヲ要ス。長形ニシテ白色且ツ光澤ヲ有スル繭ヨリ細小精良ナル繭ヲ製シ得ル。形状大ニシテ色純潔ナラス、且ツ組合繭ノ皮ノ堅カワザルモノヨリ粗ナル繭ヲ得ル。此粗糸ハ基礎製織ノ用ニ供ス。工女ハ美味トシテ繭ヲ食フ。

第九十三章

ラトリア、ド、ネトヴァン

勇者ノ勇氣ナル功業ハ總テノ時代及ビ國ノ記者ニ依ツテ余輩ニマテ下ニ渡サレタ而シテ幾
ノド各ノ國民ガ斯様ニシテ、勇氣及ビ剛強ノ或愕クベキ行爲ニ依ツテ歴史ノ年代記ニ於テ
著名トナリシ所ノ一ツ或ハ尙多クノ恐レナク精神ノ名ト而シテ名譽ヲ永久ニ存シ(perpetu-
ated) x。

(譯)英傑ノ大功績ハ歷代及ビ諸國ノ歴史家ニ依ツテ後世ニ傳ヘラレタリ、而シテ
ネ各國ノ人民ガ斯ノ如クニシテ勇猛剛毅ノ大功業ヲ遂ゲ英名ヲ不朽ニ流シタル
豪膽ヲ有スル一乃至以上ノ人ノ名ト榮譽トヲ永ク存シタリ。

ナポレオンノ軍勢ニ於テ精兵ノ「レシマメント」ノ仲間ナル、ラトリア、ド、チノヴァンノ名ガ自
負ヲ以テフランスノ國民ニ依ツテ尊敬サレテアル所ノ而シテ其レノ軍勢ノ歴史ニ於テ高ク
象ル所ノモノデアアル。

(譯)ナポレオンノ部下ナル精兵「レシマメント」ノ隊士ラトリアドチノヴァント稱スル
モノ、是レ佛蘭西人ノ世ニ誇示スベキモノトシテ且ツ佛國戰史中傑
出ノ名士ナリ。

彼レノ死後多クノ年ノ間彼レノ古キ「レシマメント」ノ仲間ガ彼等ノ日々ノ名簿ノ讀上ケ(roll-
call)ニ向ツテ整列セシ時ニ、彼レ名ガ規則立チテ呼ハレテアリシ。

(譯)此名士ラトリアノ死後數年間、其隊ノ番友精進ハ日々名簿點呼ノ爲メニ整列ス
ル時必ズラトリアノ名ヲ呼ビマ。

然ル時、列スル所ノ伍長ガ前方ニ歩ミシ而シテ命令官ニ挨拶スル所ヲ高キ聲ヲ以テ、「名譽
ノ戰場ニ於テ死セシヨ」ト云ヒシ事ノ其レガアリシ。

(譯)其後隊列中ノ伍長進ミ出テ、指揮官ニ一體ナナン、了ツテ高聲ニ「名譽ノ戰場ニ於
テ死シタリ」ト呼ブノ事アリ。

外國人ニマテ此日々ノ偶然ニ出來事ハ驚ヲ勵マス外能ハザリシ、乍併軍勢ノ兵士及ビ奇異
ナル所爲ヲ生ゼシ所ノ事情ノ智識ヲ持ツ所ノ總テ他ノモノニマテ「名譽ノ戰場ニ於テ死セ
シヨ」ナル語ガ感ズル所ノ意味ヲ持チシ、而シテ斯様ニ高聲ニ譽メラレシ所ノ豪膽ナル兵士
ニマテ流シ返スベク尊敬ノ暫時ノ考ヘテ起セシ。

(譯)斯ク日々ノ點呼毎ニ死者ノ名ヲ呼ブ事ハ、外國人ニハ唯ダ一奇事ト感セシムル
ノミナレドモ、隊士及ビ此奇事ヲ生シタル理由ヲ知ル所ノ人ハ「名譽ノ戰場ニ於テ
死シタリ」トノ語ヲ耳ニシテ頗ル感情ヲ動カシ、且ツ斯クノ如ク非常ニ稱讚サル、
英士ノ事ヲ回想シ尊崇スルノ一時ノ思考ヲ喚起セリ。

然リト雖此名譽ガ能ク價ヘシタルモノデアリシ。ラトリア、ド、チノヴァンガ軍勢其レニ向
ツテ彼レガ千七百六十七年ニ於テ訓練セラレテアリシ所ノ軍勢ニ入込ミシ。著シキ區別ヲ
以テ勤ムル所デ彼レガ屢々昇進ニ向ツテ名ヅケラレシ、乍併彼レノ功名心ノ廣リテアルベ
ク見エシ所ノ精兵ノ仲間ヲ命令スベク満足シテアル所デ、一般ニ總テ左様ナル名譽ヲ嫌ヒ
シ。

(講)上述ノ如ク非常ニ賞讃サルト雖モ是レ至當ノ名譽ニシテ敢テ過實ニアラズ
紀元一千七百六十七年中ラトアハ其軍隊ニ加入セラレテ兵事ノ訓練ヲ受ケタリ
精動殊別ナルヲ以テ屢々昇進ノ命ヲ被レリト雖モ總テ之ヲ辭シテ受ケズ蓋シラト
一アハ其部下ノ精兵一隊ヲ指揮スルヲ以テ其功名心ヲ滿タシタルモノト思ヘル
ガ如シ

彼レノ經歷ニ於テ精兵ノ仲間ノ數ガ一體ニ於テ集メラレテアリシ時ニ、彼レガ八千人ノ指
揮官ニ於テ置カレテアリシ、譬ヒ彼レガ只「キヤプテン」(一隊ノ長)ノ列ヲ保チシトハ雖モ。之
レガ「フランス」ノ第一ノ精兵トシテ知ラルベク彼レヲ起セシ。

(講)ラトアノ經歷中數精兵隊ヲ一團ニシタルコトアリ、其時ラトアハ唯「キヤプテ
ン」ノ職ニアリシト雖モ八千人ヲ指揮スベキ命ヲ被レリ。是レ其「フランス」第一ノ精
銳タル名ヲ得タリシ起因ナリ。

行爲ノ未來ノ戰場ノ近邊ニ於テ住ミシ所ノ朋友ニマテ訪問ニ於ケル間、彼レハ時機ヲ要ス
ルデアラウナラハ斯様ニシテ得ラレタル智識ノ善キ用ヒテ爲スノ目的ヲ以テ圍繞スル所
ノ地方ノ風土記ヲ學ブコトニ於テ彼自身勸メシ。

(講)宿後戰場ニ近接ノ地ニ住メル友人ヲ訪ヘル時ハ勸メテ其四隣ノ地ノ風土ヲ學
ビ以テ異日其地ニ戰爭起ルノ機會アラハ之ヲ活用シテ軍事上ノ參考トナサムト
セリ。

彼レガ辛シテ彼レノ觀察ヲ充分ニシタリシ其時、彼レノ驚慌ニマテ彼レガ澳太利ノ軍勢ノ
一部分ハ、フランスノ軍勢ガ然ル時ニ仕送クベキ進ミニ於テアリシ重要ナル運動ヲ防グ爲
メニ山路ヲ所有スルコトノ企圖ヲ以テ迅速ニ前方ニ突進シツ、アル所ヲ知リシ。

(講)ラトアアドチャーヴアン僅カニ其觀察ヲ終ルヤ否ヤ、定ニ愕クベキ事ヲ聞ケリ、則
チ澳太利ノ一軍、今正サニ軍ヲ進ムル佛兵ノ重要ナル運動ヲ防遏スルノ目的ヲ以
テ山路ヲ占ムコトヲ企テ前方ニ向ツテ急進シツ、アルノ所是ナリ。

ラトア、ド、チャーヴアンガ澳太利人カ唯數時間ノ距離デアリシコト及ビ彼等ハ(點其レニ)
於テ彼レガ停リツ、アリシ所ノ點ヲ通過スルデアラウコト知リシ。彼レハ掠奪サルベク企
テナサレリシ、而シテ直チニ路ニ向ツテ出發セシ。彼レハ路ノ入口ニ於ケル強キ塔ニ於テ据
エラレテアリシ所ノ無慮三十人カラ成立ツ所ノ小ナル護衛兵ニ依ツテ防禦サレテアリシコ
ト知り而シテ彼レノ目的ガ彼等ノ危難ノ警戒ヲ此等ノ人ニ與ヘルベクアリシ。

(講)ラトア、ド、チャーヴアンハ澳軍數時間ヲ出スシテ來リ、且ツ我軍ヲ滞在セシムル
ノ地ヲ通過スベキ事ヲ知リ。其地ヲ掠奪サル、ヲ希ハス。戰ヲ直チニ之レニ向ツテ
出發セリ。ラトアノ今方サニ到ラムトスル道ノ入口ニ堅固ナル塔アリ之ヲ守ル
佛兵無慮三十人ノ一隊ナリ、而シテ其處ニ到ラムトスルラトアノ目的ハ此佛兵
ニ向ツテ專急ニ逼ルヲ警戒セムトスルニアリ。

塔ニ於テ到着スルコトニ於テ彼レハ、護衛兵ガ澳太利人ノ進ミニ就テ開クコトノ上ニ逃レタリ

シテテ而シテ彼等ハ本原ノ順序ニ於テ終テ、三十ノ銃ヲ彼等ノ後ニ殘シタリシ事ヲ見出セシ。

(譯)既ニ塔ニ到ツテラトトアハ守兵瀆軍ノ進行ヲ阻イテ逃走シ、且ツ其三十ノ銃ヲ系ノ順序ノ儘ニ殘ラヌ捨テ置キタルヲ見タリ。

ラトトア、ド、チーヴ、ンハ此發見ニ依ツテ暴烈ニサレシ。急イテ建物ヲ探索シ廻ル所ヲ彼レハ勇怯ナル兵士ハ去ルコノ前軍器ノ大ナル部分ヲ破壊シタ事ヲ見出セシ。(事實其レハ)非常ナル憂慮ノ瞬間ニ彼レヲ起セシ所ノ事實ナリ、乍併然ル時ニ恐レナキ決定ヲ示ス所ノ容貌ヲ以テ彼レハ主タル入口ヲ閉ヂシ而シテ手ニ於テアリシトシテ斯様ナル重キ物品ヲ以テ其レヲ確乎ニセシ。

(譯)其狀ヲ見テ大ニ驚瀆シ、急ニ塔内ヲ探索シタルニ、怯弱ナル兵士ハ其退去ノ前十中七八ノ軍器ヲ破壊シタルヲ見タリ、是處ニラトトアニ一時憂慮セシメタル事實ナリ、然レドモ直チニ大膽不撓意既ニ定マルノ相ヲ示シ、中央ノ大入口ヲ鎖シ、近傍ニ横ハレル重量ノ器具ヲ執ツテ之ヲ確メタリ。

彼レハ然ル時ニ冷淡ニ總テノ銃ヲ裝藥スベク而シテ路ヲ支配セシ所ノ、而シテ其レヲ通ホシテ敵ヲ進マシマナラス所ノ物見穴ニ近ク彈藥ノ強大ナル供給ヲ以テ彼等ヲ置クベク進ミシ。○彼レト共ニ或ル糧ヲ持ツ所ヲ彼レガ心カラ食ヒシ、而シテ然ル時ニ靜カニ事變ヲ待チシ。○彼レガ實ニ澳太利人ニ對シテ而シテ獨リ塔ヲ防護スベク決セシ。

(譯)後、冷然トシテラトトアハ總テノ銃ニ裝藥シ且ツ糧眼ノ近邊ニ多量ノ彈藥ヲ具ヘテ其銃ヲ置クノ處置ヲ爲セリ(此糧眼タル、道ヲ見下ス所ニアリテ敵兵ハ必其下ノ道ヲ通行セサルベカラズ)、而シテ其携帶セル若干ノ糧ヲ出シ、沈着乎トシテ之ヲ喫シ了ツテ泰然、事ノ生ズルヲ待テリ。實ニラトトア、ド、チーヴ、ンハ單身此塔ヲ守ツテ瀆軍ニ對セムト決心セリ。

路ハ峻ハシク且ツ狹クアリシ而シテ敵ハ塔カラ直接ノ發射ニマデ彼等ヲ晒ラヌデアラウ所ノ二重ノ列ニ於テノミ進ミ能ヒシ。耐忍シテラトトア、ド、チーヴ、ンハ彼等ノ近接ヲ待チシ、乍併彼等ハ來ルコノ長クアリシ、而シテ彼レハ一時ニ於テ遠征ガ棄テラレシコトヲ了解セシ。

(譯)路ハ峻險ニシテ且ツ狹隘ナリ、而シテ敵軍ハ唯ニ列ヲ爲シテ進ムヲ得ルノミニシテ塔ヨリ直接ノ射撃ヲ受クベキ地位ニ在リ。

ラトトア、ド、チーヴ、ン能ク耐ヘテ敵軍ノ近接シ來ルヲ待チタルニ、其來ルコト頗ル遲々セルヲ以テ、或ハ一時其攻進ヲ止メタルニ非ラザルヤト思ヘリ。

夜半ノ頃老ヒタル兵士ノ練熟シタル耳ハ近接スル所ノ軍勢ノ響ヲ捉ヘタリシ。○彼等ハ彼レガ狹キ路ニ入込ム所ノ彼等ヲ聞キシマデ尙近ク而シテ尙近ク來リシ。○彼レハ直チニ塔ニ於ケル或モノガ彼等ノ企圖ヲ知ルコトノ警戒トシテ暗黒ニマデニツノ銃ヲ發セシ、然ル時ニ彼レハ性急ノ命令ヲ與フル所ノ士官ヲ聞キシ、而シテ軍勢ガ狹路カラ退キツ、アルベク見え

（譯）夜半ノ比ニ老練ナル兵士ノ耳朶ハ敵軍ノ近接スル音ヲ感シタリ。其音タルヲ一アガ敵軍ノ狹路ニ入りタルヲ知ルニ至ルマテ漸次近ク聞エヌ。是ニ於テラト一アハ直チニ驍兵ニ向ツテ砲發スルヲ二回以テ敵軍ニ塔上ノ兵士其軍ノ近接スルヲ知ルノ警戒ヲ與ヘタリ。既ニシテ敵軍ノ士官ノ過急ナルヲ覺令テ下スヲ聞ク。且ツ敵軍現ニ狹路ヨリ退キツトアルガ如ク思ハレタリ。

彼レハ朝ニマテ尙遙カ妨ケラレテアラザリシ。澳太利人ノ指揮官ハ守兵ガ彼レノ近接ノ報知ヲ受取リタリシ而シテ彼レニ抵抗スベク用意シテアリシ事ヲ取ル所デ彼レハ彼レガ企テタリシ如ク驚カシニ依ツテ塔ヲ掠奪シ能ハザリシト決定セシ而シテ日ノ出マデ彼レノ攻撃ヲ猶豫スベク其レガ才智ト考ヘシ。

（譯）斯クテ翌朝ニ至ルマテ他ニ何等ノ事變アラズ。澳軍ノ指揮官ハ塔ノ守兵我軍ノ進ムヲ聞知シ之ヲ防過スルノ備ヘテ爲セリト推知シ、則チ初メ企テタル如ク強襲ヲ以テ塔ヲ拔カムト雖キナ悟リ曙光ヲ見ルノ比ヒマテ攻撃ヲ猶豫スルヲ利ナリトセリ。

朝ニ於テ早ク彼レハ守兵ノ降服ヲ要メタリ。精兵ガ使節ニ答ヘルベク前方ニ歩ミシ面シテ云ヒシ、「此守兵ハ最後ノ極端ニマデ此道ヲ防グデアラウ事ヲ汝ノ命令スル所ノ士官ニマデ云ハト。」

（譯）黎明澳軍ノ指揮官ハ使節ヲ發シテ守兵ノ降服セムヲ促シタリ。是ニ於テ精兵進ミ出テ、使節ニ答フ曰ク、「此守兵ハ極端ニ成ス能ハサルノ極端ニ達スルマデシテ此道ヲ防禦スベシト汝ノ指揮官ニ告ゲヨト」

休戦ノ旗ノ擔ヒ手ハ歸リシ、而シテ後チ暫時ニ大砲ノ一片ハ路ニマテ回轉サレテアリシ。塔ニ於テ正シキ狙ヒヲ得ルヲ爲メニ、其レガ前面ニ於テ、而シテ眞直ニ容易ナル鉄砲ノ列ノ内ニ置タリノ其レガ要用デアリシ。其レガ位置ニ於テ置カレタリシヤ否ヤ塔カラノ迅速ナル發砲スルヲ大砲手ニ於テ開キシ、而シテ大砲ガ五人ノ失ヒヲ以テ二或ハ三發ノ後引離サレテアリシトホド斯様ナル死スベキ精密ヲ以テ續ケラレテアリシ。

（譯）休戦旗ヲ携帶シタル使節ハ歸リキ、後チ幾クモナク澳軍ハ其大砲一門ヲ狹路ニ向ツテ運ヒ、塔上ニ正鵠ヲ失ラザル爲メ前面ニ置キ且ツ小銃ノ彈丸容易ニ達スベキ距離内ニ置ユルノ必要アルヲ以テ其位置ヲ定メ、適當ニ測エシヤ否ヤ塔上ヨリハ我大砲手ニ向ツテ急撃ヲ始メタリ、而シテ其發射ノ精妙ナル、長兵五人ノレガ爲メニ斃レ、僅カニ三發ニシテ大砲ノ射撃ヲ止ムルニ至レリ。

大砲ハ効果アリテ用ヒラレ能ハヌ事ヲ見出ス所デ澳太利ノ指揮官ガ攻伐ニ於テ決定セシ。軍勢ガ路ニ入込ミシ時ニ、距離ノ半バニ達セラレシ前ニ、十五人ガ斃レシ、殺サレシ或ハ不適宜ニサレシヲホド斯様ナル活潑ト而シテ精密ヲ以テ塔カラノ發砲ガ再ビ聞キシ。

（譯）大砲ノ射撃其効果ナキヲ見ルヲ以テ澳軍ノ指揮官ハ肉薄シテ攻撃セムト決セ

リ。既ニシテ我軍狹路ニ入ル時塔上ヨリ再ビ射撃ヲ開ケリ、而シテ其活潑精密ハ能ク我軍ノ未ダ半途ニ達セザルニ十五人ヲ斃シ若クハ死ニ至ラシメ或ハ負傷セシメタリ。

一樣ナル仕方ニ於テ尙多ク三ノ攻伐ガ打反ヘサレシ、而シテ日没ノ前ニ敵ガ殺サレ及ビ負傷サレテ四十五人ヲ失フタリシ。澳太利ノ指揮官ハ塔カラノ發砲ガ普通ナラザル迅速ト而シテ精密デアツタリシ而シテ奇妙デアリシ所ノモノハ各ノ射撃ガ一ツノ格段ナル點カラ來ルベク見エシ事ヲ注意セシ。一時ノ間之レガ彼レヲ迷ハセシ、乍併彼レガ遂ニ其處ニ種々ノ物見穴ガ一緒ニ近クアリシ而シテ狹路ニ於テ眞直ニ保ツベク如ク左様ニ塔ニ於テ置カレシヲ決定セシ。

(譯)澳軍ハ同一ノ轍ヲ踏ンテ攻撃スルヲ三回、毎ニ退ケラレ、日没以前ニ四十五人ノ殺傷者ヲ生ゼリ。是ニ於テ指揮官ハ塔上ヨリノ射撃非常ニ迅速精密ナルヲ感シ且ツ不忠實ニモ其射撃常ニ一定不變ノ點ヨリ來ルヲ悟レリ。此事タル暫時指揮官ノ心裡ニ五里霧中ノ感アラシメシモ遂ニ指揮官ハ許多ノ總眼ヲ同一ノ點ニ相近接シテ穿テ而シテ狹路ノ上ニ直接ニ砲撃シ得ルノ裝置ナリト覺知シタリ。

夜ガ近接セシ時ニ澳太利ノ指揮官ハ再ビ守兵ノ降服ヲ要メシ。此時彼レハ親愛スベキ答ヘテ受取リシ。守兵ガ若シモ彼等ガ彼等ノ武器ヲ以テ進行スベク而シテ故障ナシニフランスノ軍勢ニマテ進ムベク允サレシナラハ朝ニ於テ降ルベク申出セシ。約定ガマテ一致サレテ

アリシ。

(譯)夜ニ近ツク比ヒ澳軍ノ指揮官ハ再ビ守兵ノ降服ヲ促ガシタリ。此時好都合ナル回答ニ接セリ。則チ守兵等其武器ヲ携帶シテ進ミ以テ中途障礙ナク佛軍ニ投スルヲ得テ明朝降服スベシトナリ。此契約一致シタリ。

ラトリア、ド、チーヴアンハ大ナル配慮ノ日ヲ通過シタリキ。彼レハ總テ裝束サレタル而シテ使用ニ向ツテ用意サレタル、彼レノ三十ノ銃ヲ以テ戰ヒテ始メシ。彼レノ發射ガ迅速且ツ精密デアリシ、如何トナレバ彼レハ稀ニ射撃ヲ費ヤス所ノ其等ノ能戰ノ兵士ノ一ツデアリシ(故ニ)

(譯)ラトリア、ド、チーヴアン大痛慮ノ日ヲ經過シタリキ。彼レ其三十ノ小銃(總テ裝束サレ且ツ使用ノ準備ヲナシタル)ヲ以テ戰闘ヲ始メ又其發射迅速ニシテ精妙ナル蓋シラトリアハ幾ンド空丸ヲ費ヤサル能撃者ノ一人ナリシナリ。

價值アル目的ハ勇敢ニモ塔ヲ防禦スベク彼レヲ起シタリキ、而シテ其レハ其レノ精密ナル運動ヲ成遂ゲルベク佛蘭西軍勢ヲ適當ニスベク充分長ク位置ヲ保ツベクアリシ。之レヲ成遂ゲシ、彼レハ路ガ澳太利人ニマテ一ツノ要用ニ就テアラヌデアラウチ知リシ。

(譯)貴ムベキ目的ハラトリア、ド、チーヴアンヲ勇マシク塔ヲ防禦スルノ念ヲ奮起セシメキ。其目的タル、佛蘭西軍ヲシテ功妙ナル運動ヲ遂ゲシムル爲メニ充分長ク此狹路ヲ守ツテ澳軍ノ進行ヲ遮ギルニ在リ。案ニ既ニ之ヲ達ゲテラトリアハ、今ヤ

此鐵路軍ニ利スル所更ニアルナキヲ知レリ(則チ佛軍ノ運動既ニ遠ケタルヲ推量スルヲ以テ此鐵路ヲ經過スルモ澳軍ニ何等ノ要アラザルヲ知ルナリ)

次ギノ朝日ノ出ニ於テ澳太利ノ軍勢ハ進行スベク守兵ニ向ツテ彼等ノ間ニ空間ヲ殘ス所アル老ヒタル精兵ガ銃ノ被レノ積荷ノ下ニ幾ンド踰陣トシテ進ミ出デシ、而シテ兵士ノ線ノ間ヲ沿フテ通過セシ。澳太利人ノ非常ナル驚愕ニマデ彼レガ獨リデアリシ。

(畫)且旭日東嶺ヲ出ヅルノ比。澳軍ハ塔ノ守兵ノ進路ヲ與フル爲メニ路ノ兩側ニ並列シ中間ヲ殘シテ以テ線狀ニ露ヘタリ。是ニ於テ塔ノ大戸開キ直チニ露不敵ノ老精兵數銃ヲ肩ニシテ踏々踏々歩ミ出テ澳兵ノ兩線間ヲ通過シタリ。其單身ナリシヲ實ニ異常ノ驚愕ヲ澳人ニ與ヘタリ。

奇異及ビ驚愕ニ於テ澳太利ノ指揮官ハ彼レニマデ來リシ而シテ守兵ガ彼レニ從ヒナサレリシヲ其レガ何故デアリシカヲ問ヒシ。「私ハ守兵デアアル」コロチル「ヨ」ト斷做ニ精兵カ答ヘシ。「ナント、汝ハ獨リ私ノ軍勢ニ對シテ塔ヲ防禦セシ事ヲ私ニ告ケルベク意味シナスカト」コロチル「ガ叫ビシ」。「私ガ其名ヲ持ツ」コロチル「ヨ」ト靜ナル答ヘガアリシ。「如何ニシテ汝ハ斯曠ナル豪膽ナル企圖ヲナスベク來リシ乎」ト「コロチル」ガ問ヒシ。「君ヨ、如何トナレハ佛蘭西ノ名譽ガ危難ニ於テアリシ故ニ」ト貴キ老ヒタル精兵ガ云ヒシ。「コロチル」ガ一瞬間ニ向ツテ明白ナル驚嘆ヲ以テ兵士ヲ眺メツ、立チシ。然ル時彼レノ帽子ヲ上ケル所

テ、彼レハ多クノ感情ヲ以テ云ヒシ、「精兵ヨ、私ハ汝ニ挨拶スル。汝ハ勇者ノ最勇者ニ汝自身ヲ證據立テタ」ト。

(圖)澳軍ノ指揮官ハ斷シミ且ツ驚ヒテ馬ヲ歩マシメテラトリアニ近ツキ、守兵何故ニ從ハザルヤヲ問ヒヌ。精兵傲然答ヘテ曰ク「佐官足下ヨ、予ハ是レ守兵ナリ」ト之ニ對シテ佐官ハ絶叫セリ、曰ク「汝何トカ云フ? 汝單身子ノ軍勢ニ對シテ此塔ヲ防守セリト云フ乎? 飯ヲ靜カニ答フラク、」佐官足下ヨ、余ハ其言ヲ爲ヌヲ得ベシ」ト。佐官又ハ問フ、曰ク「何ヲ以テ汝ハ斯ク豪膽ナル企圖ヲ策スルニ至リシヤ?」是レ佛蘭ノ名譽危フカリシヲ以テナリ、」ト實アベキ老精兵ハ云ヘリ「實ニラトリア此塔ヲ守ツテ澳軍ヲ遮ギルナカツセ、」響キニ澳軍ノ進ムヲ聞知シテ一擊ダモ試ミズ遣セル塔ノ守兵ノ操タル、佛國ヲ辱シムル大ナルヲ以テ、則チラトリア此言ヲ爲セルナリ)斯クト聞キテ佐官ハ表ハニ驚嘆ノ相ヲ示シテ以テ暫時佇立シ兵士ヲ凝視セリ。則チ其帽ヲ脱シテ佐官ハ感動ヲ帶ビタル語調ヲ以テ曰ク「精兵足下ヨ、余ハ足下ニ敬禮ス。足下ハ足下自身勇士中ノ最勇士タルヲ立證シタリ矣」ト

士官ガ然ル時ニラトリア、ド、チーヴァンガ擔ヒ能ハザリシ所ノ銃ノ總テヲ持ツベク命令ヲ與ヘシ。佛蘭西ノ陣營ニマデ彼レト共ニ送リシ、而シテ然ル時ニ事情ヲ話ス所ノ、書狀ヲ佛蘭西ノ指揮官ニマデ書キシ。ナポレオンガ戰爭ノ事柄ヲ知リシキニ彼レガラトリア、ド、チーヴァンヲ昇進スベク望ミシ乍併後者ハ精兵ニ殘ルベク撰ビシ。

(講)斯クテ士官ハ其士卒ニ令シテラトリアド、チーヴァンガ負荷スルニ堪ヘ難キ其銃ヲ悉ク持チ來ラシメ、佛蘭西陣營ニマテ共ニ送ラシメタリ、其後小塔防守ノ頭末ヲ記載セル書狀ヲ認メテ佛軍ノ司令官ニ送レリ。ナボレナン戦闘ノ此特別ナル勅未ヲ書面ノ上ニ知り得タル時、ラトリアドチヴァンチ昇進セシメムト欲ス然ルニラトリア之ヲ許シテ唯ダ依然精兵タルヲ好メリ。

勇敢ナル老兵ガ千八百六年六月ニ於テチバーハウセンノ戦争ニ於テ殺サレテアリシ而シテ彼ノ(レ)シメントノ日々ノ點呼ニ於テ單ナル且ツ明白ナル斷ハレガ大ナル及ビ貴重ナルナボレナンニ依ツテ命令サレ且ツ續ケラレシ。

(講)勇敢ナル老兵ラトリアド、チヴァンハチバーハウセンノ戦争中ニ殺サレ、于時紀元一千八百六年六月ナリ而シテ其(レ)シメントノ日々ノ點呼ニ際シ、此單ニシテ明ナル一軍團チ死没セルラトリアド、チヴァンノ名ヲ呼ブ事定ニ夫ノ哀傑ナボレナンノ命令スル所ニ係リ且ツ絶エズ續行セラル、所ナリ。

第九十四章

死シタル精兵

戦隊ノ右ニ於テフランスノ精兵ガ鎗ノ投グルコニ依ツテ彼レノ鎧ノ鎧ヲ通ホシテ打タレ、彼レノ胸ガ總テ英國ノ血ヲ以テ彼レノ額ガ英國ノ呼吸ヲ以テ浸サレシ、其處ニ英國ト而シテ死亡ト相對シテ勇敢ニ斃レシ。彼等ハ彼レノ心ノ法冠ヲナセシ——彼等ハ通ホシ且ツ通ホ

シテ其レヲ附ケシ——二分ノ一ガ彼レノ隊ノ爲メニ且ツ他モ亦其レノ爲メニアリシヨ。尙終リノ日ノ色ヲ豫言ノ指ガ流セシ、如何トナレハ唇ガ青ク而シテ頬ガ白クアリシ而シテ王旗ガ赤クアリシ故ニ。而シテ喇叭ガ鳴リシ、而シテ隊ガ四轉セシ、而シテ精兵ガ死シテアリシ。

(講)軍隊の右の方の佛國の精兵が電のやうに突き出さる、槍の穂先きにかげられて、鎧の鎧を突き通はされた。そこで其胸は敵である所の英兵の血を染め、其額に英兵の呼吸をうくるまで接合して、恰是英國と相對し、死亡と相對して居るかのやうに勇ましくも斃れた。この精兵の戦没の形容は精兵の心の中の譽れであつて、その譽れは、この精兵の胸の間に附着して居る、その譽れの半分は、この精兵が附屬せる軍隊の譽れとあり、殘る半分は精兵の身の譽れとある。軍敗れ事終るの日に至る前に、その前兆は色に表はれた、それは人々の唇青靨め、そして頬は白くなり、そして王旗は赤色を示したから！喇叭の聲高く響き、軍隊は踵を返らした、精兵は黄泉の客となつた。

而シテ然ル時キ老ヒタル指揮官ガ徐々ニ隊列ヲ下ツテ來リシ而シテ打タレタル隊ノ間ニ如何ニ短カク旅行ガナリシカヲ考ヘシ、而シテ月光ニ於テノ影ガ戰ノ赤キ酒宴ガ酒ノ最富ミタルモノヲ賭ケシ所ノ線ニマテ奇妙ニ落チシ、而シテ陣營ノ火ガ彼等ノ怪像ヲ投ケシ、總テ彼等ガ能ヒシ所ノモノヲナス所デ、老ヒタル練熟兵ガ望ム如ク烈シキ隊列ヲ接合スベク、ヨ。進ミニ於テ旗ヲ持ツテ老ヒタル指揮官ナル彼レガ來リシ、而シテ烟アル松明ノ光リ

ヲ以テ輝カサレタル偶像ニサレタル青銅ノ如ク鎗ノ閃光ノ如ク總テ彼等ノ顛ニ於テ光ヲ照ラセシ、然ル時ニ總テ裸テ而シテ履格ナル額ヲ以テ王ノ爲メニユト彼レガ宏ハニ云ヒシ、活キモノニマデ旗ヲ下ゲヨ——死者ニマデ低聲ヲ打テヨ。而シテ三度赤キ絹ガ土ノ火ノ其レノ火焰ヲ低ク輝カセシ、而シテ三度太鼓ガ襲服者ノ荒キ望ミニ高聲ニ歎キ出セシ。嗚呼、尙低ク再ビ、紅色ノ雲ナル汝——再ビ汝太鼓ヲ歎ケ——其レハ荒野ニ於テノラツチエル及ビ天幕ニ於テノラマデアル。

(譯)りの後光ひたる司令官は聲を擧げられた隊列の中に徐ろに馬を乗り廻りて檢したるに、數多の兵士が眠没したので列が短かくなり巡檢の旅行が狭びまつたのと思ひ合せ、うして月の光は邊に火花を散して烈しく戦ふた場所の奇の影をうつし、うして陣所の燈火も士卒の怪しき影法師をうつした——老練の兵士がまゝたやうに隊列の數の人は陣屋の一方に密合したから、うの爲す形容のりの盛を火影に寫した！旗を擧へたる司令官が眞先に参り進みぬ、うの容狀は烟を吐く松明の光りに照されたる青銅の偶像のやうで、鎗の閃めく光りのやうに兵士等の額を照らした、則て眞面目な顔にて云へるには、「勤めや勤め王の爲め」と、うれに續けて、「生きたるものに旗を下げよ死者の爲めには品鼓を打てよ」と云ひぬ、うして火焰のやうな赤き絹の王旗をば生きたる人の爲めに三回下げ、うして襲服者の憂ひを遣らる爲め三回太鼓を響かせぬ。嗚呼、深紅の雲なる王の旗よ今一度低く下たれ、太鼓よ

今一度鳴れ、——荒野に屍を曝らそラチエルの爲め、天幕の裡にあるラマの爲め！

(註)Rache ヲラマンノ末女ニレナツコブノ妻、ジヨセーフトベンツヤミンノ母ナリ。

Ramah ヲベンツヤミンノ都府ノ一ナリ、換語ニ依ツテ茲ニラマノ兵士ヲ意味ス。

接近セヨ。衣裳ヲ正セヨ。キャアテンガ云ヒシ、而シテ彼等ガ太陽ノ光リガ日中ニ於テ下ダル時ニ影ガ一緒ニ集ル如ク月ノ下ニ集リシ——各ノ兵士ノ右ニ於テ外國人——嗚呼、戦争ノ荒キ働キガ猛惡ニアルヨ——而シテ彼レタル線ノ最後ニマデ左様ニ、而シテ彼レノ右ニ於テ死亡シヨ。而シテ其處ニ深キ且ツ死シタル沈黙ニ於テ伍長ガ巻物ヲ呼ビシ而シテ名ガ彼レカ通過スル所ノ精神ヲ呼ビシ時ニ線ヲ下ニ遍歴シツ、行キシ。オ！然ル時友愛ナル山モ其呼出シテ聞キ能フタ、而シテ黙シタル荒地ヲ横切ツテ言葉ノ影ヲ投ケシ而シテ隊ニ添フテ總テノ失望ガ走リシ所ノ名ヲ捕ヘシ、而シテ其大ナル心ニマデ其ヲ擲ミシ而シテ人ニマデ其レヲ送り返ヘセシヲテ(望ム)

(譯)隊長は號令「ぬ、密接せよ、衣服を正せ」との令に従ひて兵士は、尙是正午に太陽の影を時、總てのもの、影が一つ所に集るやうに、月光の下に集合しぬ、うの時各の兵士の右に而識ならぬ人ある如し！嗚呼、戦争の荒々しき働きは日登ましかり！——續々眠没者生じて隊列乱れ離る、最後の斯までも眠ひは烈しかり、うして兵士の右にハ死者横はれる、うしてりの後伍長は、軍隊靜謐無言の中に、兵士の名簿を讀上げぬ、果敢なき數に入れる兵士の名を呼ぶ時に、應ずるものもあらざり

て、聲は隊列の下に消ね行く。噫！死したる人の名を呼ぶ聲を、親しき山も聞きつらむ。ものをば云はぬ荒地にも言葉の影はさしつらむ。うして全隊なべて哀悼せる死者の名は鳴り渡り荒地の真中に其聲沈んで、うして人に反響せしむらむ！

伍長が巻物ヲ呼ビシテ而シテ名ガ彼レガ通過スル所ノ精神ニ向ツテ呼ビシ時ニ線ノ下ニ遍歴シツ、行キシ間割タル隙ナル其レハ其處ニ立チシ。黙シタル死シタル獅子ニ向ツテ「ハ」ラ「ヨ」前シテ精兵ニ向ツテノ聲ハ鼓聲ノ如ク列カラ回轉シ出テ而シテ強ク此處ニト答ヘシ！

(講)伍長が兵士の名簿を讀み上げ、うして果敢なき數に入れる兵士の名を呼ぶ。隊列大の下に消ね行く間、擊破られたる隊列は立ちぬ。戦没したる勇士の爲めには歎びよ！精兵に向つて呼ぶ聲は、響く太鼓の音の如くに隊列中から響き出づる時、此處にありとの強き響きの答へを出でぬ。

「彼レハ立チシ」ト雷ノ息子が呼ビシ而シテ彼等ノ心ガ境ヲ越エテ走りシ。彼レハ老ヒタル戦隊ニ依ツテ立チシ而シテ余輩ハ常ニ彼レニ依ツテ立ツデアラウヨ。嗚呼、大ナル宗教ノ爲メニ呼べ、而シテ余輩ハ名ニマデ答フルデアラウ。而シテ何チ汝ガ云フデアラウ乎。ト伍長ガ云ヒシ、名譽ノ戦場ニ於テ死セシヨ。

(講)「彼レは立てり」と勇悍ある兵士は叫びぬ、うして其心は戦場の事を感起して「彼レは昔一の戦隊の傍に立ち、うして我等は彼レの傍に立つべし！嗚呼、戦没せる精兵

の名を呼べよ我等は其名に答ふべし」と呼べり。うれに對して伍長は問ひぬ。「さて汝等は如何なる答へを爲そや？兵士ハ答へぬ。名譽の戦場に墜れたりと答ふべし。而シテ敢テ汝ハ其レヲ死シタルモノト呼ブ乎。墓所カラ休ミヲ得且ツ然ル時ニマデ報告スル所ノ貴キ徳カ。地ガ僅カナル太陽且ツ雨ニマデ野菊ヲ放任シ而シテ疲レタル時代ガ滅ズル間彼等ノ根ニ於テ勇者ヲ保チナス乎。

(講)さて汝等は戦没の精兵を死したるものと敢て云ふや？其墳墓より歸休を得て、則て時代に譽れを告ぐる高徳ふらさずや？この世の人はこの精兵の屍を埋むる地に野菊の叢生するをも構はず、幾年月は移り變るも野菊の根に埋れしまゝ、にこの勇士をば捨て置くべきや？

喇叭ヲ懸ケヨイスラフイルヨ。余輩ノ神ノ快美ナル喇叭手ヨ。如何トナレバ何モガ此破ラレタル柴生ノ下ニ汝ノ呼ビ出シテ待タヌ故ニ彼等ハ正ニ於テ雷ニマデ時代ト共ニ並ソデ進ム、如何トナレバ彼等ハ世界ガ「ヨキ夜」ト云ヒタリシ時ニ「善キ朝」ト世界ニ云ヒシ故ニ。

(講)喇叭を懸けねイスラフイルよ、余輩の神の快美なる喇叭手よ、この悲愴なる柴生の下には今ぞ汝の呼び出しを待つものなきゆへ。地下に埋もる勇士等は時代の移るに従ひて、皆天國の勇士となるべし、その勇士等は世界に歌を告げ世界も亦勇士等に歌乞ひを爲せるゆへに。

第九十五章

シヨソ王カテノ舞臺、

舞臺——ノーズアムプトン。城ニ於ケル部屋。

ヒューバート及ビ二人ノ從者入ル。

ヒューブ、此等ノ鐵ノ熱チ私ニ熱セヨ、而シテ暮ノ裡ニ立ツ汝ヲ見ヨ、地ノ胸ノ上ニ私ガ私ノ足ヲ打ツ時ニ、飛ビ出デヨ而シテ私ト共ニ汝ガ見出スデアラウ所ノ小兒ヲ椅子ニマデ確ト繫ケ、注意シテアレ、是ヨリ、而シテ見張レ。

(囁)

舞臺 ノーズアムプトン。城中一室の場

ヒューバートと從者二人此場に入り来る。

(ヒューブ)

予が爲めに此鐵棒を熱せよ、其方は暖簾の裡に隠れよ、予が足を上げて地を踏む時、それを合圖に跳り出で予の傍に在る小兒を捕へ椅子に確と縛りつけよ、心せよや、いざ是より用意々々

第一從者

余ハ望ム汝ノ捕縛ノ申付ハ行爲ヲ保ツデアラウヲ

(囁)

なんでも賣主の仰せ付け通り甘く遊つてのけたいものでござる。

(ヒューブ)

不明ニ疑心ヨ、汝恐レナスナ、其レニマデ眺メヨ。

〔從者出行ク〕

(囁)

其方は左右疑心を抱くよを、ナニ恐れるには及ばぬこと、先づ成行きを見よや。

〔これにて從者出行ク〕

若者ヨ出デ來レ、私ハ汝ト共ニ云フベク持ツ。

(囁) (ヒューブ)

少年、出でまいれ、予は其方に云ふべき事あり、

アース

善キ朝ヨヒューバート

少年アースア入り来る。

アース

善キ朝ヨヒューバート

今日はヒューバート健、

ヒューブ

善キ朝ヨ少年ル公子ヨ。

今日は若公、

アース

少年ル公子ノ如ク(尙多ク公子デアアルベク左様ニ多クノ位ヲ持チツ)、其如クアリ得ル、汝ハ悲シクアル。

實き位を身分ながらも予は悲しむに堪へぬか、ヒューバート様も亦予と同じく悲しく在さぬ。

ヒューブ

實ニ私ハ尙愉快デアツタ

寔に若公の仰せの通り、予も以前は唯今のやうでもなく少しは愉快でありました。

アース

嗚呼、私ハ考ヘル、誰レモガ私ノ外悲シクアラヌデアラウ、尙私ガ記憶ス

ル、私ガ佛蘭西ニ於テアリシ時、若キ紳士ガ唯放蕩ニ向ツテ、夜ダケ其ノダケ悲シクアルデアラウ。私ノ耶蘇教國ニ於テ左様ニ私ガ半獄カラ出デ、アリシ、而シテ羊ニ保タレシ、私ハ日ガ長クアルダケ其レダケ愉快ニアラデア

ラウ、而シテ左様ニ私カ此處ニアルデアラウ、私ノ叔父ガ私ニマデ尙多キ害ヲ實行スルヲ疑フノ外ハ、彼レガ私ニ就テ恐レテアル、而シテ私ハ彼レニ就テ、私ハセテツフレノ息子デアリシヲノ其レガ私ノ誤リデアアル乎。否、實ニ其レガアラヌ、而シテ私ハ汝ノ息子デアリシナラバ私ハ天ニマデアラウ、左様ニ汝ハ私ヲ愛スルデアラウ、ヒューパートヨ。

嗚呼、予ほどの悲しき子^{わがこ}をのけて外にあるまい、されど、予は今も愛はて居る、予のフランスにあり、時年若^{ときわか}の少年達^{せうねんたち}は、放蕩^{ほうたう}の爲め痛く悲しむるを知らぬ。予が基督教國にて、予の身は不羈自由にて、いかも天帝の保護を被り、長き終日^{ひるごと}樂しくあり、予の通り、此處にても樂い日を送りたけれど、唯だ予が叔父あるもの、予を虐待せまくを疑ひ恐る。叔父は予をば、恐れて在は、予も亦叔父を恐るか。予がセテフレの子であるゆへ、それが恐る乎。いや左様ではない實に左様ではない、ヒューパート様、若し予が脚の子であるらば愉快であらう、脚も亦予を愛し玉はめ。

ヒューブ (彼方ニ) 若しモ私ガ彼レニマデ話スナラバ、彼レノ害ナキ多言ヲ以テ、彼レガ死ニ横ハル所ノ私ノ慈悲ヲ目覺マスデアラウ、其故ニ私ハ俄カデアラルデアラウ、而シテ去ルデアラウ。

ヒューブ獨り言。善者アーサーと談話をなさば、その可愛らしき言葉のため、予の根を絶ち、慈悲心と呼び起し予の心を和々べし、うれゆへ早く事を行ふが上分別だ。

アース (言) 汝ハ病氣デアアル乎ヒューパートヨ、汝ハ今日青白ク見ユル、實ニ私ハ汝ガ僅カ病氣デアリシト思フ、私ハ總テ、夜坐シ、而シテ汝ト看護シ能ヒシヲ望ム。私ハ斷言ス、私ハ汝ガ私ニ爲スヨリモ尙多ク汝ヲ愛スル。

ヒューパート様、脚^{あし}と氣分よろしからずや？ 今日脚は青認めて見ゆ玉ふ、寢に予は脚の少し病氣にあらせ玉ふを察し申す、予は終夜脚の枕頭に坐して看護いたりたいと思ふ。予は確と申す、脚が予を愛し玉ふより予が脚を敬愛する幾倍あると。

ヒューブ (彼方ニ) 彼レノ言葉ハ私ノ胸ノ所有ヲ取りナス。——
此處ニ讀メ、若キアーサーヨ、
(紙ヲ示シツ、)

(彼方ニ) 今如何ニ無智ナル感冒ヨ。戸ノ外ニ無慈悲ナル苦ミヲ向ケツ、ヨ。私ハ簡短デアラチハナラヌ、慈悲深キ女子然タル涙ニ於テ私ノ目カラ決定ノ滴リヲ恐ル。汝ガ其レヲ讀ミ能ハヌ乎。其レハ善キ書デアラヌ乎。

ヒューブ(獨り言) この若子の言葉を聞けば、予が胸も張裂くばかり可愛

うだ、

アーサー殿、これを読み玉へ。(紙を示しつゝ、アーサーに向ひ云ふ)

(又横向ひて獨り言) 如何にも馬鹿らしい事よ、今無慈悲の心を導いて涙溢

れたり、手早に事を遣付けぬばならぬ、も一途踏まざれば、婦女子ら一

うも涙脆くまりて子を鞠れむの心から、事を誤るに至らむは必定

なり。(更にアーサーに向ひ)

若公わかみそれを得讀とくし玉ふや、能く書いてあるではござらぬか?

アーサー(言) 余り善ク、ヒューバートヨ、左様ニ悪シキ結果ニ向ツテ、汝ハ熱鐵ヲ以テ

両方ノ私ノ目ヲ燒キツプサチバナラヌ乎。

ヒューバート様記せる事の悪しきにかへて、書き振りの力派さ。

御は熱鐵をもて予が両眼を燒き潰し玉はではかまはぬか?

ヒューバ(言) 若キ小兒ヨ、私ガ(燒キツプサチバナラヌ)ナラヌ。

如何にも燒き潰ぶさでかまはぬなり。

アース(言) 爾シテ汝ハアラウ乎。

シテ脚あし手づから予の目を燒き玉ふ乎?

ヒューバ(言) 爾シテ私ガアラウ。

脚あしの通り予自ら燒く筈なり。

アース(言) 汝ハ心ヲ持ツ乎。汝ノ頭ガ唯痛ミナセシトニ。私ハ汝ノ額ノ邊ニ私ノ手巾ヲ

結ブ、女王ガ其レヲ私ニ造リタルナル、私ガ持チシ最良ノモノ、而シテ私ハ決シテ再ビ其レ

ヲ汝ニ問ヒナサハリシ、而シテ夜半ニ於テ私ノ手ヲ以テ汝ノ頭ヲ保ツ而シテ時間ニマデ見

詰ヌタル瞬時ノ如ク、靜カニ且ツ速カニ重キ時ヲ感メシ、「何ヲ汝ガ欠ク乎」、而シテ「何處ニ

汝ノ悲哀ガ横ハル乎」或ハ「何ノ善良ナル愛ヲ私ガ汝ニ向ツテ爲シ得ル乎」ト云ヒツ、多

クノ憫レナル人ノ息子ガ靜カニ横ツタデアラウ、而シテ決シテ汝ニマデ愛スル所ノ語ヲ話

サナンダ、乍併汝ハ汝ノ病氣ノ勸メニ於テ王公ヲ持チシ、加之汝ハ私ノ愛ガ狡猾ナル愛デア

リシト考へ得ル、而シテ其レヲ狡猾ト呼ベ、若シモアラウナラバ爲セ、若シモ天ハ汝ガ惡シ

ク私ヲ用ヒバナラヌヲ好ミテアルナラバ、倅然ル時ニ汝ガ(燒キツプサチバナラヌ)ナラヌ。

汝ハ私ノ眼ヲ潰つぶスデアラウ乎。汝ニ於テ嫌ヒノ如キ左様ニ多ク決シテナサハリ

シ又ハ決シテ(爲サヌデ)アラウ所ノ此等ノ眼ヲ(燒キツプスデアラウ乎)

アーサーの語、脚情あしづかひを知り玉ふ乎?、脚の頭痛に在せし時、予は、女王の通り

玉へる、余の持つ中の第一の良き手巾もて脚の頭を結び、予は

予の大切の手巾をば、予の後脚に戻し玉はれども申さざり、夜半

に予の手をもちて、脚の頭を撫で擦り、その看顔かほをいたを問ハ、幾度

となく脚を慰め、「おにか不自由は在はさずや」「痛みは何れに、」

「如何にせば思召しに叶ひ申そや」など、申して待りし、實まことさ

人の子は脚の側に侍るときも、親の言葉を聴き、脚を慰め侍ふまじ、されど脚は病氣の看護として公子を侍らし玉ひたり。かゝる脚は予が愛情を狡猾からと思し玉ふ乎？、予を狡猾と呼び玉は、予も亦何をか申し上ぐべき？、天道も予を惡くもてなす玉ふを好まば、脚の心任せに玉へか、什麼脚は予が目を潰さむと玉ふにや？、脚の心に懐らぬ厭む目付をいたした事なく、又この後ともいたそまじひこの眼をば、脚は是非に潰し玉ふ乎？、

ヒューア(言) 私ハ其レヲ爲スベク誓フタ、熱鐵ヲ以テ私ハ彼等ヲ燒キ潰サシマナラヌ。

予は若公の目を潰すを誓ひしれば予は熱鐵もて若公の眼を燒き潰さずではかまはぬなり。

アース(言) 嗚呼、此鐵ノ時代ニ於テノ外誰レモガ其レヲ爲サヌデアラウヨ。縱令赤熱ニ熱シタリトモ鐵其レ自身、此等ノ眼ニ近ク近寄ル所テ私ノ涙ヲ飲ムデアラウ。而シテ尙私ノ無罪ノ事柄ニ於テ彼レノ烈シキ怒リヲ消スデアラウ。否、其後、唯私ノ眼ヲ害スベク保ツ所ノ火ノ爲メニ鑄ニ於テ彼方ニ消ユルデアラウ。汝ハ槌サレタル鐵ヨリハ尙多ク頑硬ニアル乎。而シテ若シモ天使ガ私ニマテ來タデアラウ而シテヒューアトガ私ノ眼ヲ潰スデアラウチ私ニ告ゲシトモ私ハ彼レヲ信シナンデアラウ。ヒューアトノ(舌ノ)外一ツノ舌ナ

モ(信セ)ヌ。

嗚呼斯くあさましき世の中にあらざれば、誰とて左様な惡しき振舞をいたそんきやば！よーや赤く熱したりとも、予が眼の傍へ近寄るとき、鐵は予の涙に「むべー」りの上予の罪なき其爲めに鐵の熱をば冷やそべー、否、否、それのしか、鐵は予の眼を害ふ熱を持ちたる爲め、予の涙に浸されてより遂に腐り果てぬべー。什麼脚ハ絶に造れる鐵よりも頑固なる硬き心かや？、今若し天帝の使者予の傍に來りヒューアトハ其方の眼を潰すべしと云ひ聞けるとも、予は予の言葉

を信じはせぬか。ヒューアト自らの言葉の外は誰れの言葉も信じはせじ。

ヒューア(言) 出テ來レ。(足踏ノ音) (云ひつゝ、合圖の足音をさせる)

者共來れ。

鐵ト鐵等ヲ以テ、從者再ビ入り込ム。

合圖に従つて從者等、鐵などを懷へ入り來る、

汝爲セト、私ガ命セシ如ク爲セ。

ヒューアト(言) 鐵に予が命せと命じたる如く爲そべー。

アース(言) 噫私ヲ助ケヨ、ヒューアトヨ、私ヲ助ケヨ、私ノ眼ガ此等ノ恐ロシキ人ノ烈シキ視エヲ以テ、トストラモ外ニ在ル。

ヒューアト(言) 鐵助けて下され、助けて下され、予は斯く恐るゝ

ヒユニア (言) 鐵ヲ私ニ與ヘヨ、私ハ云フ、而シテ此處ニ彼レヲ捕レ。
（徒者に命す）

アリス (言) 嗚呼、左様ニ騒ガシクアルベク何ヲ汝ハ要スル乎、私ハ爭ハヌデアラウ。私ハ石ノ如ク靜カニ立ツデアラウ、天ノ求メニ向ツテヒユニアトヨ、私ナシテ捕バラレテアラシメテヨ。否、私ヲ聞ケ、ヒユニアトヨ、此等ノ人ヲ彼方ニ追ヘ、而シテ私ハ小羊ダケ其レダケ靜カニ坐スデアラウ、私ハ退カヌデアラウ、尙ホ避易セヌデアラウ、又ハ一語ヲ話サヌデアラウ、又ハ怒ツテ鐵ノ上ニ眺メヌデアラウ、唯此等ノ人ヲ彼方ニ投ゲヨ、而シテ私ガ汝ニ許スデアラウ、如何ナル苦痛マデ汝ハ私ヲ置キナストモ。

嗚呼、何レに斯ク騒ガタツるにや？予は更に抵抗はじ、予は石のごと静かにたつ、願ふは子を縛らざれ、唯ヒユニアト様聞かぬか、斯かる捕手の人を選ざり玉へ、予は小羊のごと静かに坐すべし、動きもせまじ、避易もせまじ、一言だにも申しこせまじ、怒を帯びて鐵を見るなどいたせまじ、唯々捕手の人等を去らしめ玉へ、脚如何程子を苦しき辛き目にあはせ玉ふとも予は脚の玉ふま、に任せ、ハ。

ヒユニア (言) 行ケ、裡ニ立テ、私ナシテ彼レト獨リナラシメヨ。

第一ノ從者 (言)

者共去れ、腰籠の裡へ入れ、予れ獨りこの少年と共に居るべし。
私ハ左様ナル行爲カラアルベク最能ク樂マサレテアル。
私共は左様な酷たらしひ事を見ぬ方が喜ばしうござりませ。

アリス (言)

嗚呼、私ハ然ル時ニ私ノ友人ヲ彼方ニ追フタ、彼レガ嚴格ナル容貞ヲ持ツ、乍併温順ナル心ヲ持ツ、——彼レヲシテ歸リ來ラシメヨ、彼レノ哀憐ガ汝ノ(哀憐)ニマテ生活ヲ與ヘ得ルヲ爲メニ。

ヒユニア (言)

嗚呼、予は今予の友を追ひけるよ、彼の捕手共は遂に可怖らしひ容貌あれど、その心の優しさと、彼の人の深き心の爲めに、自づと脚の心も和がらむるのたため彼の友達を呼び戻し玉へ。

アリス (言)

いざ來よ小兒、覺悟はよいか？
其處ニ一ツノ醫法ハナキカ。
外にいたいやうはよいことか？

ヒユニア (言)

汝ノ眼ヲ失フヲ外ナニモナイ。

アリス (言)

其元の眼を潰さむより外に如何にとも致し方はござらぬ。
オー、天ヨ、其處ニ汝ノニ於テ唯少シガアリシヲ(望ム)穀粒、塵埃、蚊、漂

フ所ノ髮毛、其實重ナル感シニ於テ或障礙(ガアシヲ望ム)ヨ。然ル時ニドソナ小サキ物ガ其處ニ懸ガシクアルカヲ感ズル所デ、汝ノ惡シキ企テガ恐ロシク見ユルヲ要ス。

嗚呼！卿の心に唯少しばかり、誠に米粒ほど塵埃ほど、吹けば散る髮毛ほど其外何ものほごなりとおとばかりの障りあれかと思ふなり。もし少しがほごにても卿の心に思ひ合はそ車のありなば、今の卿の目論見の道ならぬ空愁ろしきことぞと悟り玉ふべし。

ヒューブ(言)之レガ汝ノ約束デアアル手、マテ行ケ、汝ノ舌ヲ保テ。

云ふも小兒、其方は先程の約束を忘しよないさく、行け約束の通りせよ。

アリス(言)ヒューバートヨ、舌ノ筋ノ發音ハ眼ノ一對ニ向ツテ辨護スル、丁チ必ズ要

セテハナラヌ、私ヲシテ私ノ舌ヲ保タシメナ、——私ヲシテ(保タ)シメナヒューバートヨ、或ハ、若シモ汝ガ望ムナラハ私ノ舌ヲ切去レヒューバートヨ、左様ニ私ガ私ノ目ヲ保チ得ルナリ、私ノ眼ヲ免セ、尙汝ニ於テ眺ムルベク外一ツノ要用ニマテナキトハ難。見ヨ、私ノ名譽ニ於テ、器械ガ冷エテアル、而シテ私ヲ害セヌデアラウ。

云ふなど仰せらるれど、予は予の眼の辯護の爲めに、是非舌を動かさずではかなひ申さず、則ち舌の發音は兩眼を助けばやにて侍るなり。嗚呼ヒューバート殿、ものを云ふると仰せられ、予にものを

云はせて玉へなれども若しお望みならば予の舌の根を截ち玉へのりの代りには予の兩眼を潰し玉ひぞ、とうぞ予の眼を助けて玉へよーや予の眼は卿を見る外用はなけれど、みりなはせ、予の爲めの幸ひなることには、眼を焼く鐵は冷はてゐる、今は予の鐵子の眼を害ふ役にはたち申さぬからめ。

ヒューブ(言)私ハ其レヲ熱シ能フ小兒ヨ。

予は予の鐵を又も熱し能ふぞよ。

アリス(言)否、善キ誠ニ於テ、火ガ悲哀ヲ以テ死シテアル、愉快ニ向ツテ造ラレツ、

不當ノ至極ニ於テ用ヒラレテアルベク、其外汝自身見ヨ、其處ニ此燃ユル所ノ石炭ニ於テ一ツノ恨ガアラヌ、天ノ呼吸ガ彼レノ精神ヲ吹キ出シタ、而シテ彼レノ頭ニ於テ後悔ノ灰ヲ散ラセシ。

いや、誠に火は悲哀の爲めに消は果てしうれば、愉快のためとて燃ゆる火を、極めて道ならぬことに用立てまくするからのこと。その外卿自ら思ひ合はせ玉へ、この燃ゆる石炭には一つの恨もあらぬか！天道等を助け玉へば、火の精神を吹き消し玉ひ、その上火の上には灰堆くか、りたれば今は、何とて鐵の熱をる事のあるべき。

ヒューブ(言)乍併私ノ呼吸ヲ以テ私ガ其レヲ回生シ能フ、小兒ヨ、

けれども子は子の呼吸を吹きかけ、火の勢を回復し得るぞよ。

アリス(言)而シテ若シモ汝が爲スナラハ汝ハ唯其レヲシテ赤面セシメ而シテ汝ノ處置ニ就テ耻ヲ以テ輝カシムルデアラウ、ヒューバートヨ、否、其レハ恐ラクハ汝ノ眼ニ於テ輝クデアラウ、而シテ戦フベク逼マラレテアル所ノ犬ノ如ク、彼レヲ追ヒ進メナス所ノ彼レノ主人ニ於テ嚙ミツクデアラウ。汝ガ不道ヲ私ニナスベク用エルデアラウ所ノ總テノ物ハ彼等ノ役ヲ嫌フ、唯汝ハ恵ミナキ用ニ向ツテ標示ノ創造者ナル烈シキ火及ビ鐵ガ廣クル所ノ其慈悲ヲ欠キ爲ス。

脚も強ひて鐵を燒むと玉は、鐵唯赤面し、脚の振舞に就て耻ぢの變りを示さならぬ、尙りれのみか、脚の眼の中に火花を散らさぬ、これを物に懸ふるならば、犬を噛み合はさむとて、通りて犬を進ませる主人かへりてその飼犬に噛みつかると、如きものなるべし、脚の子を害はむとてその用ふ供へ玉ふ道具は、なべてその役口を厭ひ侍ふべし、唯脚は慈悲を缺くの用に供ふる烈火や鐵が、脚の上に及ぼさず苦惱を免れむを心し玉へ。

ヒューバ(言)傭生活スベク見ユ、私ハ汝ノ叔父ノ所有スル所ノ總テノ財寶ニ向ツテ汝ノ眼ニ觸レヌデアラウ。尙私ハ誓フテアル、而シテ私ハ彼等ヲ燒ツナスベク此同ツ具ノ鐵ヲ以テ金テナセシ、小兒ヨ。

借若公は命ながら玉ふべし、子は若公の叔父君の有せらるゝ總ての財寶の爲に、若公の眼に鐵を觸るゝことを止め申をべし、されど子はこの鐵もて若公の兩眼をば燒きつぶさむと誓ひも一企てもしたりなり。

アリス(言)オー、今汝ハヒューバートノ如ク見ユルヨ。此間ノ總テハ汝ガ異粧セラレテアリシ、

嗚呼！今こゝろ脚の姿談のヒューバート殿と見ね侍る。今より前の脚は異りし人と見ねけるよ。

ヒューバ(言)平和ニ、最早、左様ナラ、汝ノ叔父ガ汝ガ死シテアル外知リテハナラヌ、私ハ不信ナル報告ヲ以テ此等ノ惡シキ聞者ニ充タスデアラウ、而シテ愛ラシキ小兒ヨ、疑ヒナク且ツヒューバートハ總テ世界ノ富ニ向ツテ汝ヲ害セスデアラウヲ確メテ睡眠セヨ。

靜に玉へ、今は何をも云ひ玉ふを、若公の叔父君には若公死去りませしと知らしめ、へかかなひ申さず、惡しき聞者輩には信しからぬ報告をなすべく、いと愛らるゝ若公よ、公ハヒューバートが決して公を害はじと信じ玉ひて、安らかに心を落ちつけて眠り玉へか。

アリス(言)オー、天！私ハ汝ニ謝ス、ヒューバートヨ。

嗚呼(悲)ヒューン！ヒューン！ト襟をぬる。

ヒューン(言)嘿セヨ、最早、私ト共ニ接シテ入レ、多クノ危難ヲ私ハ汝ニ向ツテ企テ爲ス。

静まりませ今はものを云ひ玉ひぞ、予と共に傍近く寄りて裡へ入り玉へ。さても敵々の危難をば、予は若公に對し企てし事よ。

第九十六章

クエベックノ掠奪 (耶蘇紀元千七百五十九年)

カナダニ於ケル佛蘭西領地ノ終ル所ノ舞臺ハ深キ且ツ格段ナル趣味ノ事情ニ依ツテ記付ケラレテアリシ。小説ノ頁ハクエベックノ戦争ヨリハ一ツノ尙多ク感動スル所ノ説ヲ供給シ能ハス。戦ヒニ於テ持來タセシ所ノ企テノ熱練及ビ豪膽、而シテ其施行ノ成功及ビ運命ハ不並行ノモノデアル。各黨與ニマテ一ツノ利益ヲ與ヘヌ所ノ廣キ開ヒタル平原ハ戦ヒノ野デアリシ。争フ所ノ軍勢ハ若シ數ニ於テナキナラバ武事ノ力ニ於テ殆ソド一様デアリシ。兩方ノ主領ハ既ニ尊ムベキ名譽ノ人デアリシ。

(譯)カナダニ於ケル佛蘭西領土ノ方サニ滅亡セムトスルノ狀況ハ、深キ且ツ殊別ノ興味アル事情ニ依ツテ著ハル。小説索ヨリ興味アリト雖モ而カモクエベック戰記ヨリハ一層ノ興味アル所説アルナリ。其戦争中策略ノ練熟且ツ豪勇及ビ實施上ノ成切且ツ運命ハ實ニ絶對無倫ナリ。戰場ハ兩軍其執レニモ更ニ好機會ヲ與ヘザル隙無

ナル平原ナリ。兩軍ノ兵員ニ於テハ或ハ多少差異アリシナラムニモ其武力ノ一點ニ至ツテハ互ニ兄弟タリ難ク第タリ難シ、其兩軍ノ大將ハ孰レモ業ニ既ニ名譽世ニ噴々メルノ人ナリ。

フランソハ才智ナル且ツ豪勇ナルモントカームニ於テ堅ク信ゼシ。英倫ハ若キ而シテ勇氣ナルウルフニ於テ希望深ク信ゼシ。争闘ノ發出ノ上ニ賭ラレシ所ノ宏壯ナル砲臺ハ手ニ於テ密接シテ立チシ。周リニ數哩及ビ數哩ニ向ツテ、景色ハ曾テ人ノ視覺ヲ樂セシダケ其レダケ奇麗ナル陸ヲ越エテ廣カリシ、——山及ビ谷、森及ビ水、都府及ビ寥寥タル所ハ幾ソド想像ノ美麗ノ形狀ニ於テ一緒ニ集リシ。

(譯)佛軍ハ智ニシテ豪ナルモントカームヲ深ク信ゼシ。英軍ハ壯ニシテ勇ナルウルフニ望ミヲ屬セリ。争闘ノ樞要物タル宏壯ナル砲臺ハ近傍ニ在リ。周圍數哩又數哩人目ヲ樂マシムルニ足ル佳景廣ガル。山又谷、森又水、都府又寂村、連亘シテ想像上ノ美景ノ觀アリ。

クエベックハ聖、ロウレンスノ左岸ノ上ノ高キ頂上ノ傾斜ノ上ニ立ツ。西ニ於テ都府ニ最近キ頂上ノ其部分ハアブラハムノ平原ト名ツケラレテアル。ウルフハ河カラ嶮阻ナル峻坂ノ側ヲ曲リ上ル所ノ小道ヲ發見シタリシ。各ノ傍ニ於テ數哩ノ間其處ニ頂上ニマテ一ツノ他ノ出來ベキ道ガアラザリン。此狹隘ナル路ノ上ニウルフハ秘密ニ彼レノ全キ軍勢ヲ導キ且ツ平原ヲ彼レノ戰場ニナスベク決定セシ。

(譯)クニベツクノ位置タルセント、ローレンス河ノ左岸ナル高坂ノ頂上ニ在リ(其西ニ當ツテ此都會ニ最モ近キ頂上ノ其部分ヲアラハム原ト稱ス英將ウルフハローレンス河ヨリ坂腹ヲ曲折シ上ルベキ狹路ヲ發見セリ)此狹路ヲ除キテハ坂腹其何レノ處ヨリスルモ敵軍間ハ頂上ニ達スベキ一ツノ路ナシ是ニ於テ英將ウルフハ密カニ此狹路ヲ察ヤテ其全軍ヲ龜頂ニ導キ且ツアラハム原ヲ以テ其戰場ト爲サムト決セリ。

大ナル準備ガ決定シタル運動ニ向ツテ海軍及ビ陸軍ヲ通ホシテナサレシ、乍併企圖ガ總テ秘密ニ保タレシ。

(譯)運動ノ方針既ニ決シテ之レガ爲メ海陸軍共ニ大ニ戰備ヲ爲セリト雖モ、此等策ニ至ツテハ充分ニ之ヲ秘セリ。

千七百五十九年八月十三日ニ於テ夜ニ於ケル九時ニ於テ千六百ノ強兵ナル軍勢ノ第一隊ハ靜カニ平底ノ船ニ乘リシ。兵卒ガ高キ精神ニ於テアリシ。ウルフハ休自身ニ於テ導キシ。日出ノ前凡ソ一時間小船隊ハ突出スル所ノ懸崖ノ親シキ影ニ於テ干潮ヲ以テ落下セシ。漕手ハ辛シテ彼等ノ漕ヲ以テ水ヲ排撃セシ、兵卒ハ無動ニ坐セシ。若キ將帥ニ依ツテノ外ハ一語ガ話サレテアラザリシ。彼レハ彼レノ小舟ノ甲板ニ於テ傳令使ガ其後話サレシ如ク低キ聲ニ於テ彼レノ傍ニ依テノ士官ニマデ、グレーノ田舎ノ墓所ニ於テ書カレタル悲哀ノ此一節ヲ反覆セシ。

証名ノ高慢ノ權力ノ華飾、而シテ曾テ與ヘラレタル總テ其美麗總テ其富ハ同マク避クベカラザル時ヲ待ツ——名譽ノ路ハ唯墓ニマデ導ク。

(譯)紀元一千七百五十九年八月十三日午後九時、一千六百ノ強兵一隊密カニ平底ノ輕艇ニ搭シタリ。一軍皆勇氣凜然。將軍ウルフ躬自ラ之ヲ引卒シ、黎明前一時間ノ頃一小船隊懸崖絶壁ノ影ヲ奇貨トシ之ニ沿フテ干潮ニ乘リ漕下セリ。水勢輕艇ヲ流スヲ以テ漕手ハ其漕ヲ用ユルニ及マス、兵士ハ端然トシテ坐セリ。當時若將ウルフヲ除キテハ敢テ一語ダモ發スルモノナク、ウルフハ低聲ニ其傍ラノ士官ニ對シテ夫ノグレーノ作ナル(田舎ノ墓所ニ於テ書ケル悲歌)中ノ左ノ一節ヲ反覆シ語レリ、(此處タル爾後ウルフノ乘レル輕艇ニ乘船ノ傳令使之ヲ語レリ)

恃むに足らぬ名を誇り、
權力威勢を誇るときも
得たる總ての美や富は、
早晚失ふ時來る、
生者必滅もの、數
名譽の道は墓に行く、

彼レガ美麗ナル詩ヲ終リシ時ニ彼レハ云ヒシ、「今紳士ヨ私ハクエベツクヲ取ルヨリハ寧ロ其詩ノ記者デアアルデアラウヨ。」

(譯)ウルフ此妙味ナル詩ヲ語リ終レル時ニ曰ク「紳士足下ヨ、今ヤ余ハクニベツクヲ取
取セムヨリ寧ロ此詩ノ作者タルマシト」

乍併ウルフハ斯様ニシテ詩ノ語ニ於テ、彼レノ感情ノ極度ニマデ脱出ヲ與ヘシ時ニ彼レノ

目が絶えず頂上ノ暗キ周圍其レノ下ニ彼レガ急ギツ、アリシ處ノ頂上ノ暗キ周圍ノ上ニ傾キテアリシ。遂ニ彼レハ定ヲラレタル點ヲ認メシ、而シテ岸ノ方ニ飛ビシ。

(譯)然レドモウルフハ斯ク妙味ナル時ノ文字ニ依ツテ感動ノ極點ニ達スルヲ抑エツ、今正サニ急下セル河流ノ其上邊ノ點點ナル四邊ヲ攻撃シ、遂ニ上陸佳地ノ場ヲ取メ一躍シテ岸ニ上レリ。

第七十八ノ高原住者ノ輕キ仲間ヲ運ブ所ノ主タル輕騎ノ或物ハ直チニ流湖ノ力ニ依ツテ尙低ク下ニ凡ソ二百ヤード運ハレタリシ。此等ノ高原住者ガキヤプテン「マクドナルド」ノ下ニ陸ニマデ第一ノ者デアリシ。直チニ彼等ノ頭ノ上ニ其レノ岩面ノ上ニ路或ハ足跡ナキ木ノ峻坂ガ懸リシ。頂上ニ於ケルフランスノ番兵ガ彼等ノ現出ニ就テ尙ホ知ラスニ彼等此方ニ進ミシ。

(譯)第七十八部ニ属スル輕快騎「ハイランダー」ヲ搭載スルモノ若干艘ハ流勢ニ押サレテ無慮二百ヤード流サレタリ。「キヤプテン」マクドナルドノ部下ナル此等ノ「ハイランダー」ハ第一ニ上陸セリ。其頭上ニハ小徑人跡ナキ樹木鬱蒼且ツ峻峻ナル急坂登ニ于時絶頂ナル佛國ノ哨兵ハ尙英軍ノ上陸ヲ知ラズシテ徘徊セリ。

瞬時ノ躊躇ナシニマクドナルド及ビ彼レノ人々ハ頂上ニ於テ突進セシ。彼等ハ懸崖ノ頂上ヲ越エテ輝ク所ノ星ニ依ツテノミ導カレテ、岩及ビ木ノ枝ニ依ツテ保チツ、這ヒ登リシ。最初ノ時ノ間「クイ、ヴァイヴ」手ガ夜ノ沈靜ヲ破リシ時ニ既ニ登高ノ半ハ得ラレテアリシ。ロ

「フランスト敏捷ナル自若ヲ以テ」バイランド「議長ガ答ヘシ」爾シテ哨兵ハ彼レノ銃ヲ肩ニシ且ツ彼レノ巡視ヲ續ケシ。

(譯)マクドナルド及ビ其部下ハ上陸後瞬間タモ躊躇スルナク、直チニ懸頂ニ向ツテ突進ス。其時唯ダ懸崖ノ上ニ輝々タル星光ニ導カル、ノミ復タ一點ノ燈光アルナク、若シテ樹枝ヲ執リ俯仰シテ以テ峻坂ヲ登ル、既ニシテ半ハ攀登セル時、初メニ佛軍ノ哨兵ハ「其處ニ行ク者誰ナルヤ」ノ言ヲ發シテ、愕然タル聲ヲ破レリ。之ニ對シテ英軍ノ隊長ハ「更ニ喫驚ノ動靜アルナク自若トシテ」アロー「フランスト詐々答フ。佛軍ノ哨兵之ヲ聞イテ復タ脅メス其銃ヲ肩ニシテ巡視ヲ續ケタリ。

トハ雖モ、數分時ニ於テ手ニ於テ密接シテ木ノザハ「云フ音ガ佛ノ守兵ヲ愕カセシ。彼等ハ急イテ外ニ出テシ峻坂ノ下ニ一ツノ不規則ナル連發ヲ發砲セシ、而シテ驚愕ニ於テ逃レシ。譬ヒ負傷セシト雖モ「キヤプテン」ハ獨リ彼レノ地面ニ立チシ。降ルベク呼出セシ時ニ彼レハ重モナル攻撃者ノ一ツニ於テ發砲セシ、乍併直チニ壓服サレシ。其間ニ凡ソ五百人が上陸セシ、而シテ頂上ニ上ニ彼等ノ道ヲナセシ。最初頂上ニ達シタリシ所ノ其等ガ然ルルキニウルフガ彼レノ軍勢ノ登高ニ向ツテ撰ンダリシ處ノ道ノ頂上ニ於テ溝ヲ掘リタル場所ノ所有ヲ取リシ。

(譯)然ルニ二三分時ヲ出テズシテ、接近ノ樹木鳴動スルノ響ハ佛軍ノ番兵大膽驚セシメタリ。則チ番兵等急ニ外出シ、坂下ニ向ツテ小銃ヲ亂發シ、而シテ驚慌逃遁ス。隊

長ハ其身傷ヲ被リシト雖ヒ猶リ依然トシテ其地位ヲ保テ。翌アリテ降服スベシト
呼バルニ及ビ主タル攻撃者ノ一人ニ向ツテ砲發シタルガ直チニ其力挫折セリ。斯
ル間ニ無慮五百ノ兵士上陸シ坂頂ニ對シテ進登ス。最初坂頂ニ達セシ一隊ハ既ニ
坂路ノ極頂ナル瀾ヲ掘ル地ヲ占取セリ(其坂路ハ是ヨリ先キ英將ウルフ其軍隊
ヲ攀登セシメム爲メニ掘ビ置ケル所ナリ)

ウルフモンクトン及ビマーレーハ第一ノ隊ト共ニ上陸セシ。各輕騎ガ掃ハレシダケ其レダ
ケ速ニ其レガ艇其レハ今又着岸ノ其レニ幾ソド反對ノ點ニマテ潮ヲ以テ下ニ漂フタリシ
所ノ船ニマテ援助ニ向ツテ後ニ置カレシ。戰備ハ曲ル所ノ徑ノ足ニ於テ狭キ渚ニ於テ形造
リシ、而シテ完全セシヤ否ヤ各ガ懸崖ヲ登リシ其時彼等ガ再ビ上ノ平原ノ上ニ形造リシ。

(譯)ウルフモンクトン及ビマーレーハ第一ノ隊ト共ニ上陸シタリ。乘組ノ士卒總テ上
陸スルヤ直チニ各輕騎ハ又本船(其時流勢ニ押サレテ最初着岸セル所ヨリ幾ソド
反對ノ點ナル上陸ノ場所マテ流サレタリ)ニ漕キ返ヘシ以テ後軍搭載ニ供ス。上陸
ノ初メ屈曲セル小徑ノ下ナル狹隘ナル渚ニ於テ軍ヲ勅シ直チニ懸崖ヲ攀登シ頂
上ニ至ツテ再ビ平原ニ軍ヲ整フ。

輕騎ハ忙シク往返セシ、仲間ノ後ニ仲間ガ速ニ上陸セシ、而シテ彼等ハ用意シタル快樂ヲ以
テ峻峻ナル坂ノ上ニ集リシ。朝ガ破レシ時ニウルフノ軍勢ノ全キ用ニベキ勢力ハ入江ノ上
ノ高原ノ上ニ強固ナル軍備ニ於テ立チシ。トハ雖モ唯一ツノ鐵砲ハ小丘ノ上ニ運ハレ能ヒ

シ而シテ加之其レハ信シ難キ危難ナシニ位置ニ於テ置カレテアザリシ。

(譯)輕騎數次往返シ軍隊陸續トシテ速カニ上陸ス、而シテ各隊ノ士卒銳氣勇然峻峻
ヲ意トセズシテ坂路ヲ攀テ絕頂ニ集ル。黎明ウルフノ全軍ハ渾頭ノ高原ニ列シ、戰
備堅固ニシテ士卒皆用ユルニ足ルノ銳氣見ユ。然レドモ唯一門ノ大砲丘上ニ運ブ
トテ得シノミ加之ナラス佳適ノ位置ニ之ヲ掘ユルニ實ニ意想外ノ困難ヲ經タリ。
モントカームハ既ニ將帥トシテ破ラレテアリシ、トハ雖モ兵士トシテ戰フノ其レハ尙殘
サレテアリシ。戰爭ノ彼レノ命令ガ鞏固ニ且ツ敏捷ニナサレテアリシ。彼レハ体自身ニ於テ
中軍(The Center Column)ヲ指揮セシ。關ハラレタル彼レノ全キ勢力ハ唯ダ印度人ノ外七千
五百二十人デアリシ。ウルフガ唯ダ總テノ隊列ノ四千八百二十八人ノ勢力ヲ示セシ、乍併各
人が訓練サレタル兵士デアリシ。

(譯)モントカーム其將帥タル本分ヨリ論ズレハ業ニ既ニ敗ラレタリト雖モ尙一兵
士トシテ戰フベキノ餘地ヲ保テリ。其軍隊ヲ令スルヤ嚴肅ニシテ敏捷ナリ。而シテ
躬自ラ中軍ヲ指揮ス。其戰闘ニ從ヘルモノ總數七千五百二十人、但レ士人兵ヲ除ク。
英將ウルフハ其全軍唯ダ四千八百二十八人ノ小勢ナレドモ各兵士總テ訓練サレ
タルモノナリ。

フランス人ハ攻撃セシ。小戰ノ一群ニ依ツテ爲サレタル活氣アル進ミノ後チ長キ破ラレザ
ル線ニ於テ彼等ノ大ナル隊ハウルフノ位置ニ近接シツ、見ラレシ。速カニ殘虐ナル且ツ止

マザル發砲が始マリシ。英軍ハ速ニ倒レシ。ウルフガ手頭ニ於テ打タレシ、乍併不遠ニサレテアラザリシ。

(譯)佛人ハ攻撃セリ。小戦者ノ一群活乎トシテ進行セル後、其本隊ハ長ク斷續セザレ列ヲ爲ンテウルフノ陣地ニ近接セムトス。幾クモナクシテ劇然且ツ聞斷ナキ砲聲始マリ、英軍少時ニシテ挫折ス。將軍ウルフ手頭ニ負傷セリト雖、動作不遠ニ至ラス。

創傷ヲ周リテ手巾ヲ包ム所テ彼レハ固持シテアルベク且ツ彼等ノ發砲ヲ止ムベク人々ヲ勵マシツ、一ツノ隊列カラ他ニマデ急ギシ。一ツノ英兵ガ引金ヲ引カザリシ無雙ノ忍耐ヲ以テ彼等ハ試ミテ耐ヘシ、仲間ハ動搖シテアラザリシ、彼等ノ武器ハ恰モ行列ニ於テ手ノ如ク肩ニセシ固シテ彼等ハ恐ロシキ隙間ヲ密接シタリシ時ノ外動キナク、彼等ハ指揮ノ語ヲ待チシ。

(譯)ウルフハ手巾ヲ以テ創口ヲ包ミ、急ニ諸隊ヲ巡回シ固持シテ動クナカレ、浪リニ發砲スルナカレト命令ス。是ニ於テ英兵ハ一人トシテ砲發スルナク、總テ異常ノ忍耐ヲ以テ雨注セル敵九ニ對シ立テリ。一隊トシテ動亂スルナク、其武器ヲ肩ニスル狀ハ恰モ行列ヲ正シテ行軍スル時ノ如シ、而シテ知ラズ々々隊伍ノ相離ル、弁之ヲ接合スルノ外更ニ動カズ以テ命令ノ下ルヲ待テリ。

佛國ノ攻撃ノ頃ガ四十「ヤード」ノ裡ニ達セシ時ニウルフハ命令ヲ與ヘシ、「發テト。直チニ

銃ノ長キ列ガ平行セラレシ、而シテ單ナル射撃ノ如ク區別シタル連發ハ英ノ線カラ閃メキシ。一瞬ノ間進行スル所ノ隊ハ尙ホ命ニカ、ル襲撃ニ於テノ軍旗ノ如ク震ヒツ、推進ミシ、乍併數歩ガ長ク止メラレタル撃チガ如何ニ恐ルベクアツタリシカチ告ゲシ。

(譯)佛軍ノ攻撃隊ノ先鋒英軍ヲ距ル四十「ヤード」ノ所ニ達セル時、英將ウルフハ「發テ」ノ命令ヲ發シタリ。是ニ於テ英兵直チニ銃口ヲ揃ヘ一齊ニ發射ス。佛軍尙暫時不運ナル攻撃隊ノ軍旗ノ風ニ翻ヘルカ如ク、動搖シツ、其進ミタリト雖モ其行歩ノ稍々遲進セルヲ以テ曇キニスシタ發砲ヲ止メタル英兵ノ今一齊ニ發射ヲ始メタル其勢カノ強シサ如何バカヨナルヲ見ルニ足レリ。

モントカームハ体自身ニ於テ攻撃ヲ指揮セシ。彼レハ戰争ノ彼レノ線ノ上ニ最初動イタリシ以來十五分ガ經過セナシ、而シテ既ニ總テガ失ハレテアリシ。乍併聲ヒ零落セシト雖モ勇氣ナルフランス人ガ恐怖サレテアラザリシ。彼ハ破ラレタル隊列ヲ通ホシテ騎リシ、彼レノ聲ヲ以テ彼等ヲ喜バセシ、彼レノ大膽ナル容貌ヲ以テ彼等ヲ獎勵セシ、而シテ小ナル柵ニ依ツテ助ケラレテ加之ナラズ彼レノ敵ニマデ前面ニ顯ハレツ、一度再ビ成功セシ。

(譯)モントカームハ躬自ラ攻撃ヲ命令セリ。彼レ此攻撃隊ニ來ツテ始メテ指揮ヲ下ダセシ以來未ダ僅ニ十五分間ヲ過キザルニ其隊卒聲ヒ零レタリ、然ルニモントカームハ斯ク敗退スルモ敵ヲ畏縮スル色ナク、亂黨セル隊列ヲ巡リ、命令ヲ下シテ士卒ヲ勵マシ衰殺英邁ノ相ヲ示シテ之レガ勇氣ヲ鼓舞シ、小柵ヲ機關トシテ再ビ敵軍

其間ウルフノ軍勢ハ再ヒ裝藥シタリシ。彼レハ敵ノ列ニ於ケル躊躇ノ機會ヲ取リシ而シテ
進ムヘク至キ英吉利ノ線ヲ命令セシ。最初彼等ハ佛人ノ連發ヲ死スベキ感情ヲ以テ受取リ
ツ、而シテ拂ヒ還ヘシツ、尊嚴ナル整備ヲ以テ前方ニ動キシ、乍併速ニ兵士ノ熱心ハ軍規
ノ禁制ヲ通ホシテ破リシ——彼等ハ死スル所ノ及ビ死亡ヲ越エテ突進シツ、而シテ彼等ノ
路カラ生キル所ノ敵ヲ掃ヒツ、奔走ニマデ彼等ノ歩ミヲ増セシ。

(講)其間ニウルフノ部下ハ再ヒ其銃ニ裝藥セリ。ウルフハ敵軍ノ隊列躊躇セルヲ奇
貨トシ部下ノ全軍ニ進行ヲ命ズ。始メ英軍備兵ノ連發セル彈丸ニ應ジテ反擊シ、戒
心周到隊列嚴肅トシテ進行セシモ、越クナラズシテ、兵士ノ熱中ノ極、知ラズ々々々
軍規ノ制スル所ヲ破リ、將ニ死セムトスル負傷者及ビ戰没者ノ屍ヲ越エテ突進ミ
向路ニ當レル敵兵ヲ排シテ漸ク疾走セリ。

ウルフハ速ニ躄ニ於テ傷ケラレテアリシ、乍併彼レガ彼レノ惱ミヲ隠蔽セシ、如何トナレハ
彼レノ働キガ尙成遂ケラレテアラザリシ故ニ。再ヒ砲臺カラノ彈丸ガ胸ニ於テ彼レヲ打チ
シ。彼レガ一ツノ傍ニマデ動搖セシ、乍併瞬間ニ於テ其レガ概シテ注視セラレテアラザリ
シ。

(講)ウルフハ直チニ其躄ニ傷ヲ負ヘリト雖、戰事尙遂ゲザルヲ以テ苦痛ヲ隱セリ。既
ニシテ又砲臺ヨリ發射セル彈丸ノ爲メニ胸部ヲ傷ツケラレ。爲メニ一方ニ逡巡セ

ト雖モ、其時一般軍隊ノ注視スル所トナラザリシナリ。

一私ノ勇敢ナル仲間ガ倒ホレテ私ヲ見得ヌ爲メニ私ヲ扶翼セヨト彼レハ手ニ於テ密接
シテアリシ所ノ精兵ノ士官ニ云ヒシ。トハ雖モ數秒ニ於テ彼レハ地面ニマデ沈ミシ、而シテ
後ロニマデ僅カ保タレシ。

(講)ウルフハ其接近ノ精兵士官ニ對シテ曰ク、余ノ勇兵諸君ヲシテ余ノ倒ル、ヲ見
ザラシメム爲メニ予ヲ支ヘヨト(蓋シ軍氣ノ沮喪セムヲ恐レテナリ)然リト雖モ、
二三秒ヲ經テウルフ地上ニ倒レ而シテ僅カ後方ニ運ハレタリ。

短キ争闘ハ英吉利ノ上ニ重ク落チシ、乍併佛西ニマデ敗衄デアリシ、彼等ハ虐殺ノ下ニ動
搖セシ、死ガ混亂シタリシ所ノ際ハ速ニ破ラレ且ツ散布セラレテアリシ。希望ノ破却ノ上ニ
起リシ所ノ勇氣ヲ以テ、モントナムハ、尙敵ニ對シテ進ミシ爲セシ所ノ彼レノ頑固ナル
老練ノ士ノ群集ヲ通ホシテ疾走セシ、而シテ戰争ノ前線ヲ示スベク勦メシ。其盡力ガ徒爲デ
アリシ。各ノ隊ノ頭ハ其恐ルベキ銃砲ノ前ニ彼方ニ掃ハレシ。數分時ニ於テ佛西ガ總テノ
方角ニ於テ道ヲ與ヘシ。丁度然ル時ニ彼等ノ勇氣ナル將帥ガ命ニカ、ル負傷ヲ以テ倒レシ、
其時カラ總テガ全ク敗ラレシ。

(講)前短ナル此戰英人ニ與フル所大ニシテ、佛人ニハ敗衄ノ果ヲ生ジタリ。佛兵ハ
夥シキ殺戮ニ遭フテ動亂シ、死傷無算ナル隊ハ直チニ散ラレテ散乱セリ。將帥モント
カームハ其希望ノ破レタル爲メニ激昂セル勇氣ヲ以テ軍中ニ奔走シ尙ホ敵ニ對